

大津市 がん対策に関する調査結果報告書



令和6年3月
大津市

目 次

I 市民意識調査	1
I 調査の概要	2
1. 調査の目的.....	2
2. 調査概要.....	2
3. 報告書の見方.....	3
II 調査の結果	5
1. アンケートの回答者.....	5
2. がんに関する印象・認識について.....	16
3. がんの予防について.....	24
4. がん検診の受診の有無について.....	29
5. 情報の入手方法やニーズについて.....	102
6. がんに関する相談先について.....	109
7. がんになった場合の就労継続について.....	113
8. がんになった場合の医療体制や療養生活について.....	117
9. 今後のがん対策の推進について.....	127
II 事業所調査	131
I 調査の概要	132
1. 調査の目的.....	132
2. 調査概要.....	132
3. 報告書の見方.....	133
II 調査の結果	134
1. 事業所の概要.....	134
2. がん予防やがん検診受診促進のための取り組みについて.....	138
3. がん検診について.....	143
4. 勤務形態や休暇制度について.....	164
5. がんの罹患状況について.....	169
6. 従業員の仕事と治療の両立の実現に向けた課題について.....	173
III 調査票	
市民向け調査票 「がん対策に関する市民意識調査 ご協力のお願ひ」	
事業所向け調査票 「事業所におけるがん対策に関する調査 ご協力のお願ひ」	

I 市民意識調査

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和7年度からを計画期間とする「第2期大津市がん対策推進基本計画（仮）」の策定に先立ち、現行計画における目標達成度や事業実施の進捗状況、また、最近の社会状況を踏まえた市民のがんに対する意識・行動・満足度等を把握することにより、次期計画の策定骨子、施策展開に反映することを目的として実施するものです。

2. 調査概要

- 調査地域 : 大津市全域
- 調査対象者 : 大津市内に在住する20歳以上75歳未満の住民から3,000名を無作為抽出
- 調査期間 : 令和5年11月～12月（郵送配布・回収）

調査対象者数(配布数)	有効回収数	有効回収率
3,000	1,005	33.5%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- アンケート結果の分析上、設問の省略や選択肢の統合等を行っている場合があります。
- 質問文末尾に記されている(SA)は単一回答の設問、(MA)は複数回答の設問を表しています。
- 図表中において、0.0%の場合、省略している場合があります。

●信頼区間

今回の調査は、標本調査であるので、標本による測定値（調査の結果）に基づいて、母集団値を推定できます。信頼度 95%における測定値（%）の信頼区間 1/2 幅（標準誤差）は、次の式で算出されます。

$$\text{標準誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\left(\frac{N-n}{N-1}\right) \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N：母集団数（本調査では 231,070）／n：標本数（同 1,005）／P：測定値（%）

※母集団数は、令和 5 年 10 月 1 日現在の 20 歳～74 歳の住民基本台帳登録者数

【信頼度 95%における主要な%の信頼区間の 1/2 幅】

	n	P (%)									
		5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
全体	1,005	1.3	1.9	2.2	2.5	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.1
男性	434	2.1	2.8	3.4	3.8	4.1	4.3	4.5	4.6	4.7	4.7
女性	568	1.8	2.5	2.9	3.3	3.6	3.8	3.9	4.0	4.1	4.1
20～29歳	82	4.7	6.5	7.7	8.7	9.4	9.9	10.3	10.6	10.8	10.8
30～39歳	131	3.7	5.1	6.1	6.8	7.4	7.8	8.2	8.4	8.5	8.6
40～49歳	153	3.5	4.8	5.7	6.3	6.9	7.3	7.6	7.8	7.9	7.9
50～59歳	232	2.8	3.9	4.6	5.1	5.6	5.9	6.1	6.3	6.4	6.4
60～69歳	242	2.7	3.8	4.5	5.0	5.5	5.8	6.0	6.2	6.3	6.3
70～74歳	154	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.9	7.9

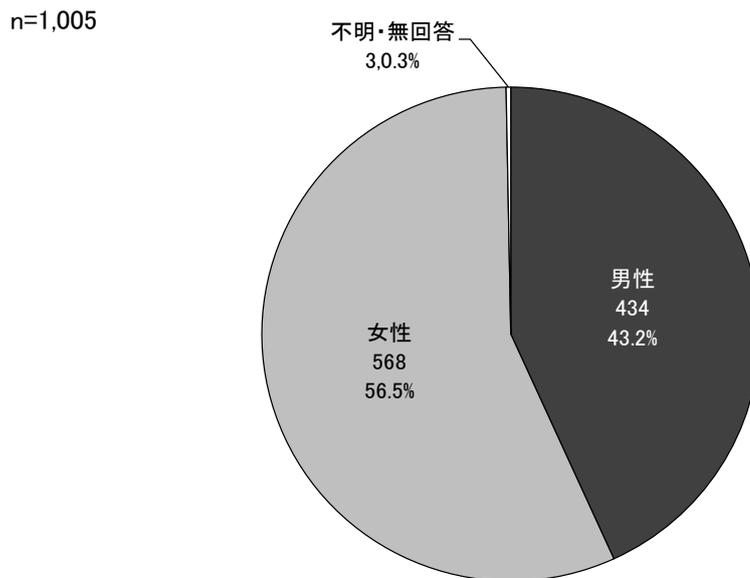
この表は、例えば、問 9 の『がんについての印象』の結果をみると、「こわいと思う」は 57.0% であり、表中の“全体”の最も近い値（55%）は「3.1」となっています。すなわち、母集団を対象にこの調査を行えば「こわいと思う」と回答する人が 57.0%の前後 3.1%の区間内、すなわち 53.9%～60.1%の区間内にあることが 95%の確率で期待されることを意味しています。ただ、今回の調査の回収率が 33.5%にとどまっていることは、十分に注意する必要があります。

II 調査の結果

1. アンケートの回答者

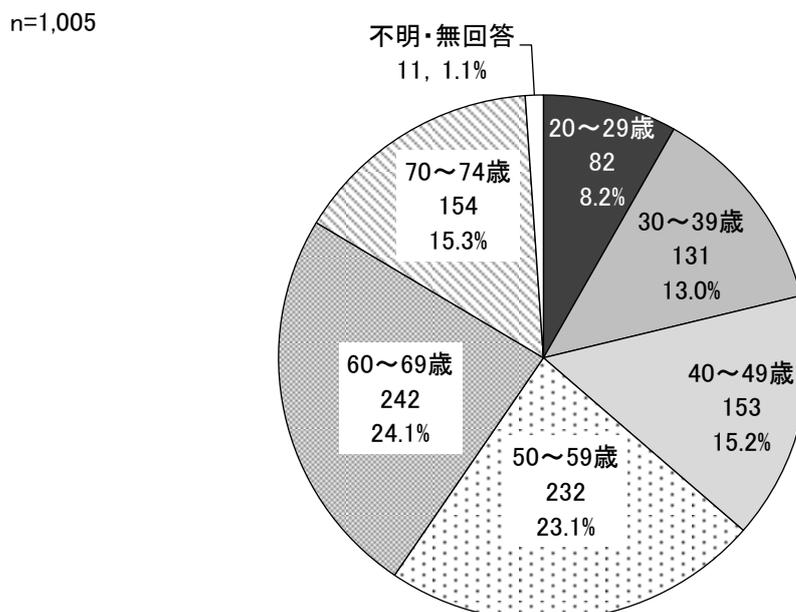
問1 あなたの性別を教えてください。(SA)

回答者の性別についてみると、「男性」は43.2%、「女性」は56.5%となっています。



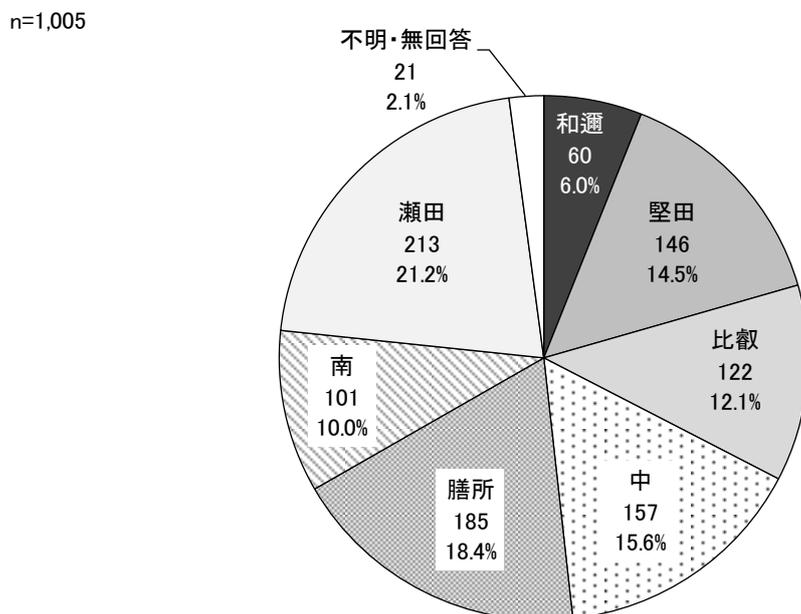
問2 あなたの年齢を教えてください。※令和5年10月1日現在

回答者の年齢についてみると、「60～69歳」が24.1%と最も高く、次いで「50～59歳」が23.1%、「70～74歳」が15.3%となっています。



問3 あなたのお住まいの学区を教えてください。(SA)

回答者のお住まいのエリアについてみると、「瀬田」が21.2%と最も高く、次いで「膳所」が18.4%となっています。



※学区については、以下のようなエリアに分類しています。

和邇・・・小松、木戸、和邇、小野

堅田・・・葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里、仰木の里東

比叡・・・雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎

中・・・滋賀、山中比叡平、藤尾、長等、逢坂、中央

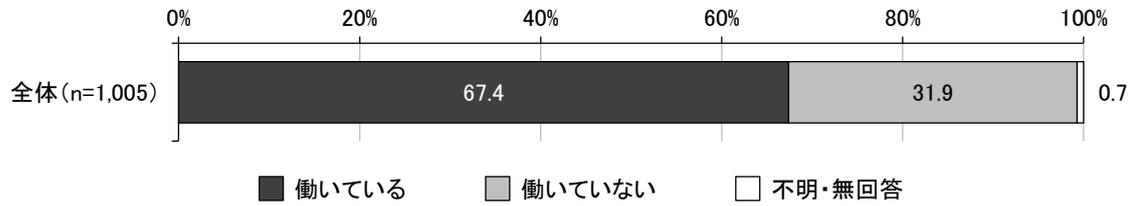
膳所・・・平野、膳所、富士見、晴嵐

南・・・石山、南郷、大石、田上

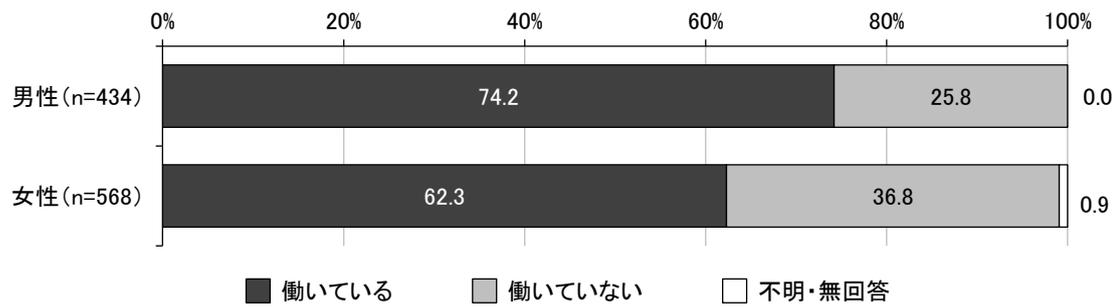
瀬田・・・上田上、青山、瀬田、瀬田南、瀬田東、瀬田北

問4 あなたの職業を教えてください。(SA)

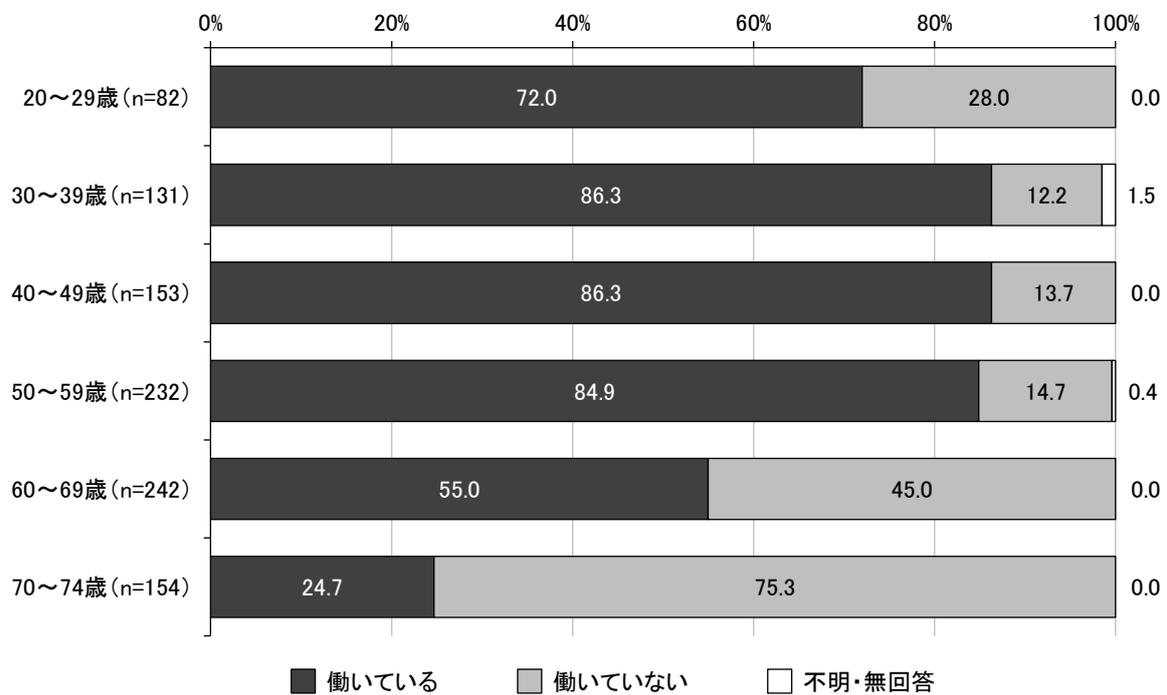
■就労状況 (全体)



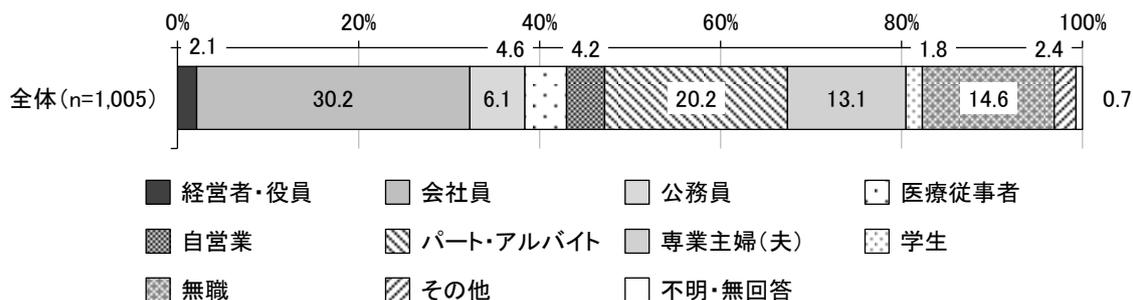
◇性別



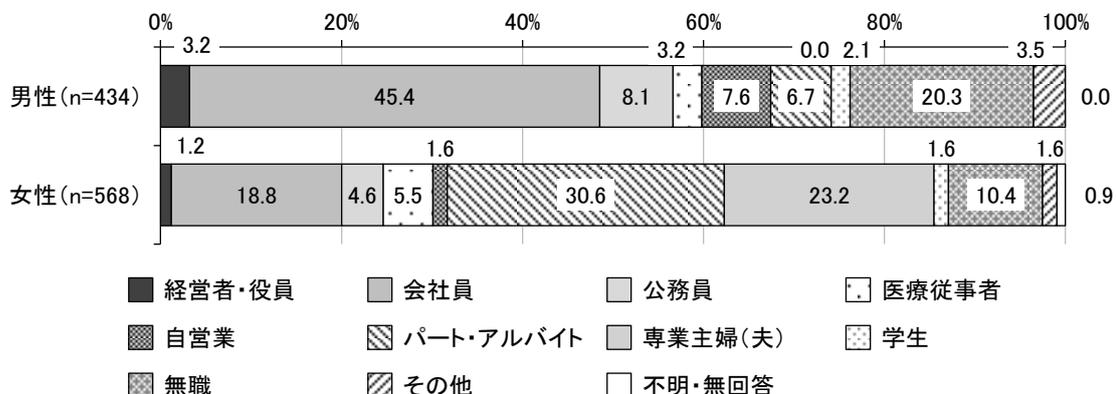
◇年齢別



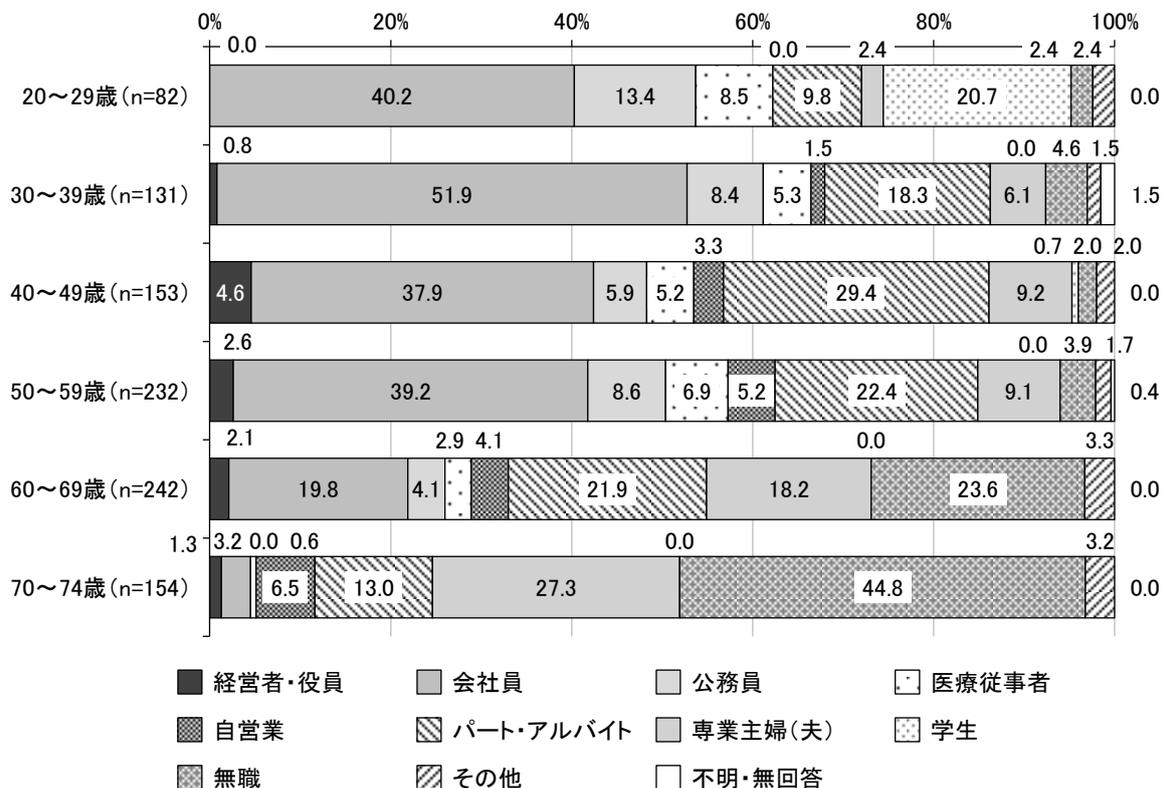
■職業分類（全体）



◇性別

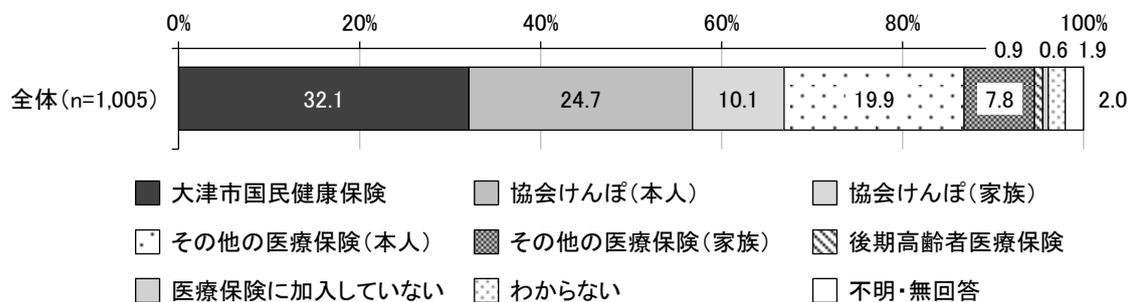


◇年齢別

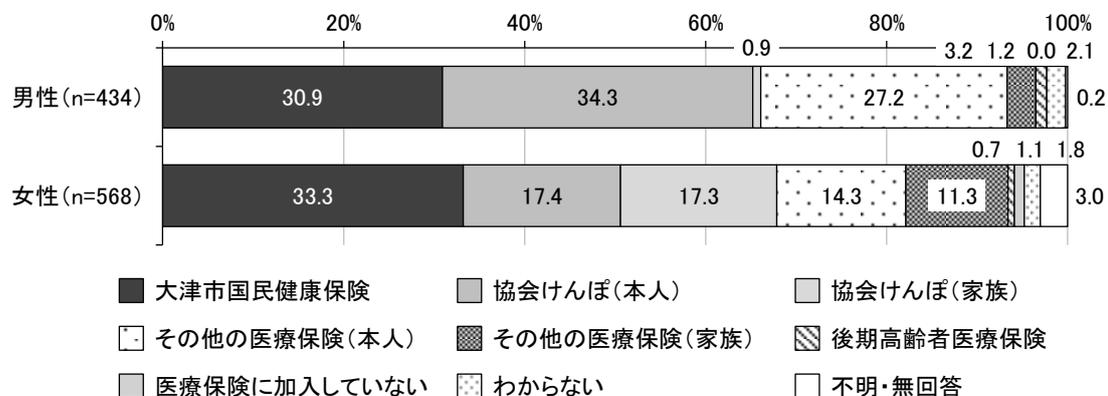


問5 あなたが現在加入している医療保険（保険証）の種類を教えてください。
（SA）

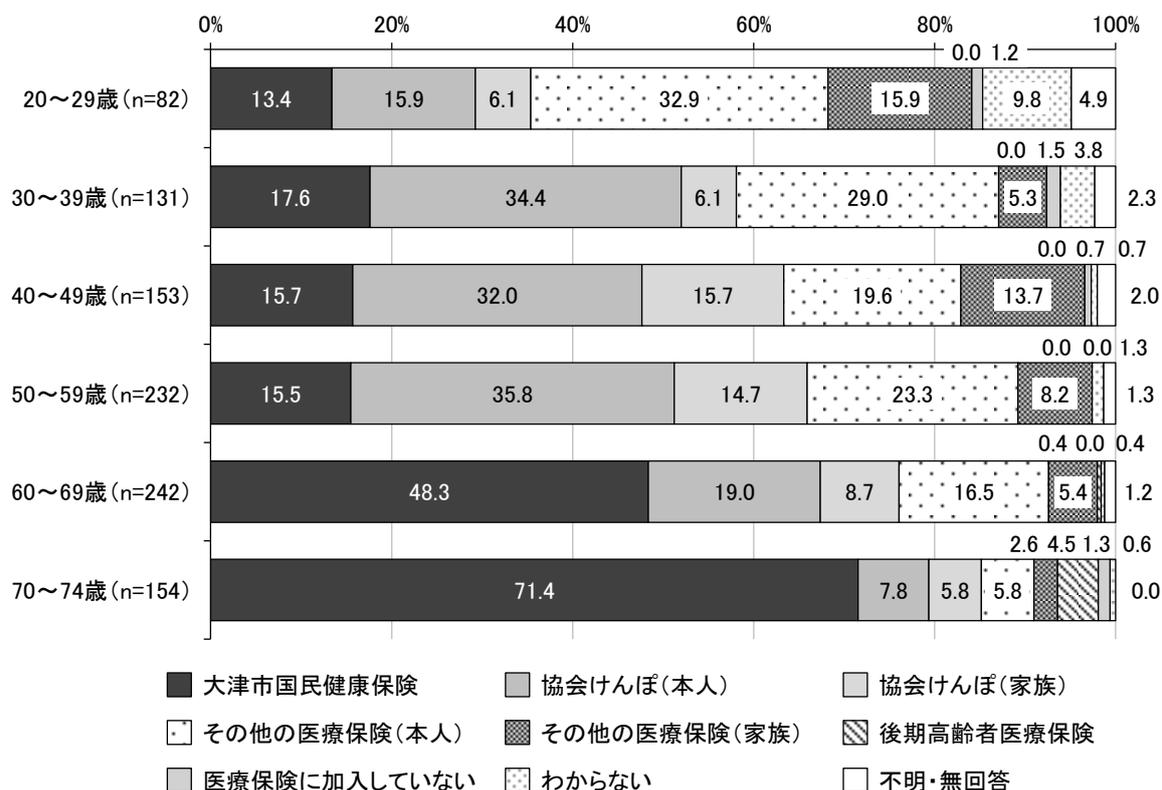
■医療保険の加入状況（全体）



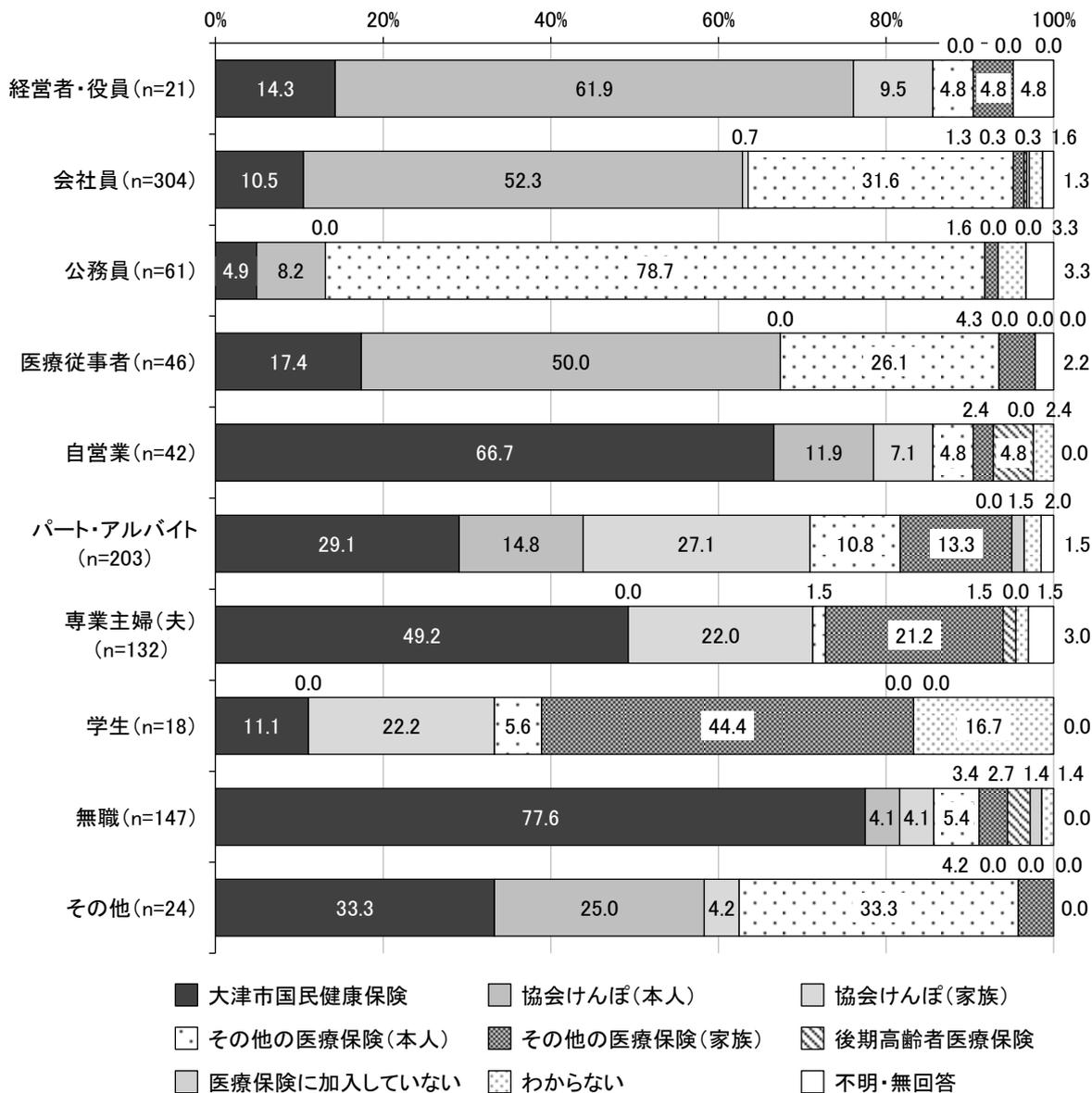
◇性別



◇年齢別

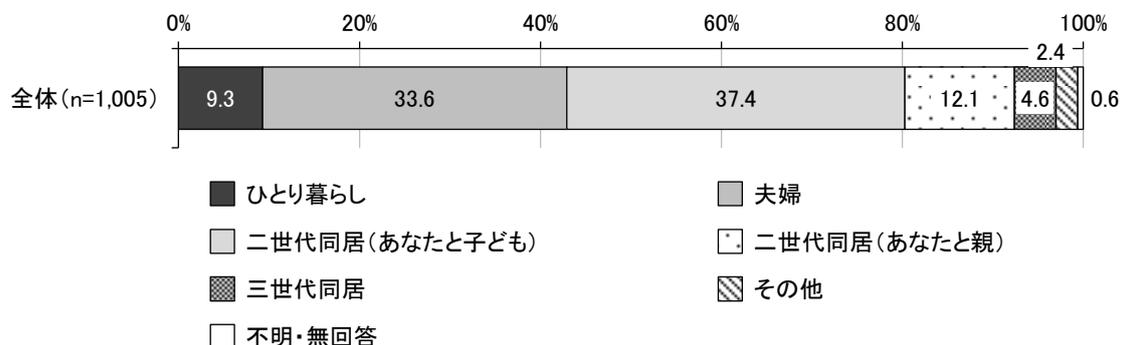


◇職業別

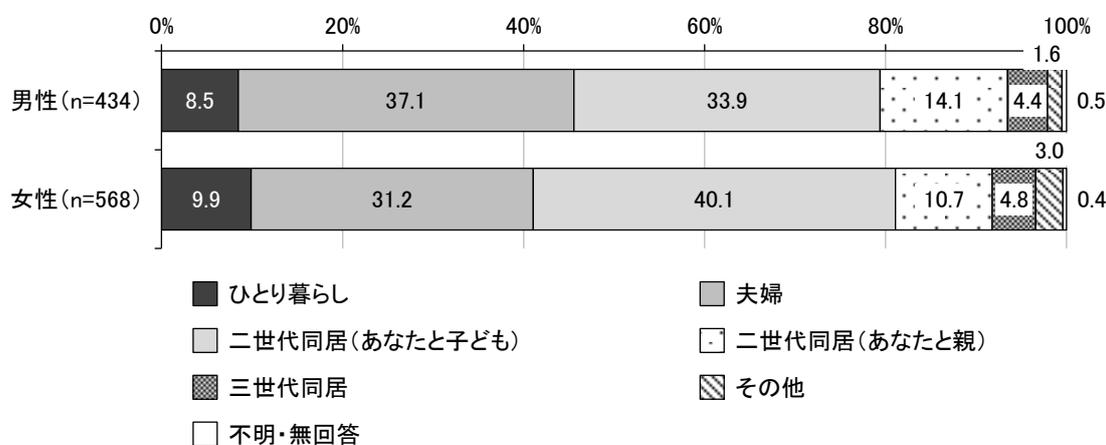


問6 同居の家族構成を教えてください。(SA)

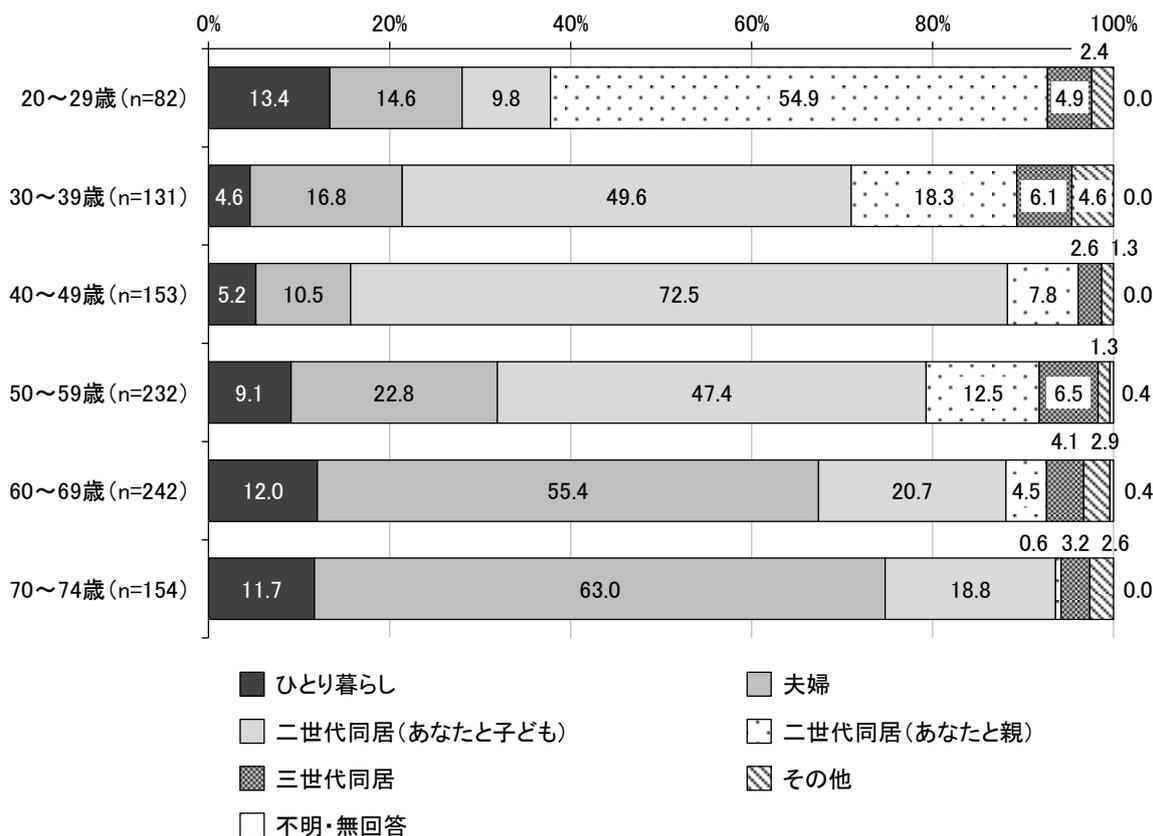
■同居家族の状況 (全体)



◇性別

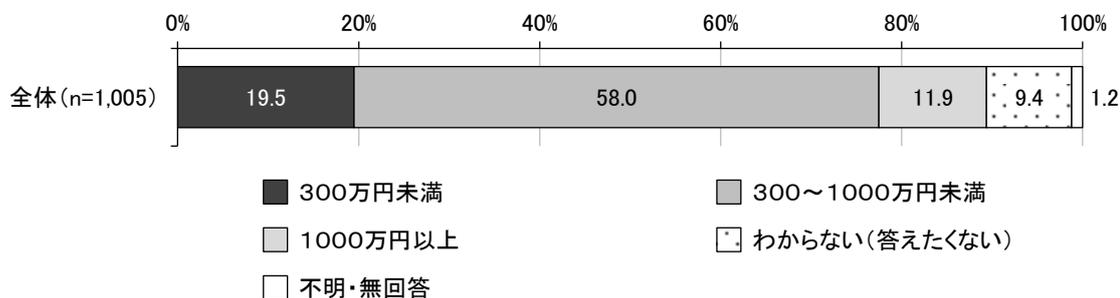


◇年齢別

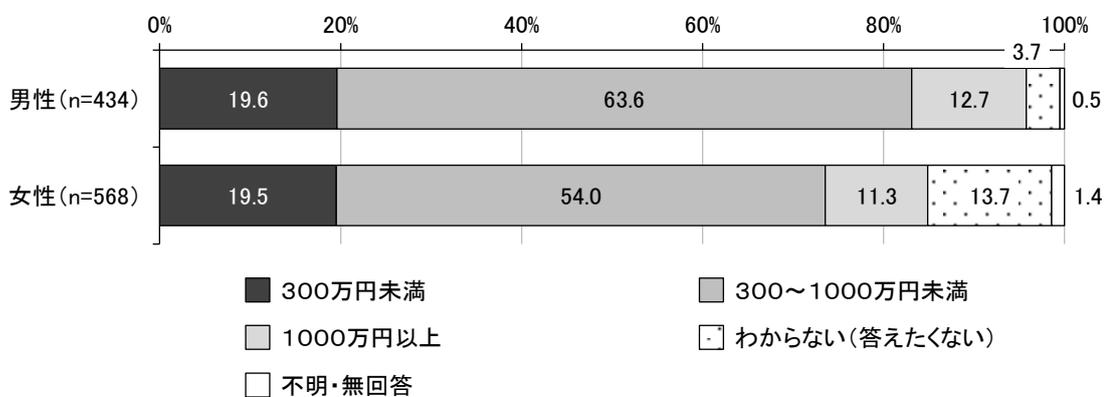


問7 あなたの世帯全員の年間収入の合計を教えてください。(SA)

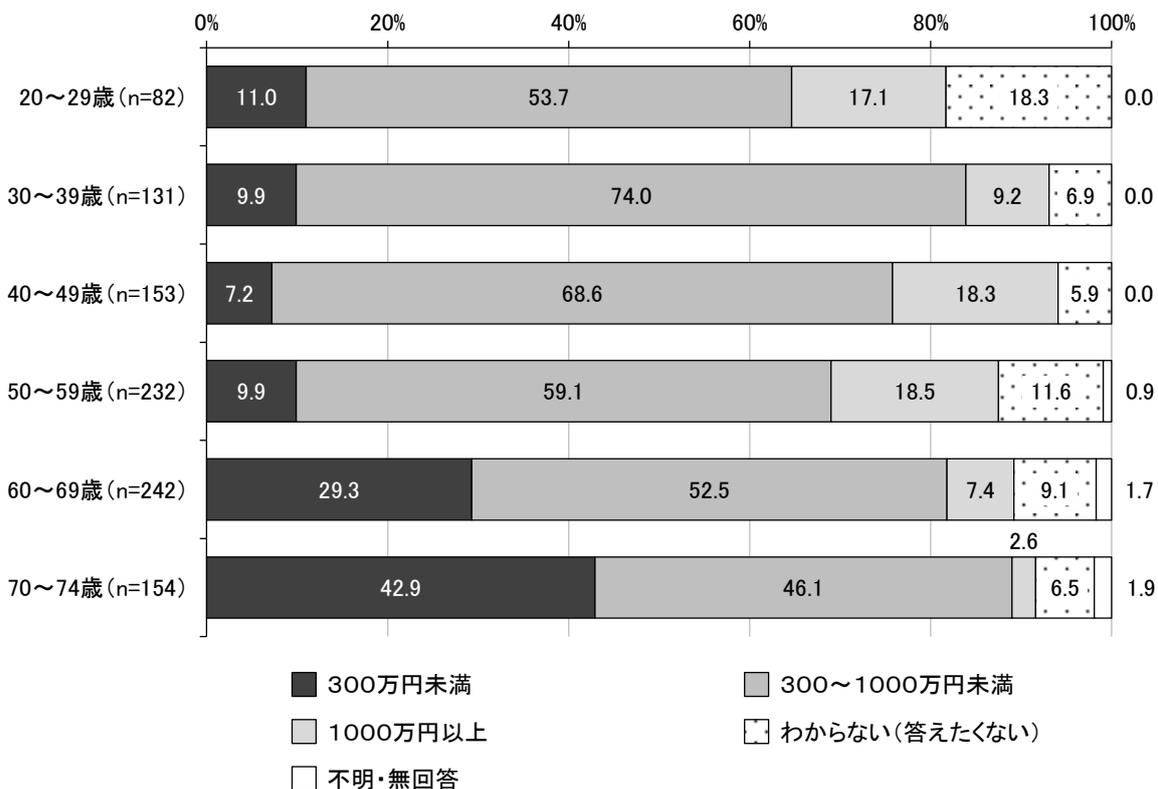
■世帯収入の状況 (全体)



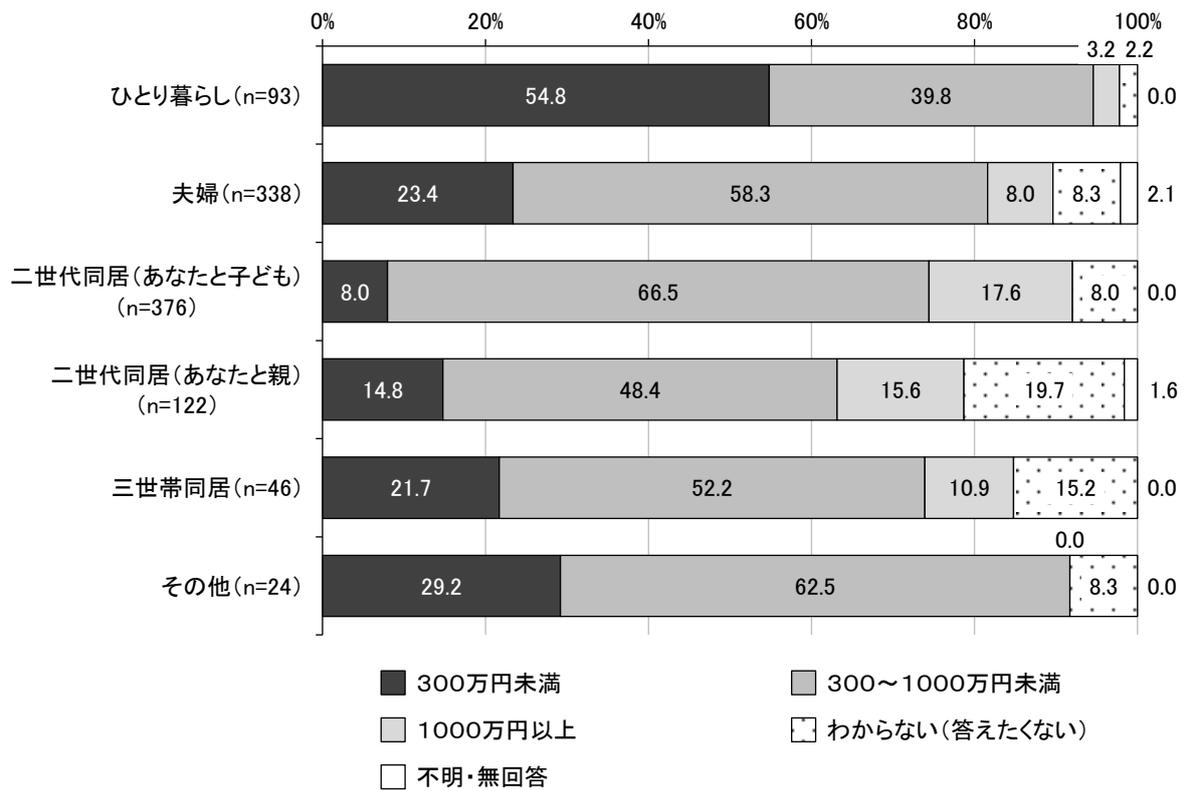
◇性別



◇年齢別



◇同居家族別

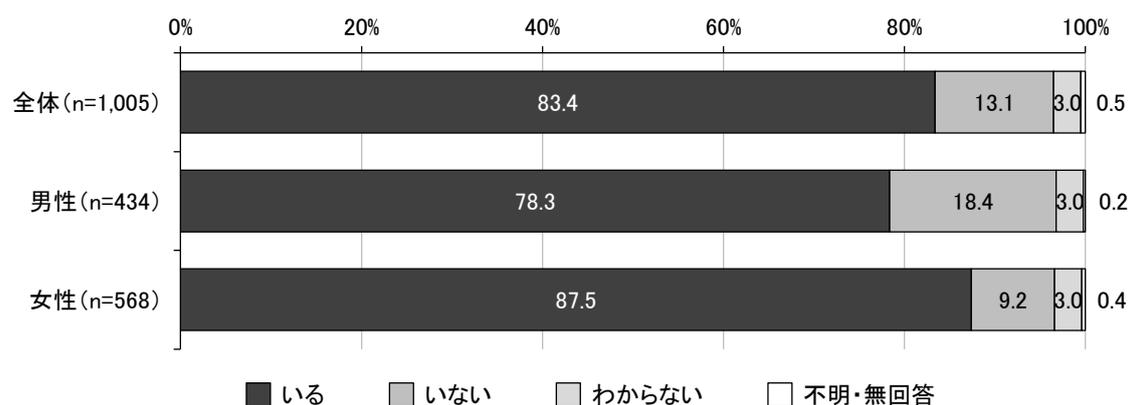


問8 あなた自身を含め、家族や親せき、親しい同僚など身近な人で、がんにかかった人はいますか。(MA)

がんにかかった人が身近にいると回答した方は 83.4%となっており、男性に比べて女性の方が高くなっています。

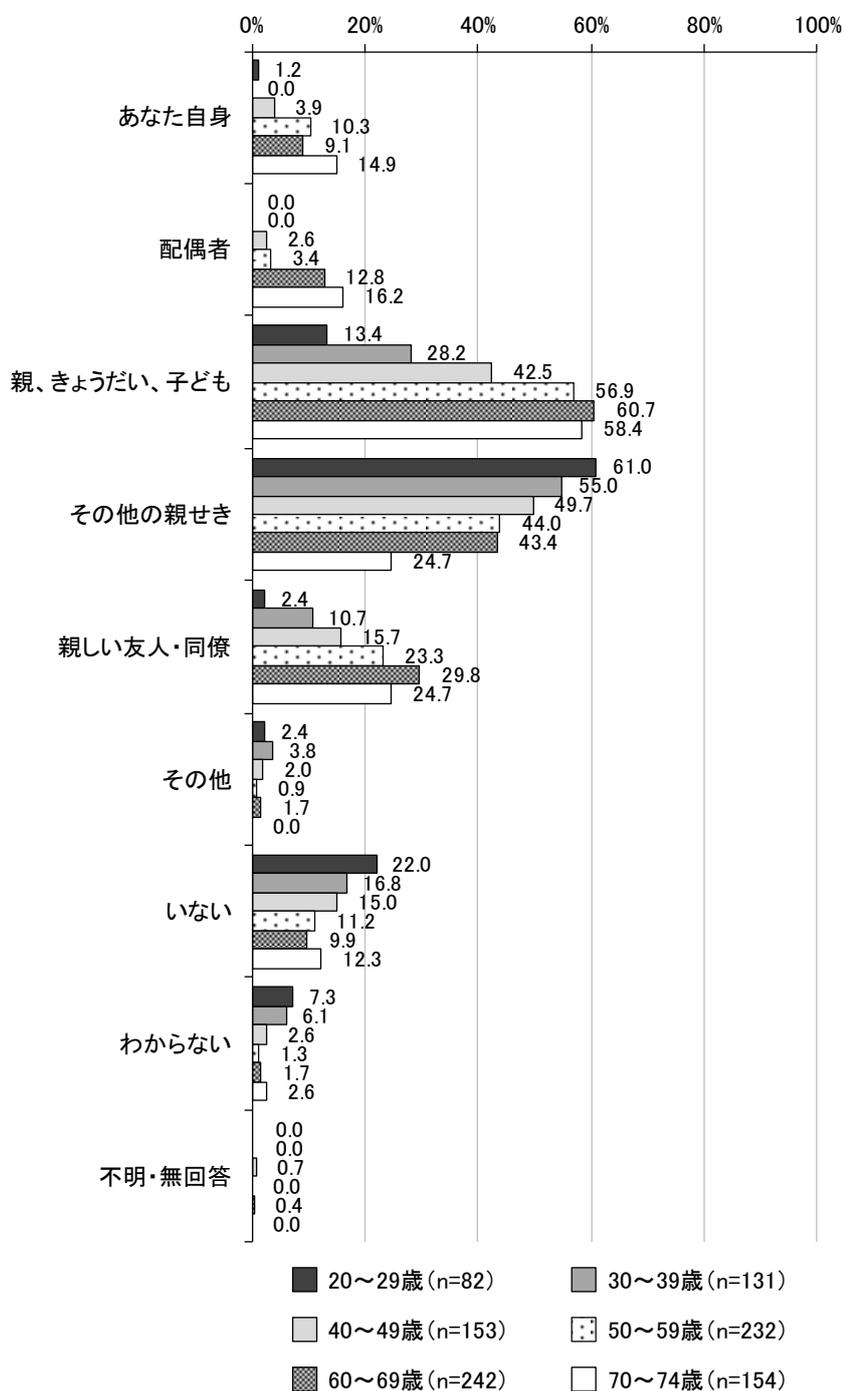
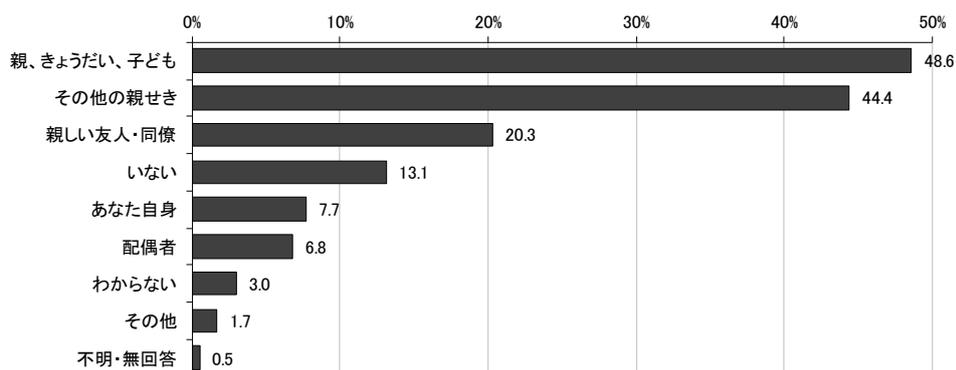
回答者自身ががんにかかった方は、77人で7.7%でした。また、年齢を重ねるほど本人、配偶者ががんにかかる割合が増加しています。

■身近でがんにかかった人の有無



■がんにかかった人との関係性

n=1,005

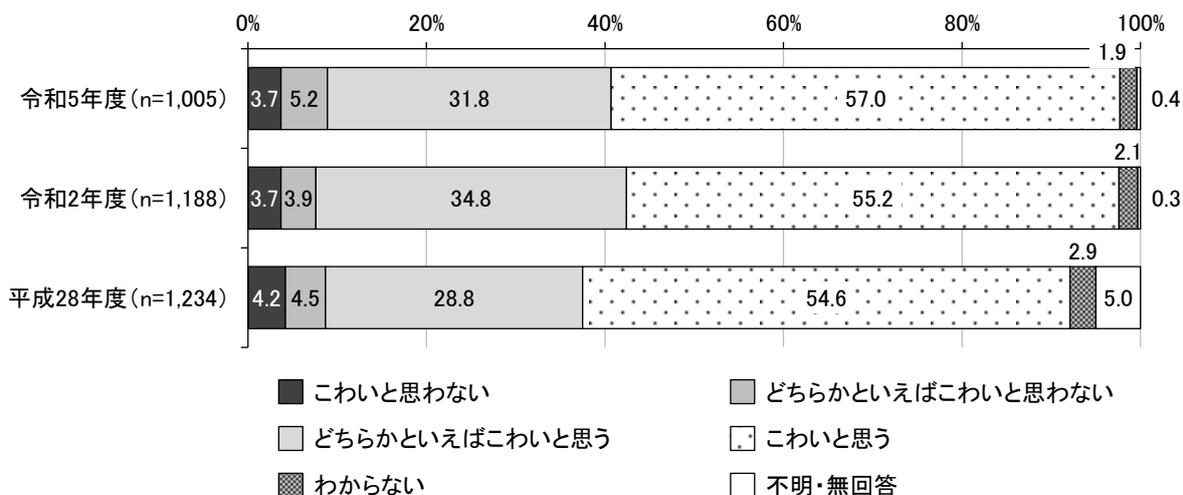


2. がんに関する印象・認識について

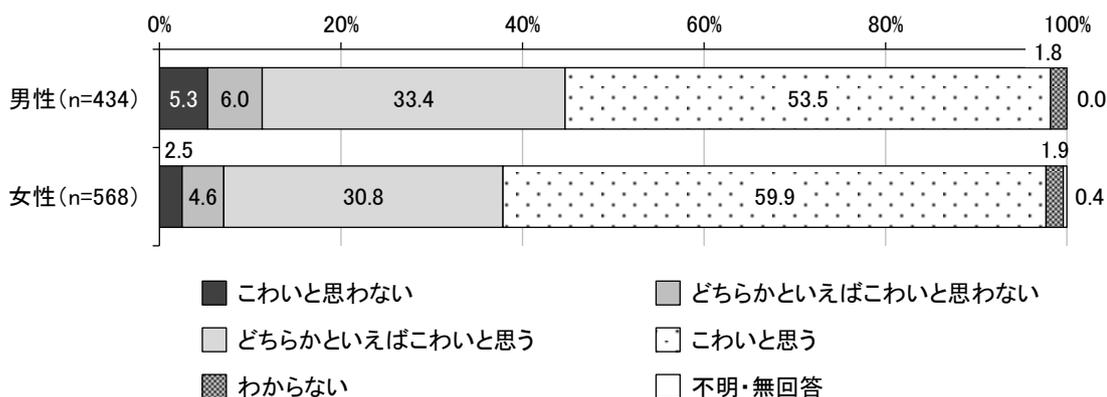
問9 あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか。(SA)

がんについての印象は、「どちらかといえばこわいと思う」を含め、『こわいと思う』と答えた方が88.8%となっており、「こわいと思う」割合は、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。また、年齢別にみると、「こわいと思う」割合は、年代が下がるほど高くなっています。

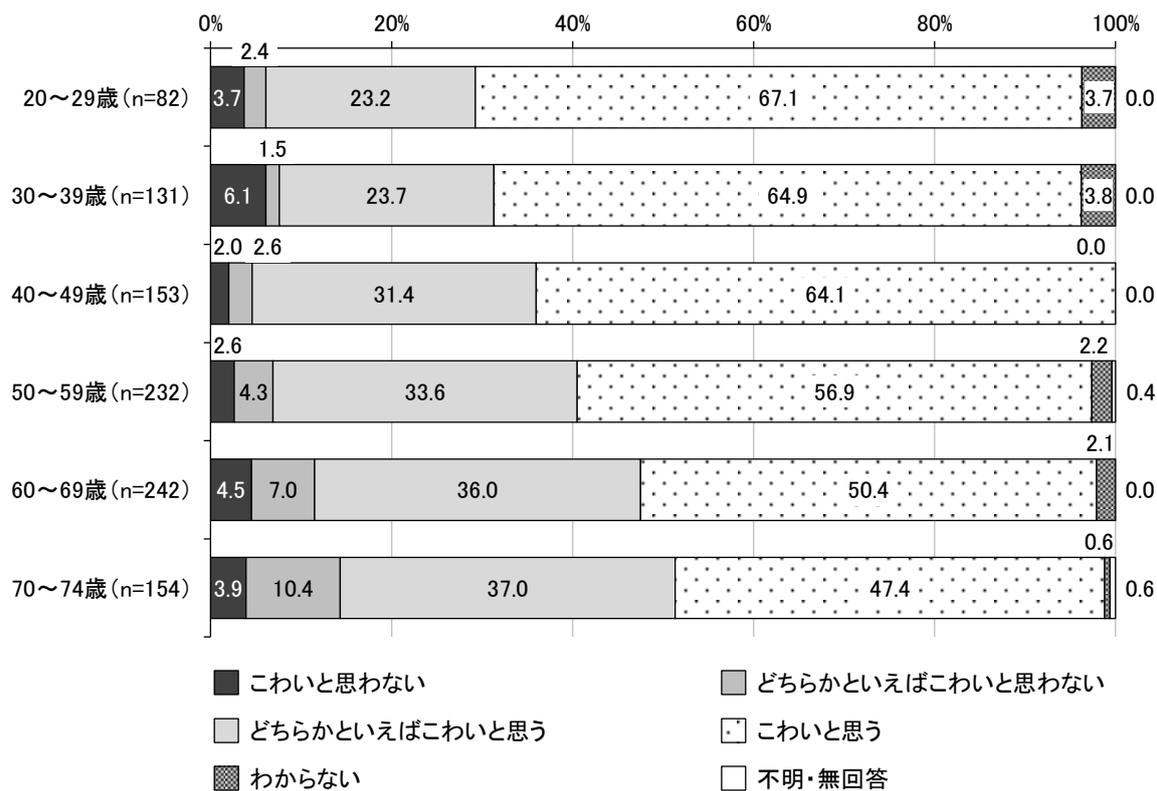
■過去調査との比較



■性別



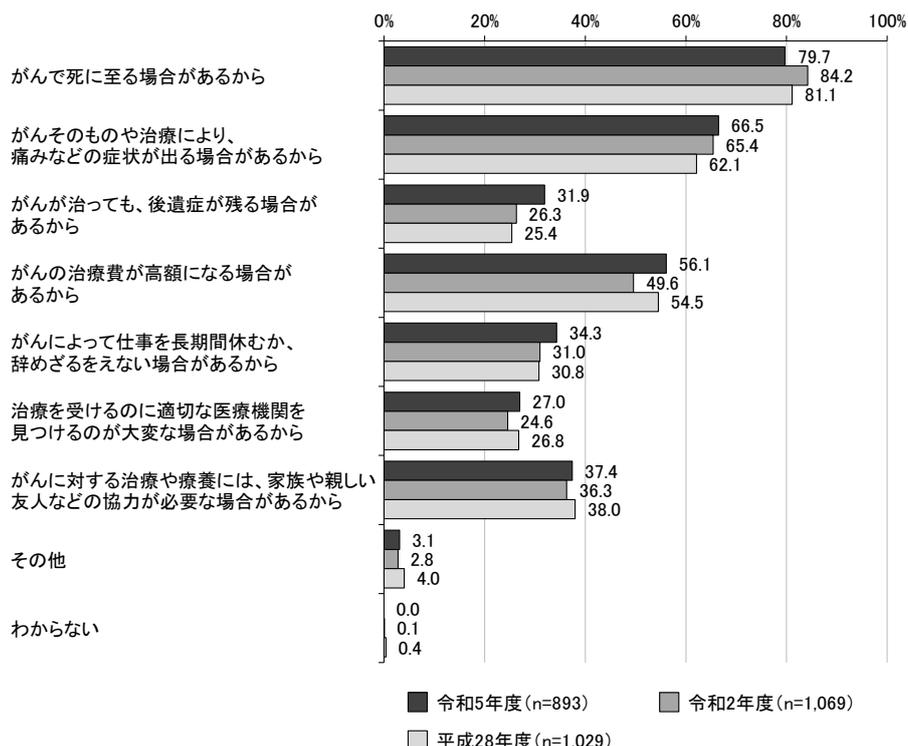
■ 年齢別



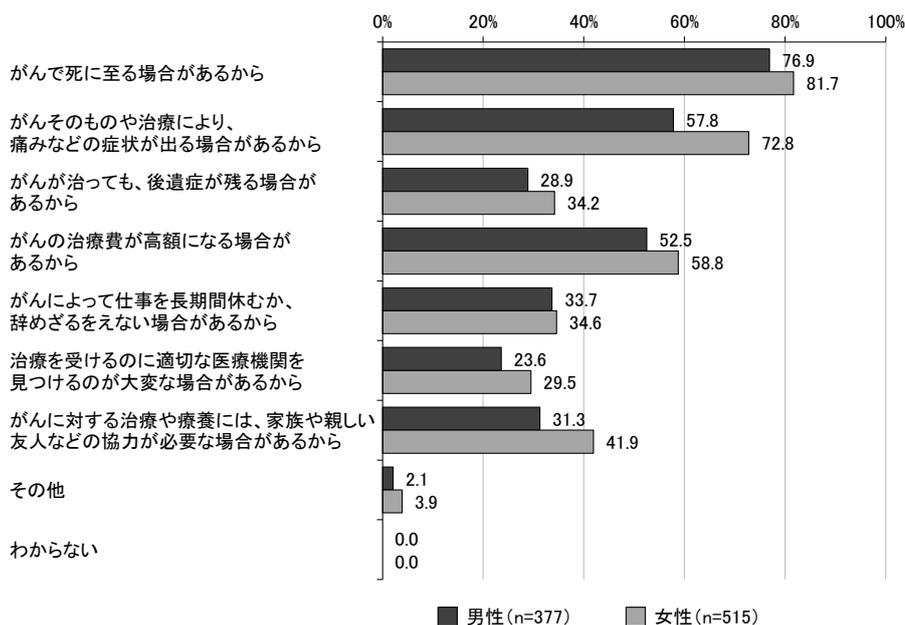
【問9で「3. どちらかといえば怖いと思う」「4. 怖いと思う」と答えた方】
問10 あなたが、がんを怖いと思う理由は何ですか。(MA)

がんを怖いと思う理由は、「死に至る場合がある」が最も高く、「痛みなどの症状が出る場合がある」「治療費が高額になる」が続いており、過去調査と同様の傾向がみられます。また、年齢別にみると40歳から50歳代では、「仕事を長期間休むか、辞めざるをえない」を選択する割合が高くなっています。

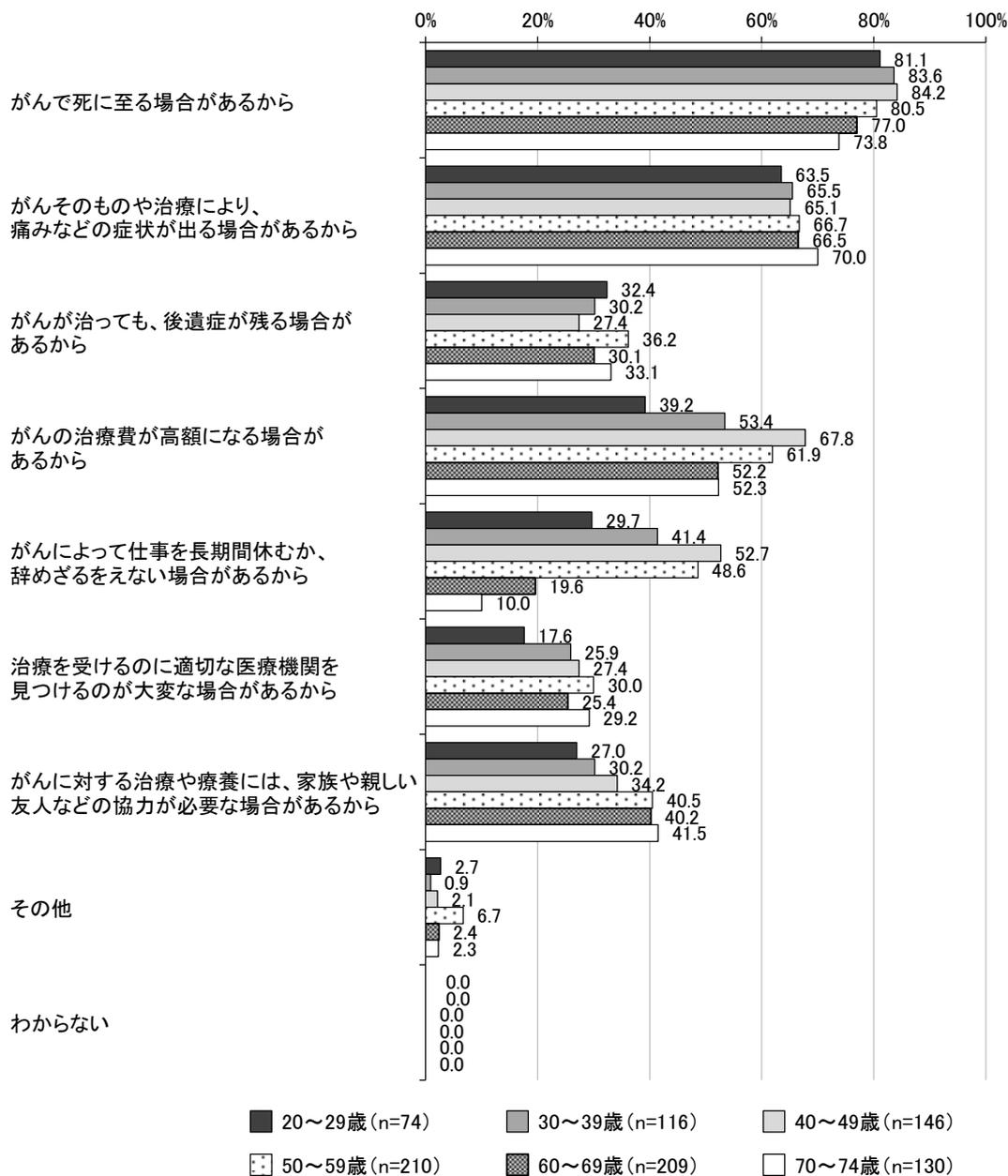
■過去調査との比較



■性別



■ 年齢別

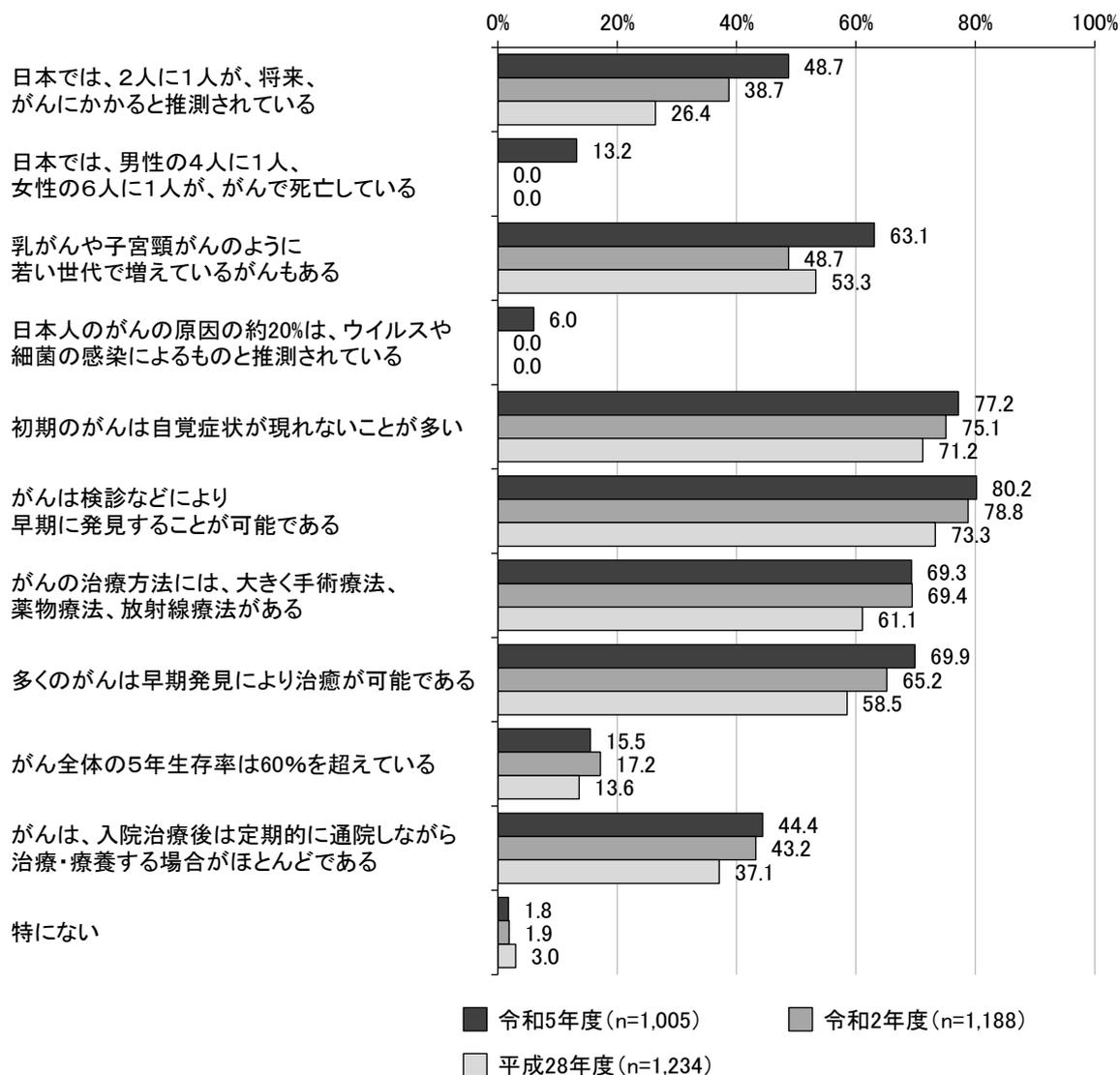


問 11 がんについてあなたが知っていることは何ですか。(MA)

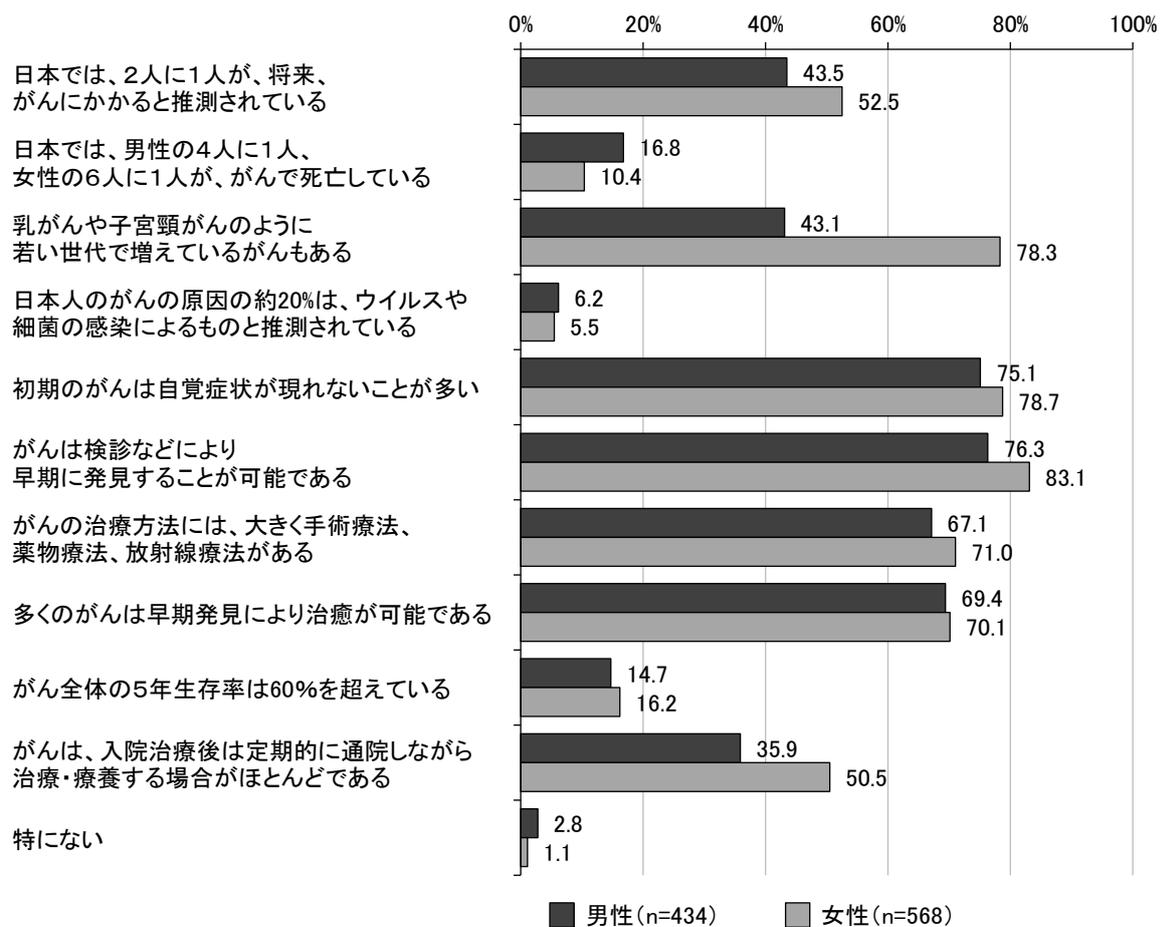
がんについて知っていることでは「検診などにより早期に発見することが可能である」が最も高く、「初期のがんは自覚症状が現れないことが多い」「多くのがんは早期発見により治療が可能である」が続いており、過去調査と比べて年々認知率が上がっている様子がうかがえます。

年代別にみると、20歳から30歳代では全般的に認知が低い状況にある中、「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」については、80%近くの方が知っていると回答しています。

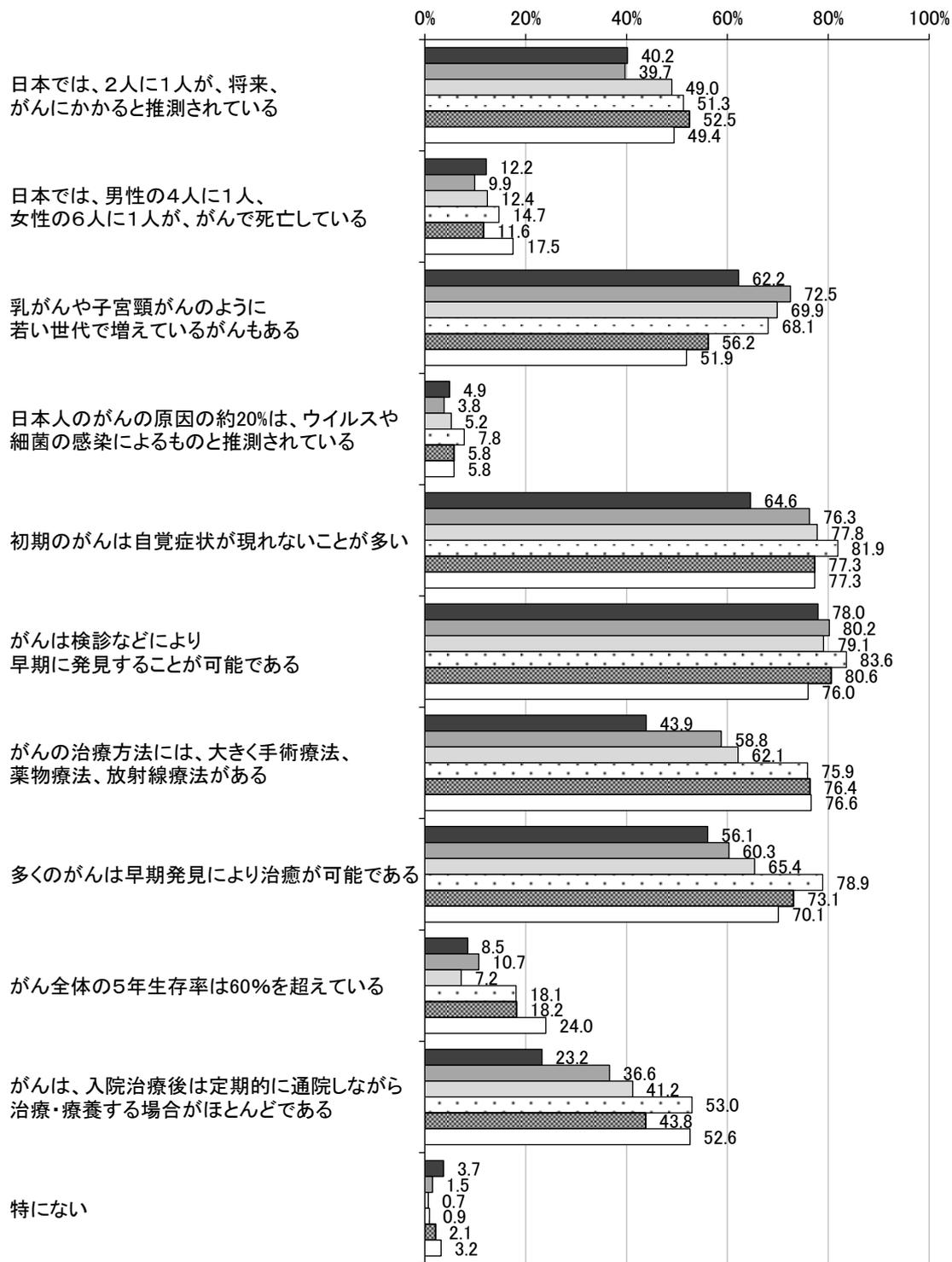
■過去調査との比較



■性別



■ 年齢別

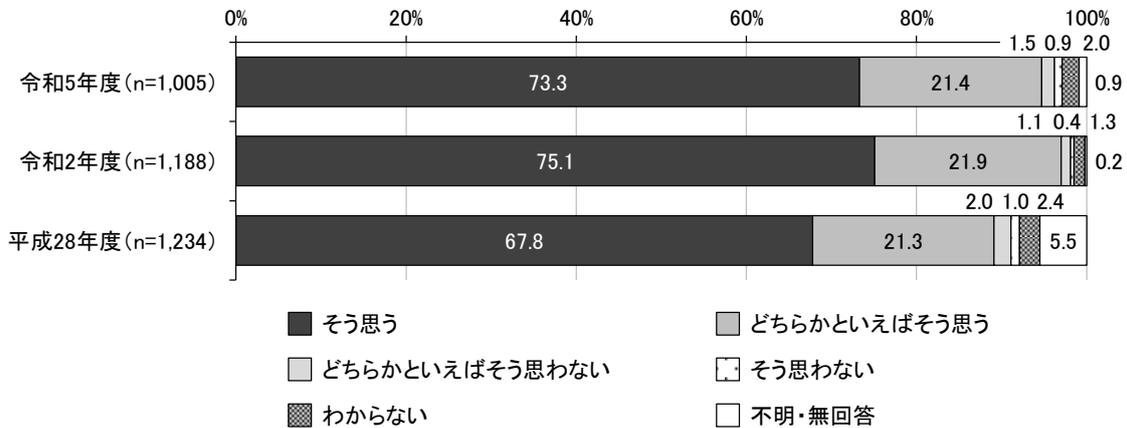


■ 20~29歳 (n=82) ■ 30~39歳 (n=131) ■ 40~49歳 (n=153)
 ■ 50~59歳 (n=232) ■ 60~69歳 (n=242) ■ 70~74歳 (n=154)

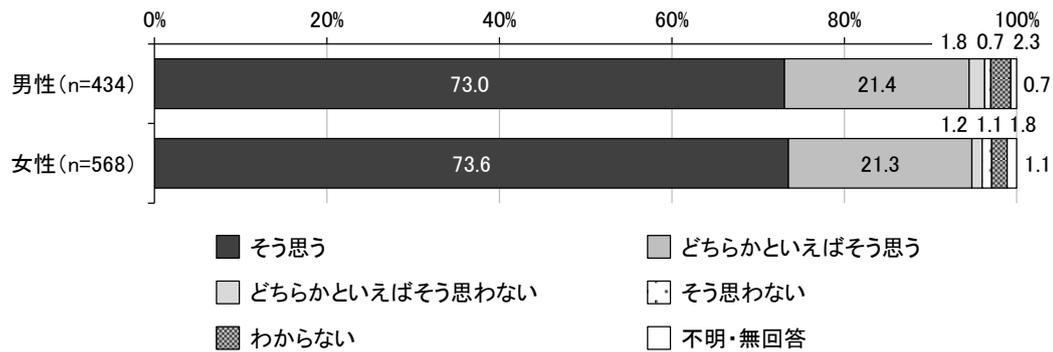
問 12 がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる重要な検査だと思いますか。(SA)

「どちらかといえばそう思う」を含め『そう思う』と回答した割合が94.7%となっています。しかし、年齢別にみるとがん検診の対象となる50歳代で「そう思う」の割合が低い状況にあります。

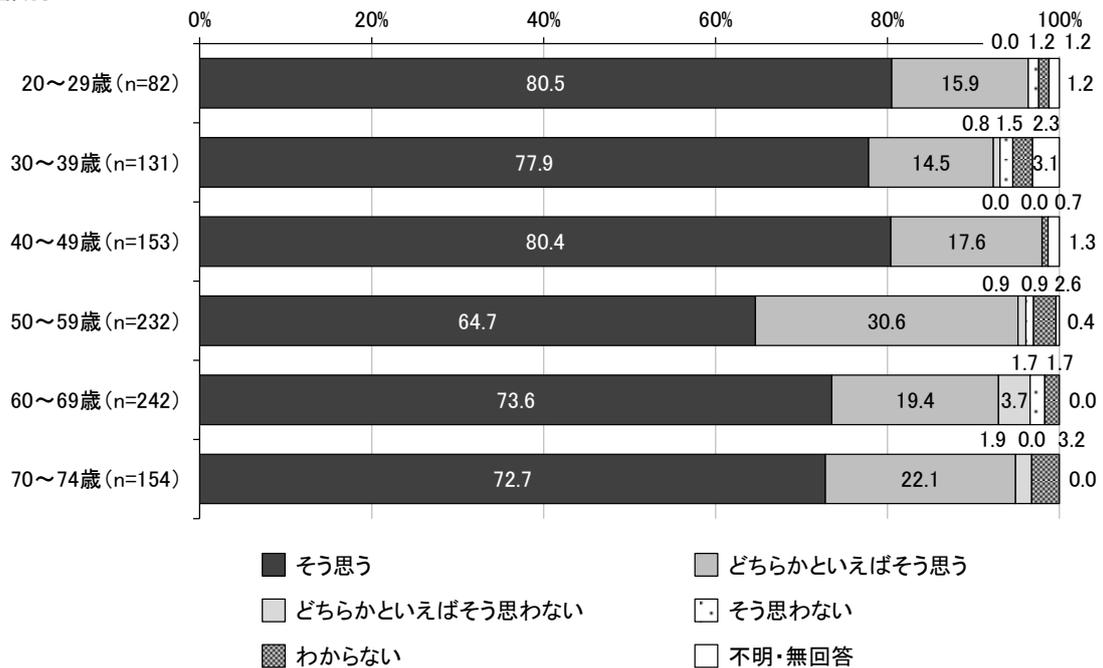
■ 過去調査との比較



■ 性別



■ 年齢別

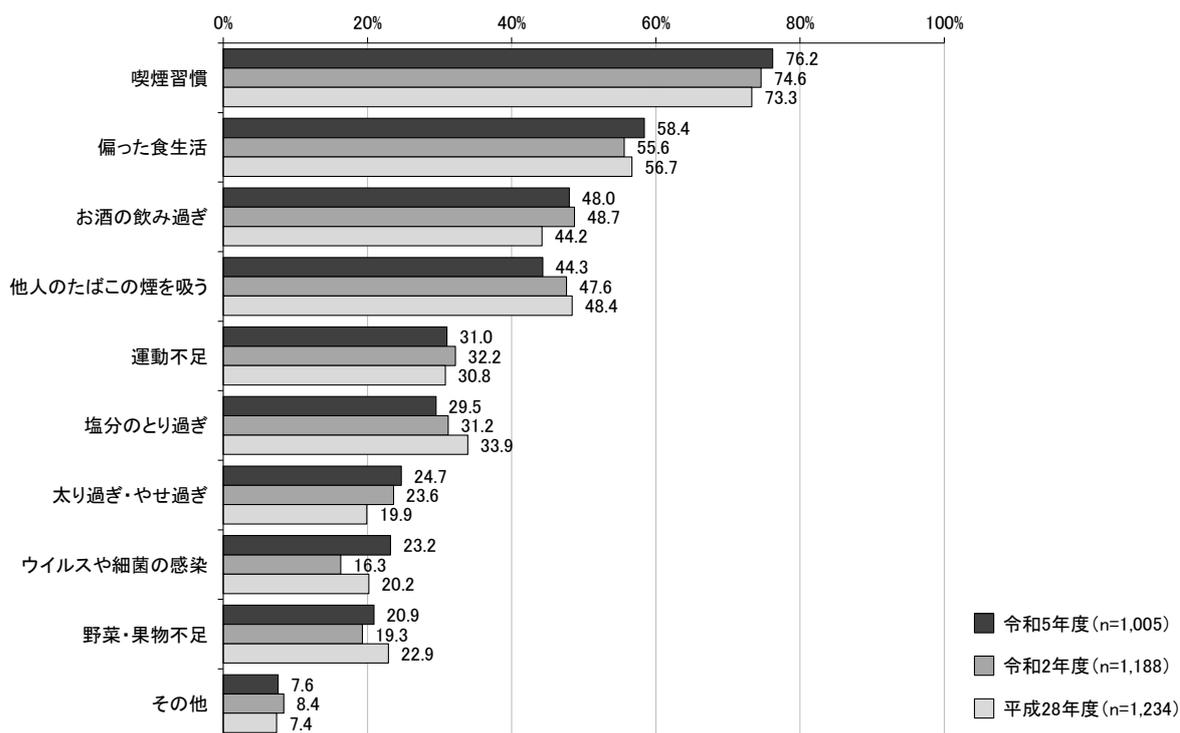


3. がんの予防について

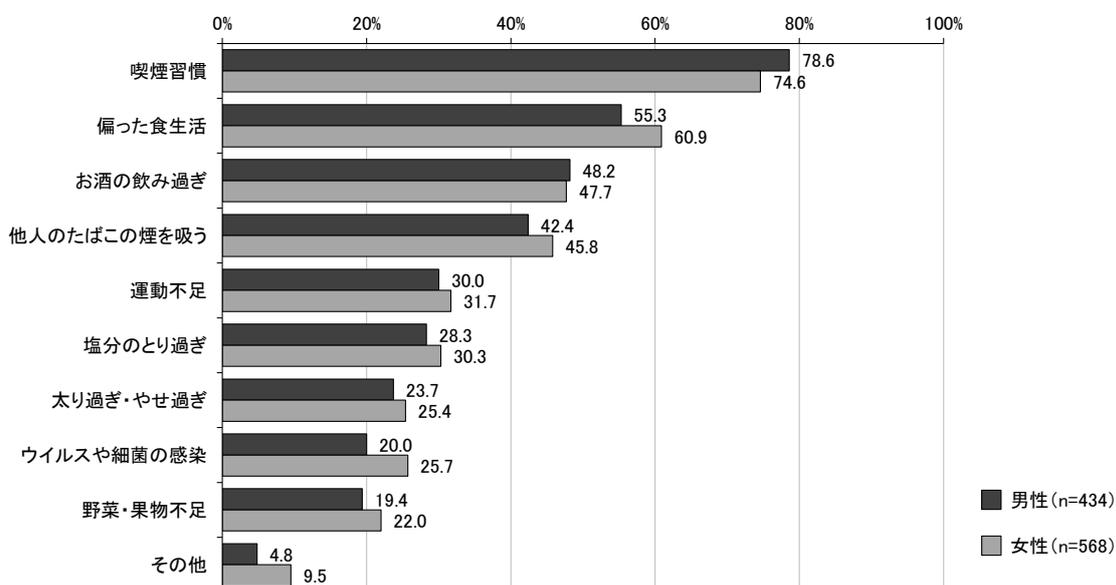
問 13 あなたが、がんになる危険性を高めると思うことは何ですか。(MA)

がんになる危険性を高めると思うことでは「喫煙習慣」が76.2%と最も高く、次いで「偏った食生活」となっています。20歳代では「他人のたばこの煙を吸う」が、50歳代では「ウイルスや細菌の感染」を選択した人が高くなっています。

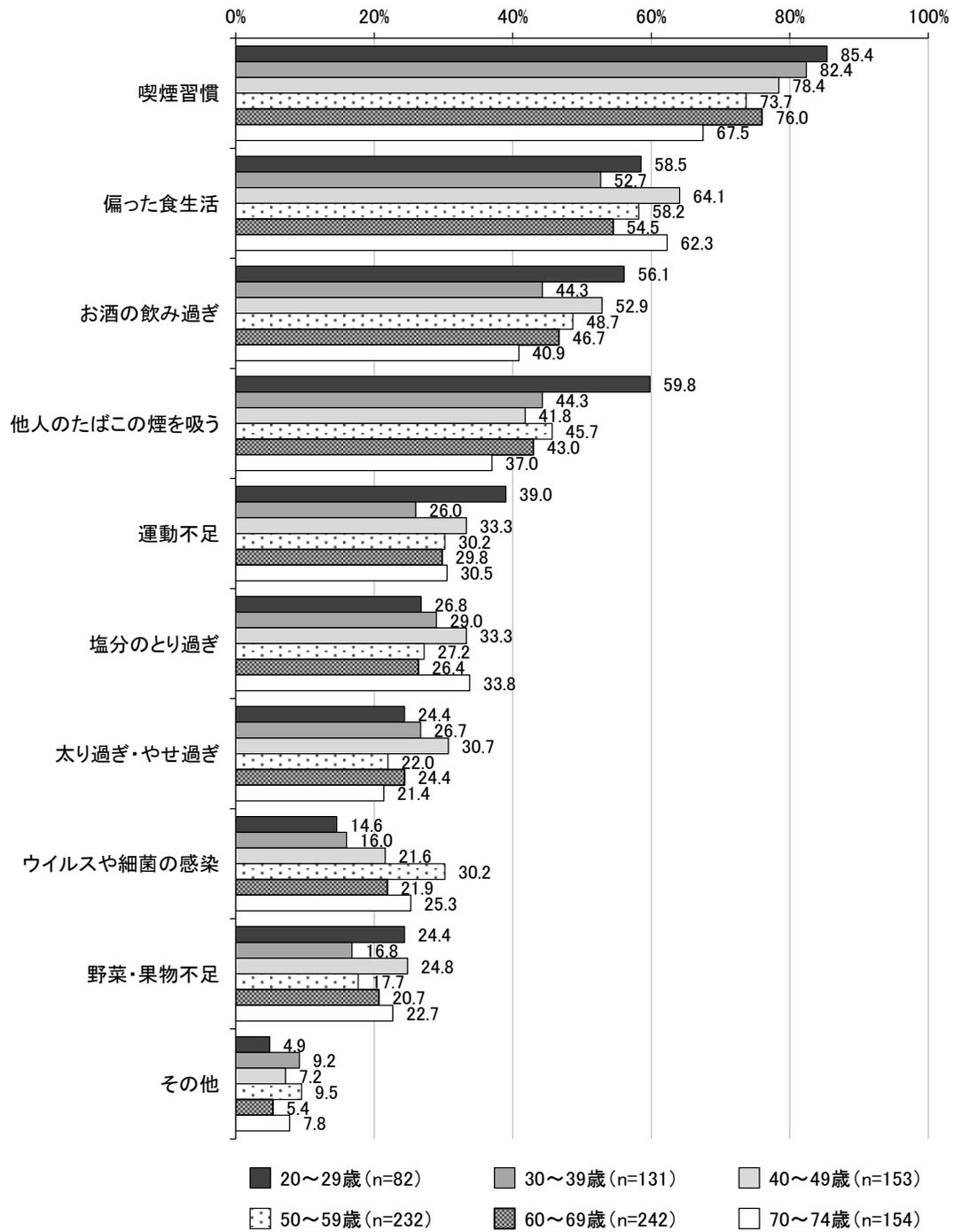
■ 過去調査との比較



■ 性別



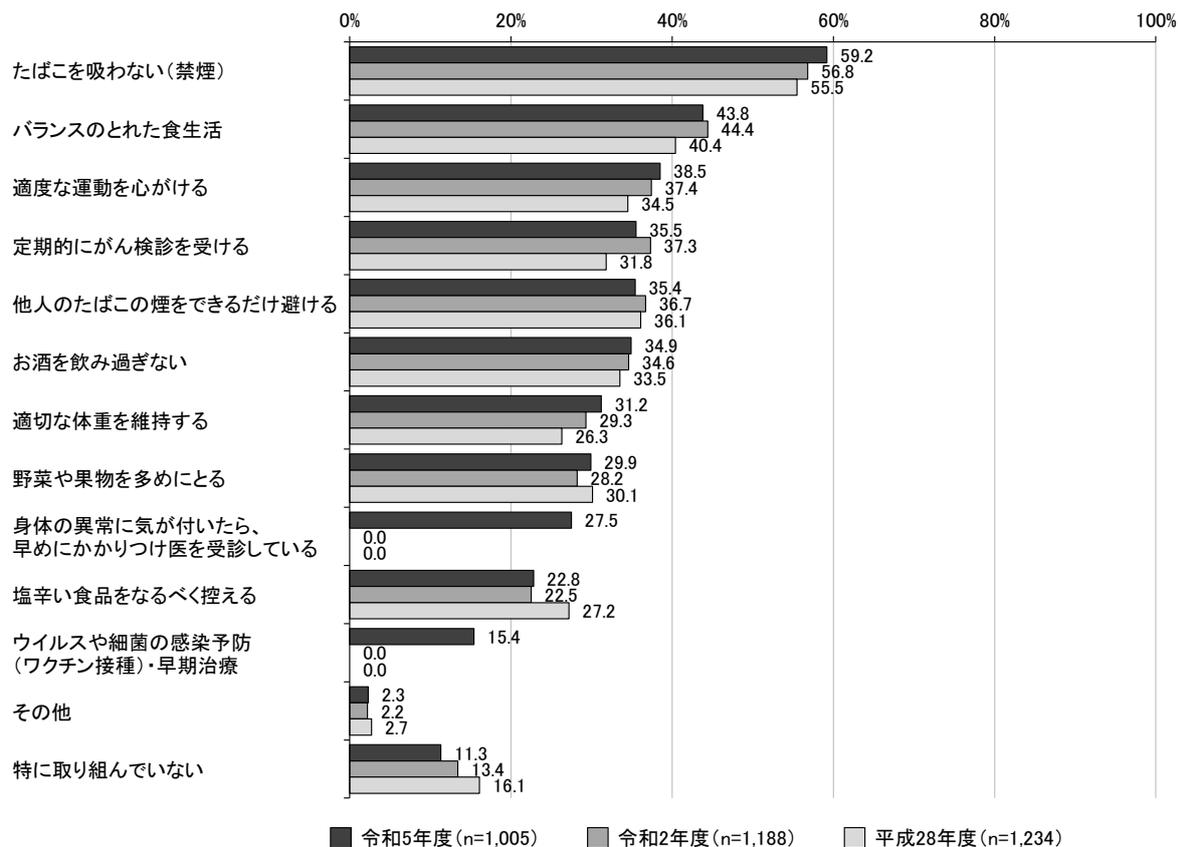
■ 年齢別



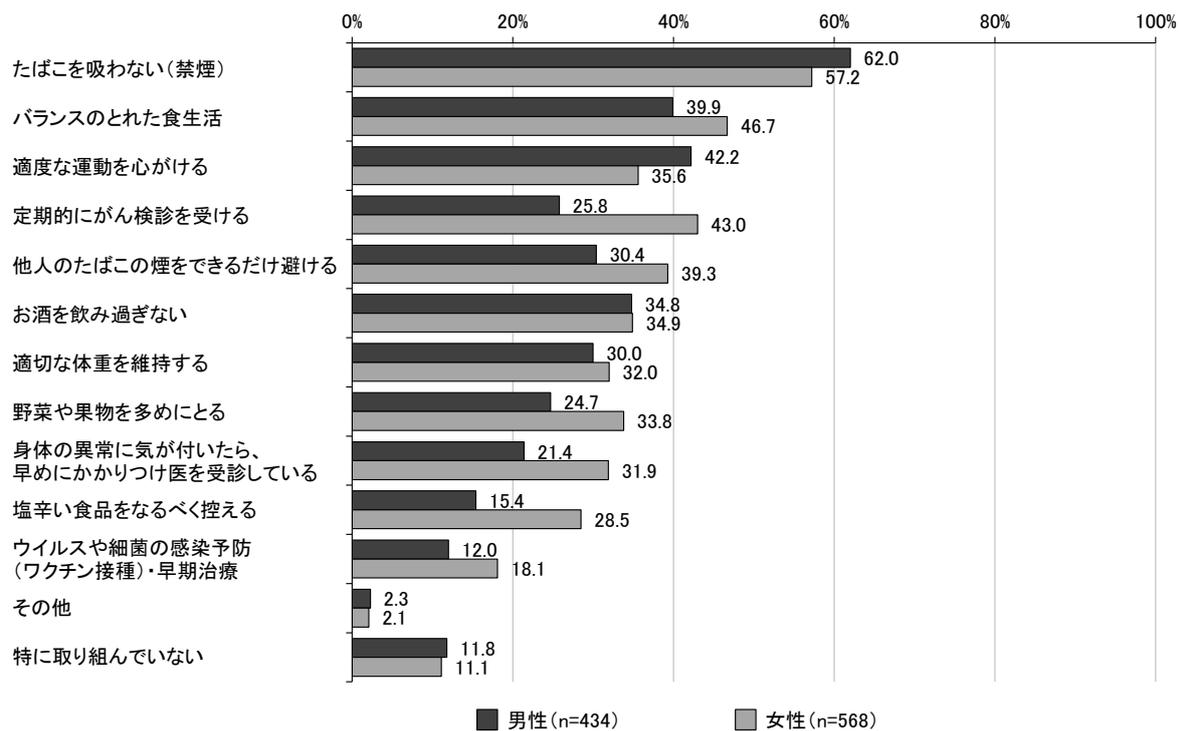
問 14 あなたが、がんの予防や早期発見のために現在取り組んでいることは何ですか。(MA)

がんの予防や早期発見のために現在取り組んでいることとしては、「たばこを吸わない(禁煙)」が59.2%で最も高く、次いで「バランスのとれた食生活」が43.8%となっています。40歳代では「お酒を飲み過ぎない」がやや高く、70歳以上では「バランスのとれた食生活」「適度な運動を心がける」「身体の異常に気が付いたら、早めにかかりつけ医を受診している」「塩辛い食品をなるべく控える」が高くなっています。

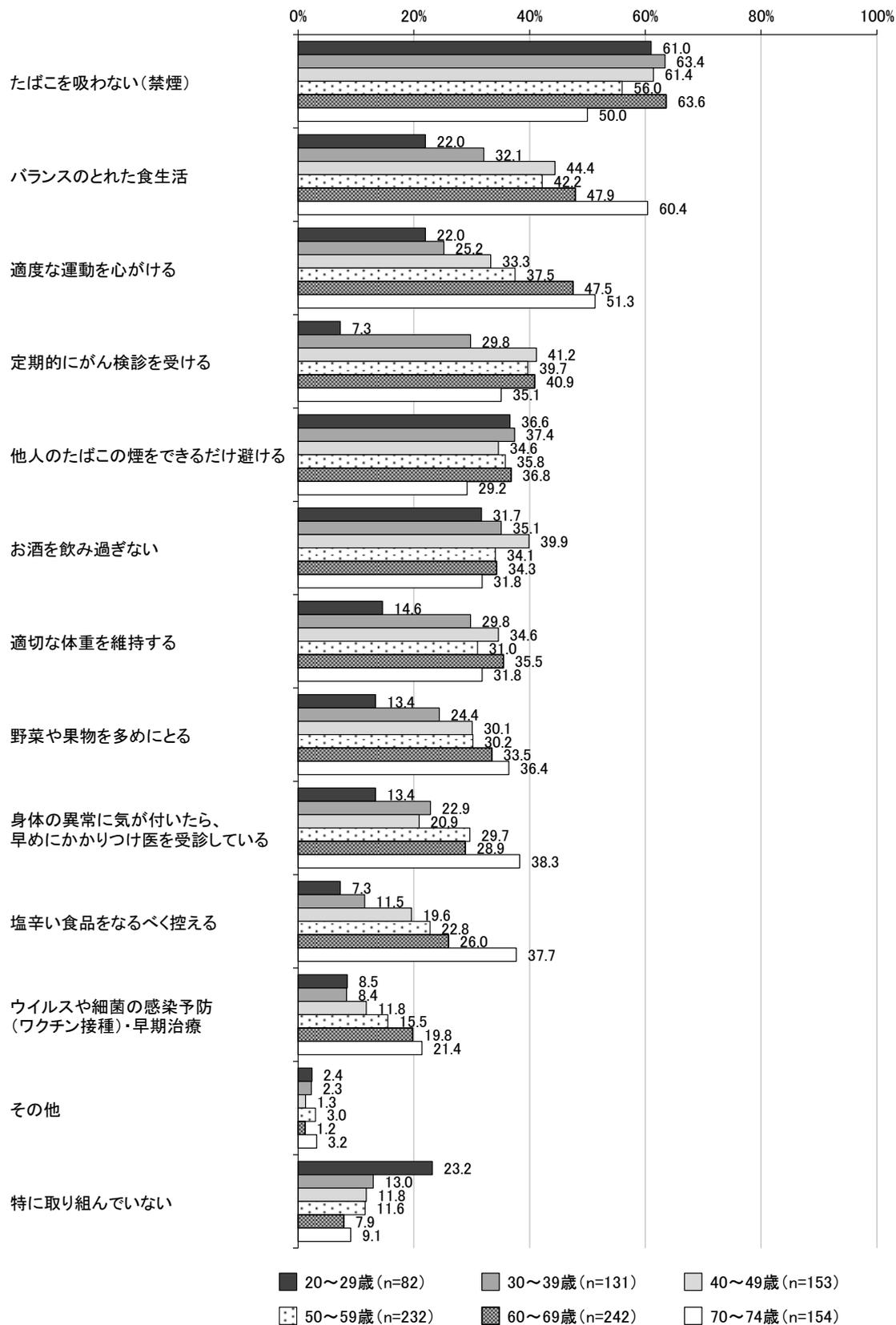
■ 過去調査との比較



■性別



■ 年齢別



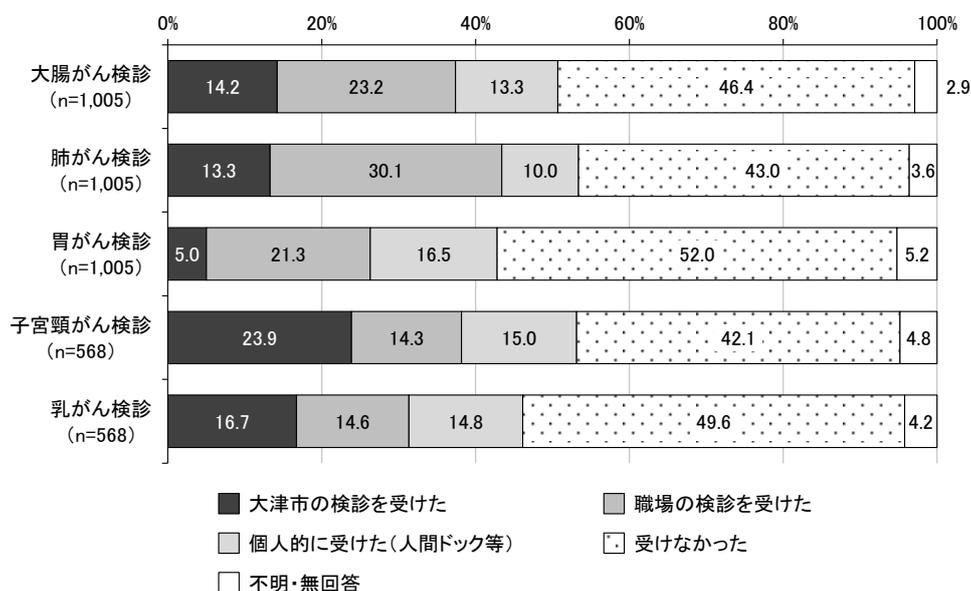
4. がん検診の受診の有無について

問 15 あなたは、がん検診を受けましたか。(SA)

がん検診の受診状況を見ると、全体ではいずれの検診も40～50%台と高くなっています。

国の指針で受診を特に推奨する年齢(40歳から69歳)では、大腸がん検診、肺がん検診で受診割合が60%を超えており、受診場所としては職場での検診が30%台で最も高くなっています。また、子宮頸がん検診、乳がん検診といった女性のがん検診についても、受診割合がおよそ60%と高くなっており、受診場所としては市の検診が20%台で最も高くなっています。

■全体



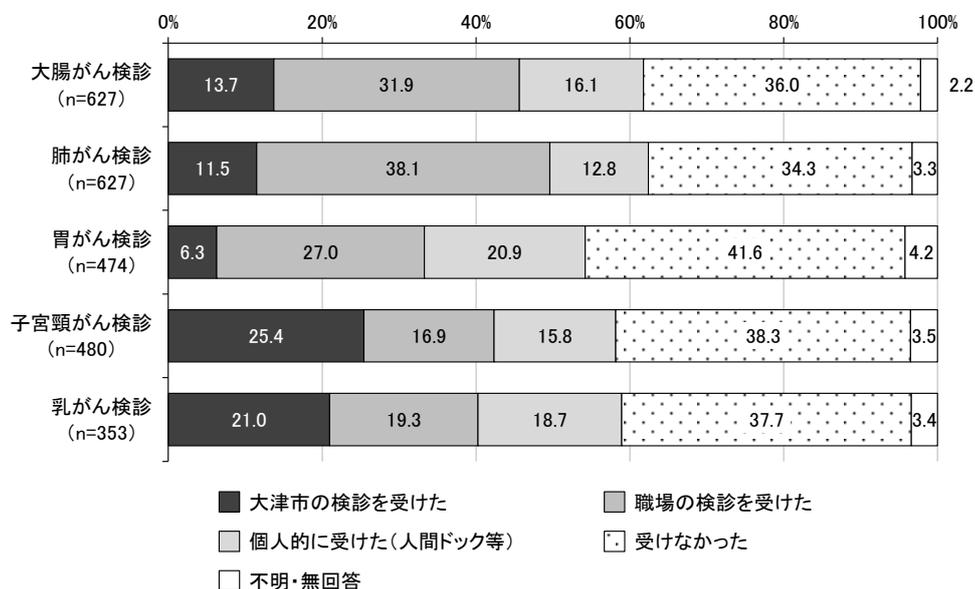
◇国の指針で受診を特に推奨する年齢における受診状況

※大腸がん検診、肺がん検診は40歳～69歳

胃がん検診は50歳～69歳

子宮頸がん検診は20歳～69歳の女性

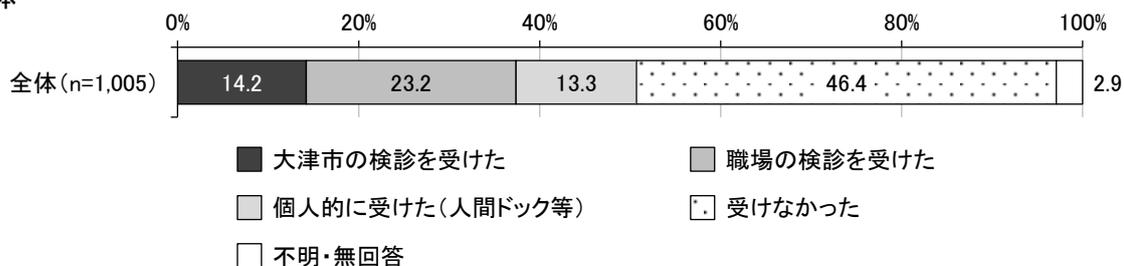
乳がん検診は40歳～69歳の女性



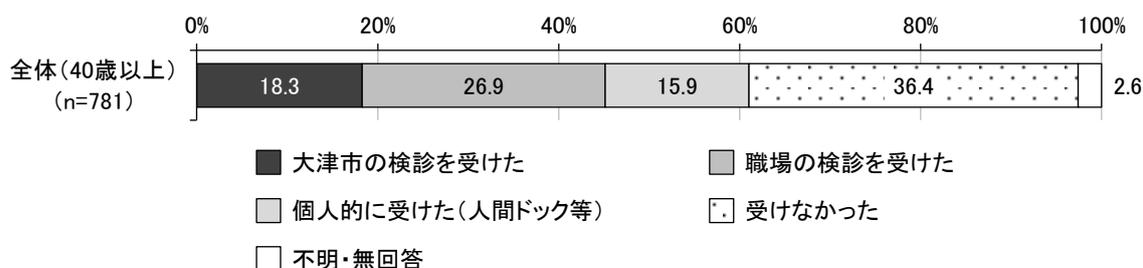
① 大腸がん検診（便検査等）（検診対象年齢：40歳以上）

大腸がん検診の受診状況についてみると、全体で50.7%、国の指針で受診を特に推奨する年齢（40歳から69歳）では61.7%となっています。年齢別にみると50歳代で64.6%と最も受診割合が高く、60歳代でも64.1%と高くなっています。また、40歳から50歳代は職場の検診の受診割合が、50歳から60歳代では人間ドック等を個人的に受診する割合が、70歳以上では市の検診の受診割合が高くなっています。

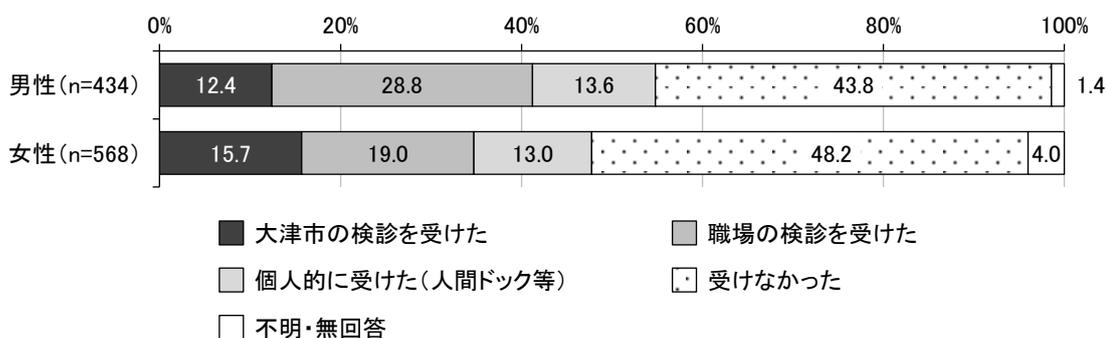
■ 全体



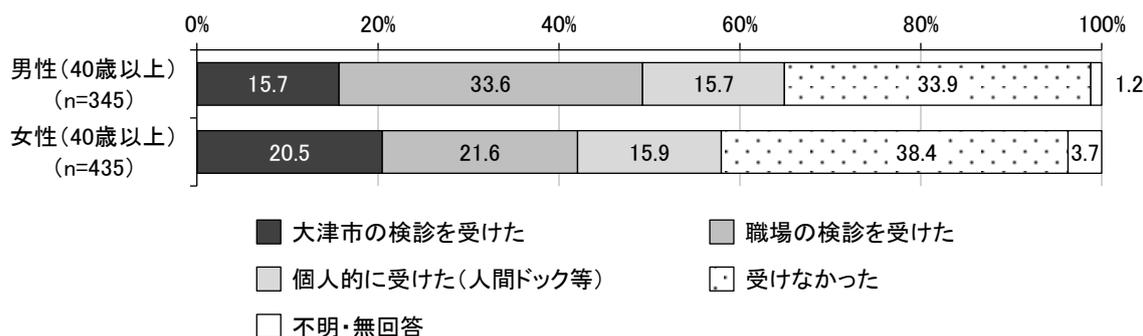
検診対象年齢（40歳以上）



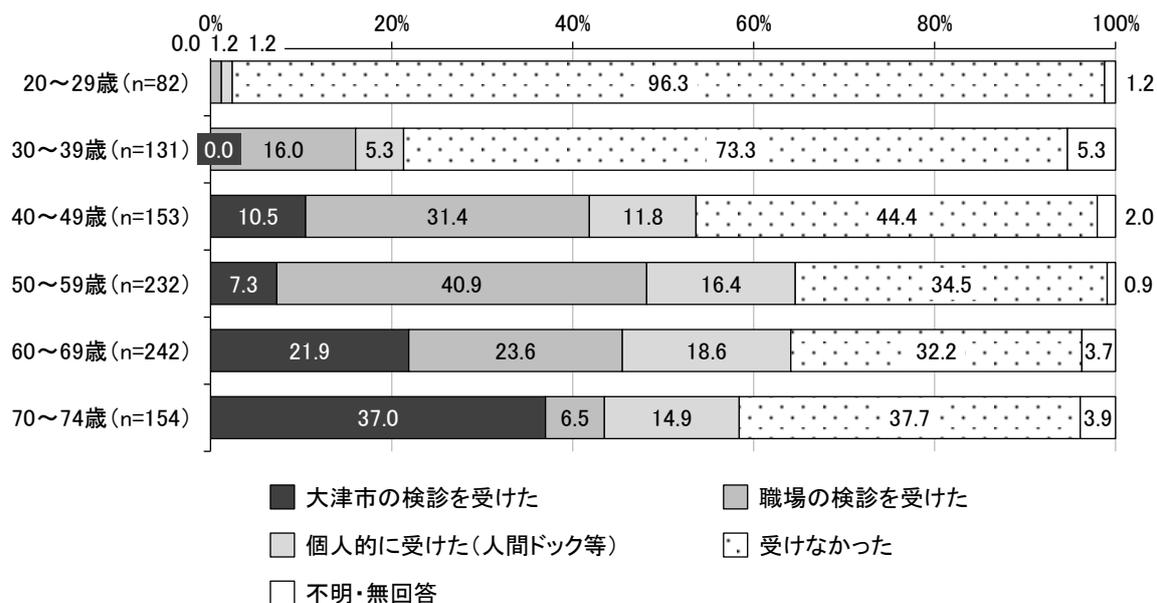
◇ 性別



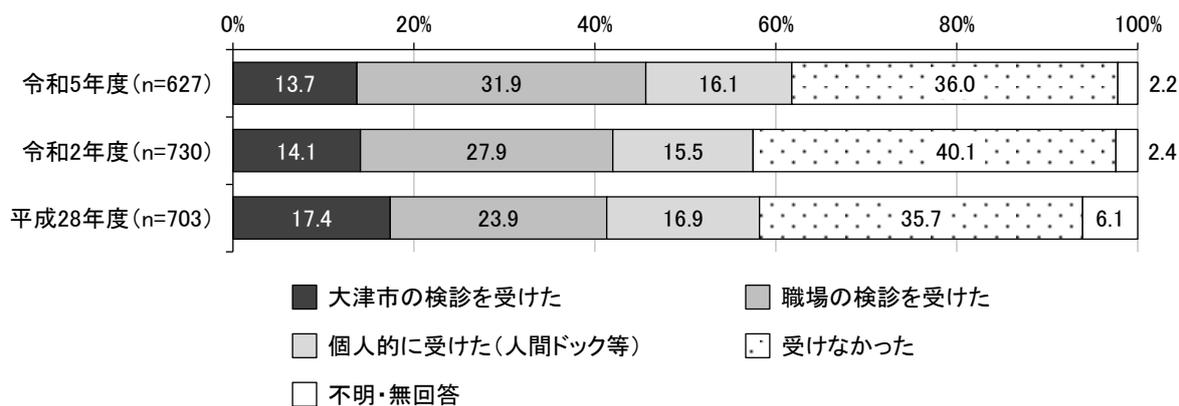
検診対象年齢（40歳以上）



◇年齢別

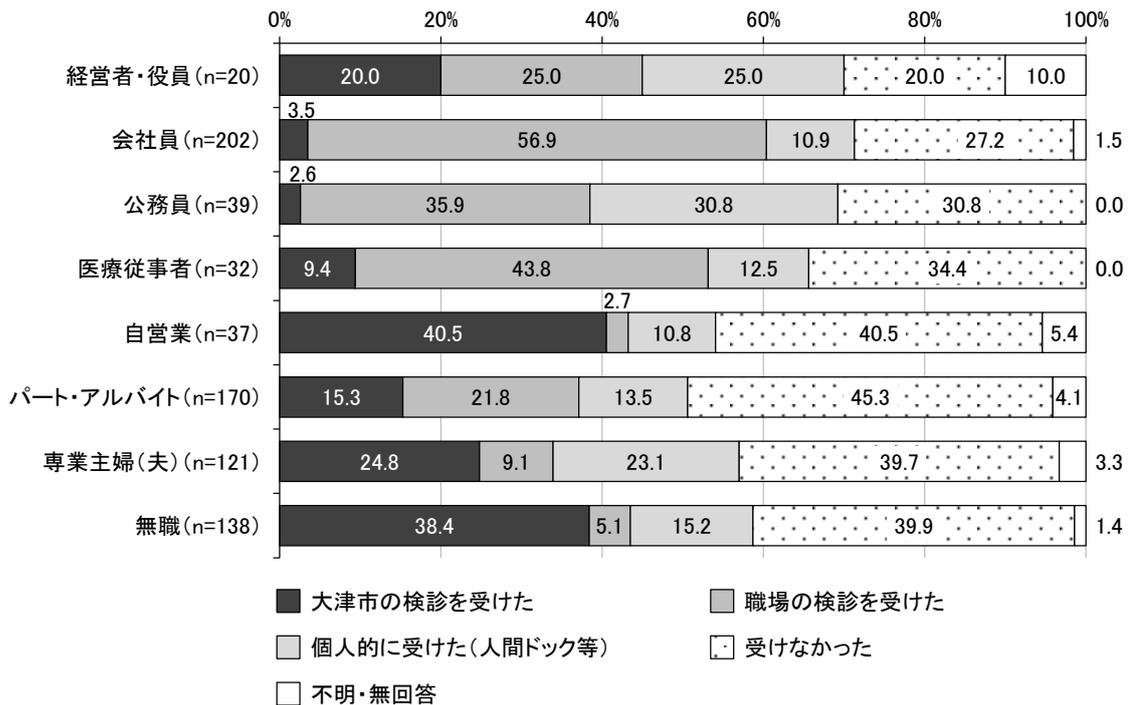


◇過去調査との比較 (国の指針で受診を特に推奨する年齢：40歳～69歳)

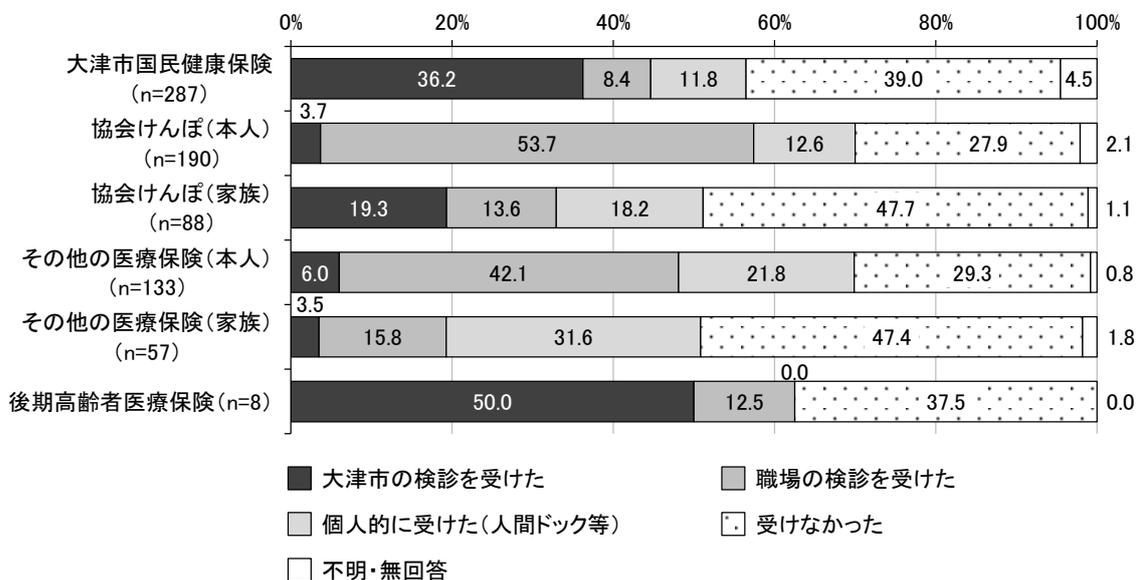


検診対象年齢（40歳以上）の大腸がん検診の受診状況についてみると、職業別では、会社員の受診割合が最も高く、次いで経営者・役員、公務員となっています。会社員については職場で検診を受ける割合が高い一方で、他の方法での受診割合は低くなっています。また、自営業や無職は大津市の検診を受ける割合が高く、公務員は人間ドック等を個人的に受診する割合が高くなっています。保険別にみると、協会けんぽ（本人）、その他の医療保険（本人）加入者の受診割合がおよそ70%となっており、職場の検診が高くなっています。大津市国民健康保険加入者は、大津市の検診を受診する割合が高くなっています。

◇職業別（40歳以上）



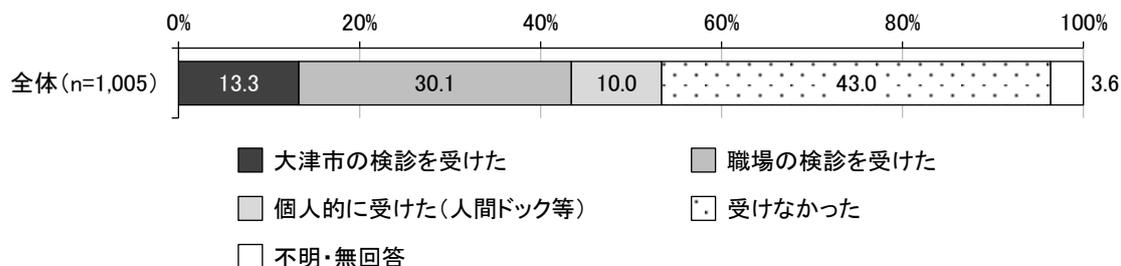
◇保険別（40歳以上）



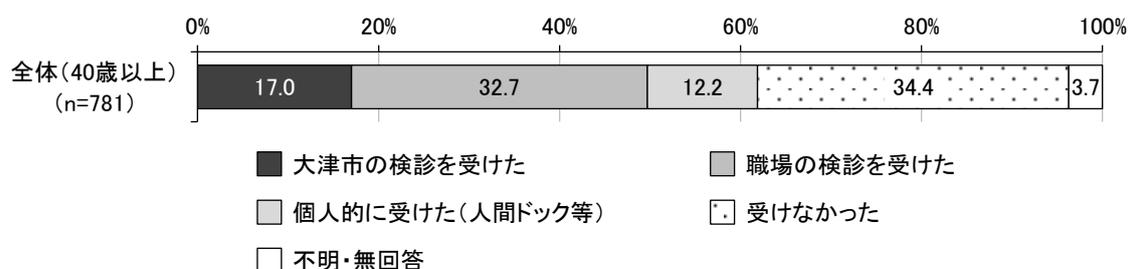
② 肺がん検診（胸部エックス線検査、喀痰検査等）（検診対象年齢：40歳以上）

肺がん検診の受診状況を見ると、全体で53.4%、国の指針で受診を特に推奨する年齢（40歳から69歳）では62.4%となっています。年齢別にみると50歳から60歳代で60%以上と高く、40歳代では受診割合が49.7%と50%を下回っています。また、20歳から50歳代では職場の検診を受けたと回答した割合が高くなっています。

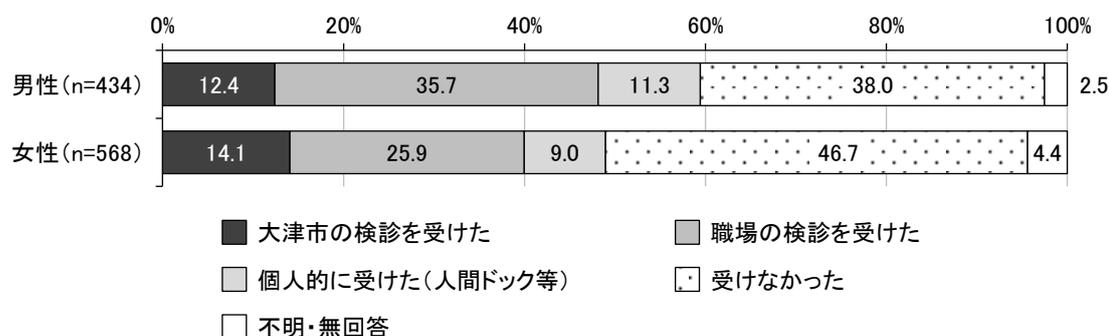
■全体



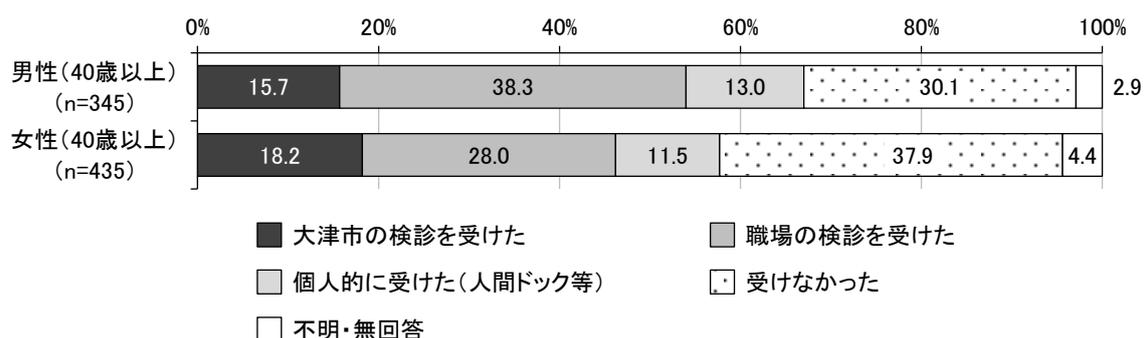
検診対象年齢（40歳以上）



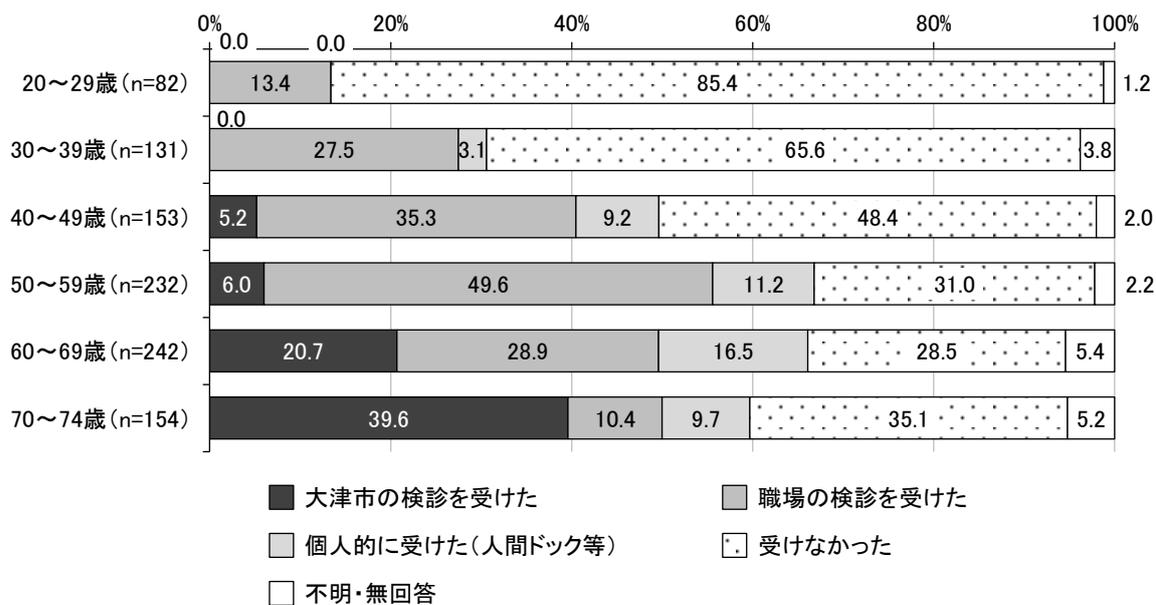
◇性別



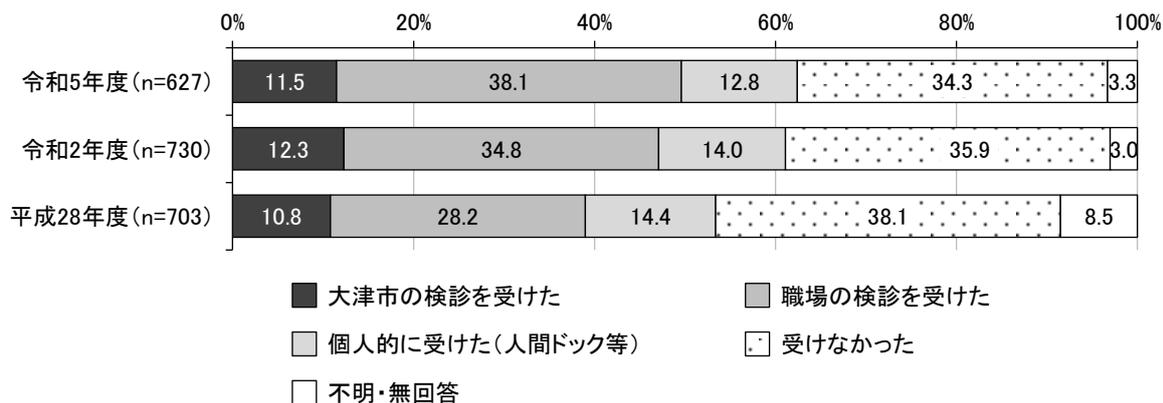
検診対象年齢（40歳以上）



◇年齢別

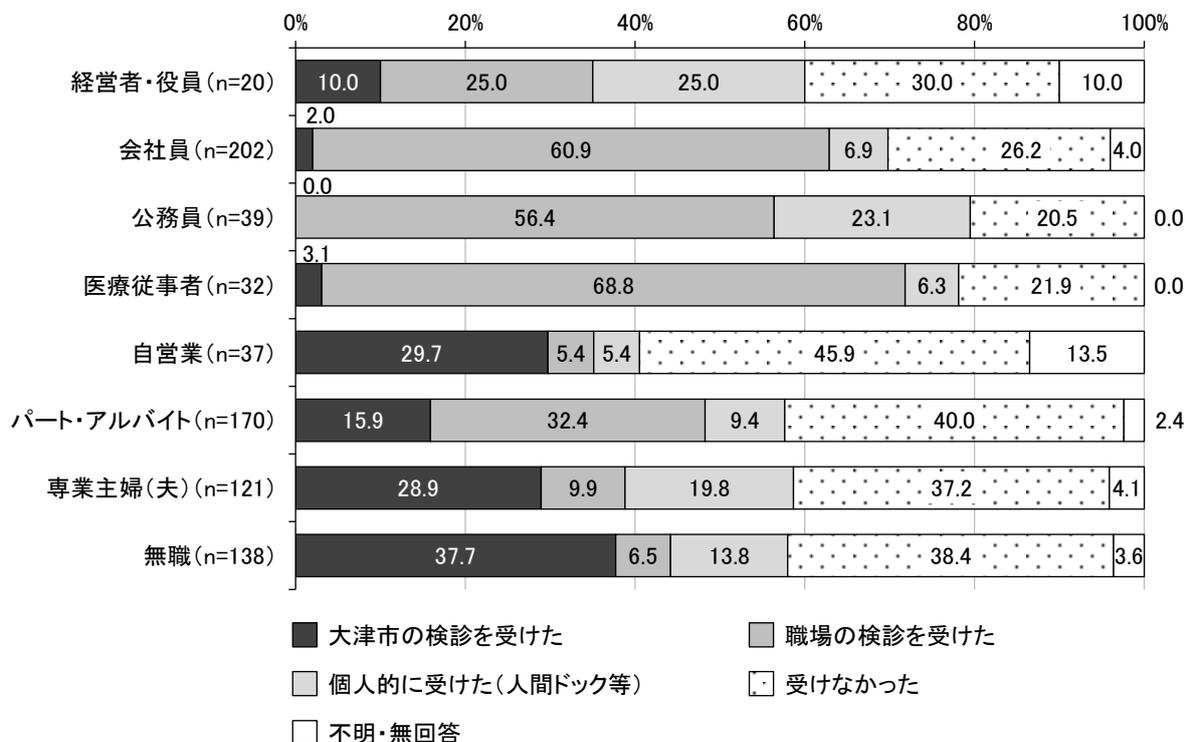


◇過去調査との比較 (国の指針で受診を特に推奨する年齢：40歳～69歳)

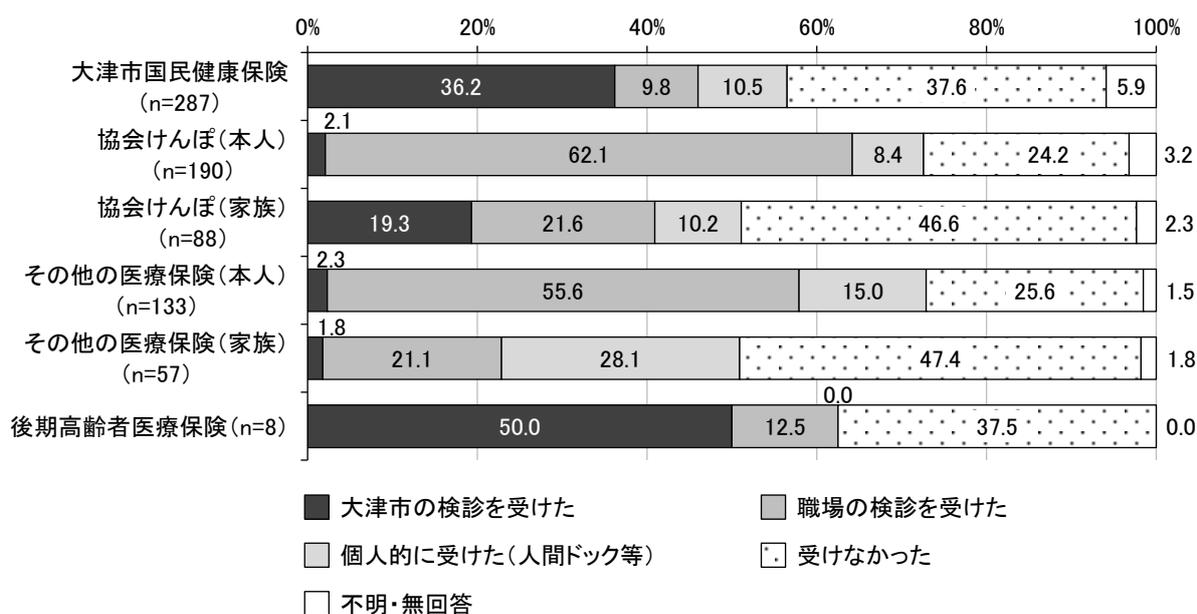


検診対象年齢（40歳以上）の肺がん検診の受診状況をみると、職業別では、公務員が最も高く、次いで医療従事者となっており、他のがん検診と比べると自営業以外の働いている方の職場で検診を受ける割合が高くなっています。保険別にみると、協会けんぽ（本人）、その他の医療保険（本人）加入者の受診割合が70%を超えており、職場の検診が高くなっています。

◇職業別（40歳以上）



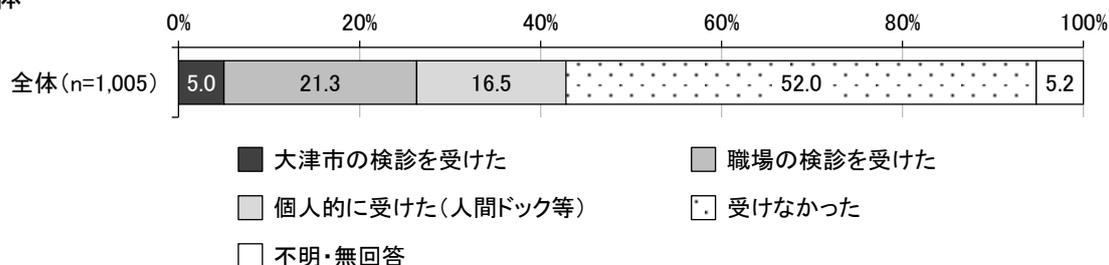
◇保険別（40歳以上）



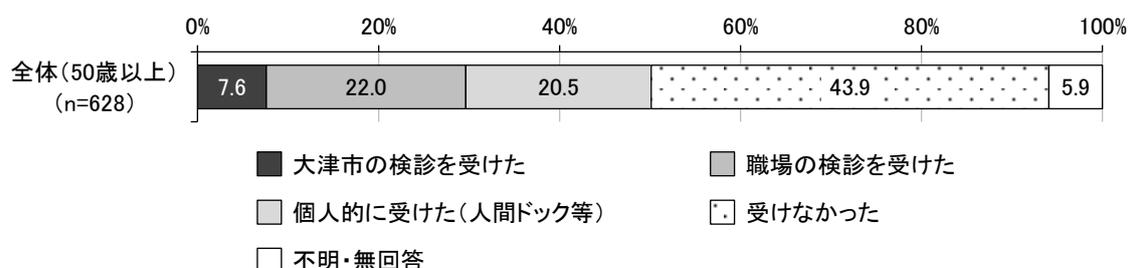
③ 胃がん検診（バリウム検査、内視鏡検査等）（検診対象年齢：50歳以上）

胃がん検診の受診状況を見ると、全体で42.8%、国の指針で受診を特に推奨する年齢（50歳から69歳）では54.2%となっています。年齢別にみると50歳代で55.1%と最も高くなっています。また、40歳から50歳代では職場の検診の受診割合が高く、60歳以上になると人間ドック等で個人的に受診する割合が高くなっています。他のがん検診と比べると、胃がん検診は人間ドック等で個人的に受診する割合が高く、市の検診の受診割合が低くなっています。

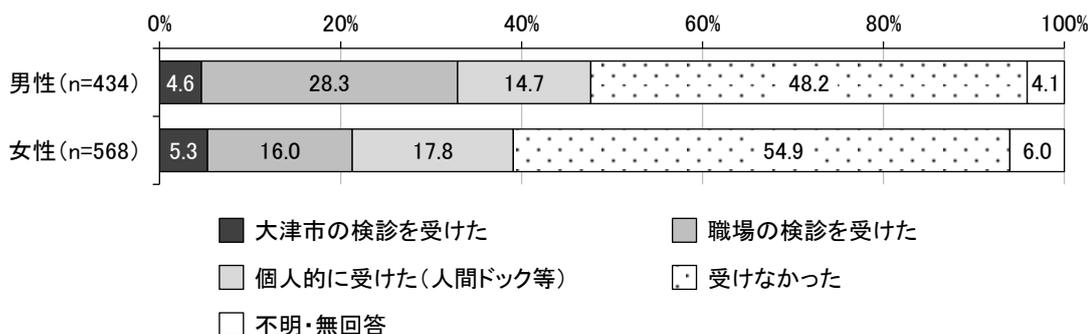
■全体



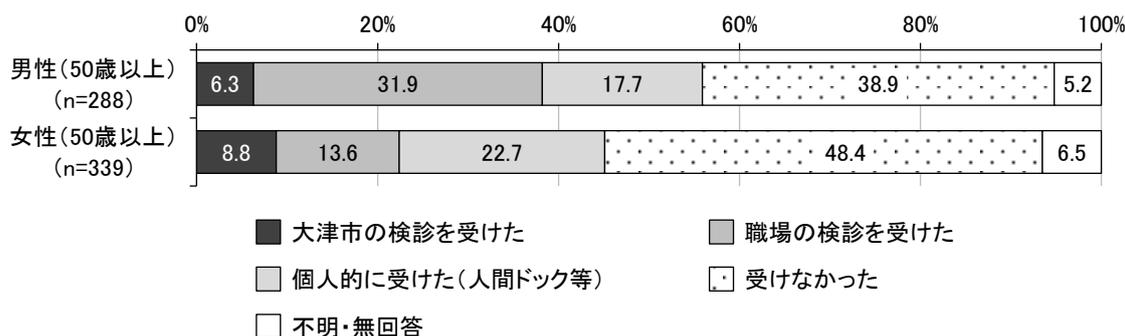
検診対象年齢（50歳以上）



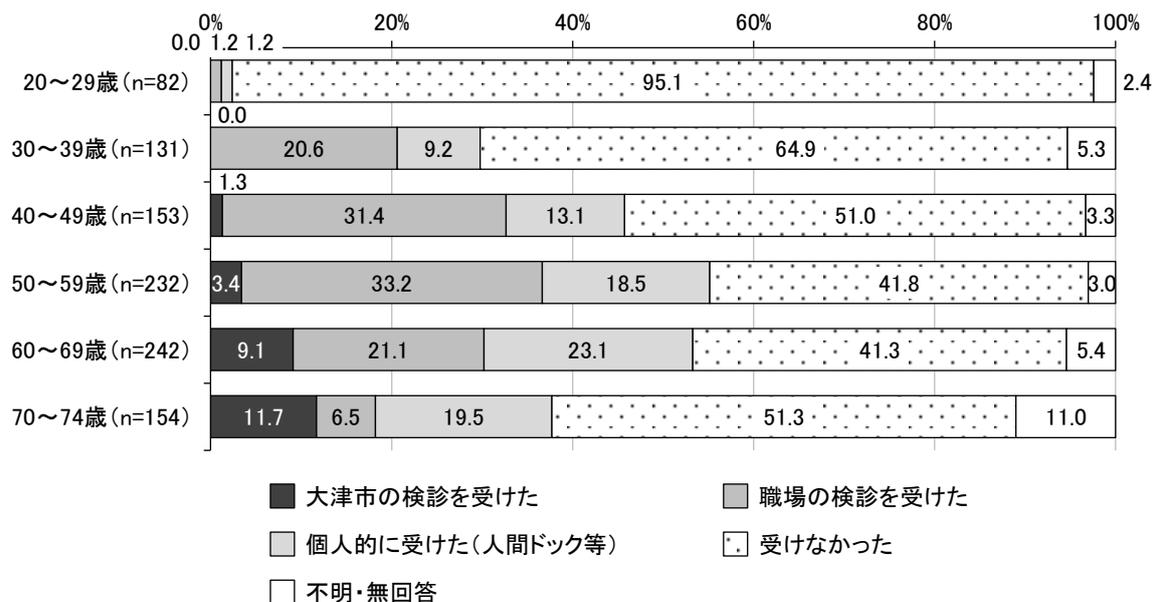
◇性別



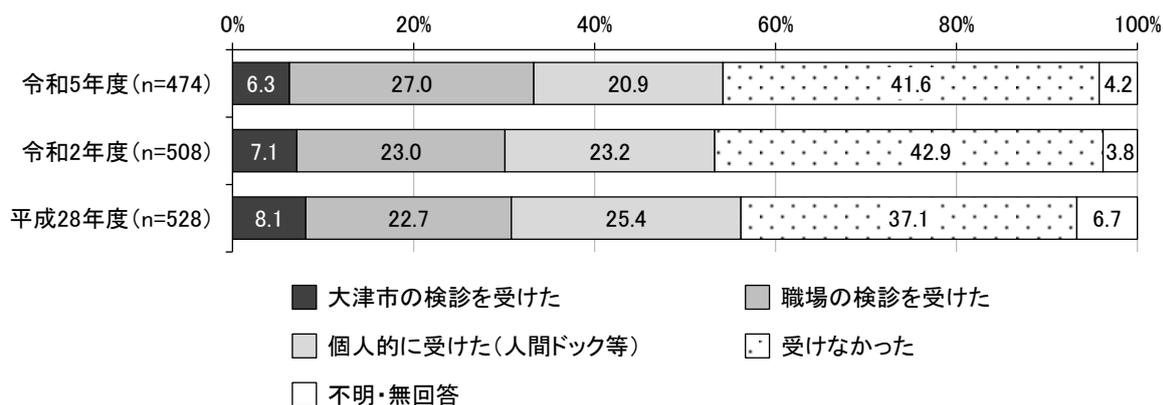
検診対象年齢（50歳以上）



◇年齢別

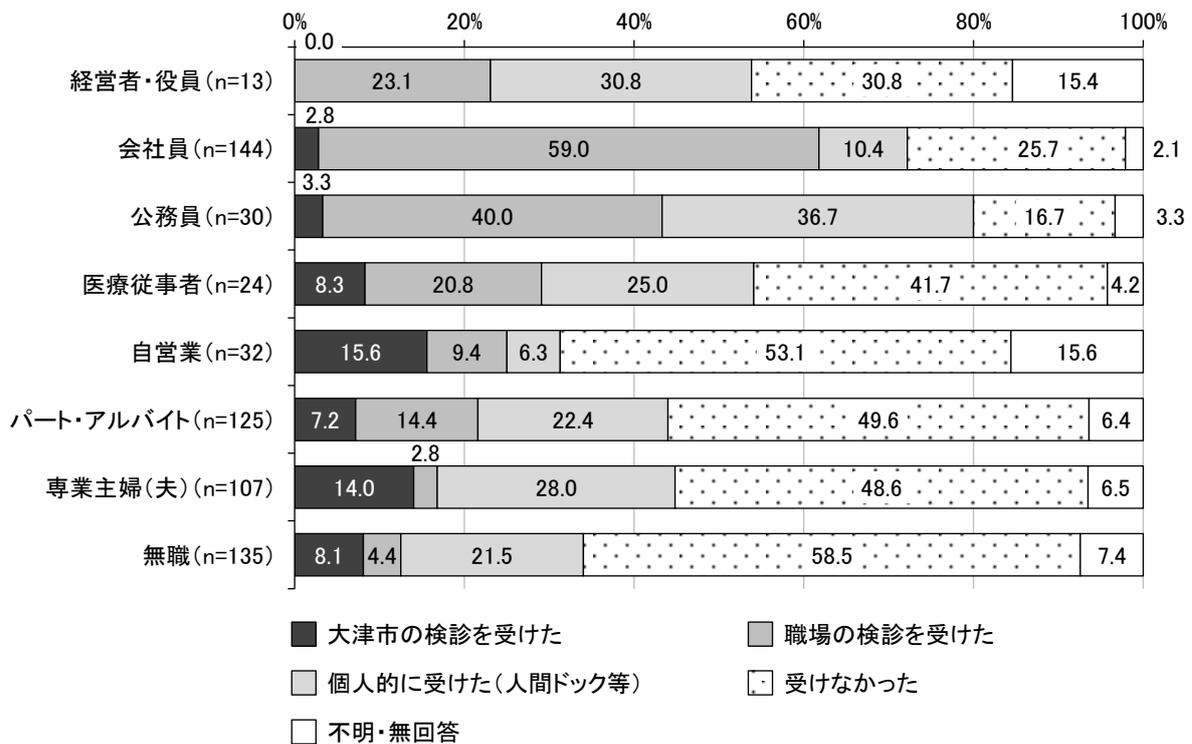


◇過去調査との比較（国の指針で受診を特に推奨する年齢：50歳～69歳）

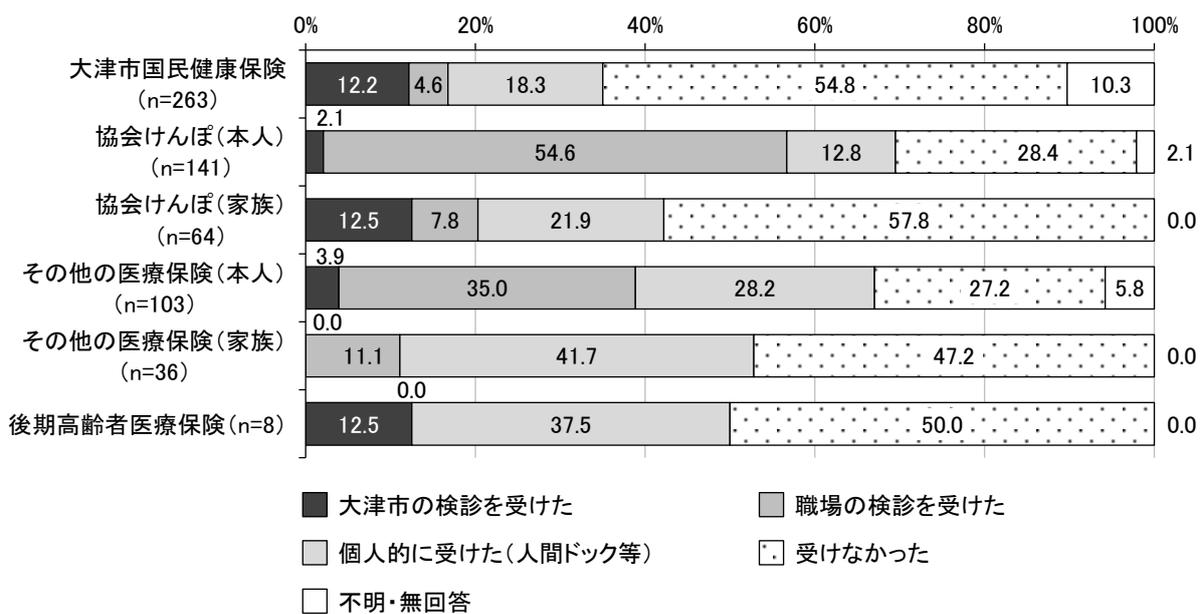


検診対象年齢（50 歳以上）の胃がん検診の受診状況を見ると、職業別では、公務員の受診割合が最も高く、次いで会社員となっています。会社員、公務員は職場で受ける割合が高くなっている一方、自営業は天津市の検診、それ以外は人間ドック等で個人的に受診した割合が高い傾向にあります。保険別にみると、協会けんぽ（本人）、その他の医療保険（本人）を除いた加入者では、市の検診よりも人間ドック等を個人的に受ける割合が高くなっています。

◇職業別（50 歳以上）



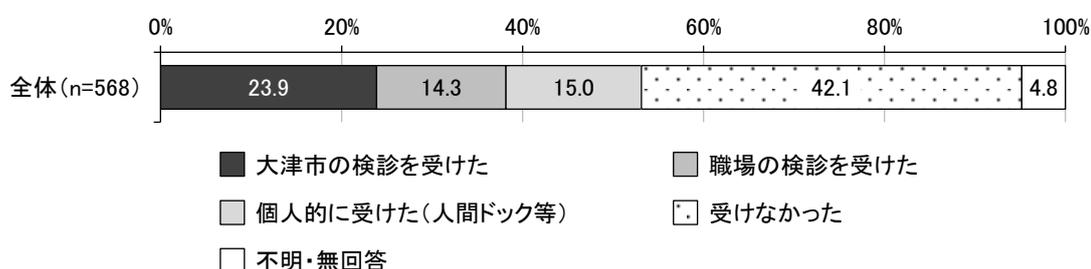
◇保険別（50 歳以上）



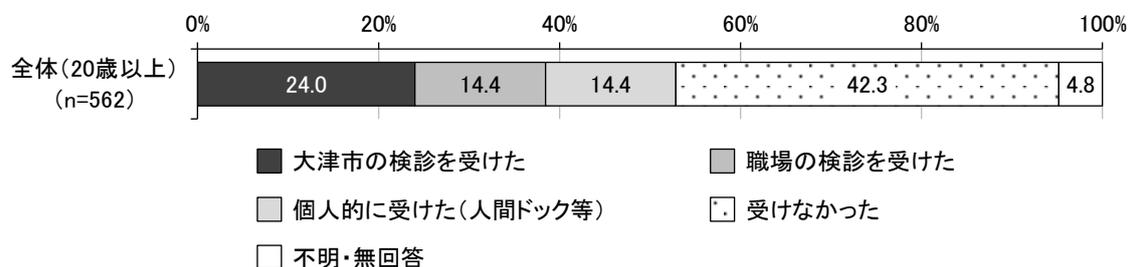
④ 子宮頸がん検診（細胞診等）【女性のみ】（検診対象年齢：20歳以上の女性）

子宮頸がん検診の受診状況を見ると、全体で53.2%、国の指針で受診を特に推奨する年齢（20歳から69歳）では58.1%となっており、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。年齢別にみると30歳代で80.6%と最も高く、次いで40歳代（71.9%）、50歳代（62.7%）となっています。一方、20歳代では34.0%と低くなっています。また50歳代以外の全年齢において市の検診が最も高く、職場での検診の受診割合は低めとなっています。職業別にみると、医療従事者の受診割合が74.2%と最も高くなっています。次いで、会社員が73.5%と高く、職場での検診、大津市の検診で受けた割合が高くなっています。公務員も69.2%と高く、大津市の検診が高くなっています。保険別にみると、協会けんぽ（本人）の受診割合が79.8%と最も高く、職場での検診が高くなっています。それ以外の保険では、大津市の検診の受診割合が高い傾向にあります。

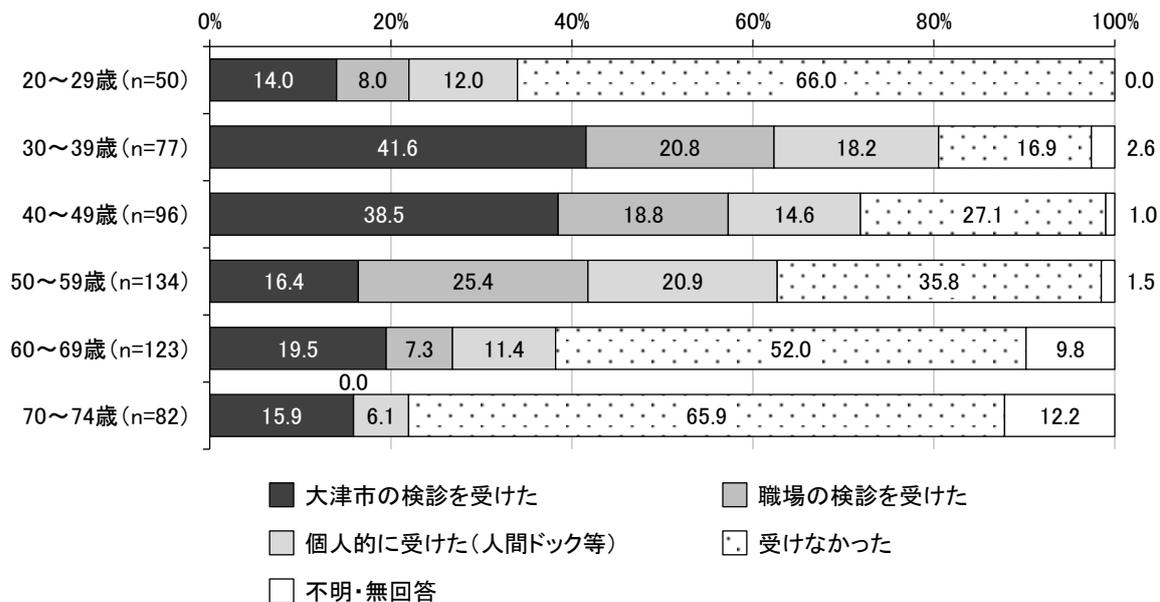
■全体



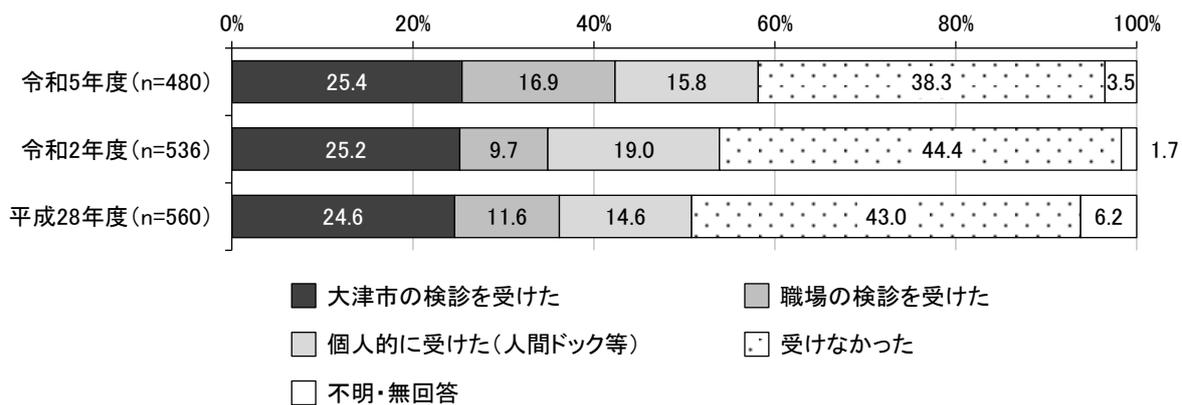
検診対象年齢（20歳以上）



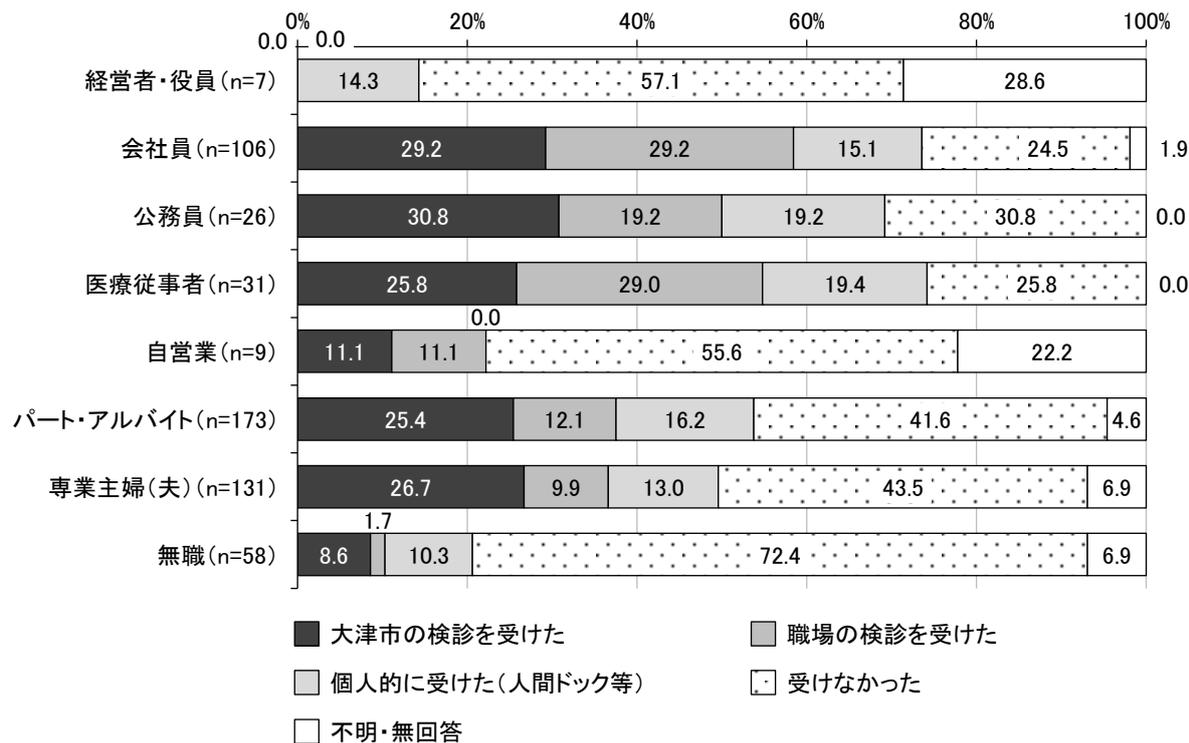
◇年齢別



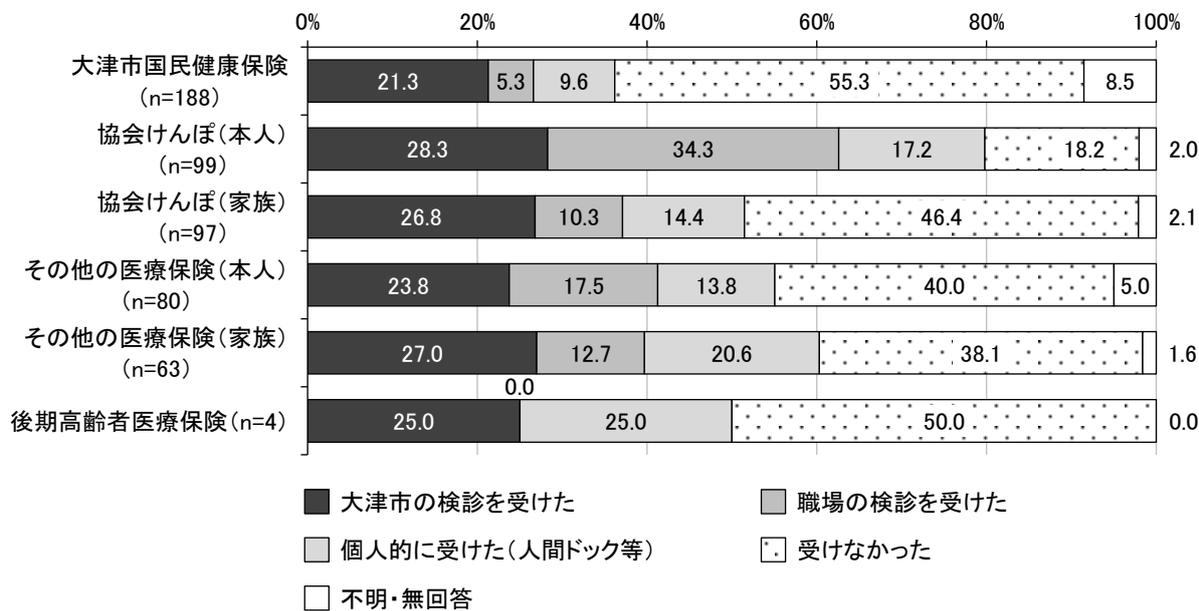
◇過去調査との比較（国の指針で受診を特に推奨する年齢：20歳～69歳の女性）



◇職業別（20歳以上）



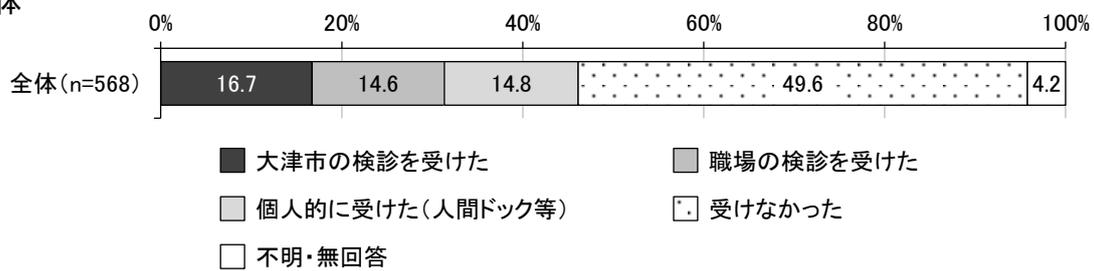
◇保険別（20歳以上）



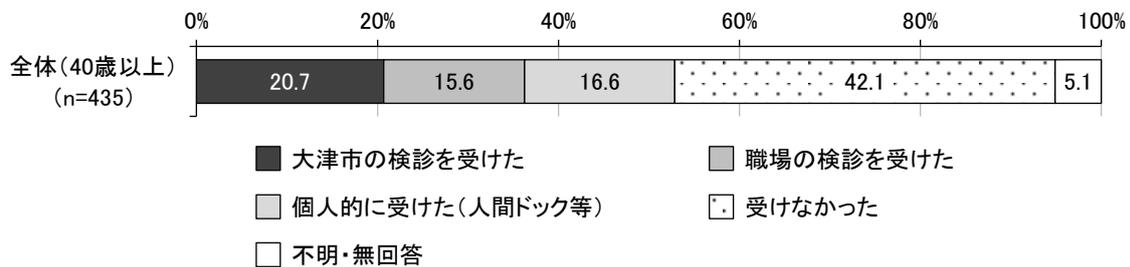
⑤ 乳がん検診（マンモグラフィ等）【女性のみ】（検診対象年齢：40歳以上の女性）

乳がん検診の受診状況をみると、全体で46.1%、国の指針で受診を特に推奨する年齢（40歳から69歳）では59.0%となっており、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。年齢別にみると、50歳代で64.2%と最も高く、次いで40歳代（63.5%）となり、30歳代では28.6%と低い受診割合となっています。また、40歳代では市の検診の受診割合が高い一方で、50歳代では職場の検診が高くなっています。職業別にみると、公務員、会社員、医療従事者の受診割合がともに70%以上と高くなっています。また、会社員、医療従事者では職場の受診割合が高く、公務員では職場の検診よりも人間ドック等を個人的に受ける割合が高くなっています。保険別にみると、協会けんぽ（本人）、その他の医療保険（家族）の受診割合が高く、協会けんぽ（本人）では職場の検診が、その他の医療保険（家族）では、人間ドック等を個人的に受ける割合が高くなっています。

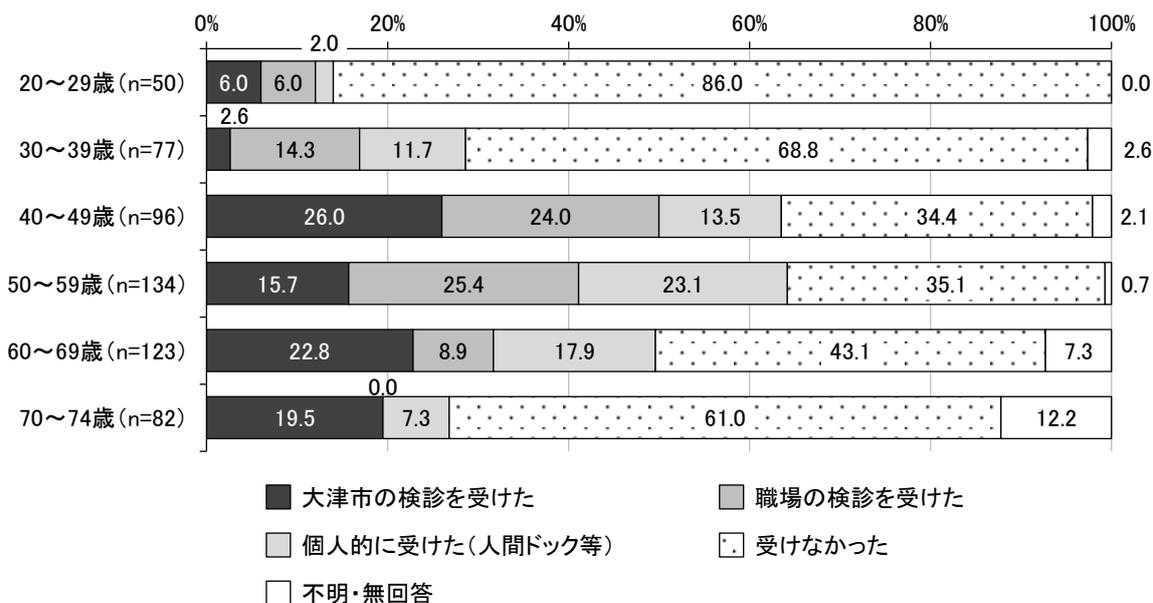
■全体



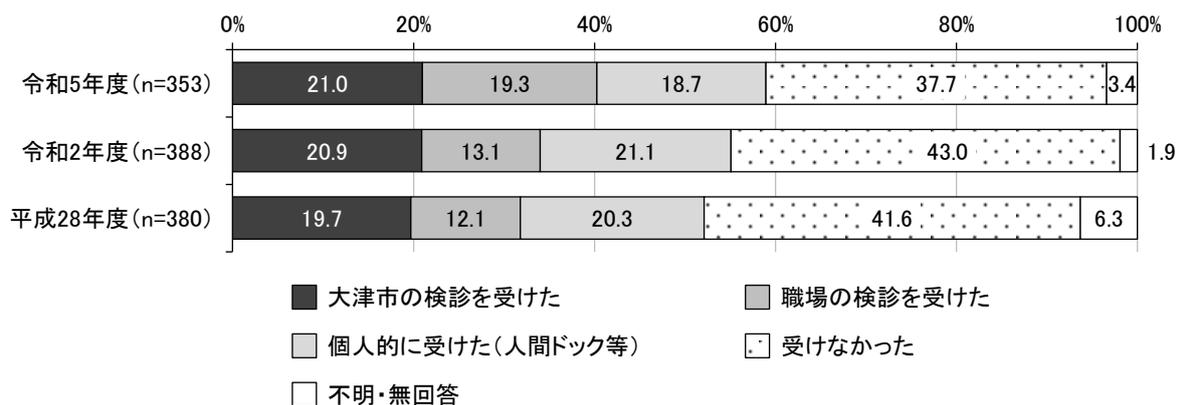
検診対象年齢（40歳以上）



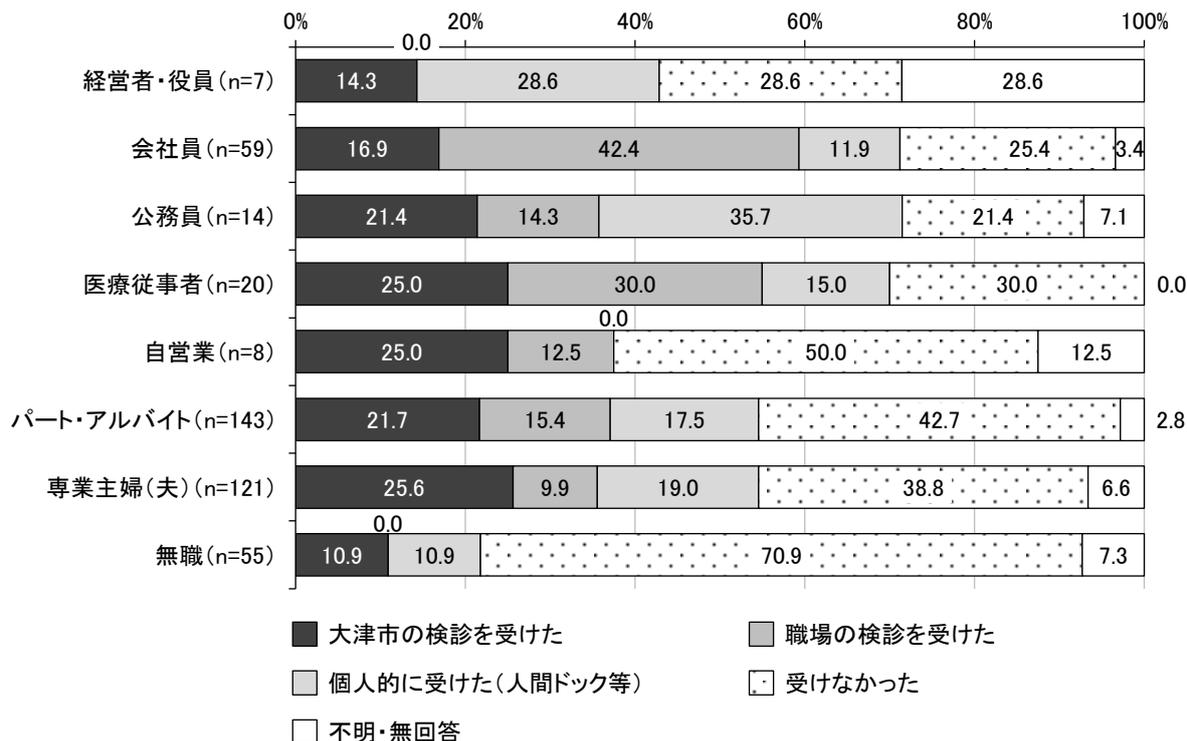
◇年齢別



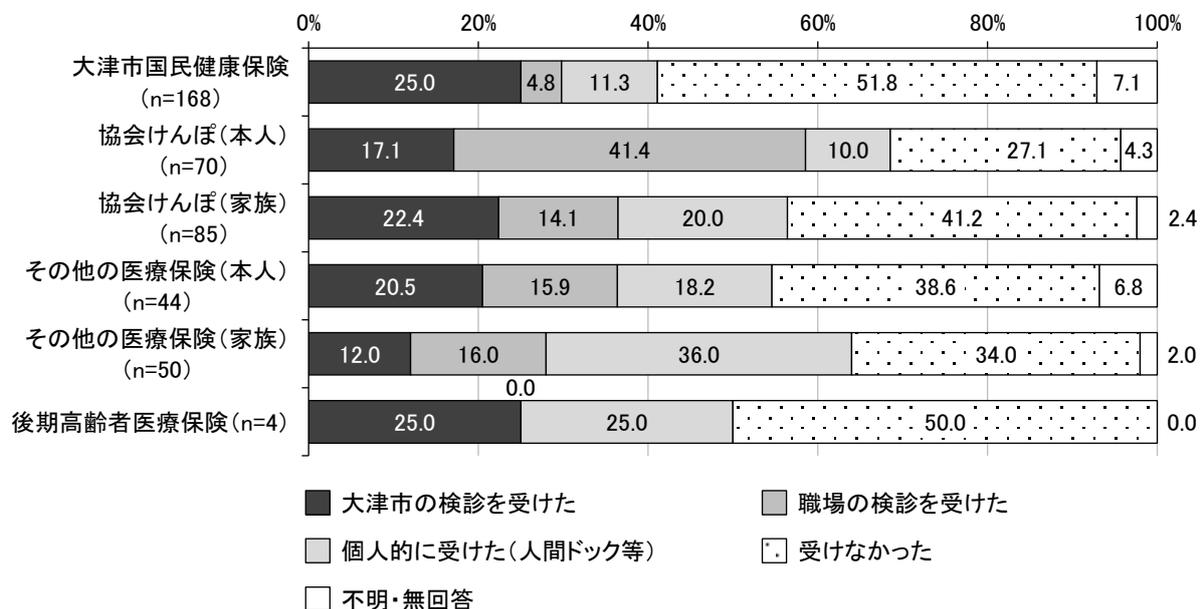
◇過去調査との比較（国の指針で受診を特に推奨する年齢：40歳～69歳の女性）



◇職業（40歳以上の女性）



◇保険別（40歳以上の女性）

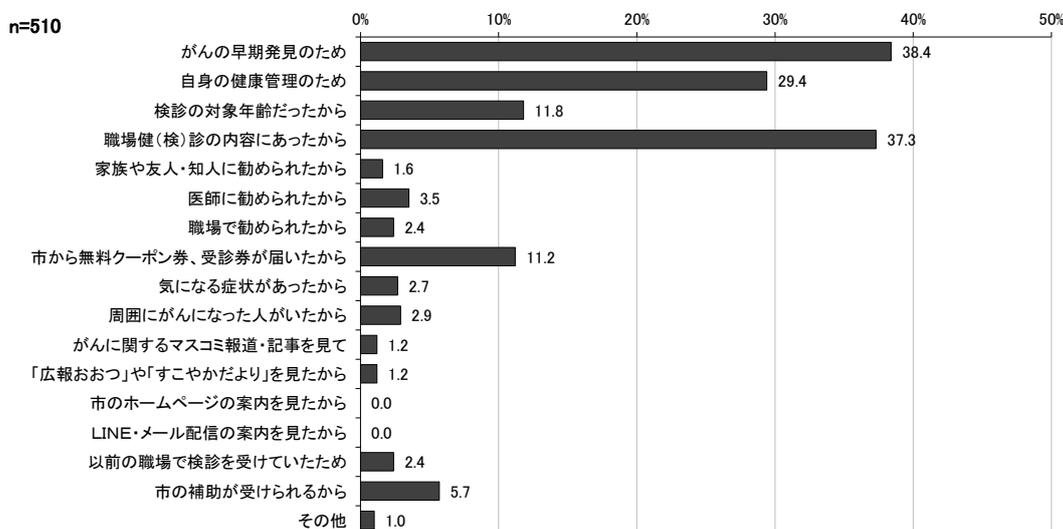


問 16 がん検診を「受けた」理由・きっかけ、または「受けなかった」理由を教えてください。(MA)

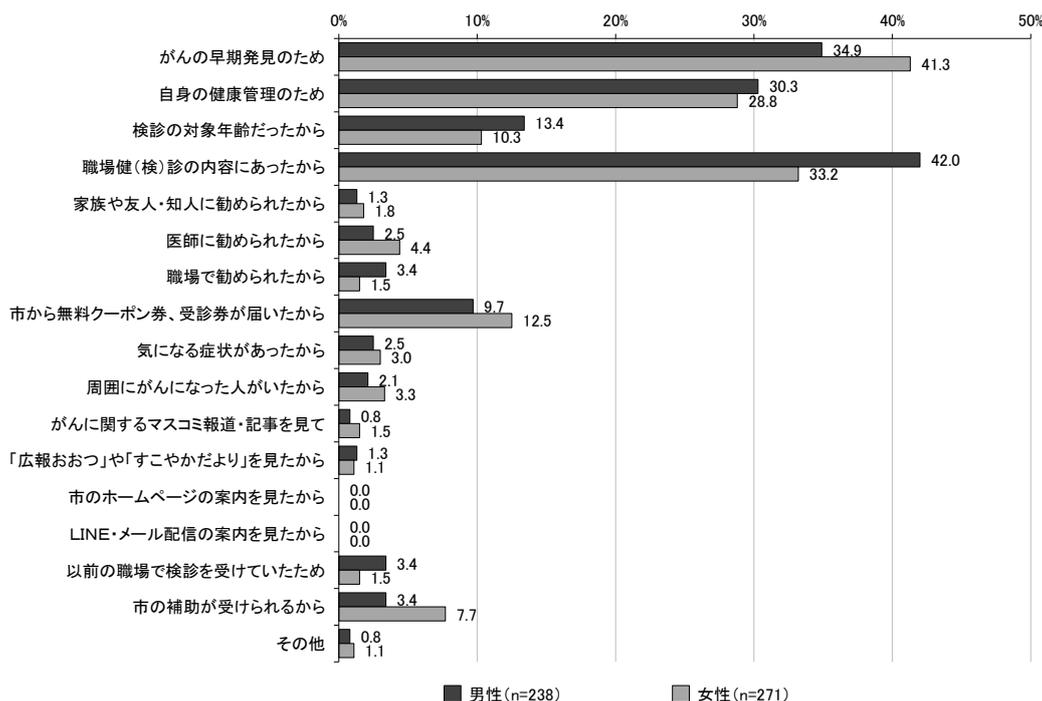
① 大腸がん検診（便検査等）

大腸がん検診を受けた理由・きっかけでは、「がんの早期発見のため」「職場健診の内容にあったから」「自身の健康管理のため」の割合が高くなっています。性別にみると、男性では「職場健診の内容にあったから」が、女性では「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。年齢別にみると、40歳から50歳代では「職場健診の内容にあったから」が最も高くなっています。同居家族別にみると、夫婦世帯では「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。世帯の年間収入別にみると、300万円未満では「がんの早期発見のため」が、300万円以上では「職場健診の内容にあったから」が最も高くなっています。

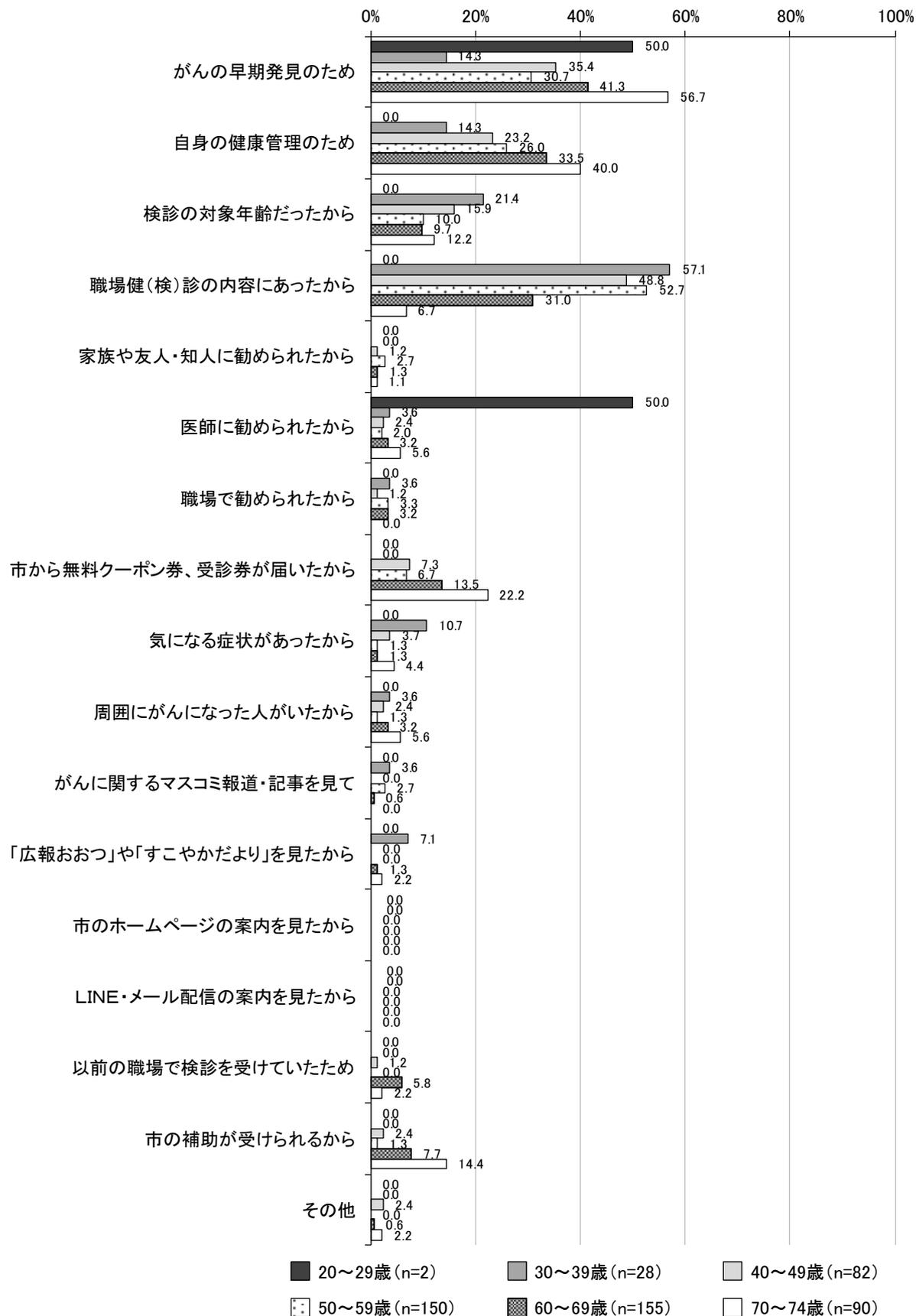
【受けた理由】



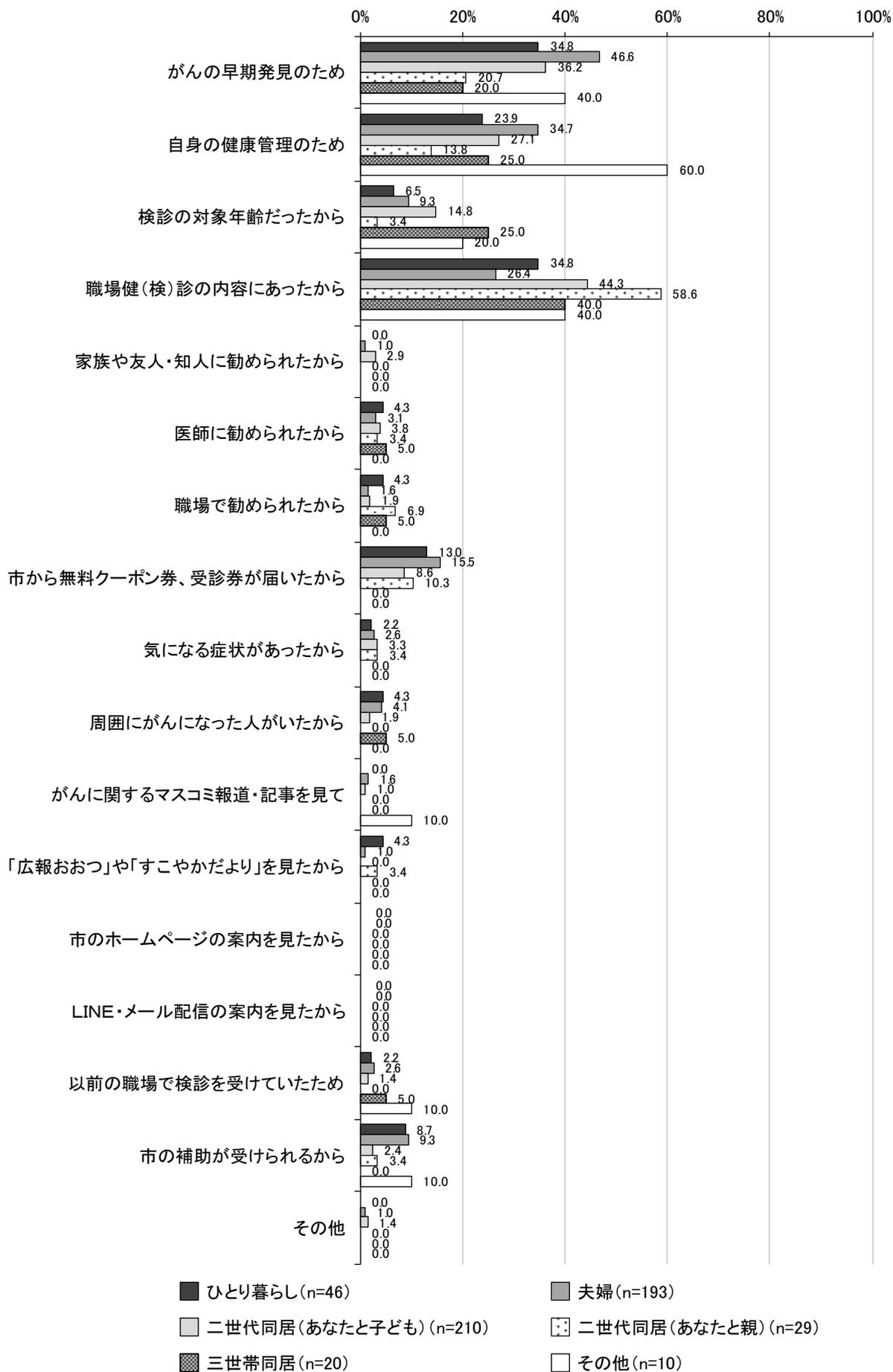
■ 性別



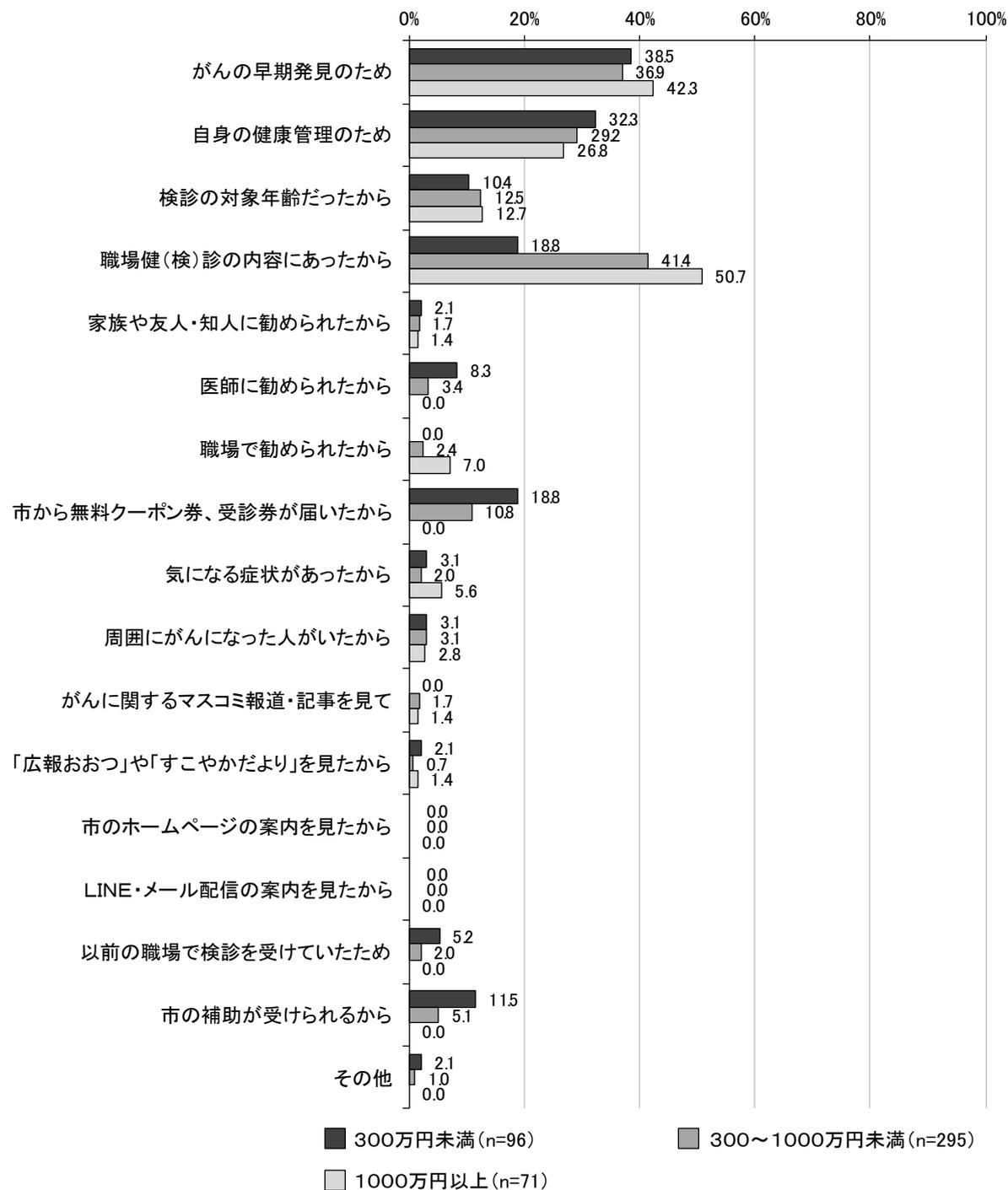
■ 年齢別



■同居家族別

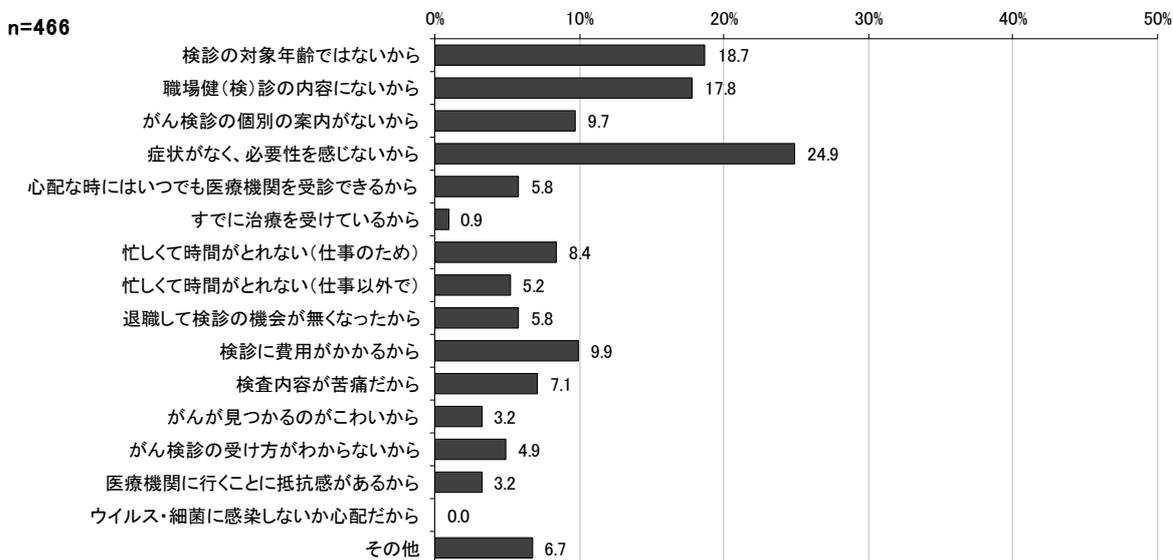


■世帯の年間収入別

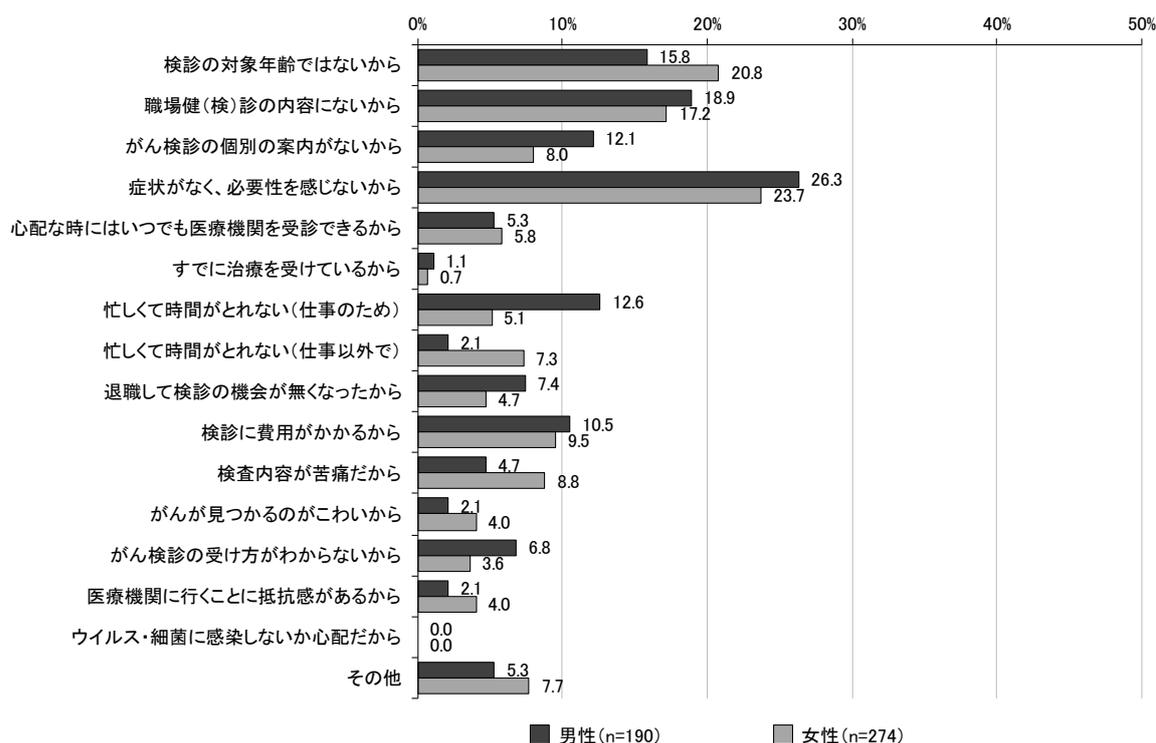


大腸がん検診を受けなかった理由としては「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高くなっています。年齢別にみると、検診対象年齢の40歳以上では「症状がなく、必要性を感じないから」が高くなっており、特に60歳代では41.0%と高くなっています。また、40歳から50歳代では「職場健診の内容にないから」、40歳代では「仕事が忙しくて時間がとれない」も高くなっています。同居家族別にみると、ひとり暮らし、夫婦世帯は「症状がなく、必要性を感じないから」が、二世帯同居（あなたと親）は「検診の対象年齢ではないから」が、二世帯同居（あなたと子ども）世帯は「職場健診の内容にないから」が最も高くなっています。世帯の年間収入別にみると、300万円未満では「症状がなく、必要性を感じないから」が、300～1,000万円未満では「職場健診の内容にないから」、1,000万円以上では「検診の対象年齢ではないから」「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高くなっています。

【受けなかった理由】



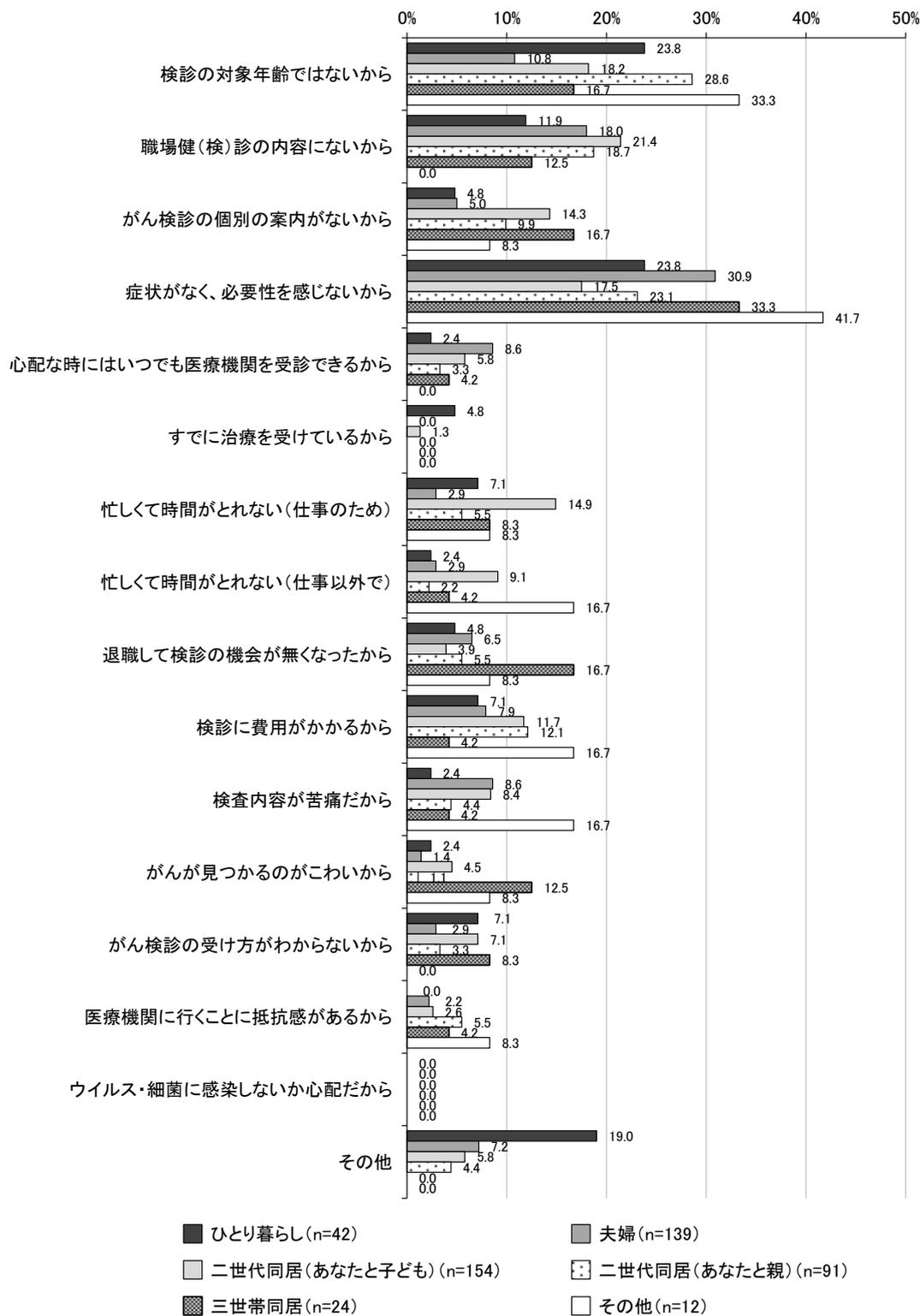
■性別



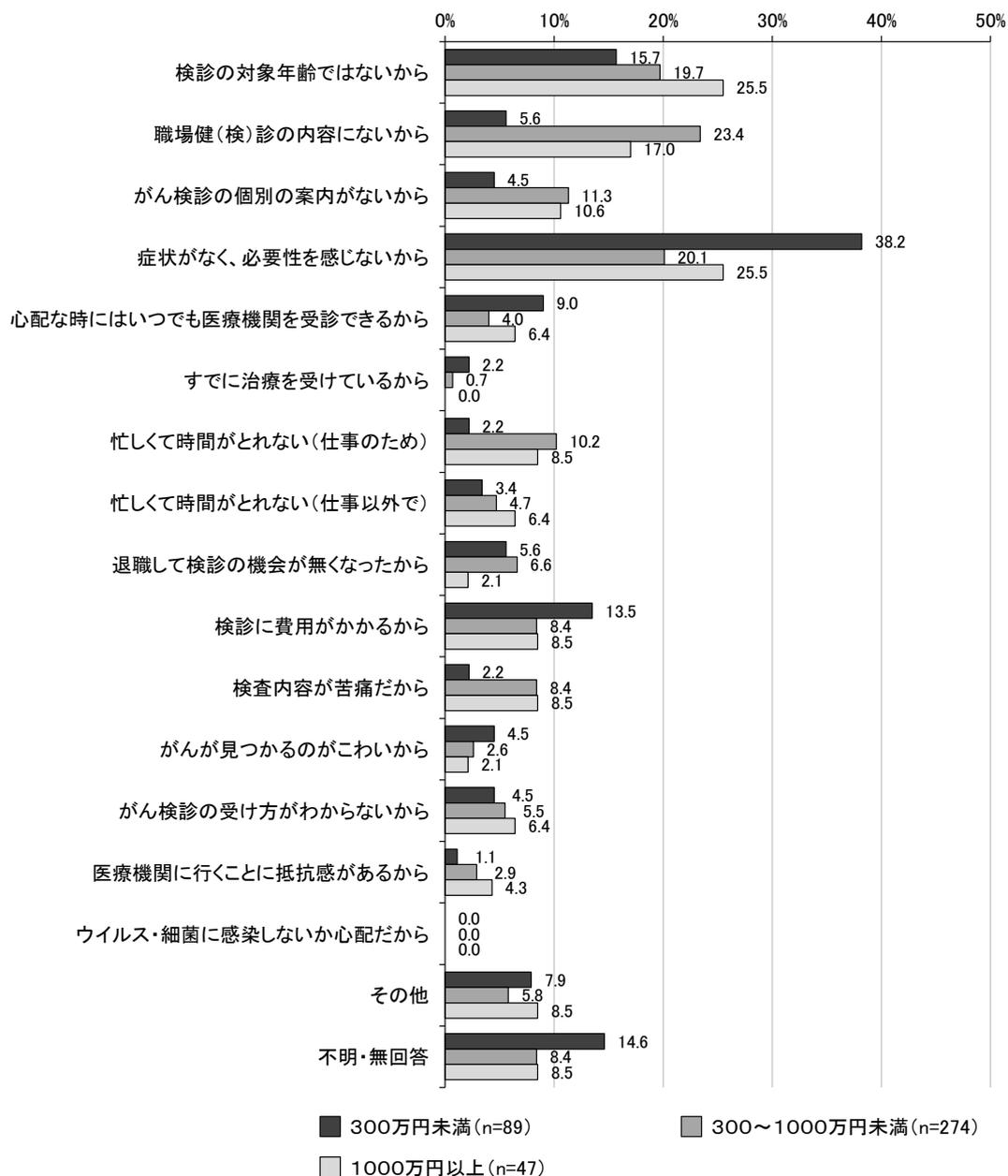
■ 年齢別



■同居家族別



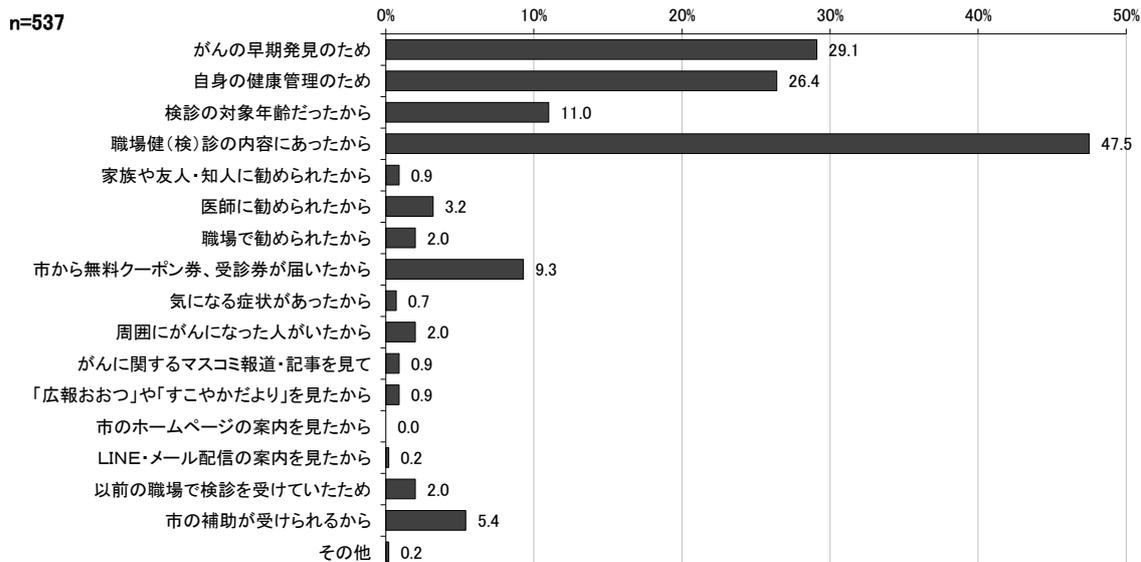
■世帯の年間収入別



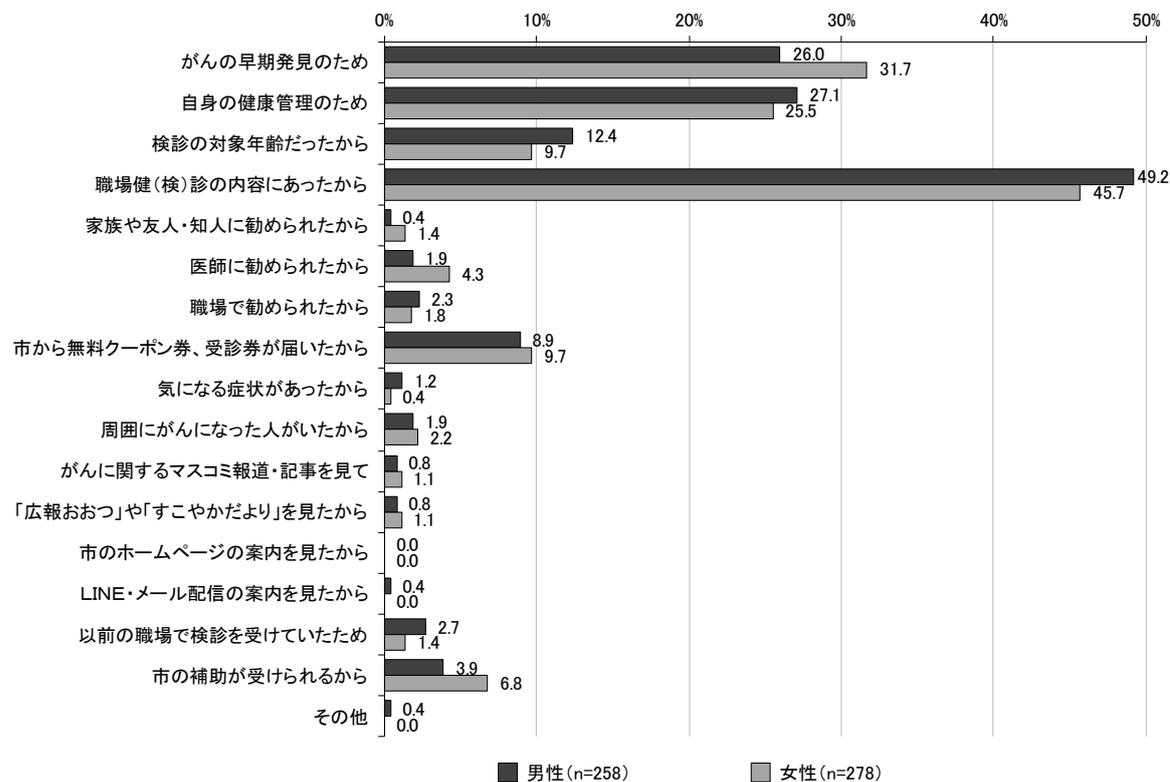
② 肺がん検診

肺がん検診を受けた理由・きっかけでは、「職場健診の内容にあったから」が47.5%と最も高くなっています。特に男性では49.2%と高く、年齢別にみると20歳から50歳代で高くなっています。一方、70歳以上では「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。同居家族別にみると、すべての世帯で「職場健診の内容にあったから」が最も高くなっています。世帯の年間収入別にみると、すべての年間収入別で「職場健診の内容にあったから」が最も高く、300万円未満では「がんの早期発見のため」も高くなっています。

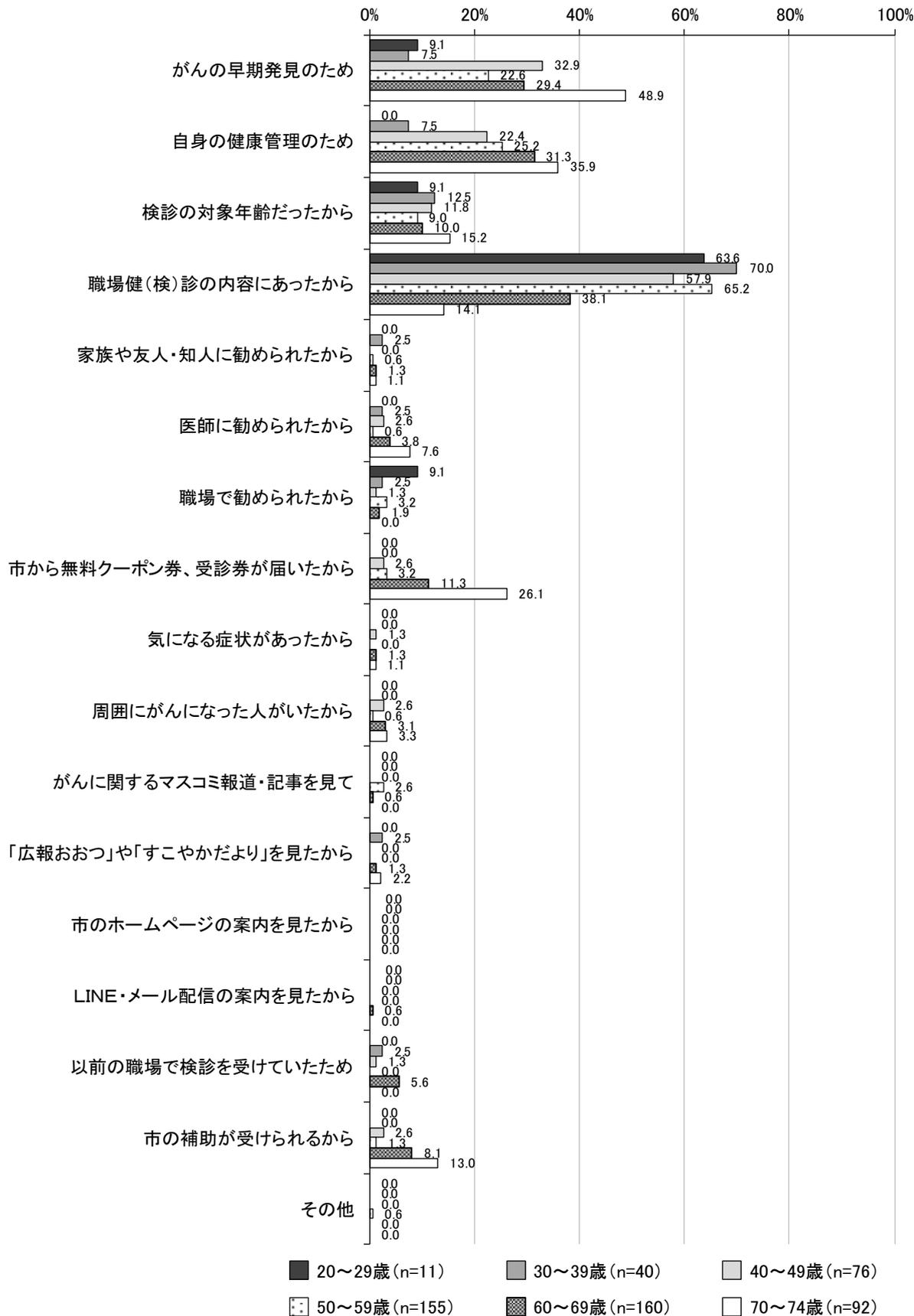
【受けた理由】



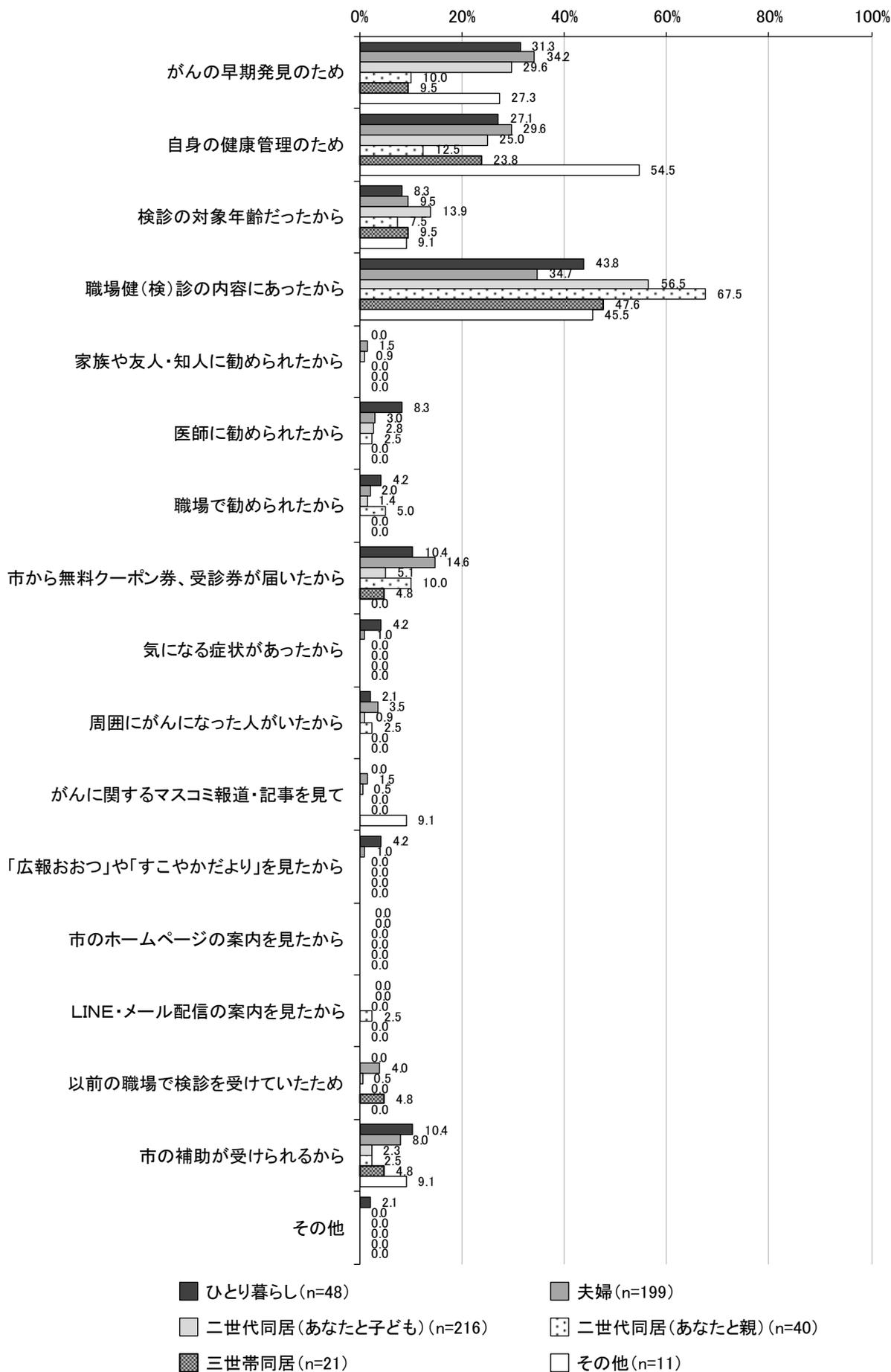
■ 性別



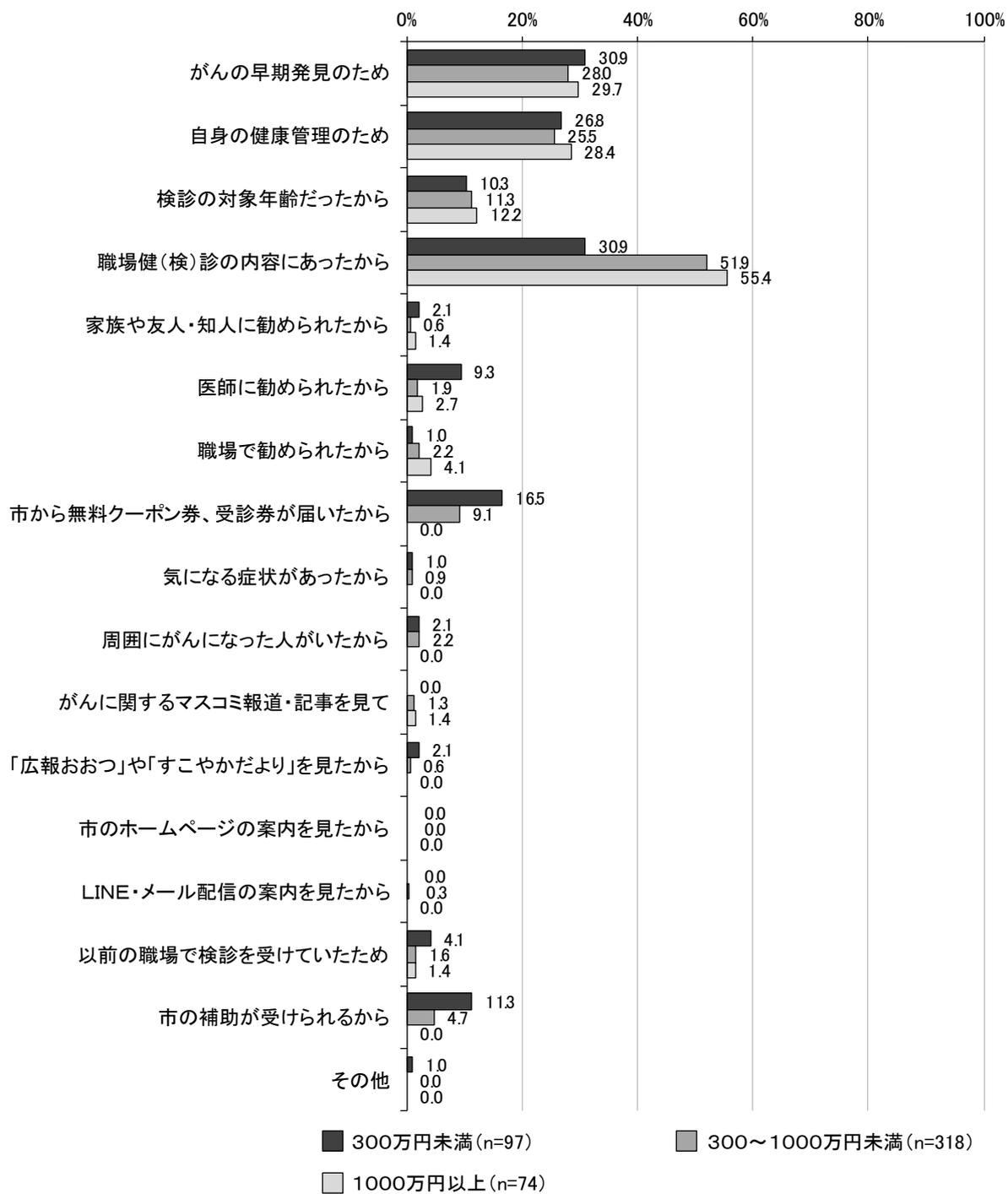
■ 年齢別



■同居家族別

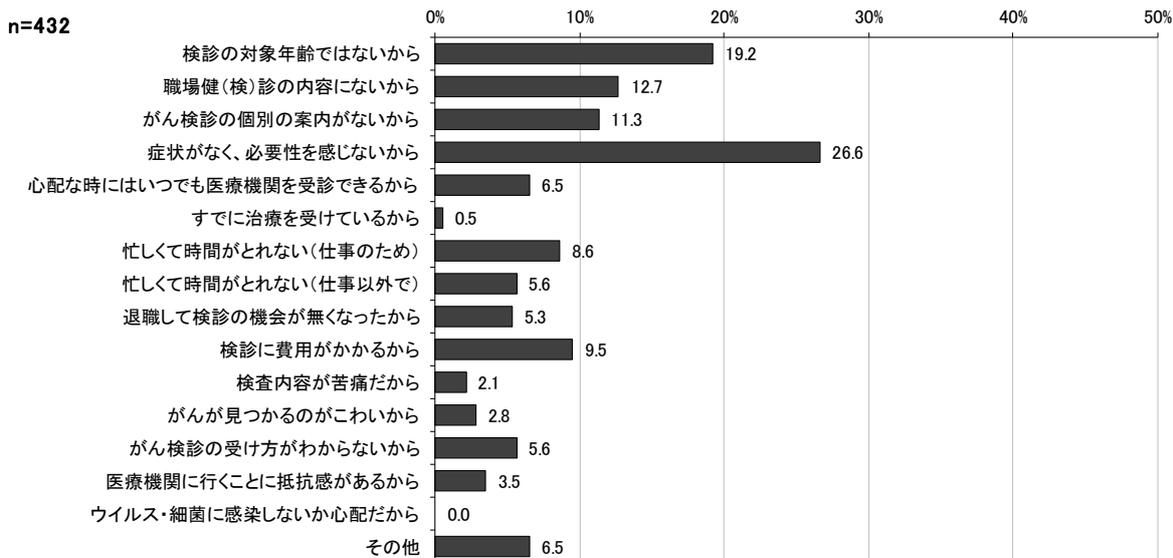


■世帯の年間収入別

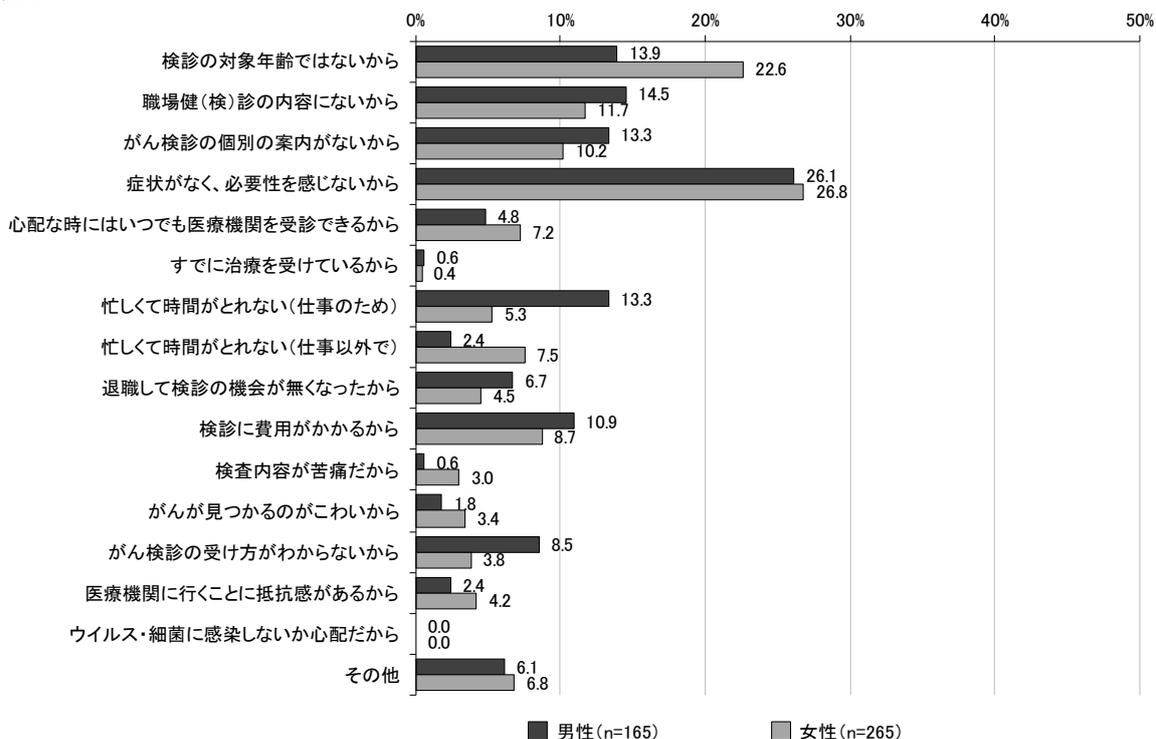


肺がん検診を受けなかった理由では、「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高くなっています。性別にみると、男女とも「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高く、女性では「検診の対象年齢ではないから」も高くなっています。年齢別にみると、40歳から50歳代では「忙しくて時間がとれない(仕事のため)」が他の年代より高く、60歳以上では「心配な時にはいつでも医療機関を受診できるから」が高くなっています。世帯の年間収入別にみると、すべての年間収入別で「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高く、300万円以上では「検診の対象年齢ではないから」も高くなっています。

【受けなかった理由】



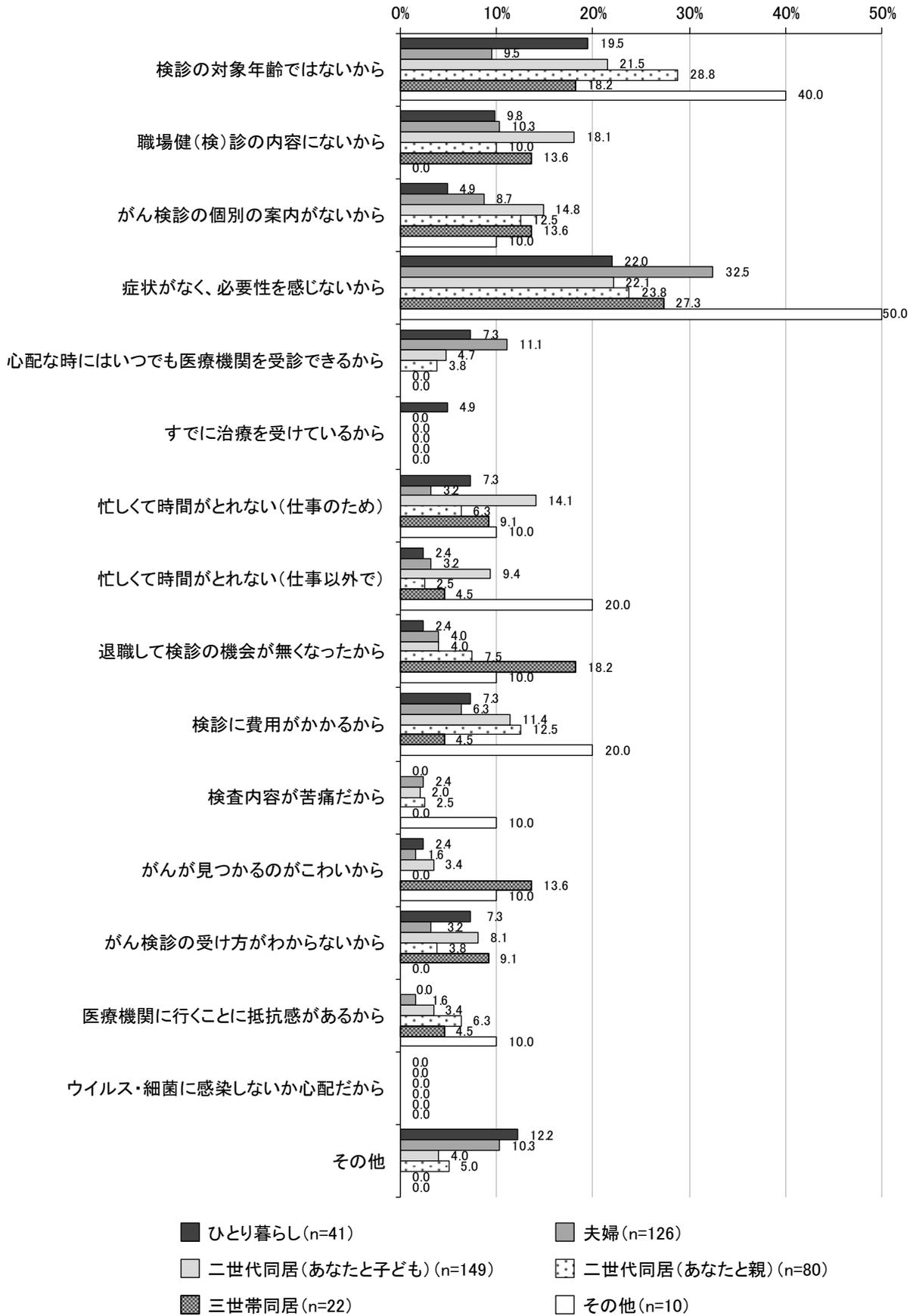
■ 性別



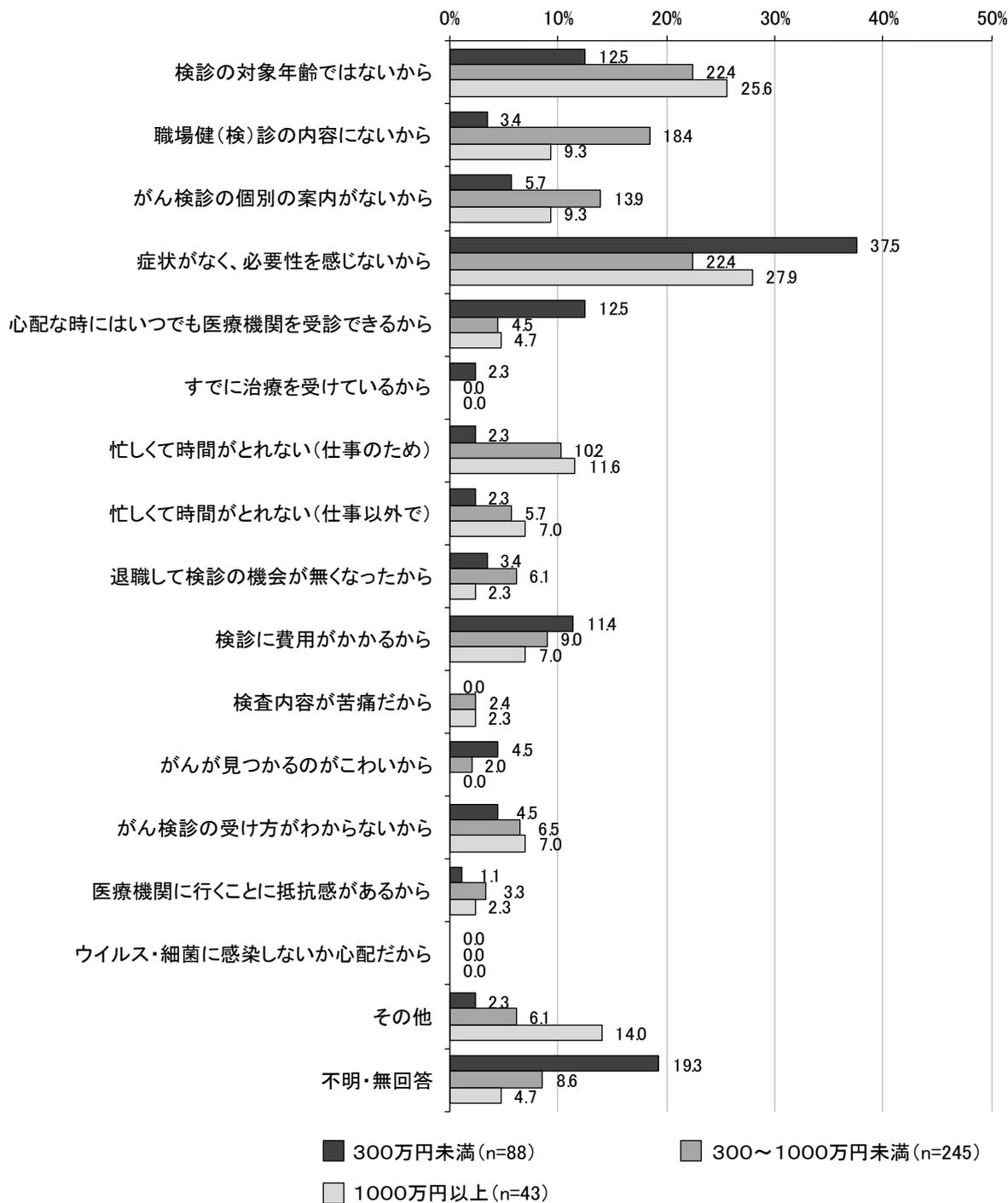
■ 年齢別



■同居家族別



■世帯の年間収入別

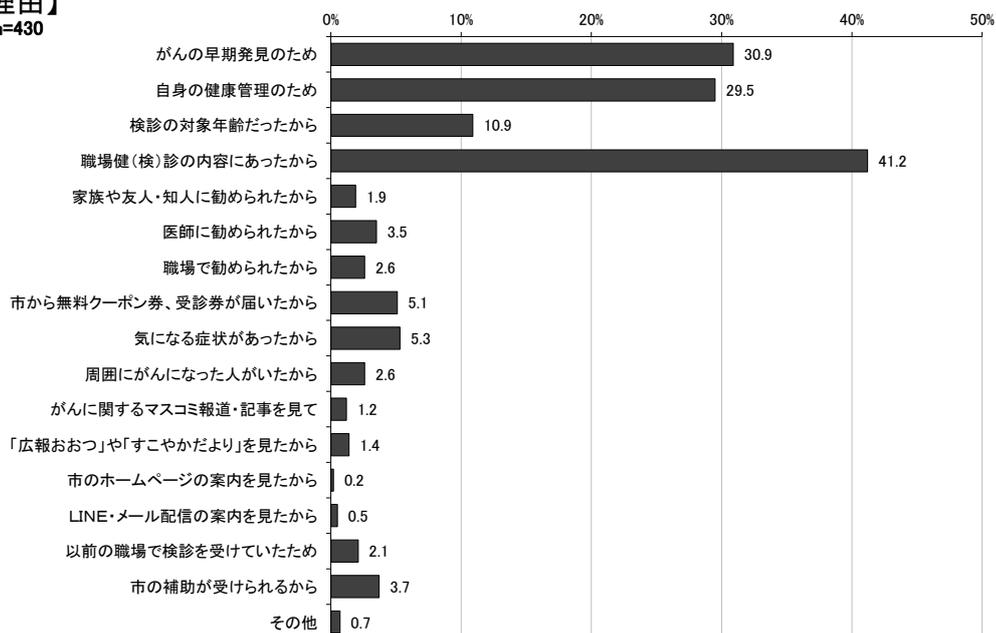


③ 胃がん検診

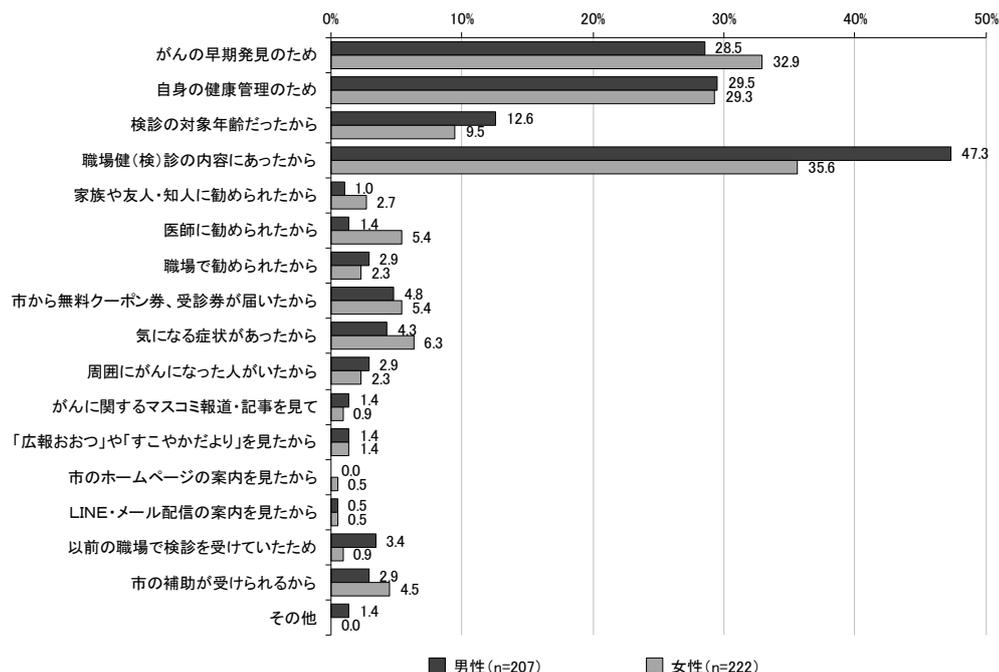
胃がん検診を受けた理由・きっかけは、「職場健診の内容にあったから」「がんの早期発見のため」「自身の健康管理のため」が高くなっています。男性は女性と比べて「職場健診の内容にあったから」が、女性は男性と比べて「がんの早期発見のため」が高くなっています。年齢別にみると、30歳から50歳代は「職場健診の内容にあったから」が、60歳代は「自身の健康管理のため」が、70歳以上は「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。同居家族別にみると、夫婦世帯で「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。世帯の年間収入別にみると、300万円以上では「職場健診の内容にあったから」が、300万円未満では「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。

【受けた理由】

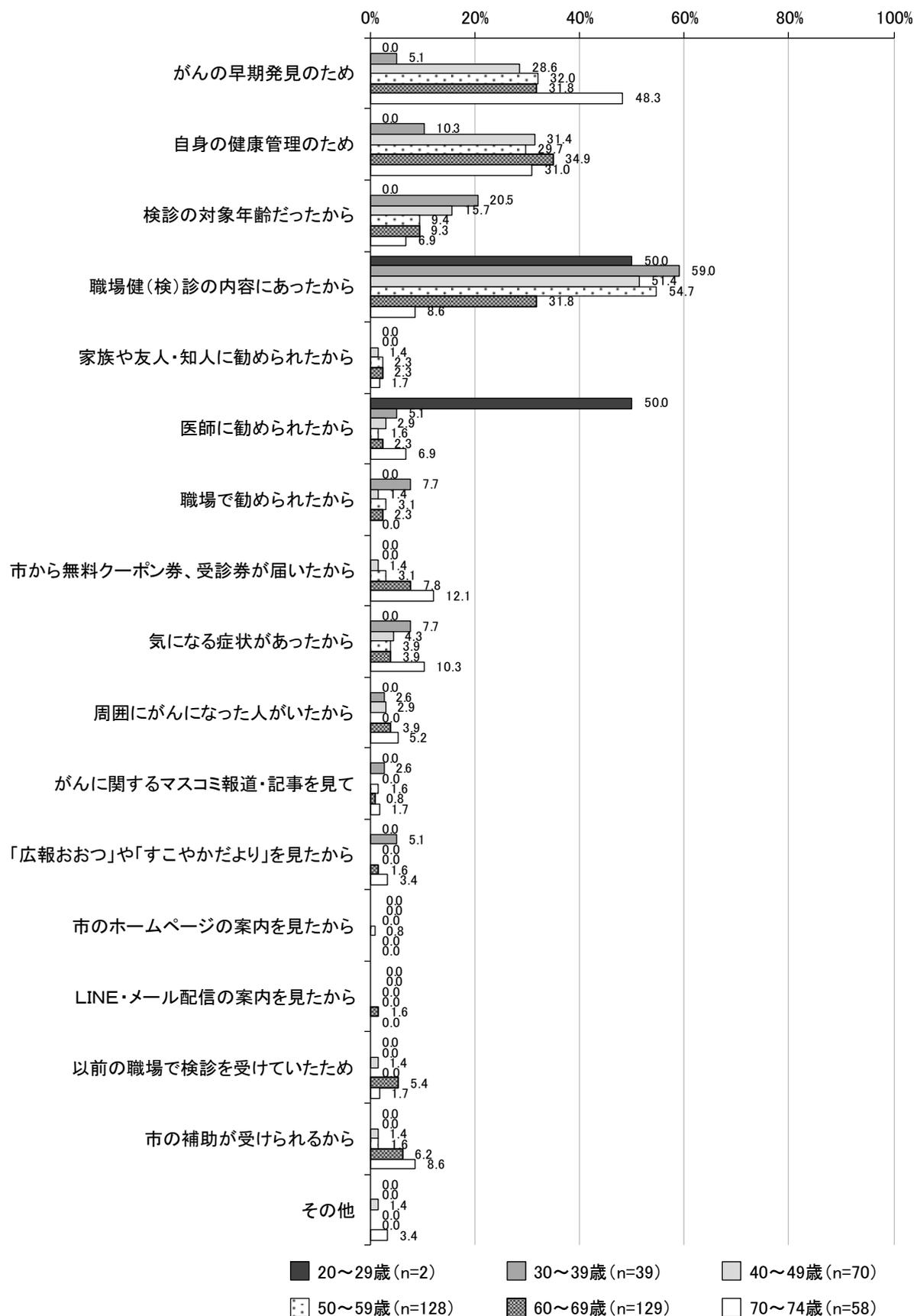
n=430



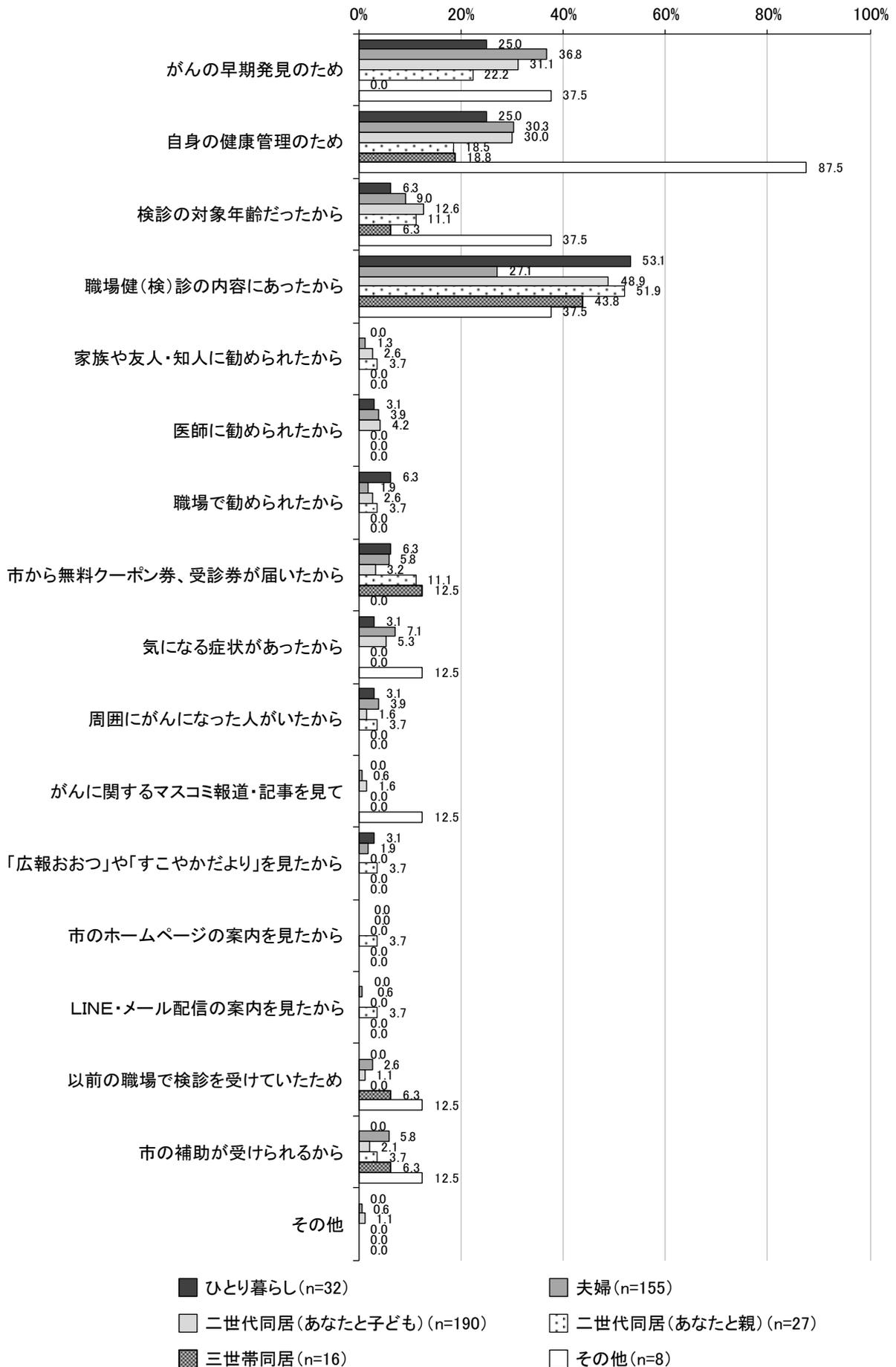
■性別



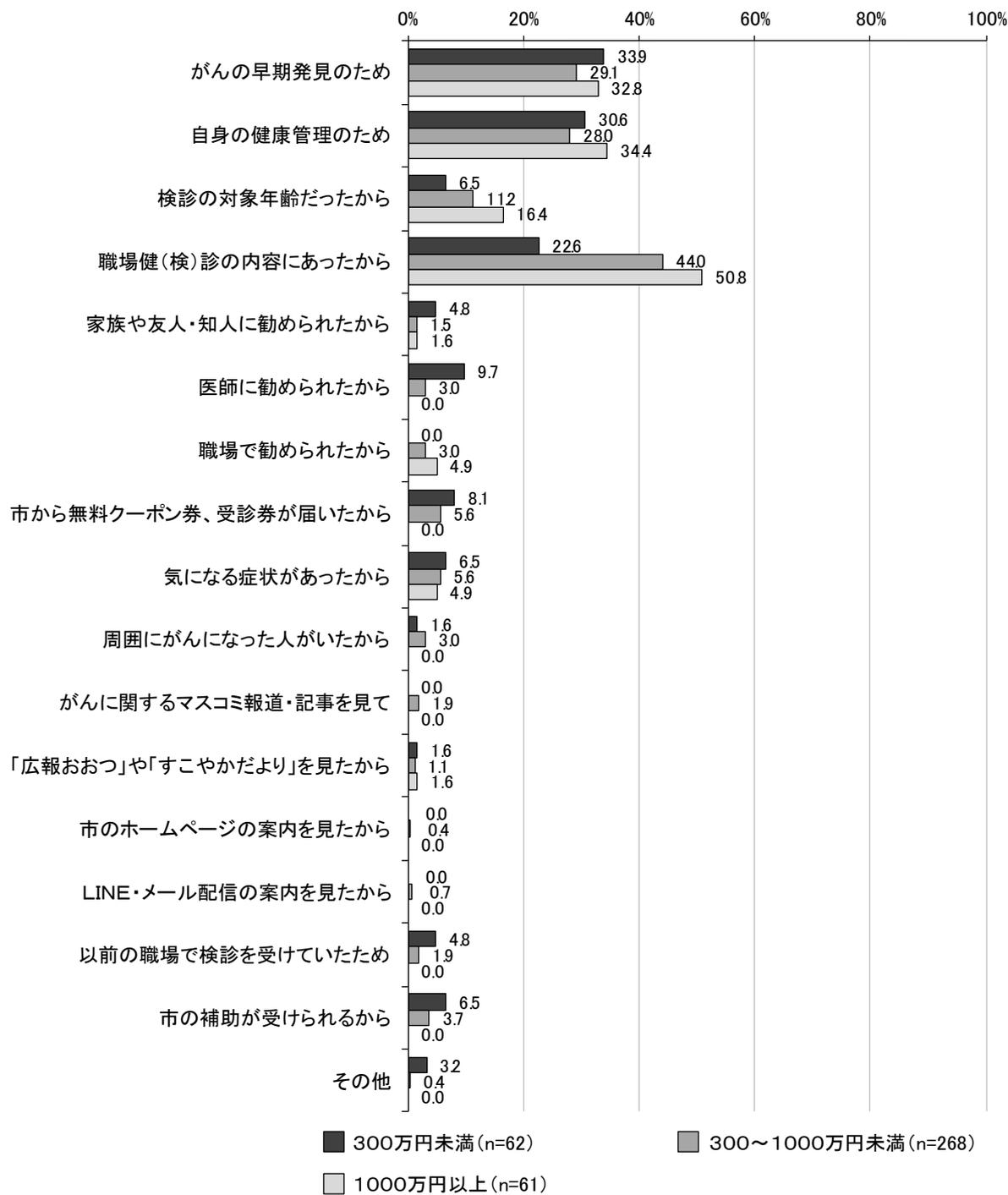
■ 年齢別



■同居家族別

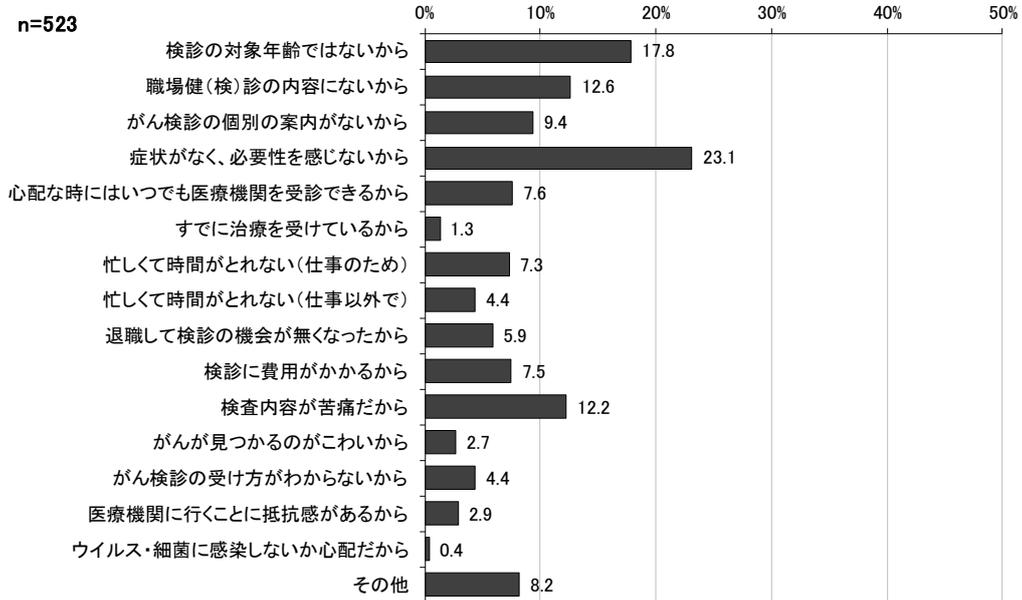


■世帯の年間収入別

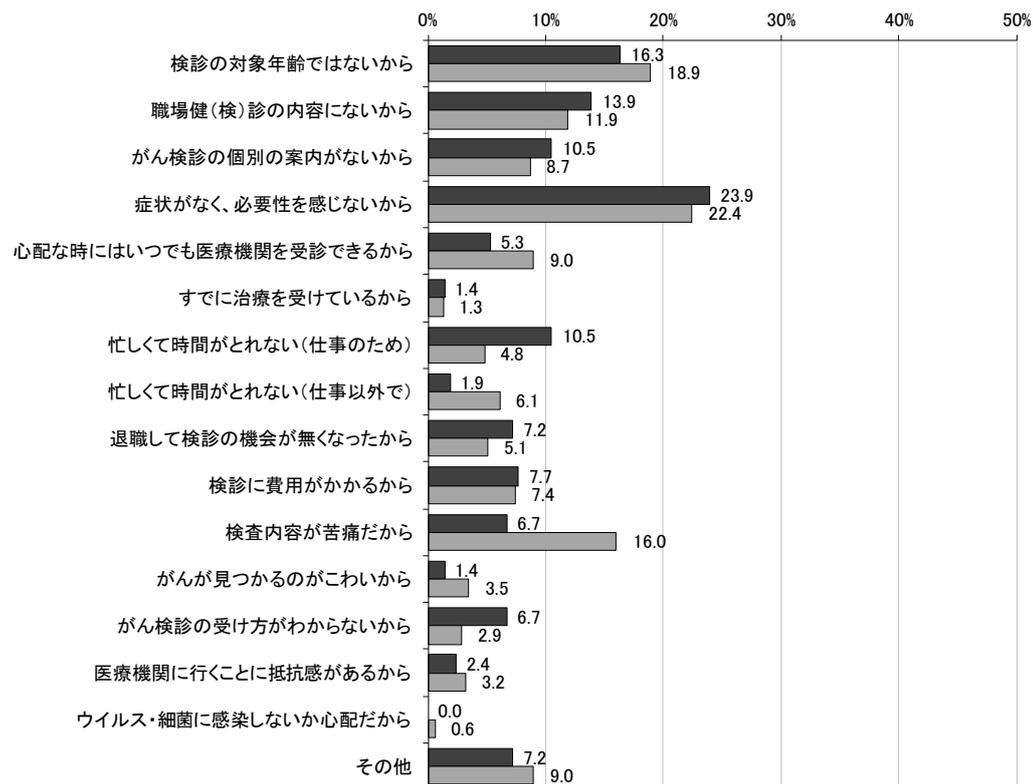


胃がん検診を受けなかった理由としては「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高くなっています。性別にみると、男性で「忙しくて時間がとれない(仕事のため)」が、女性で「検査内容が苦痛だから」が高くなっています。年齢別にみると、40歳から50歳代で「検査内容が苦痛だから」「職場健診の内容にないから」が高くなっています。同居家族別にみると、ひとり暮らし、夫婦世帯で「症状がなく、必要性を感じないから」が、二世帯同居世帯で「検診の対象年齢ではないから」が高くなっています。また、夫婦世帯では「心配な時にはいつでも医療機関を受診できるから」も高くなっています。世帯の年間収入別にみると、300万円未満、1,000万円以上では「症状がなく、必要性を感じないから」が、300～1,000万円未満で「検診の対象年齢ではないから」が最も高くなっています。

【受けなかった理由】



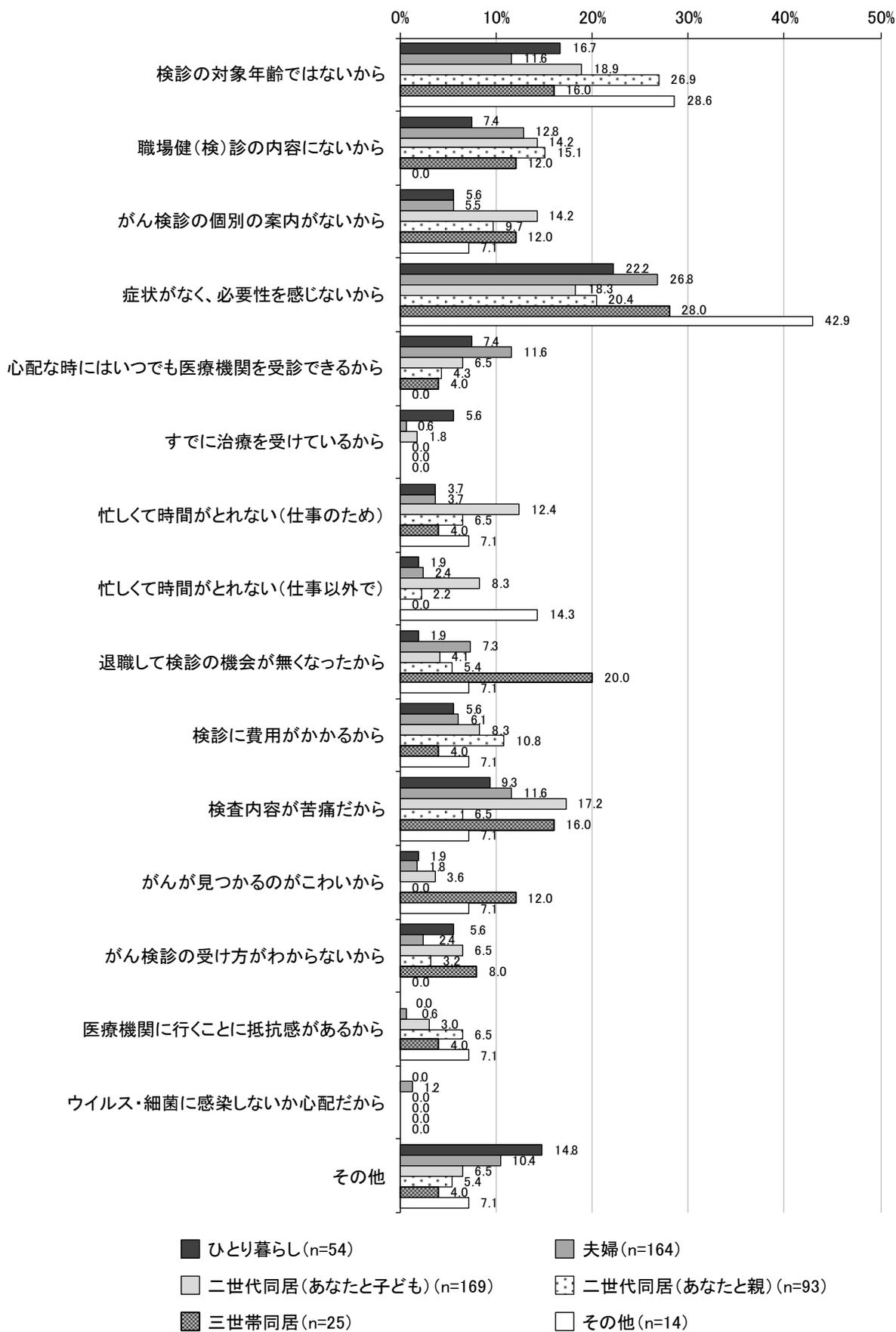
■ 性別



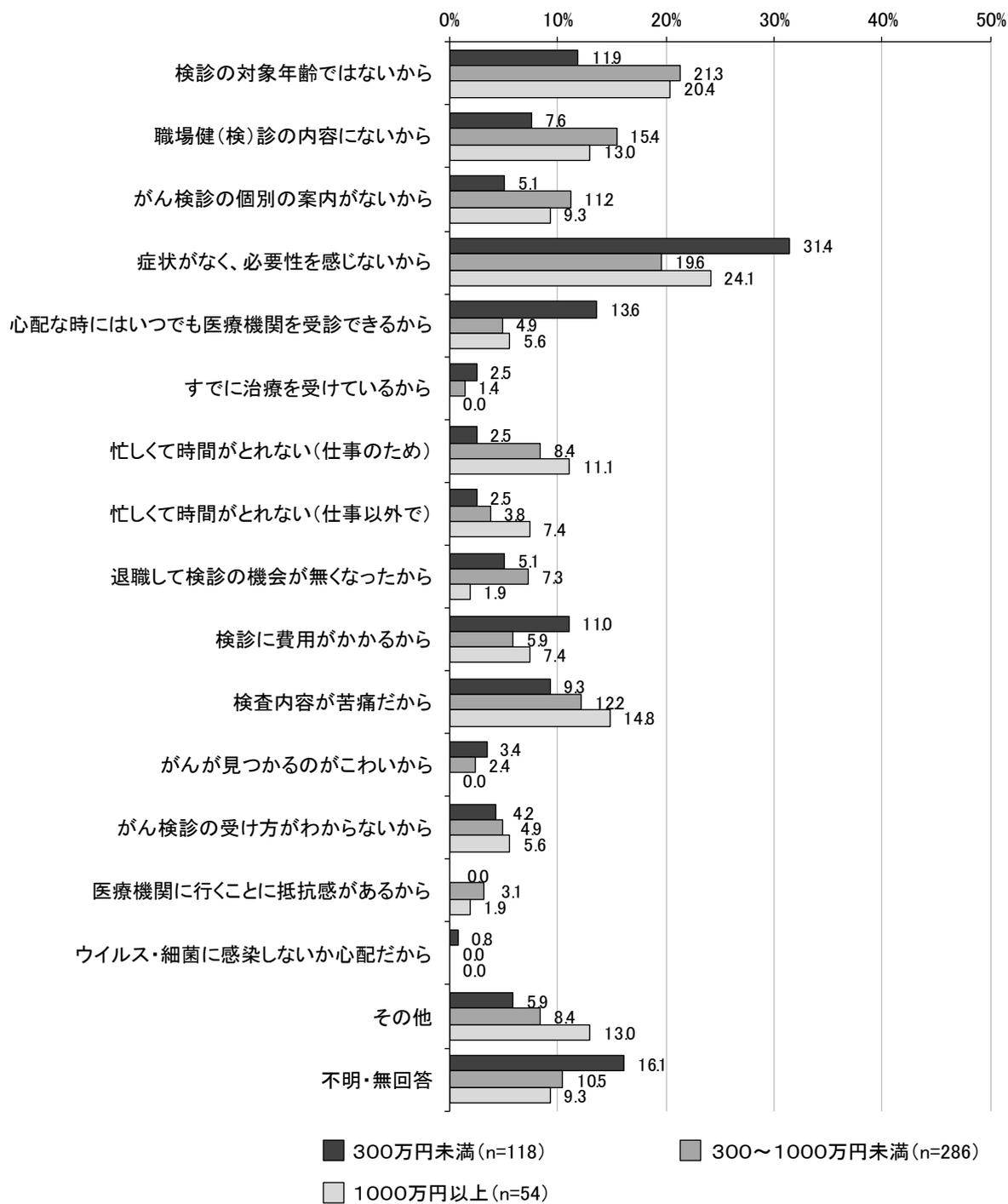
■ 年齢別



■同居家族別



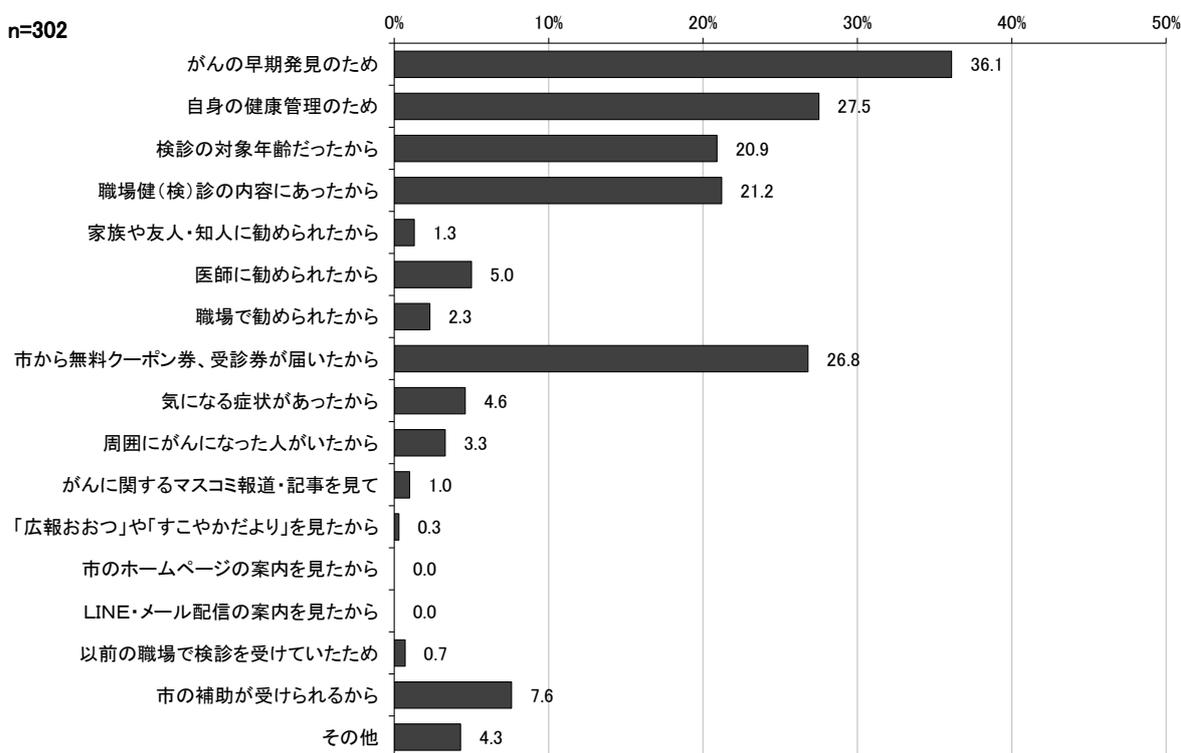
■世帯の年間収入別



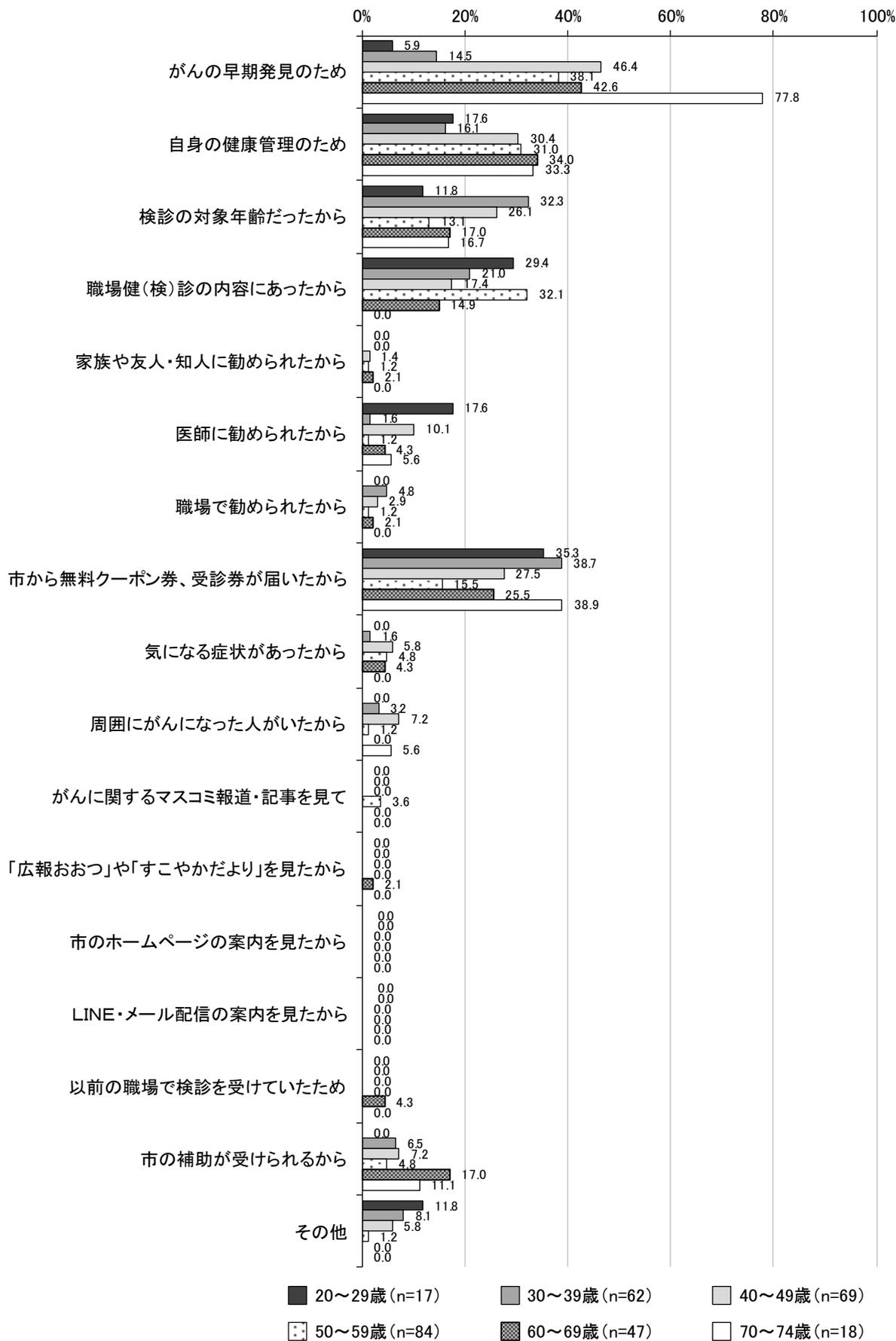
④ 子宮頸がん検診【女性のみ】

子宮頸がん検診を受けた理由・きっかけでは「がんの早期発見のため」が最も高く、次いで「自身の健康管理のため」「市から無料クーポン券、受診券が届いたから」の割合が高くなっています。年齢別にみると、20歳から30歳代の若い世代で「市から無料クーポン券、受診券が届いたから」が最も高くなっています。また、20歳代では「医師に勧められたから」も高くなっています。同居家族別にみると、ひとり暮らし世帯は「職場健診の内容にあったから」「医師に勧められたから」の割合が高く、「市から無料クーポン券、受診券が届いたから」は低めとなっています。世帯の年間収入別にみると、すべての年間収入別で「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。

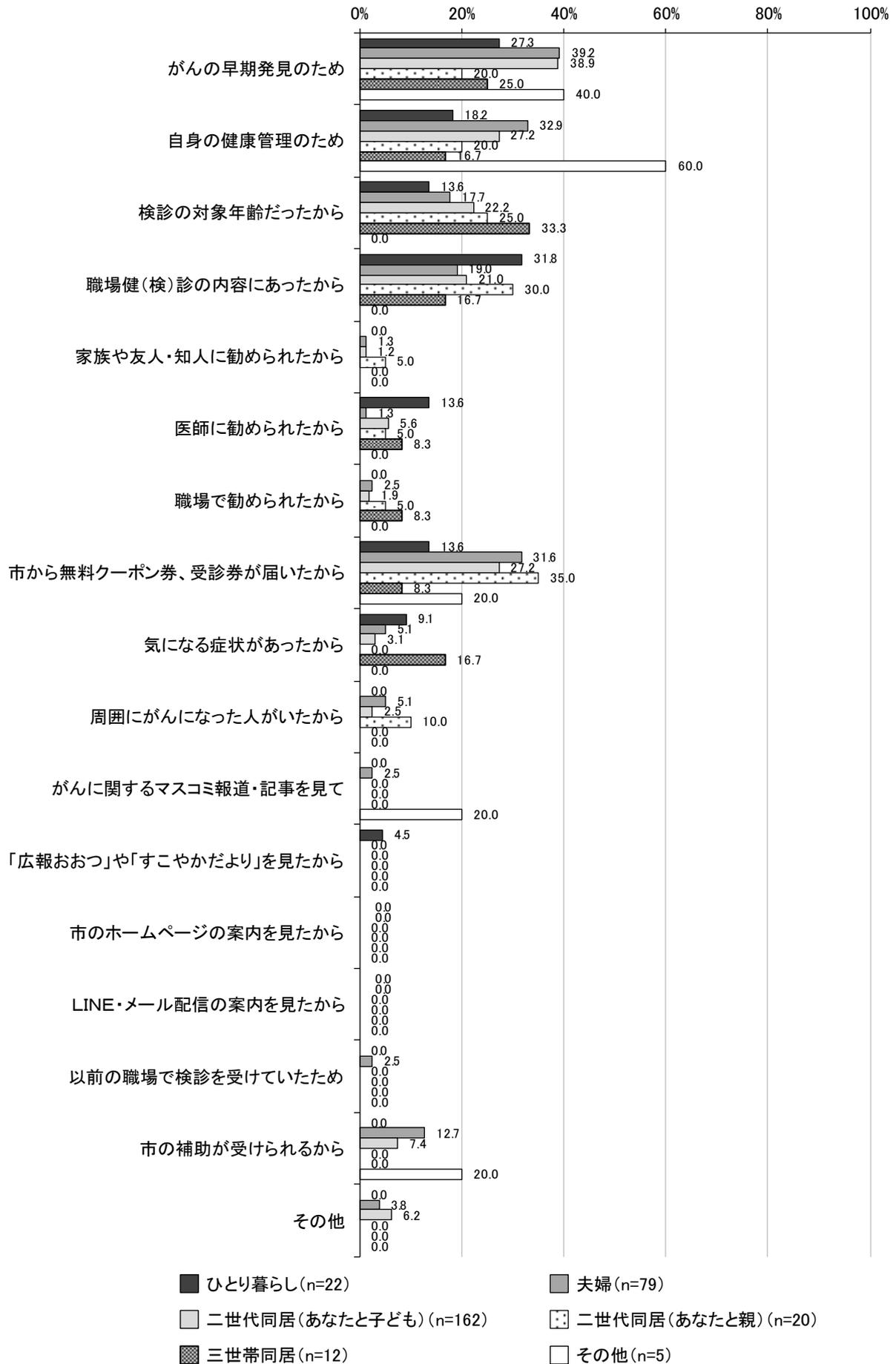
【受けた理由】



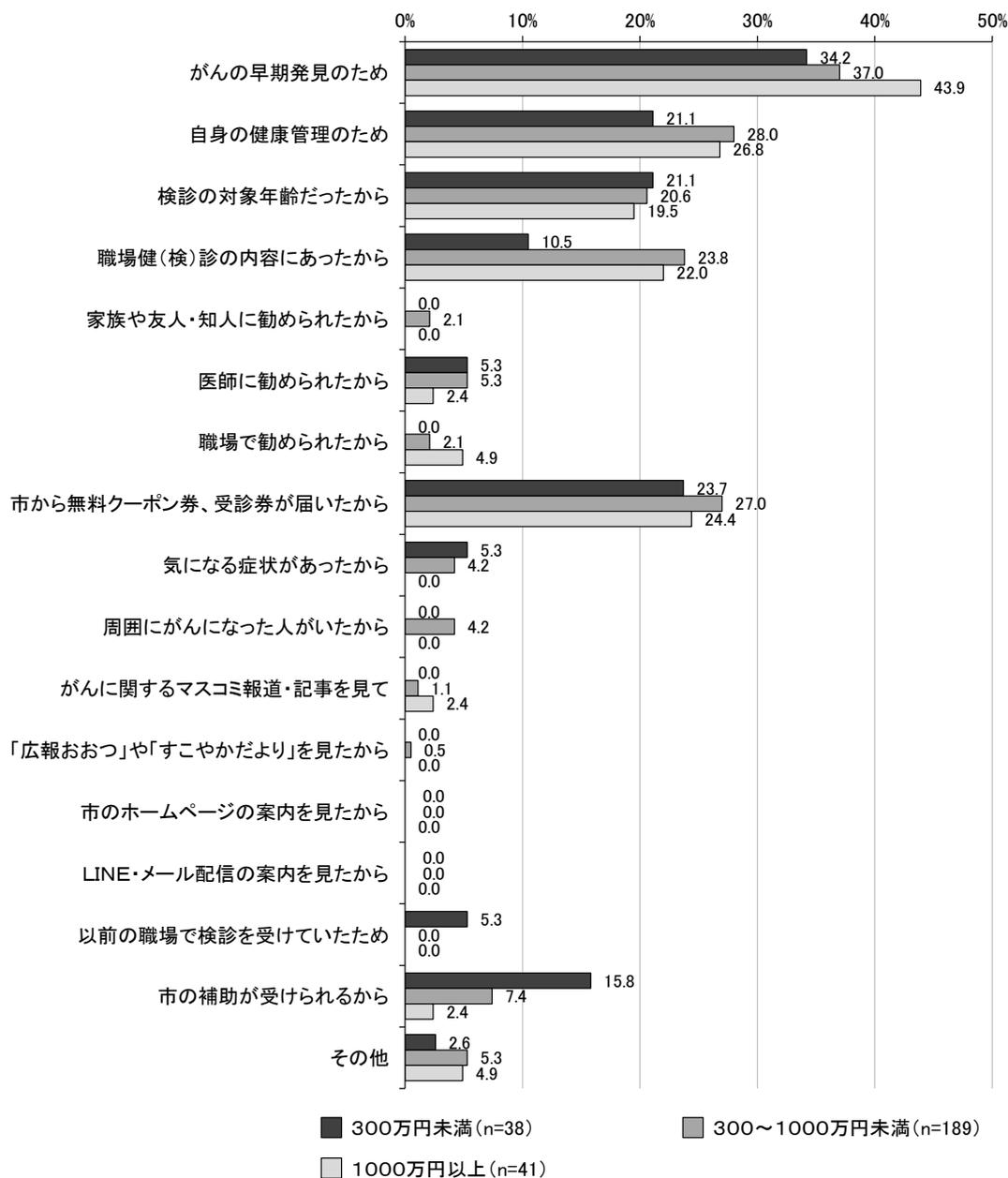
■ 年齢別



■同居家族別

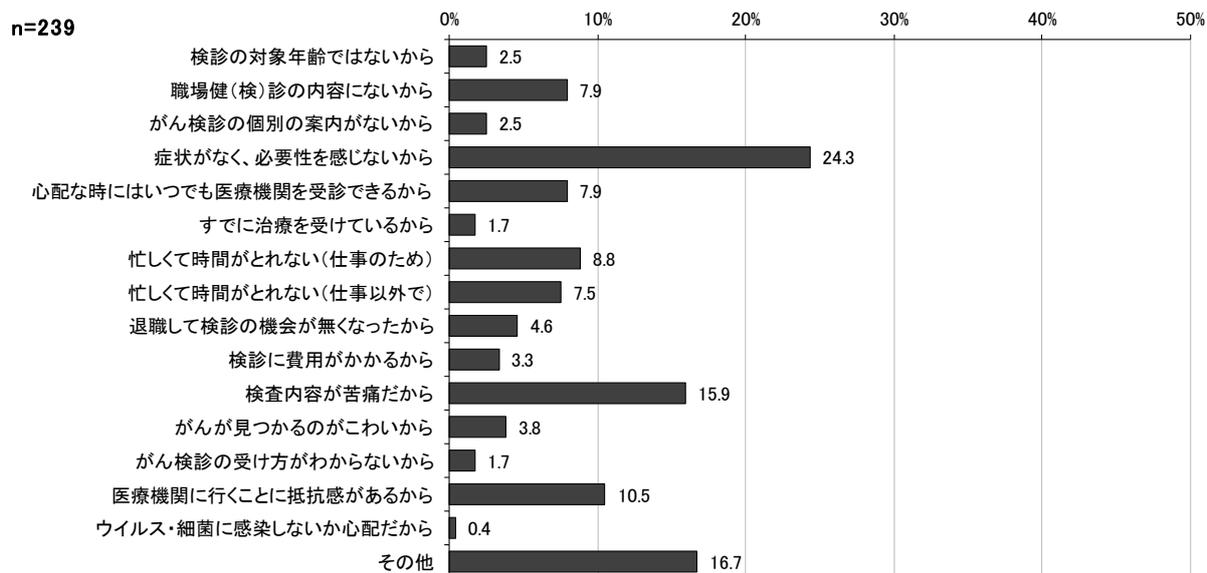


■世帯の年間収入別

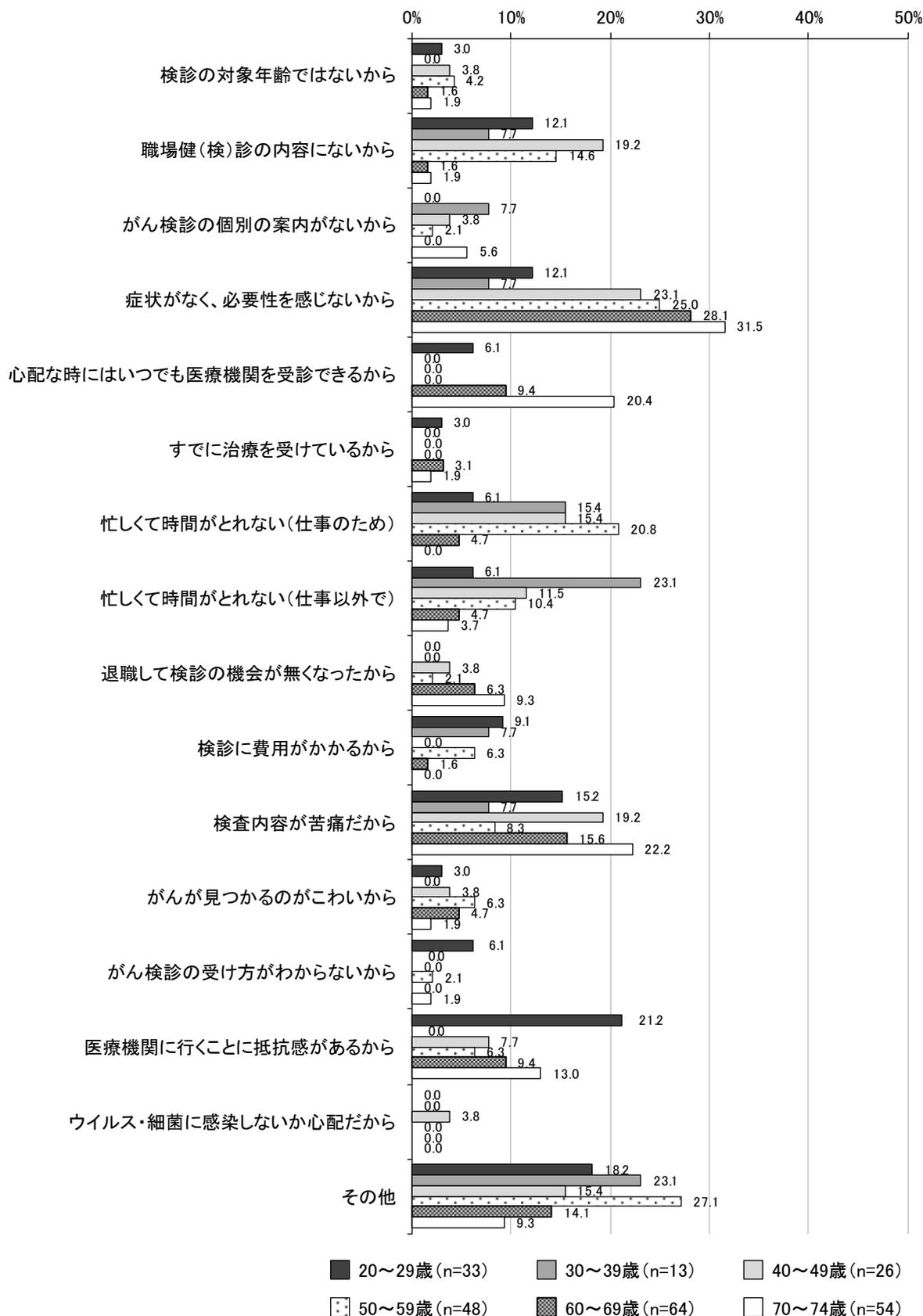


子宮頸がん検診を受けなかった理由としては、「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高く、次いで「その他」「検査内容が苦痛だから」となっています。年齢別にみると、20歳代では「医療機関に行くことに抵抗感があるから」が、30歳代では「忙しくて時間がとれない（仕事以外で）」が、40歳以上では「症状がなく、必要性を感じないから」が高くなっています。また、40歳代では「職場健診の内容にないから」「検査内容が苦痛だから」が、50歳代では「忙しくて時間がとれない（仕事のため）」が、60歳以上では「検査内容が苦痛だから」が高くなっています。同居家族別にみると、ひとり暮らし世帯では「その他」の割合が高くなっています。また、夫婦世帯で「症状がなく、必要性を感じないから」が、二世帯同居（あなたと子ども）で「忙しくて時間がとれない（仕事のため）」が、二世帯同居（あなたと親）で「職場健診の内容にないから」の割合が高くなっています。世帯の年間収入別にみると、すべての年間収入別で「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高く、1,000万円以上では「検査内容が苦痛だから」「その他」も高くなっています。

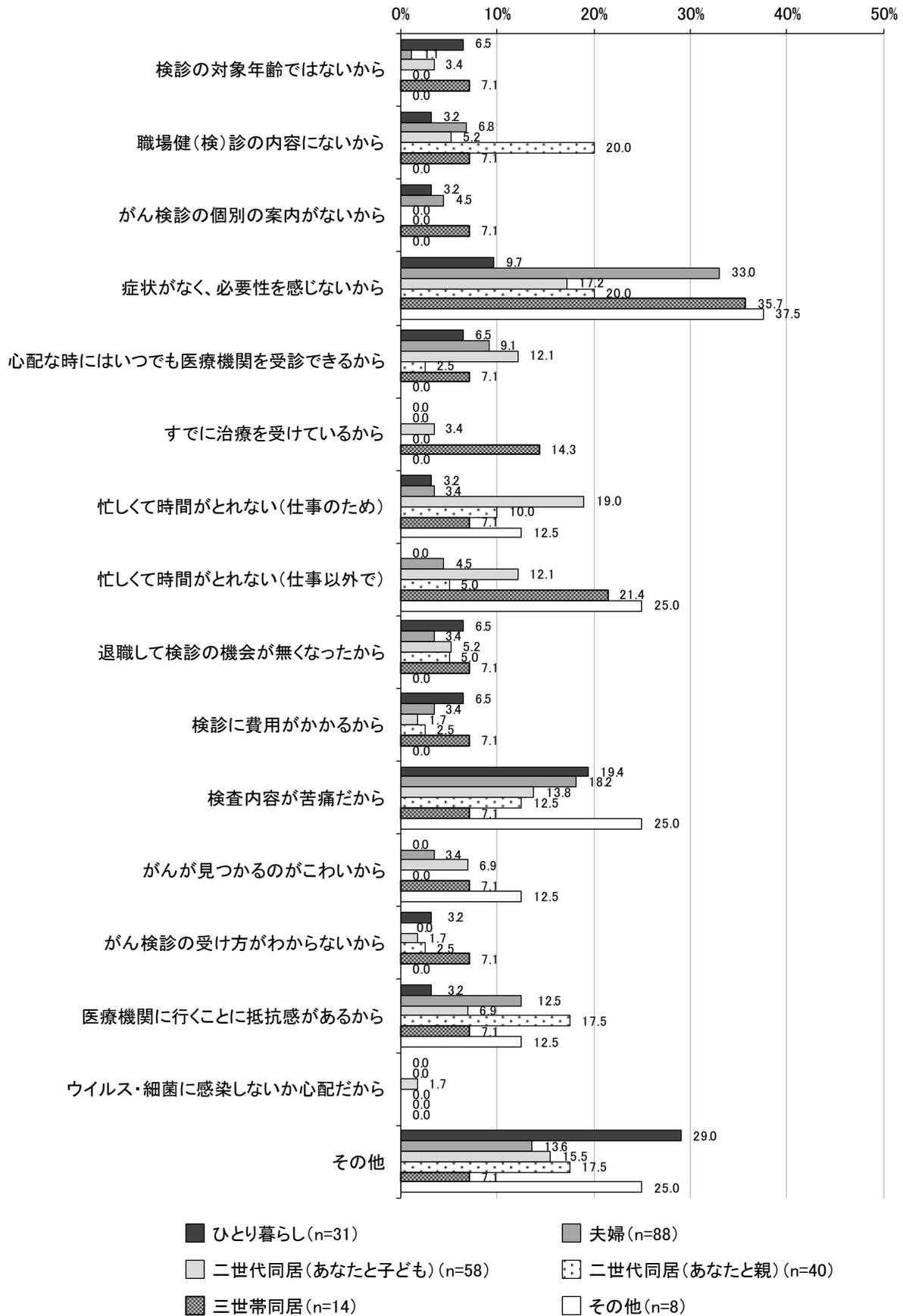
【受けなかった理由】



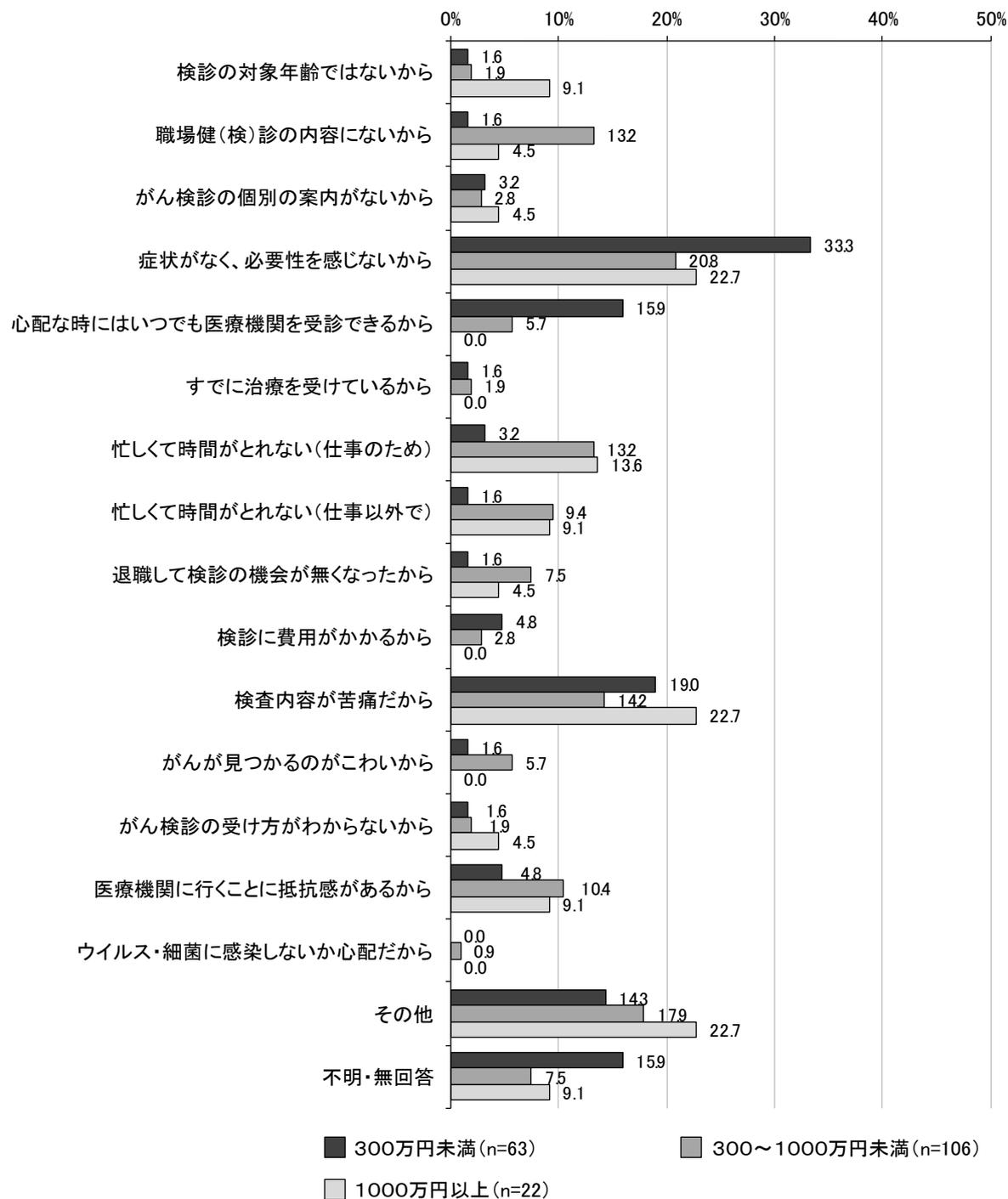
■ 年齢別



■同居家族別



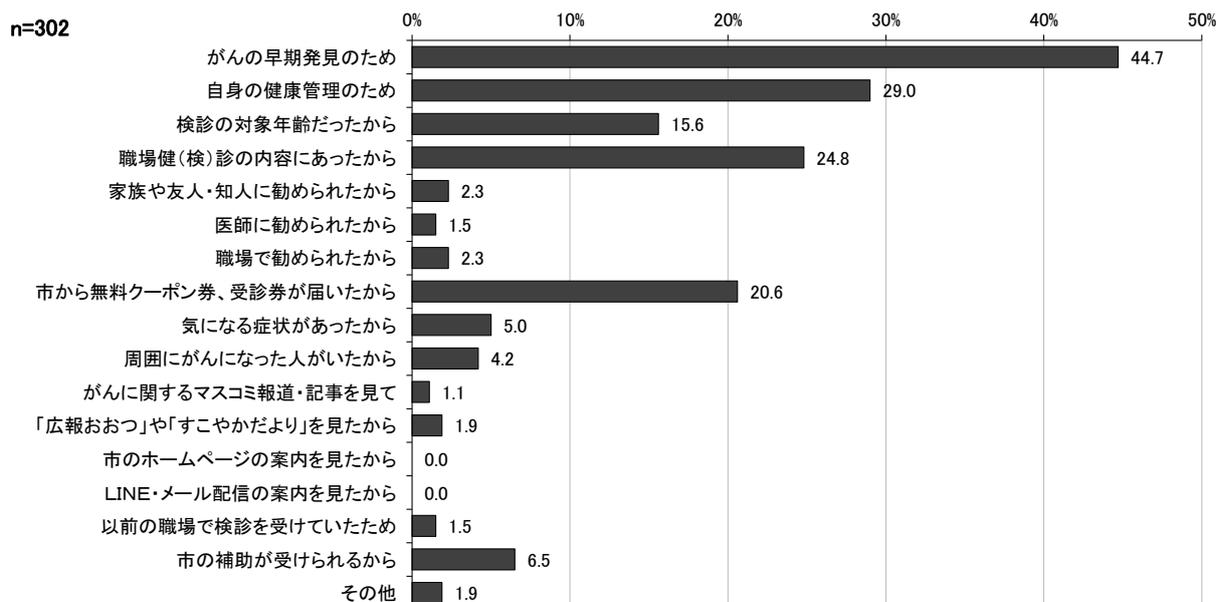
■世帯の年間収入別



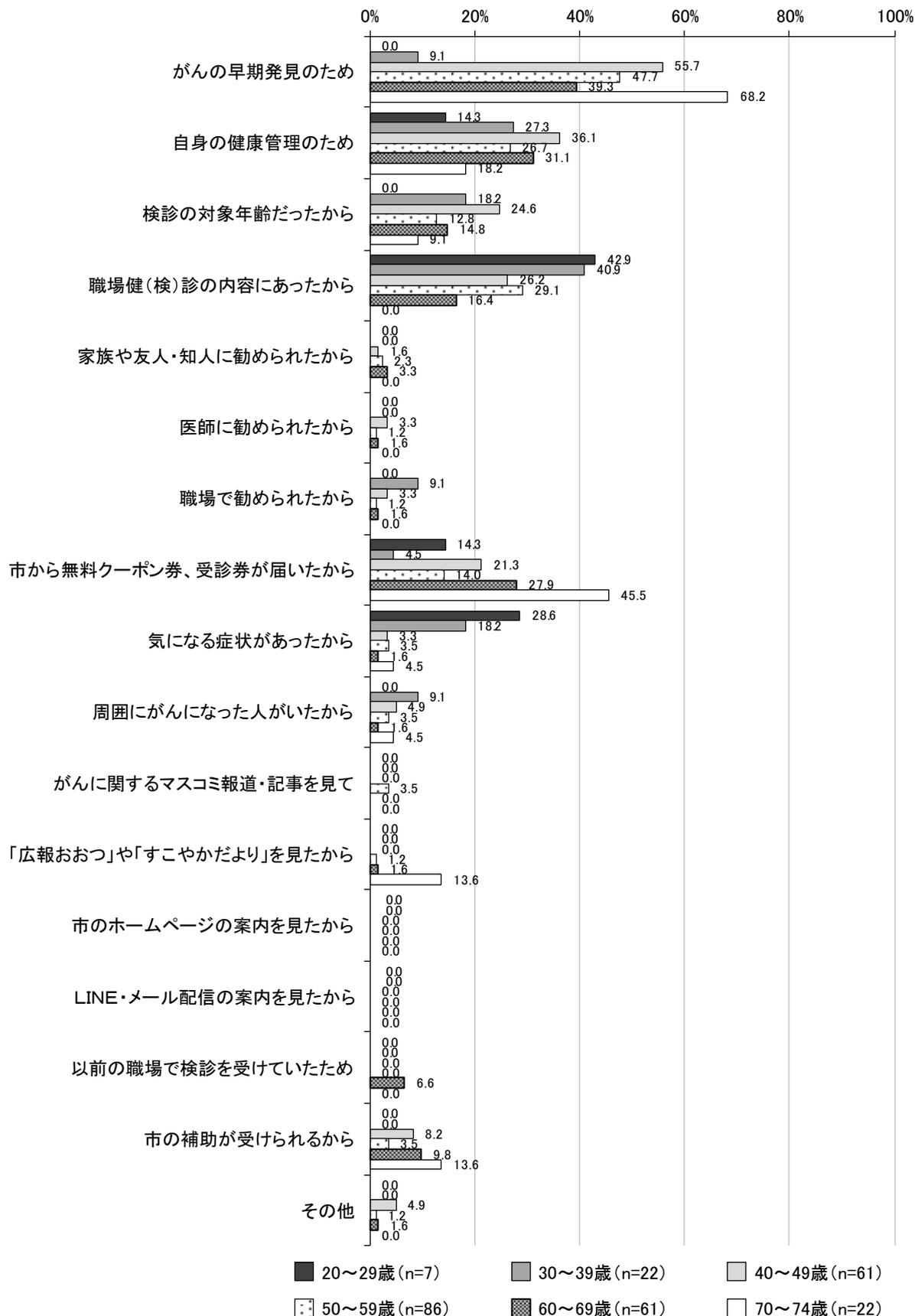
⑤ 乳がん検診【女性のみ】

乳がん検診を受けた理由・きっかけとしては「がんの早期発見のため」が最も高く、次いで「自身の健康管理のため」「職場健診の内容にあったから」「市から無料クーポン券、受診券が届いたから」となっています。年齢別にみると、70歳以上で「市から無料クーポン券、受診券が届いたから」の他、『広報おおつ』や『すこやかだより』を見たからの割合が高くなっています。世帯の年間収入別にみると、すべての年間収入別で「がんの早期発見のため」が最も高くなっています。

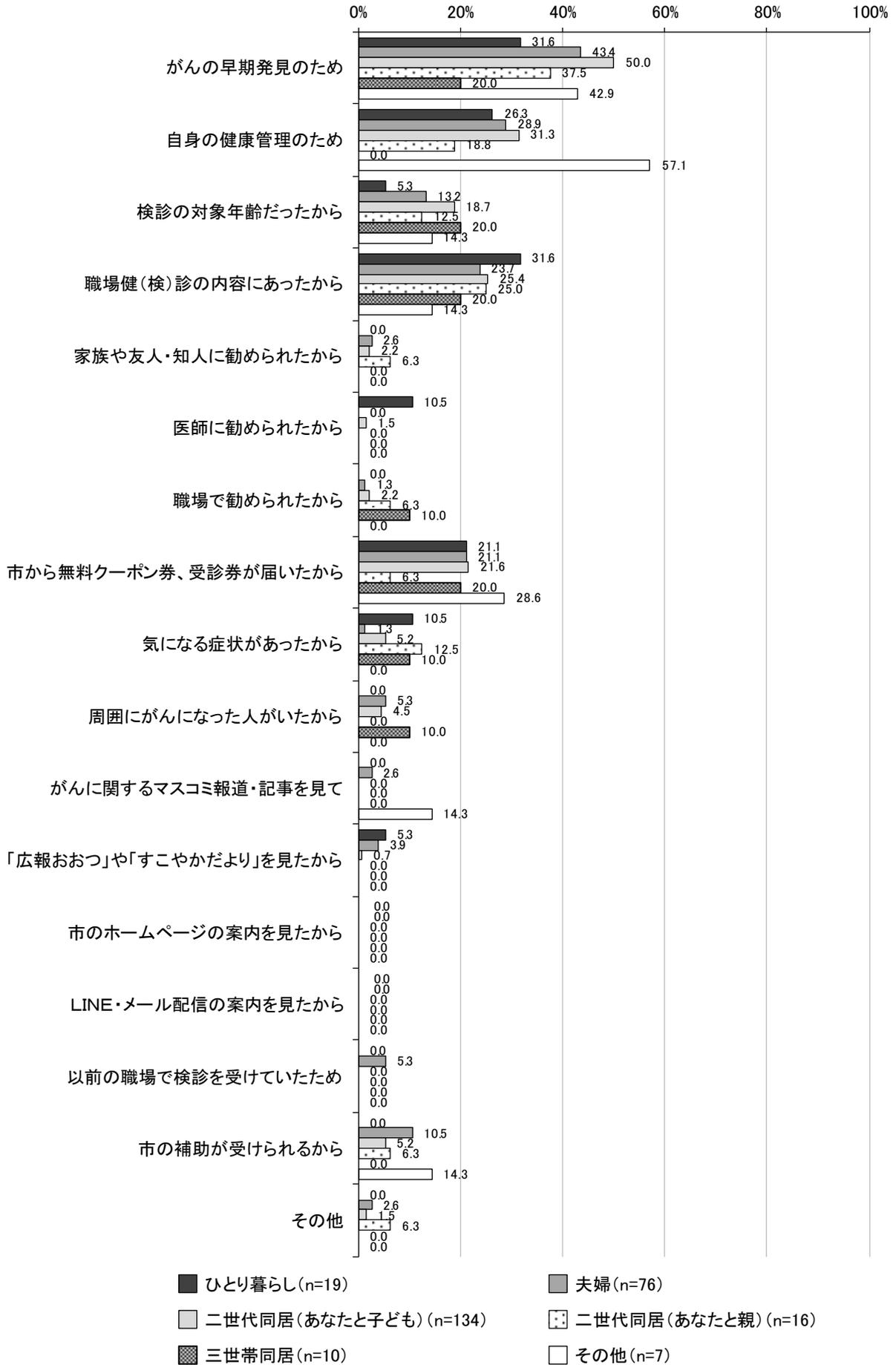
【受けた理由】



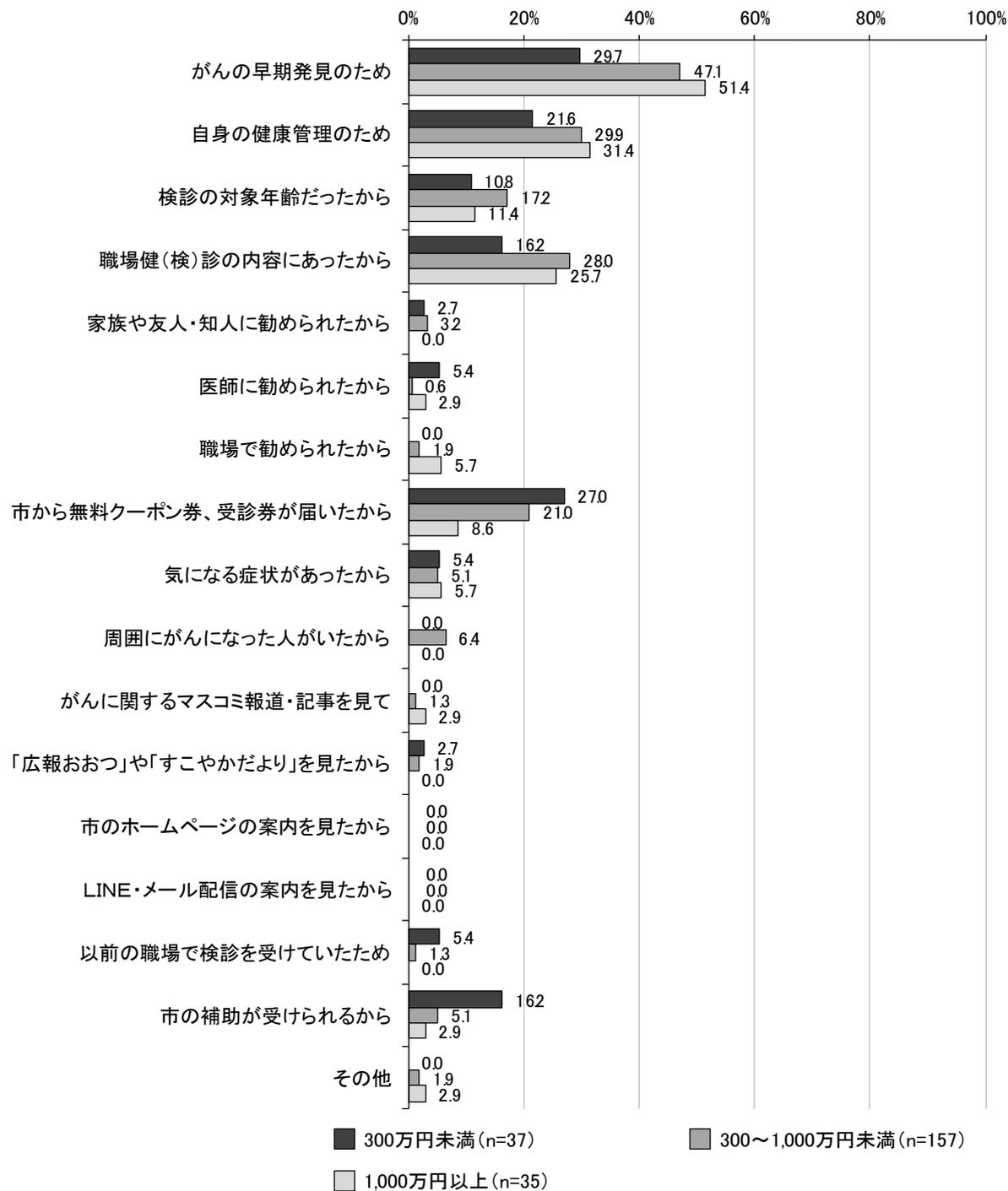
■ 年齢別



■同居家族別

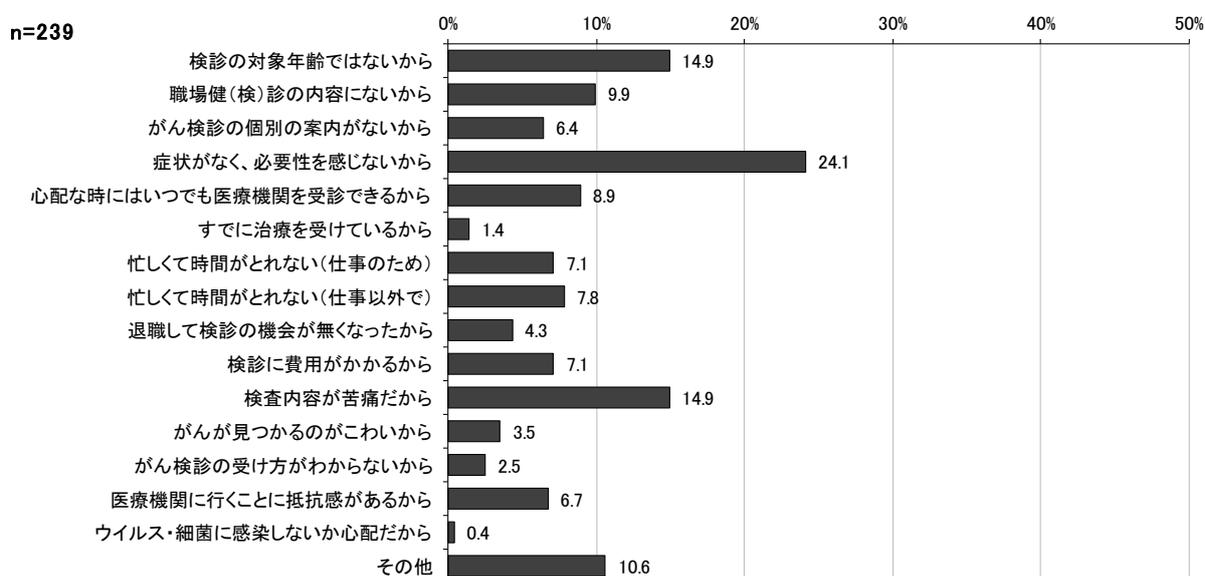


■世帯の年間収入別

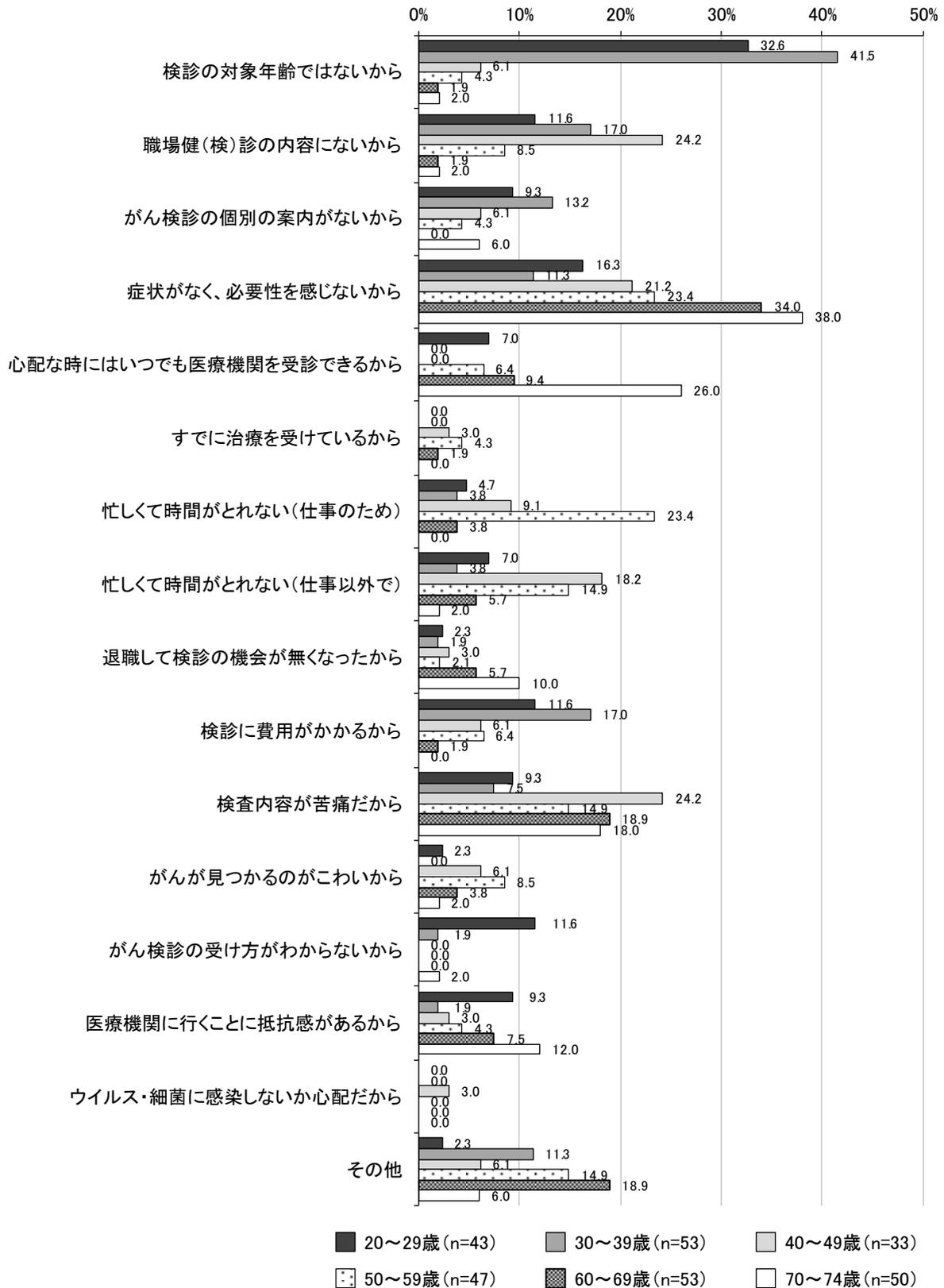


乳がん検診を受けなかった理由としては「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高く、次いで「検診の対象年齢ではないから」「検査内容が苦痛だから」となっています。年齢別にみると、40歳代では「職場健診の内容にないから」「検査内容が苦痛だから」が、50歳代では「忙しくて時間がとれない(仕事のため)」「症状がなく、必要性を感じないから」が、60歳以上では「症状がなく、必要性を感じないから」の割合が高くなっています。同居家族別にみると、夫婦世帯では「症状がなく、必要性を感じないから」が、二世帯同居(あなたと子ども)では「検診の対象年齢ではないから」が高くなっています。また、ひとり暮らし世帯では「その他」が高くなっています。世帯の年間収入別にみると、すべての年間収入別で「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高く、1,000万円以上では「検診の対象年齢ではないから」「その他」も高くなっています。

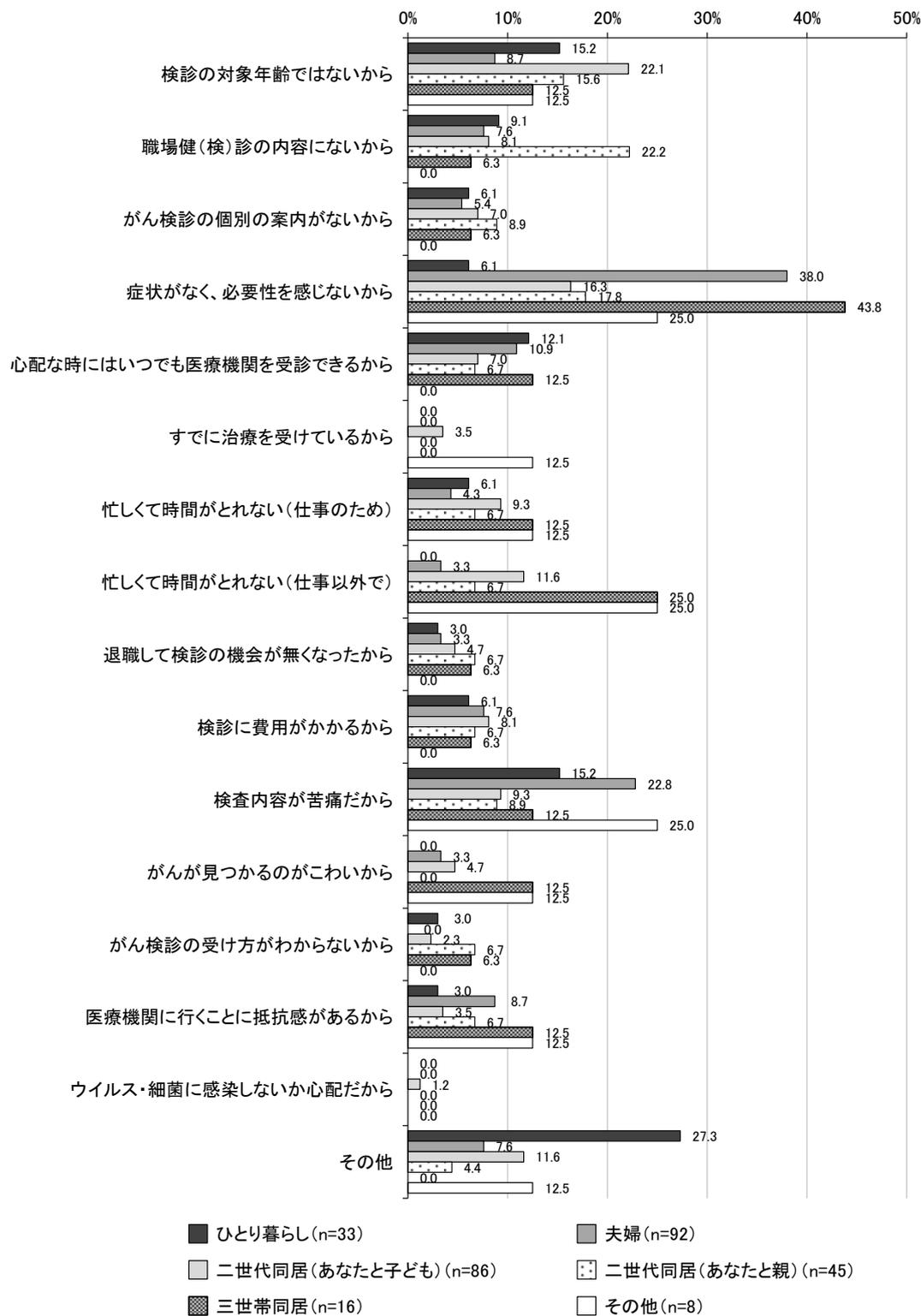
【受けなかった理由】



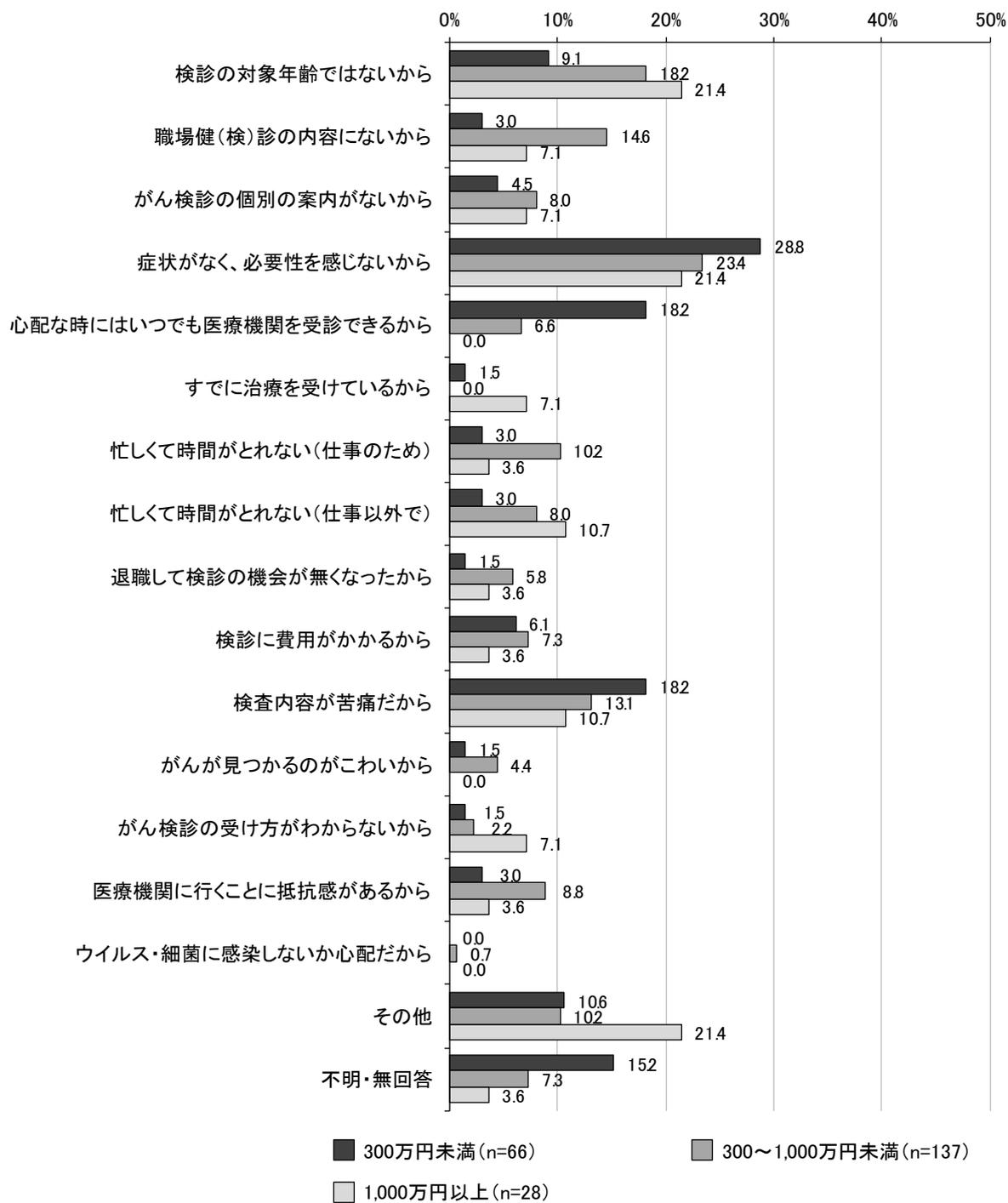
■ 年齢別



■同居家族別



■世帯の年間収入別



問 17 あなたは、がん検診を定期的に受けていますか。(S A)

肺がん検診は他のがん検診に比べて「定期的に受けている」の割合が最も高い一方で、「今まで1度も受けたことがない」の割合も最も高くなっています。「定期的に受けている」と「定期的ではないが、数年に1回受けている」を合わせると、肺がん検診で最も割合が高く(64.2%)、次いで大腸がん検診(63.0%)となっています。

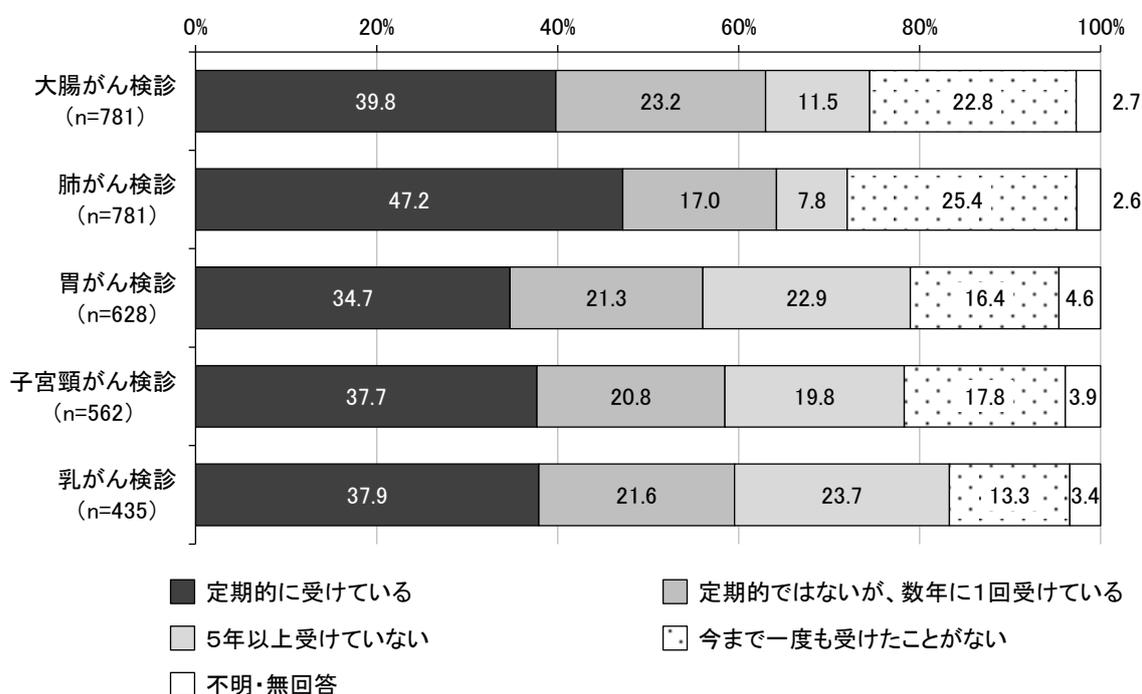
■大津市のがん検診対象年齢における受診状況

※大腸がん検診、肺がん検診は40歳以上

胃がん検診は50歳以上

子宮頸がん検診は20歳以上の女性

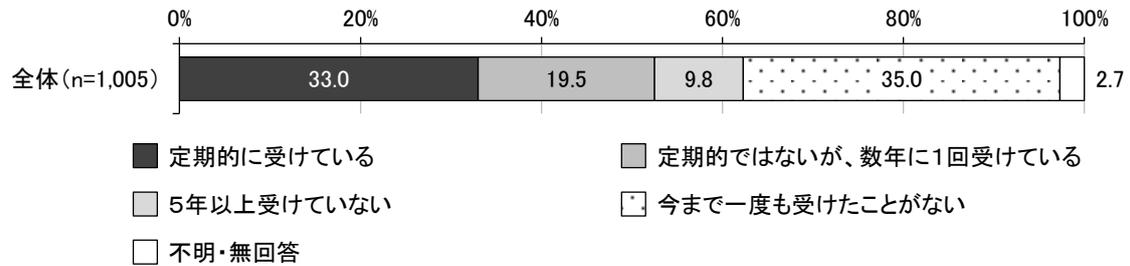
乳がん検診は40歳以上の女性



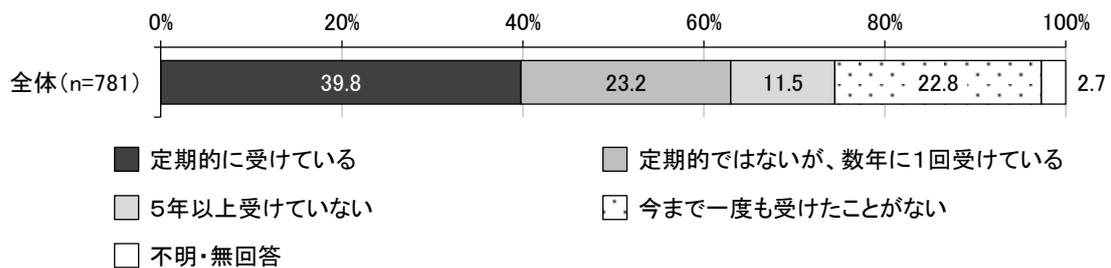
① 大腸がん検診（検診対象年齢：40歳以上）

大腸がん検診を「定期的に受けている」割合は全体で33.0%、検診の対象年齢では39.8%となっています。性別にみると男性の方が高く、年齢別にみると50歳から60歳代が高くなっています。また、「定期的ではないが、数年に1回受けている」を合わせるといずれの年齢も50%を超えています。職業別にみると経営者・役員と会社員で「定期的に受けている」割合が高く、保険別では協会けんぽ（本人）が高くなっています。

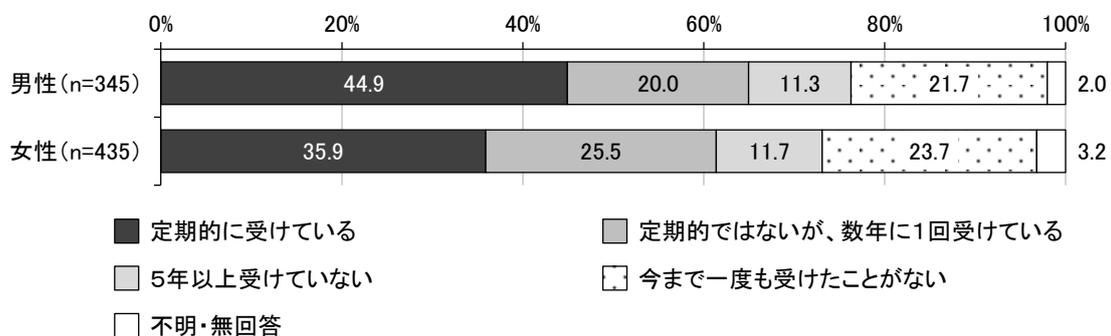
■全体



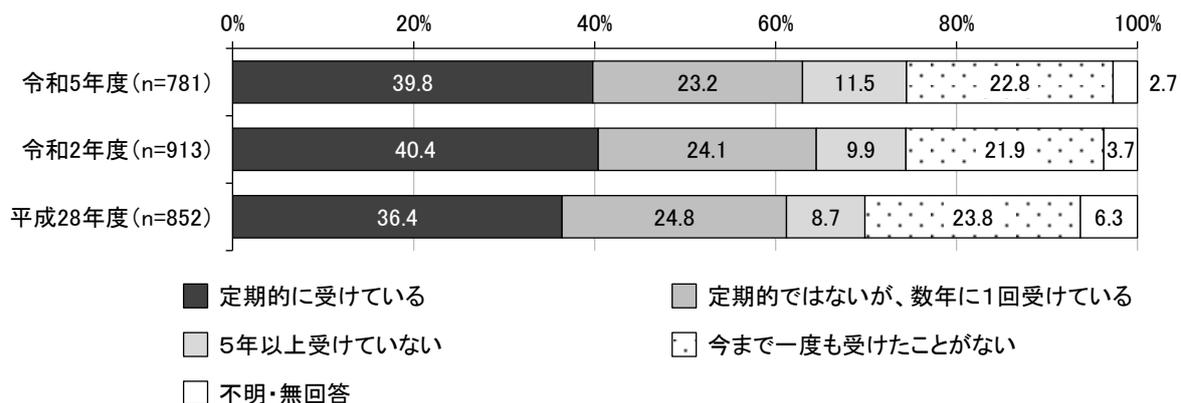
検診対象年齢（40歳以上）



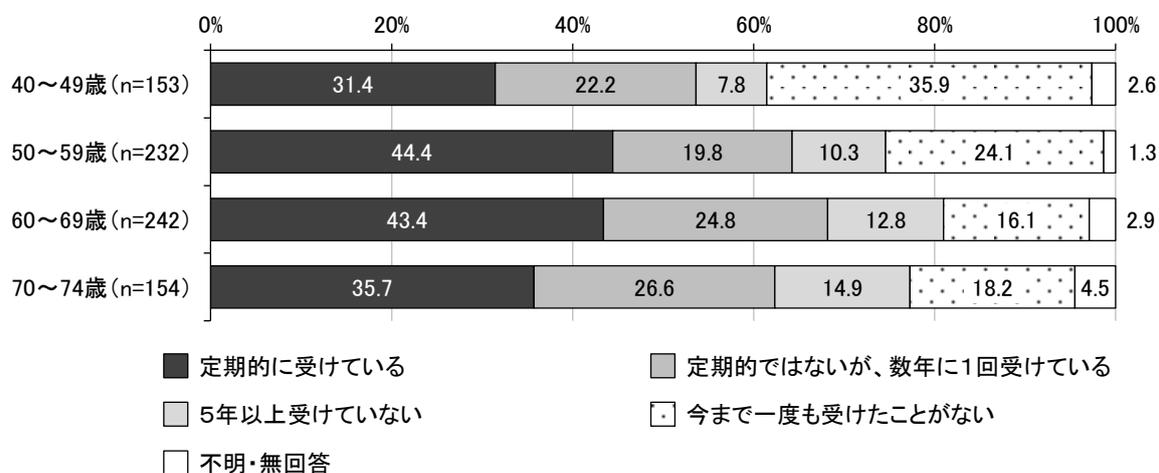
◇性別（40歳以上）



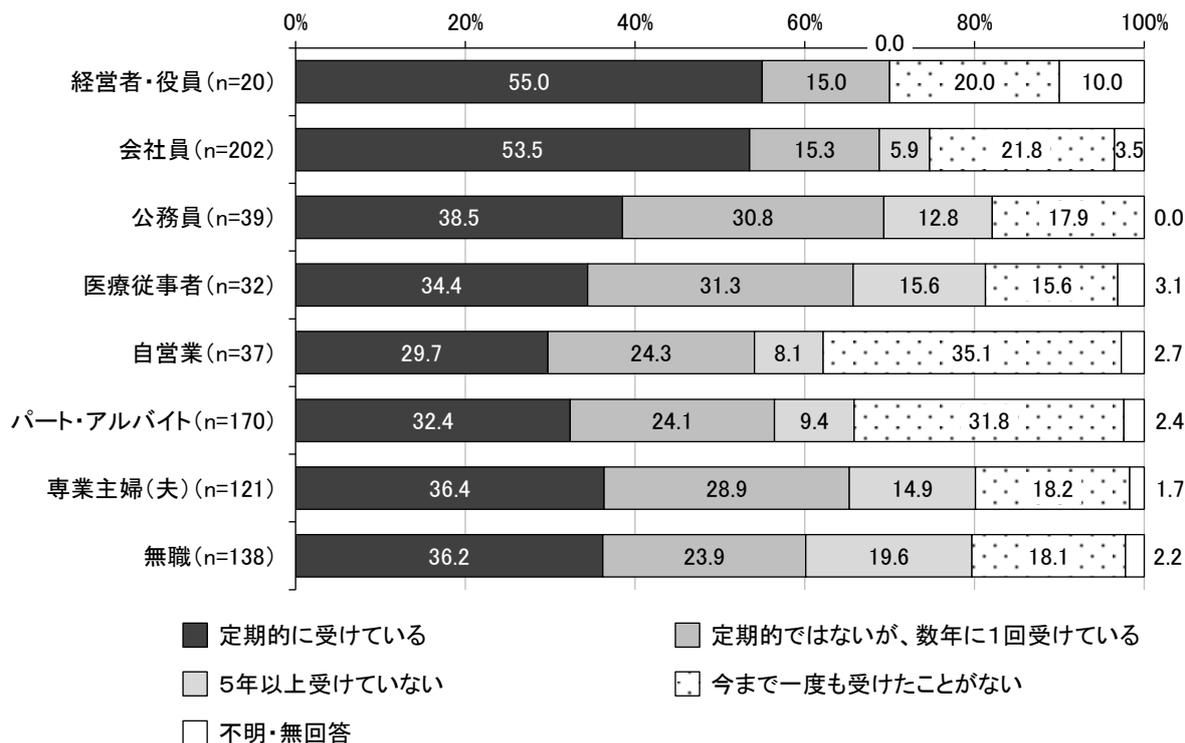
◇過去調査との比較（40歳以上）



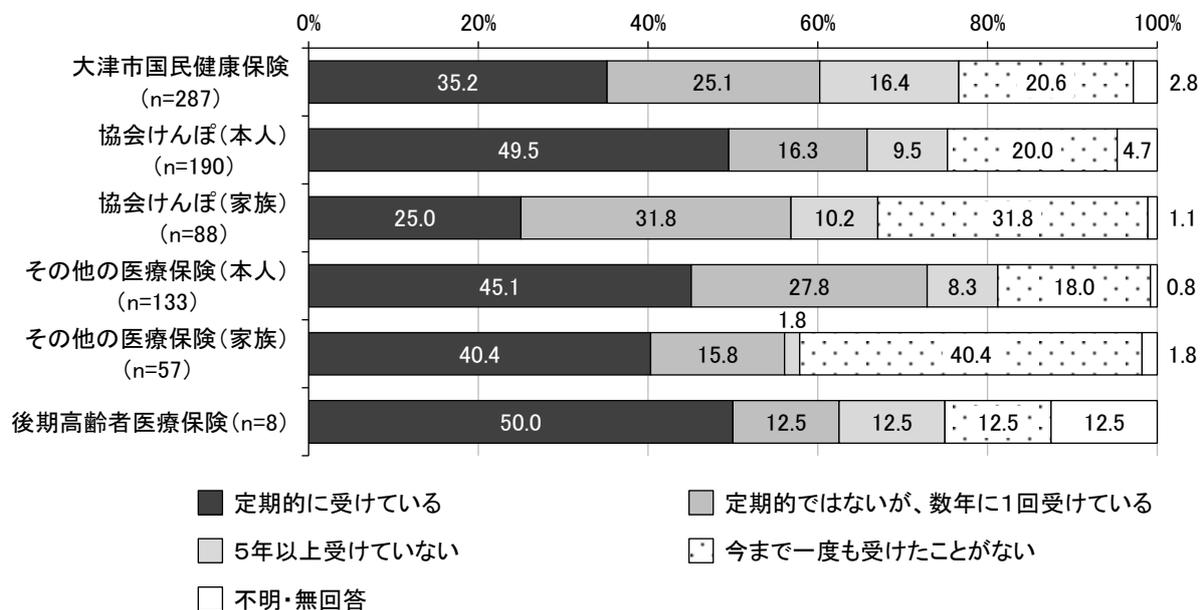
◇年齢別（40歳以上）



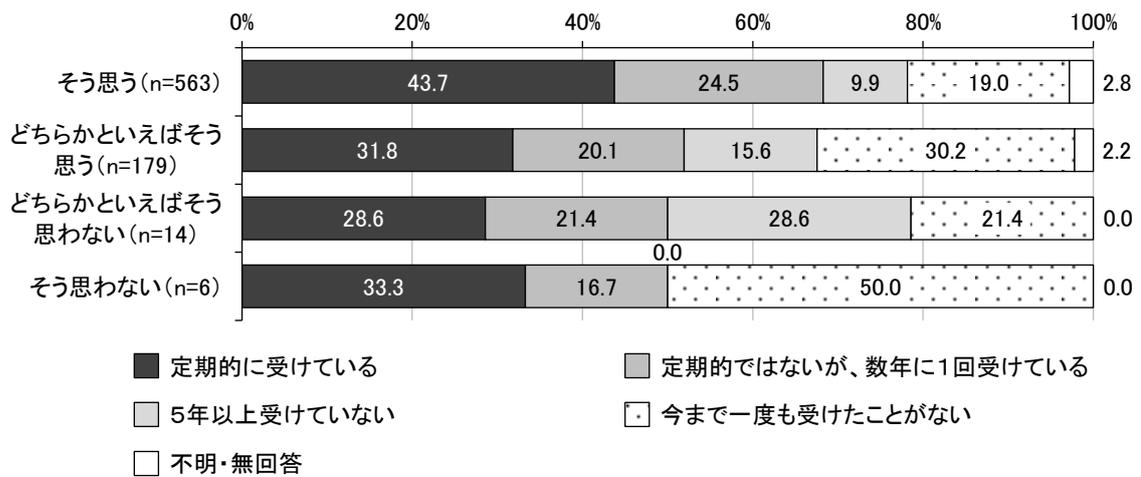
◇職業別（40歳以上）



◇保険別（40歳以上）



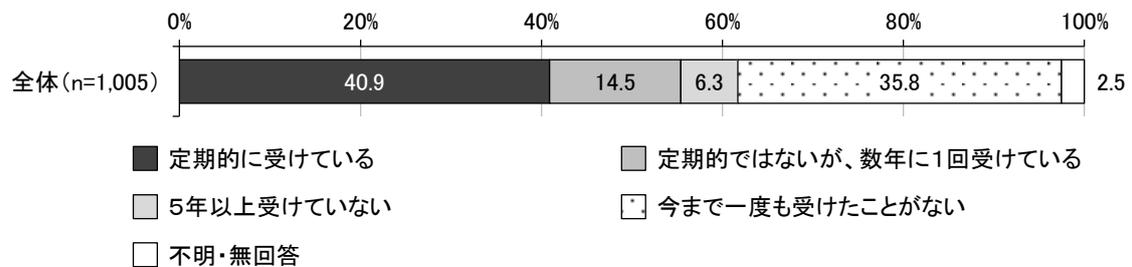
◇「問 17 大腸がん検診の継続受診の状況」×「問 12 がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる重要な検査と思うか」(40 歳以上)



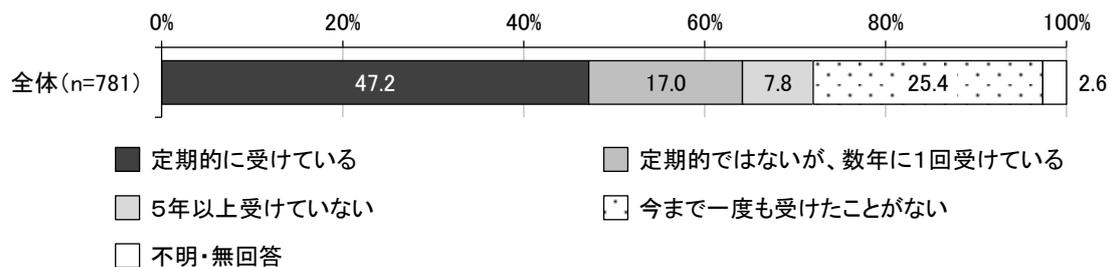
② 肺がん検診（検診対象年齢：40歳以上）

肺がん検診を「定期的に受けている」割合は、全体で40.9%、検診の対象年齢では47.2%となっています。年齢別にみると50歳から60歳代で50%を超えています。職業別にみると公務員で、保険別ではその他の医療保険（本人）で、「定期的に受けている」割合が高くなっています。

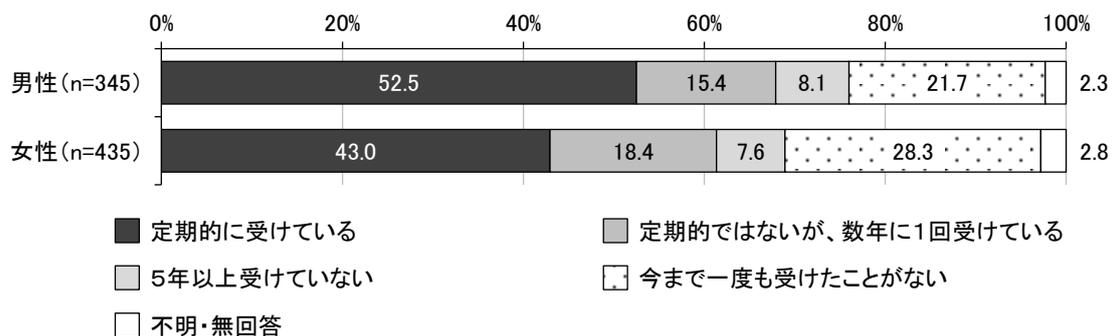
■全体



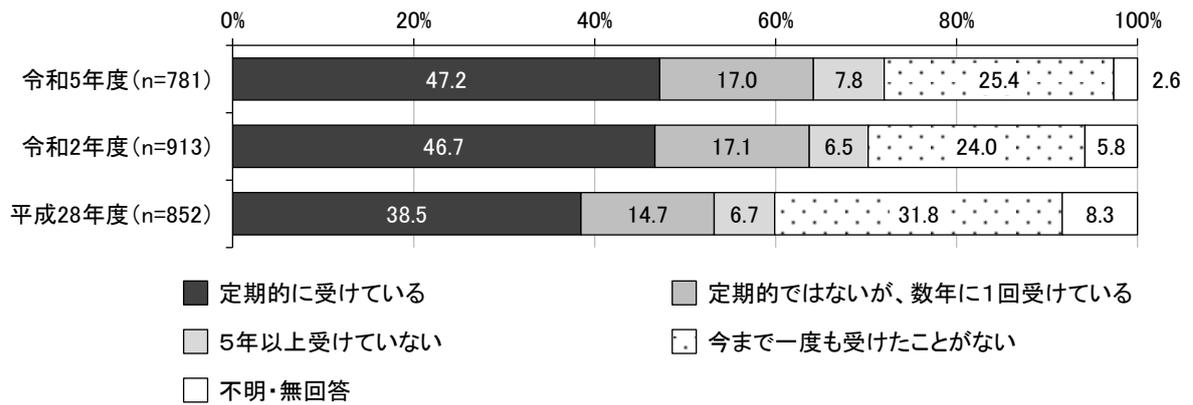
検診対象年齢（40歳以上）



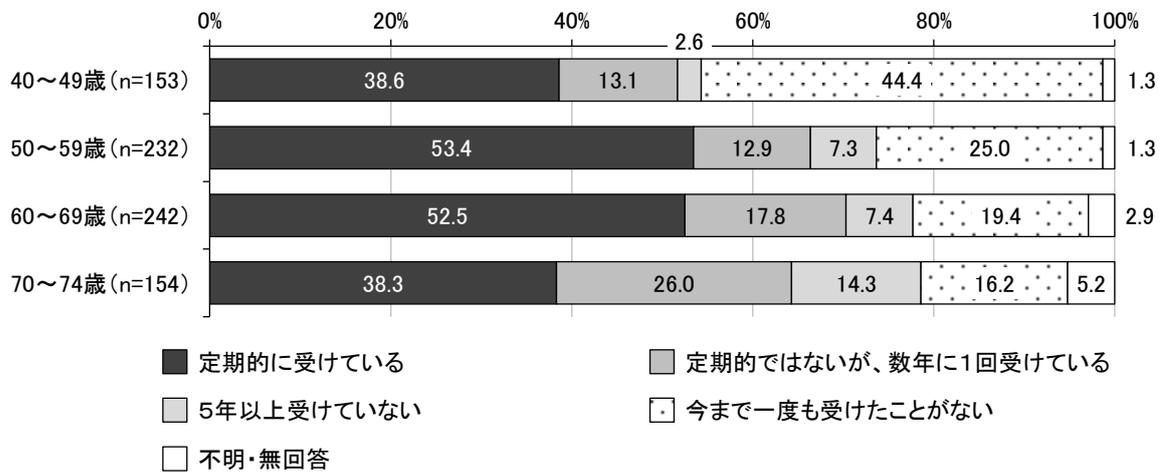
◇性別（40歳以上）



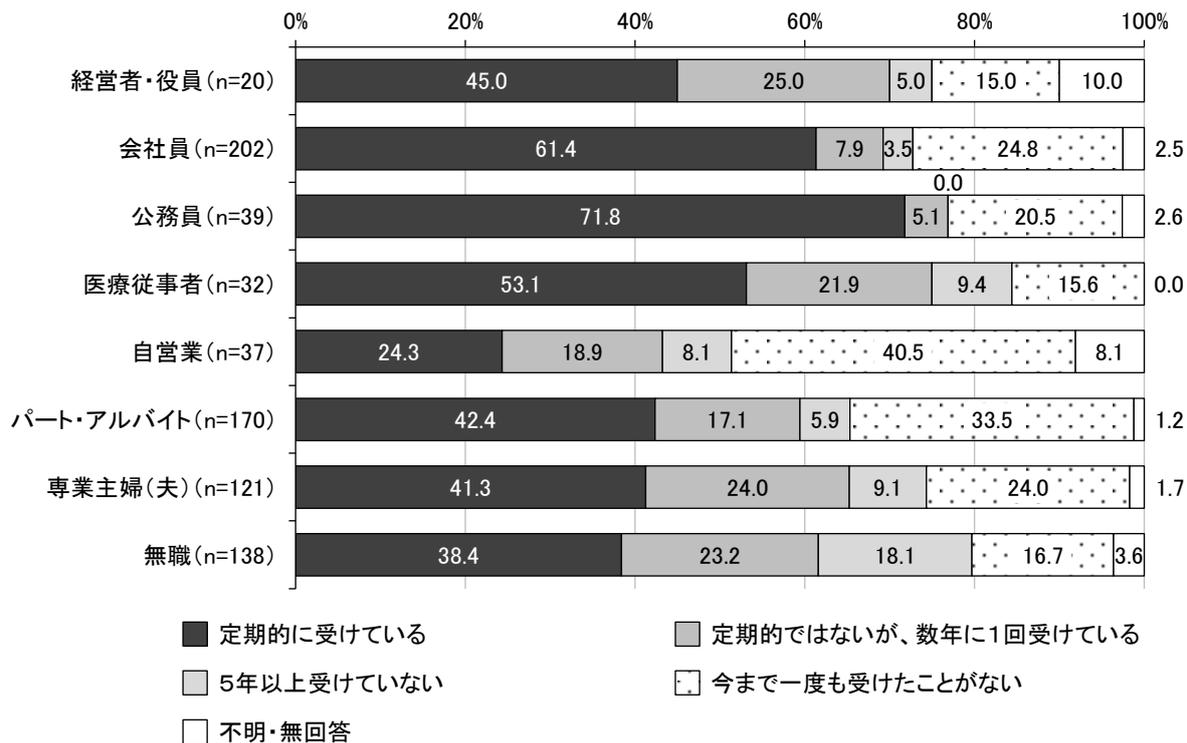
◇過去調査との比較（40歳以上）



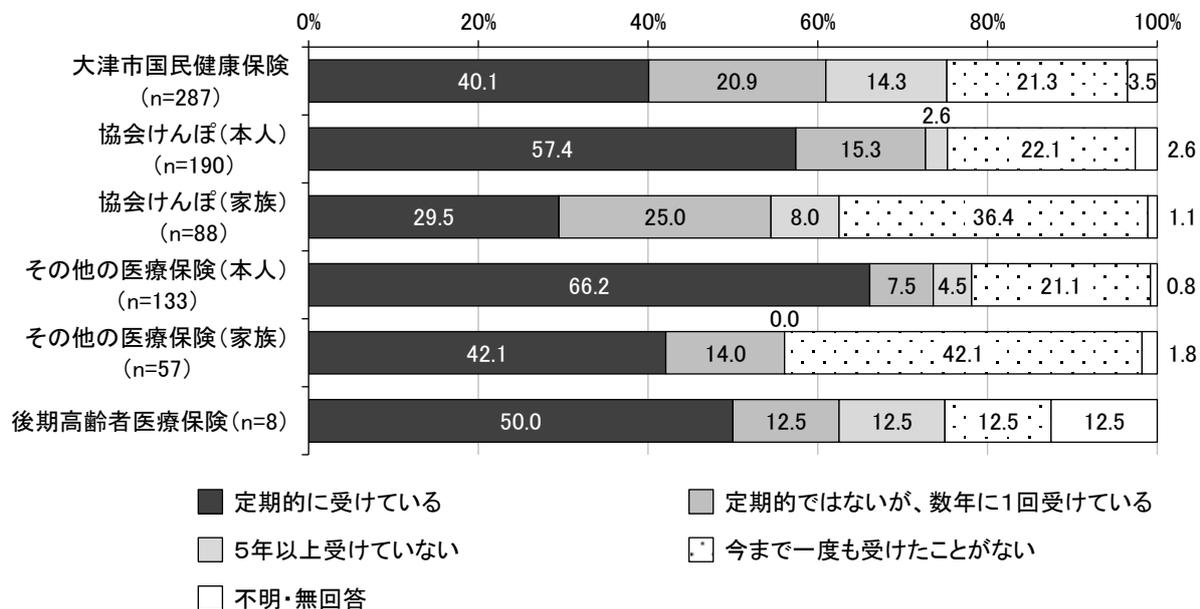
◇年齢別（40歳以上）



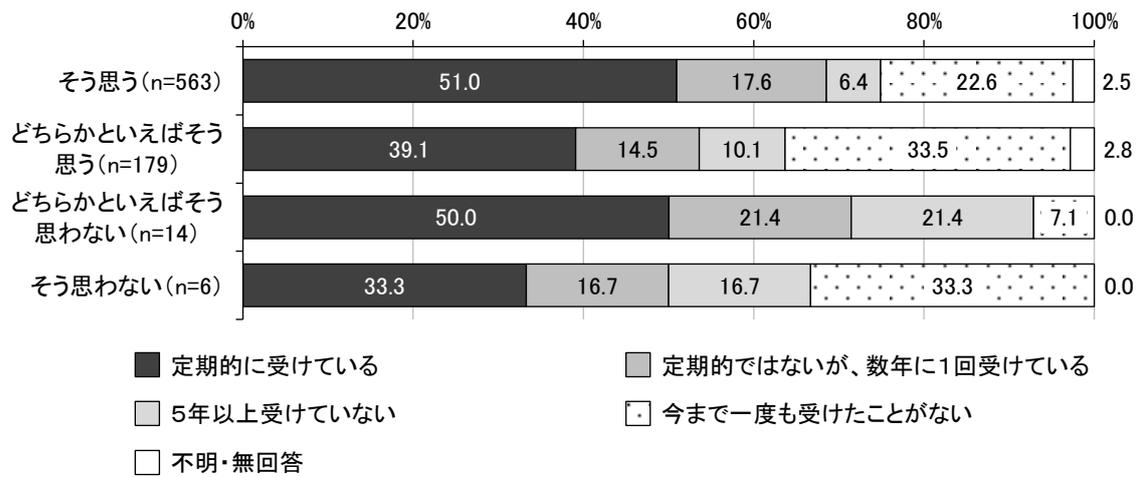
◇職業別（40歳以上）



◇保険別（40歳以上）



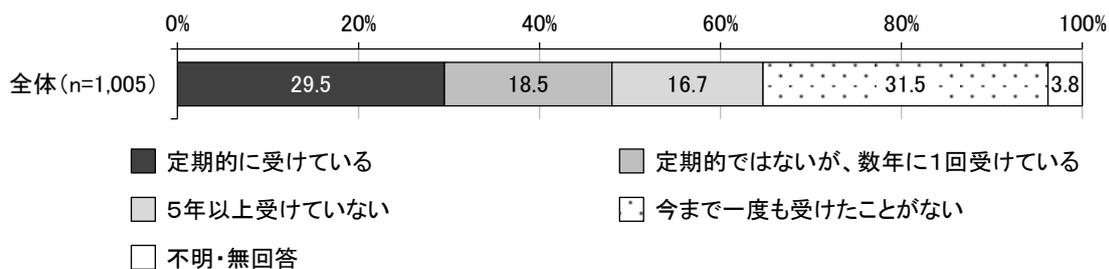
◇「問 17 肺がん検診の継続受診の状況」×「問 12 がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる重要な検査と思うか」（40歳以上）



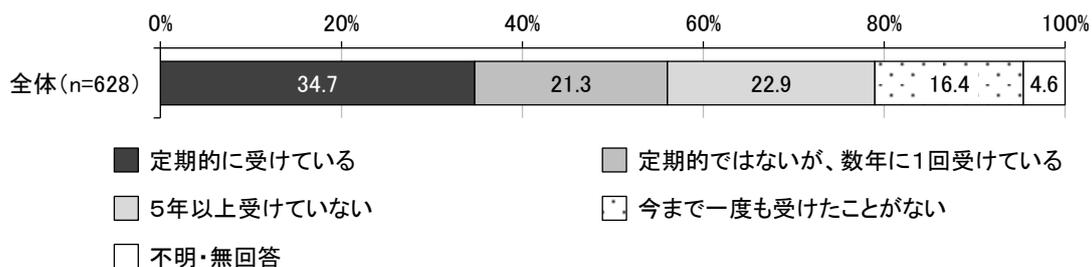
③ 胃がん検診（検診対象年齢：50歳以上）

胃がん検診を「定期的に受けている」割合は、全体で29.5%、検診の対象年齢では34.7%となっています。年齢別にみると50歳代で42.2%と最も高くなっています。職業別では公務員、会社員が他の職業に比べて「定期的に受けている」割合が高く、保険別では、その他の医療保険（本人）、協会けんぽ（本人）で「定期的に受けている」割合が高くなっています。

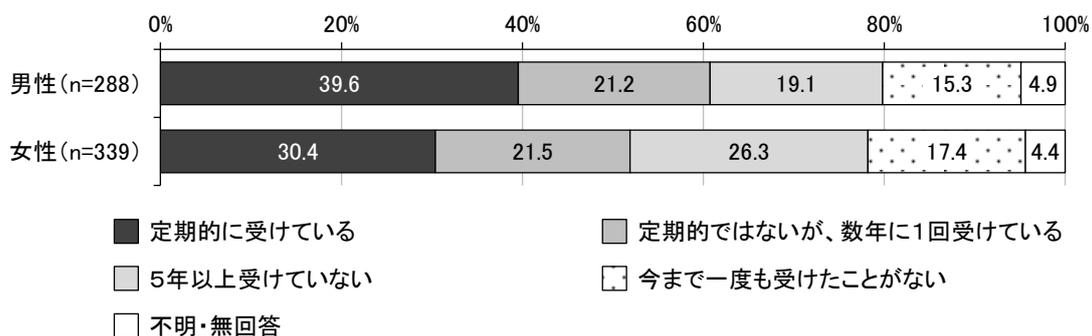
■全体



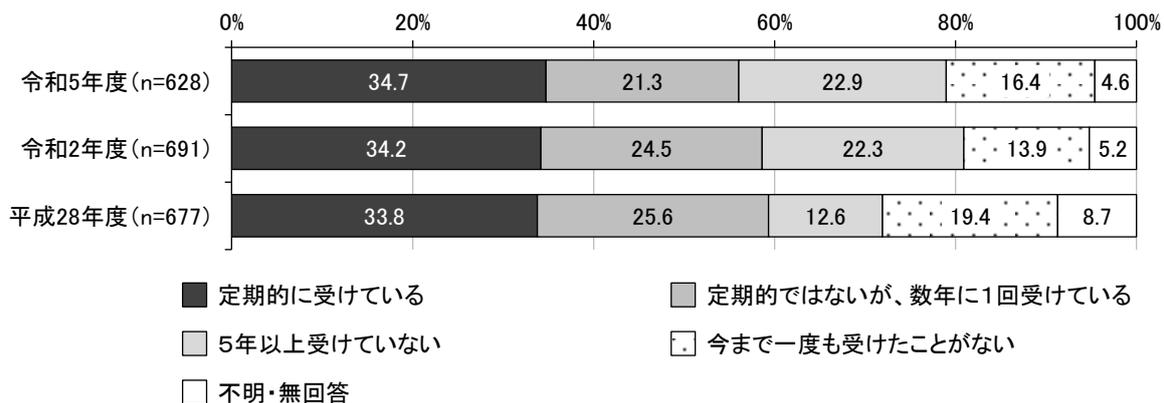
検診対象年齢（50歳以上）



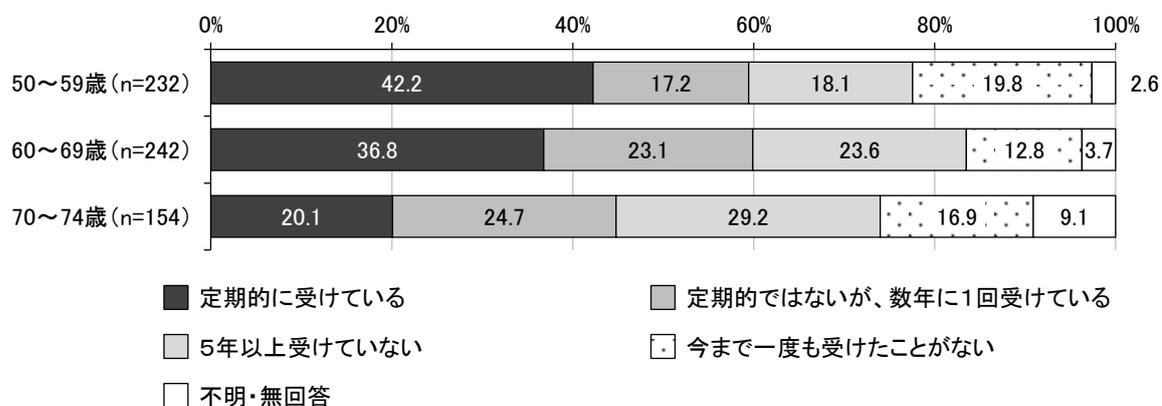
◇性別（50歳以上）



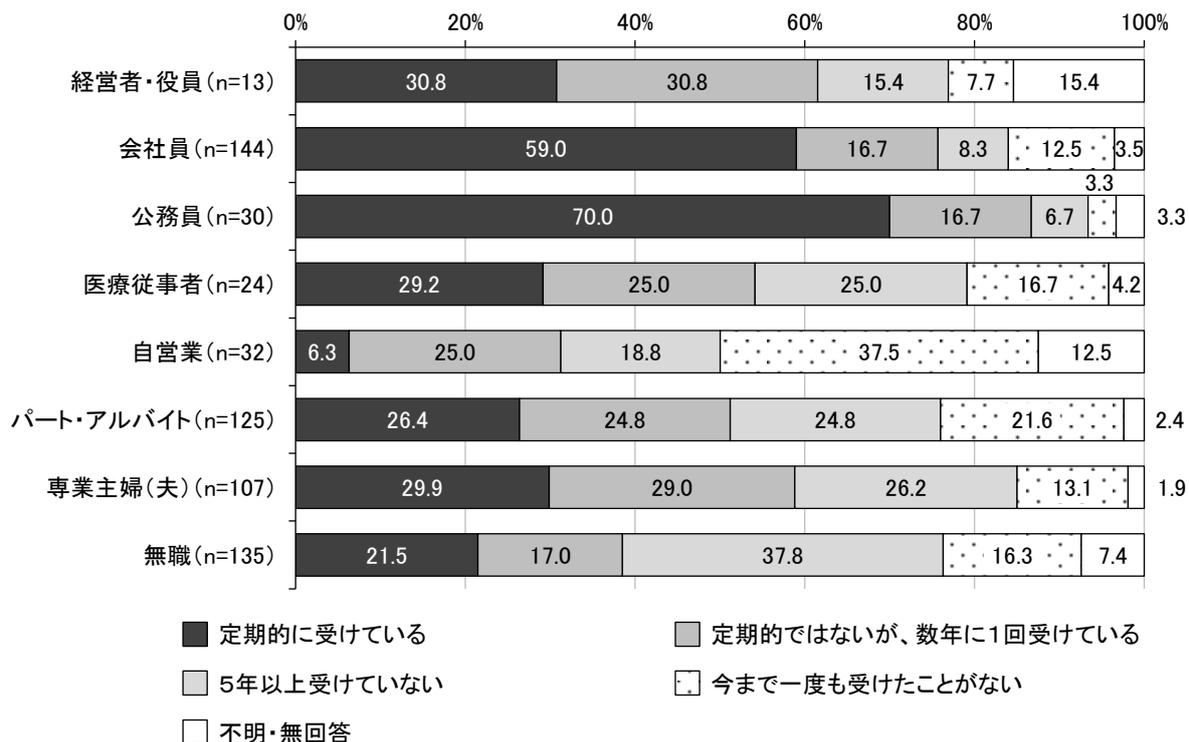
◇過去調査との比較（50歳以上）



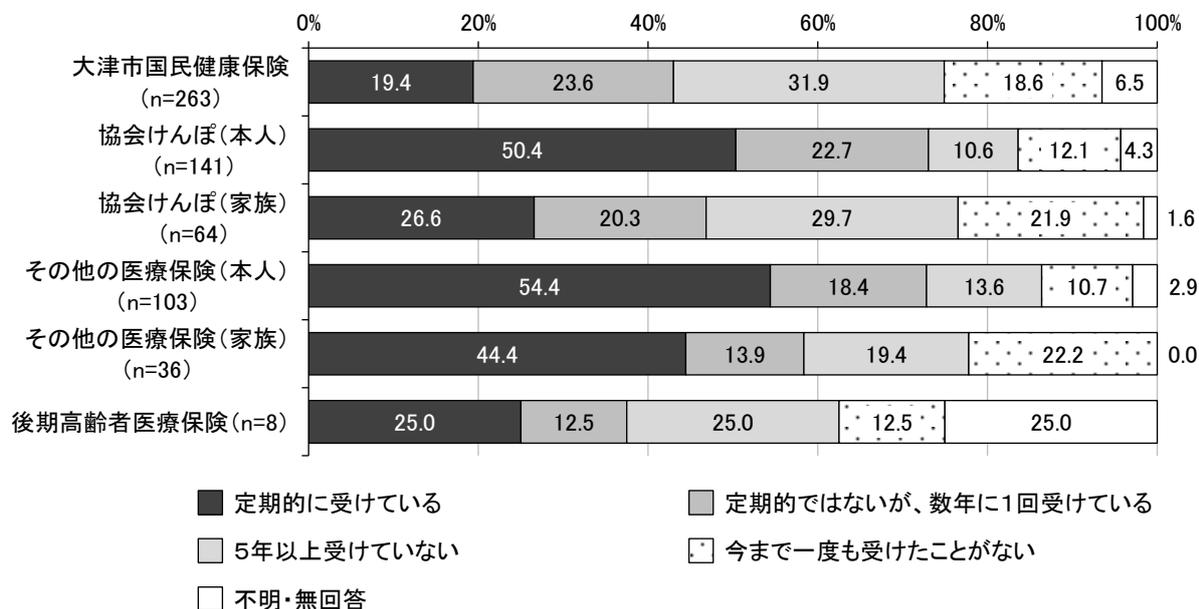
◇年齢別（50歳以上）



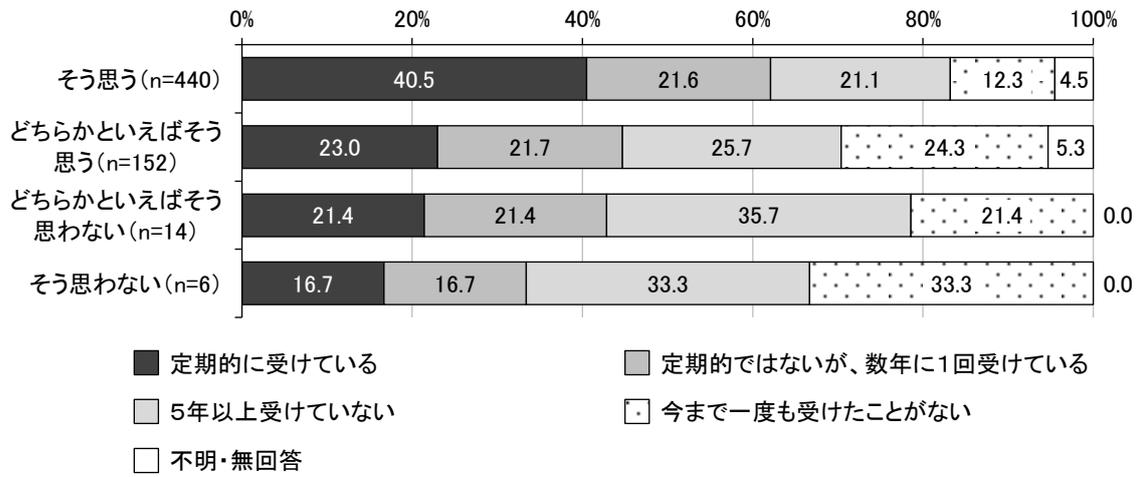
◇職業別（50歳以上）



◇保険別（50歳以上）



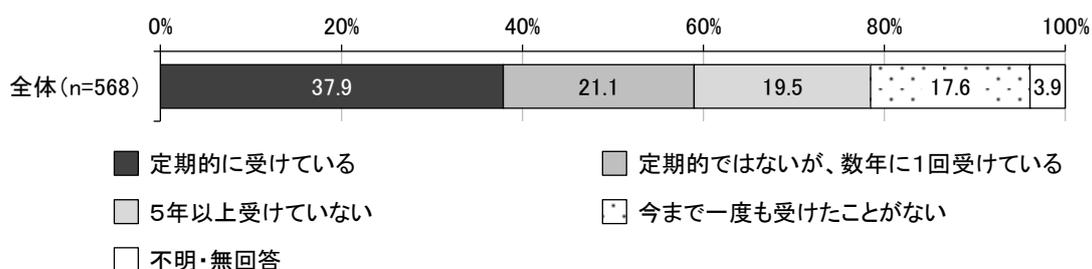
◇「問 17 胃がん検診の継続受診の状況」×「問 12 がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる重要な検査と思うか」(50 歳以上)



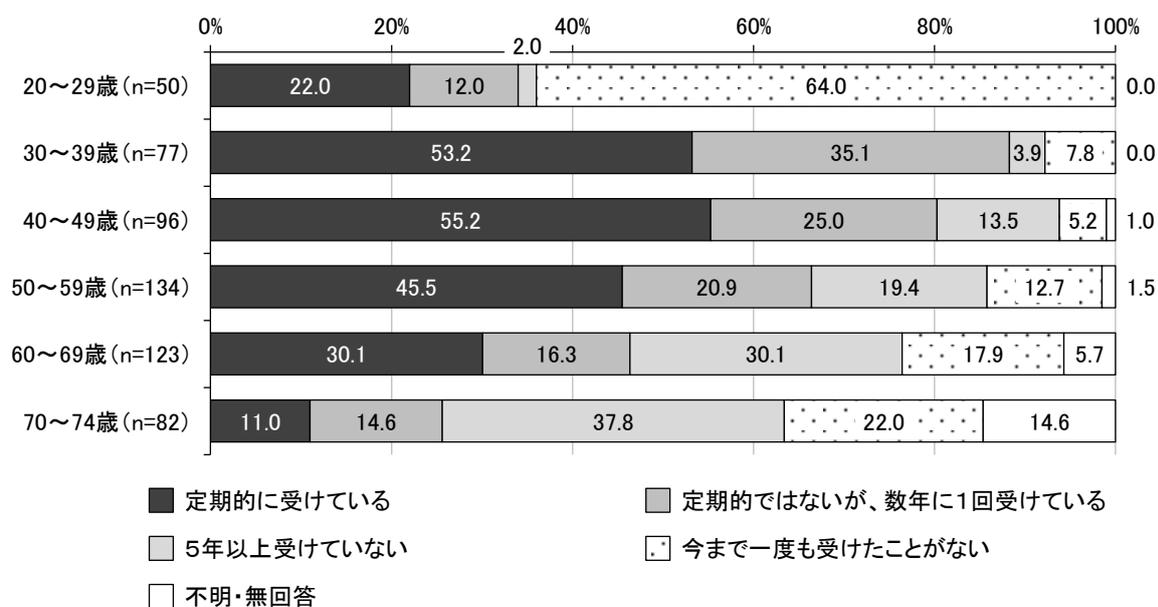
④ 子宮頸がん検診【女性のみ】（検診対象年齢：20歳以上）

子宮頸がん検診を「定期的に受けている」割合は全体で 37.9%となっており、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。年齢別にみると 30 歳から 40 歳代で 50%を超え、「定期的ではないが、数年に 1 回受けている」と合わせると、30 歳代では 88.3%となっています。また、50 歳代でも「定期的に受けている」割合が 45.5%と高くなっています。しかし、20 歳代では、「今まで 1 度も受けたことがない」割合が 64.0%となっています。

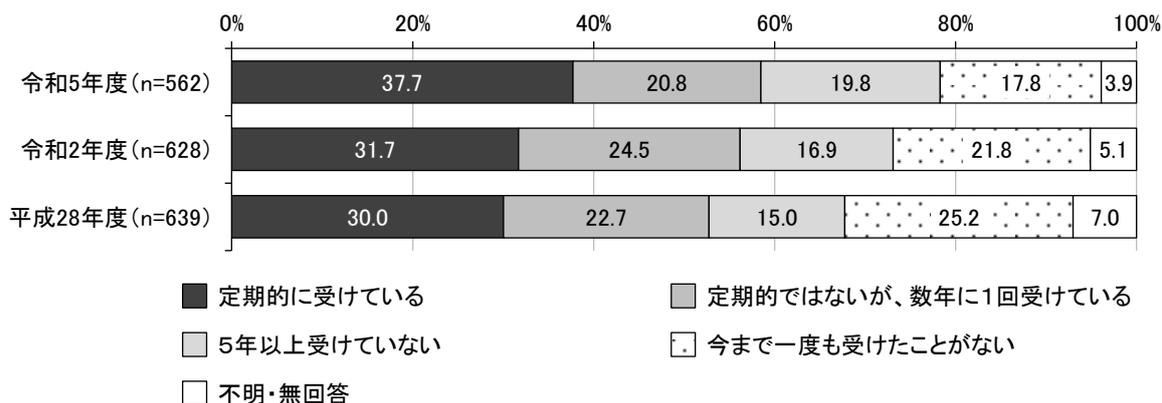
■全体



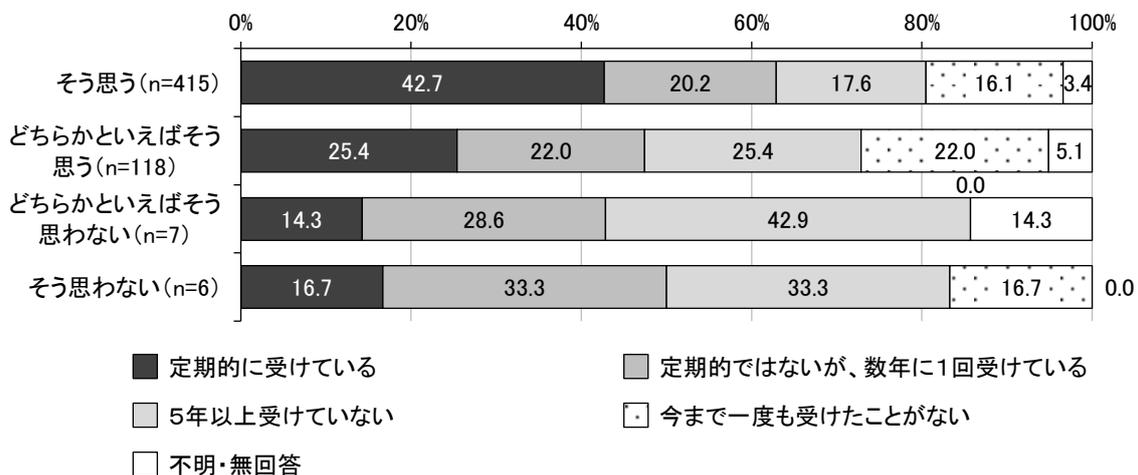
◇年齢別



◇過去調査との比較（20歳以上）

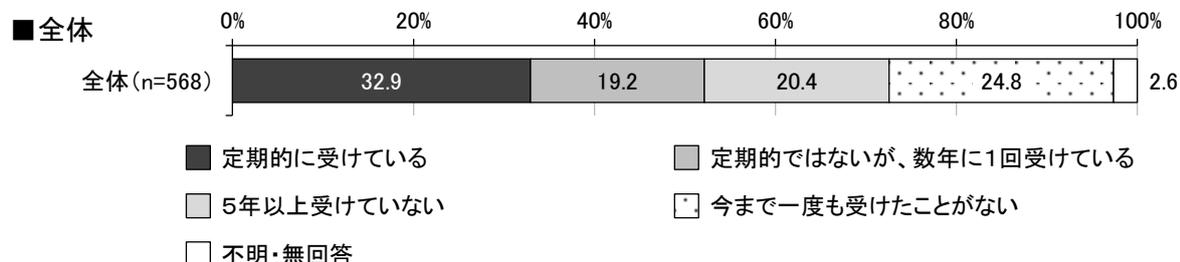


◇「問17 子宮頸がん検診の継続受診の状況」×「問12 がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる重要な検査と思うか」（20歳以上）

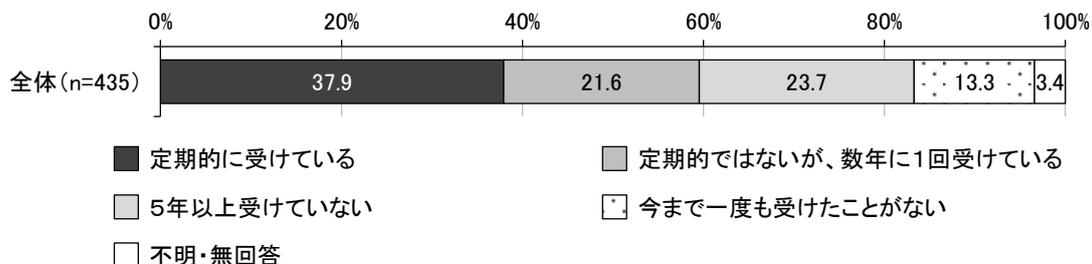


⑤ 乳がん検診【女性のみ】（検診対象年齢：40歳以上）

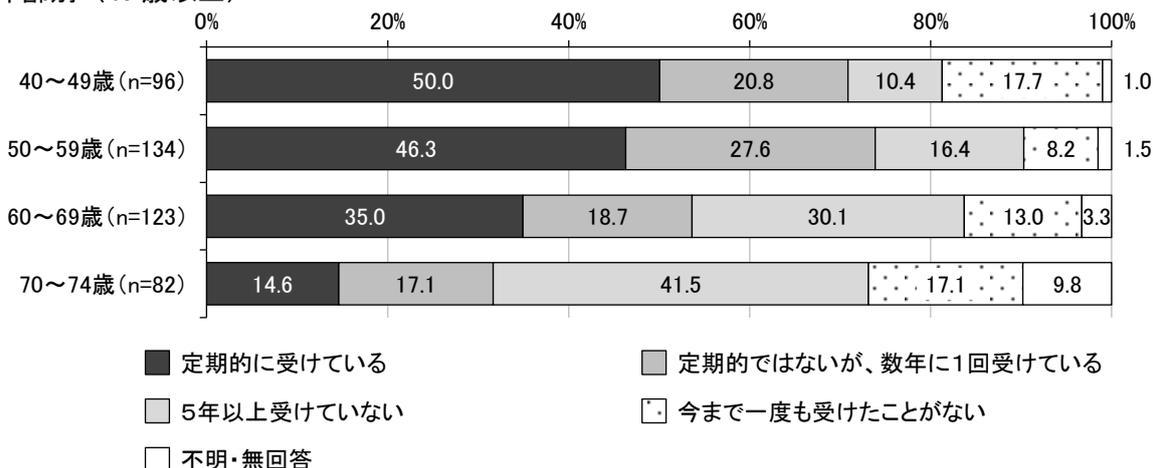
乳がん検診を「定期的に受けている」割合は全体で32.9%、検診の対象年齢では37.9%となっています。年齢別にみると40歳代が50.0%と最も高く、年齢を重ねるとともに「定期的に受けている」の割合が低くなっています。また、がん検診を重要な検査と思っている人ほど「定期的に受けている」割合が高くなっています。



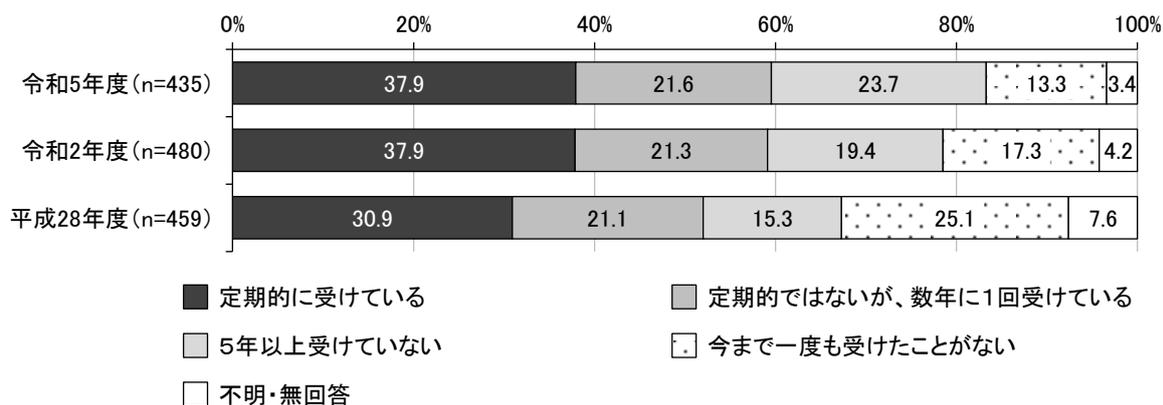
検診対象年齢（40歳以上）



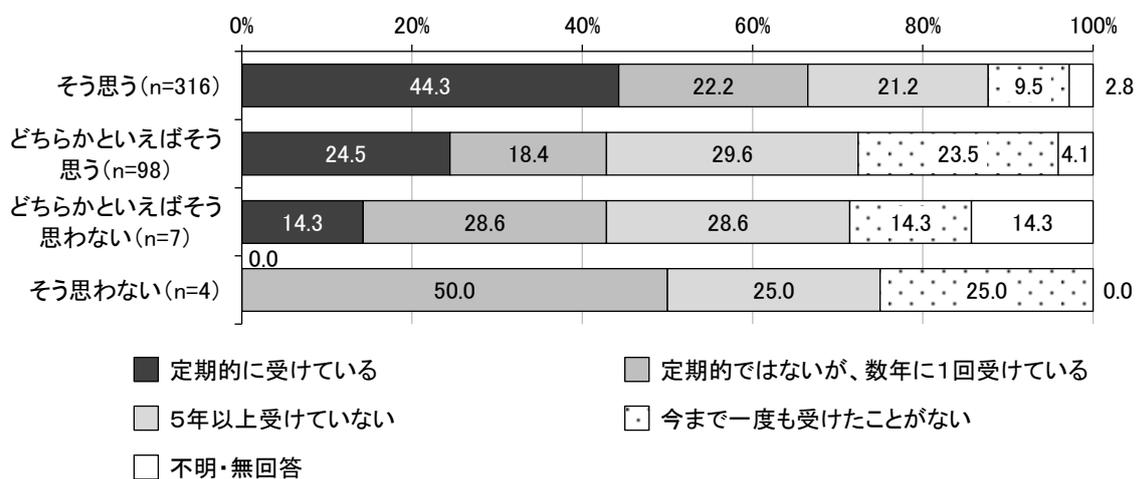
◇ 年齢別（40歳以上）



◇過去調査との比較（検診対象年齢 40 歳以上）



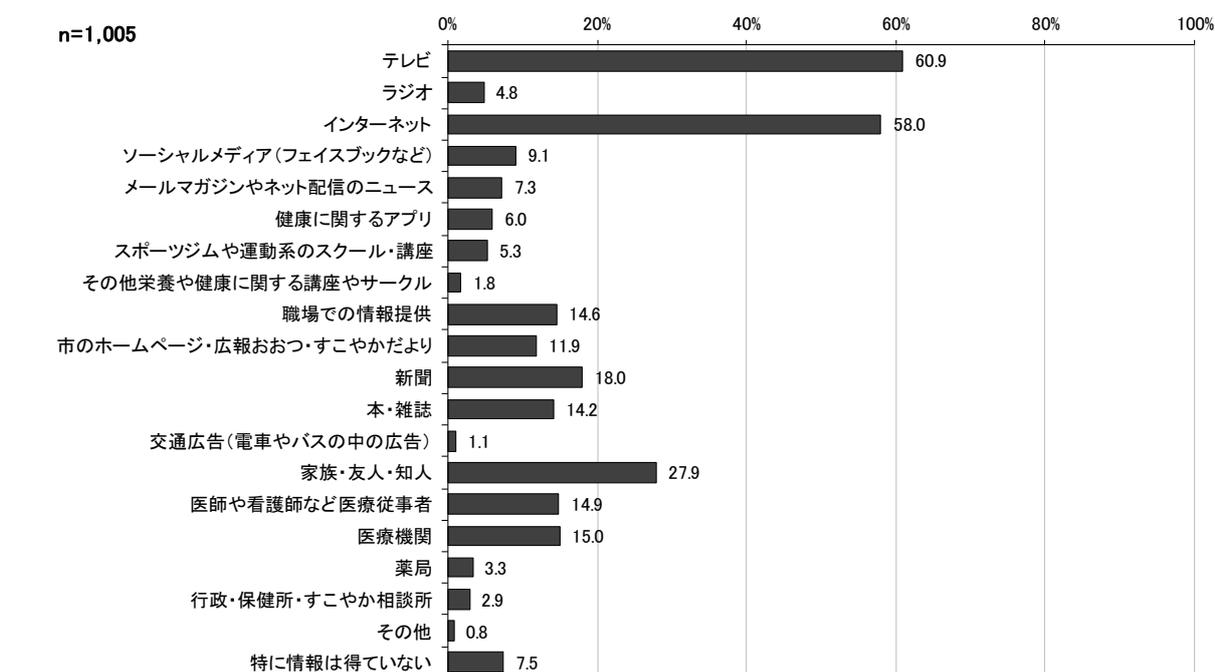
◇「問 17 乳がん検診の継続受診の状況」×「問 12 がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる重要な検査と思うか」（40 歳以上）



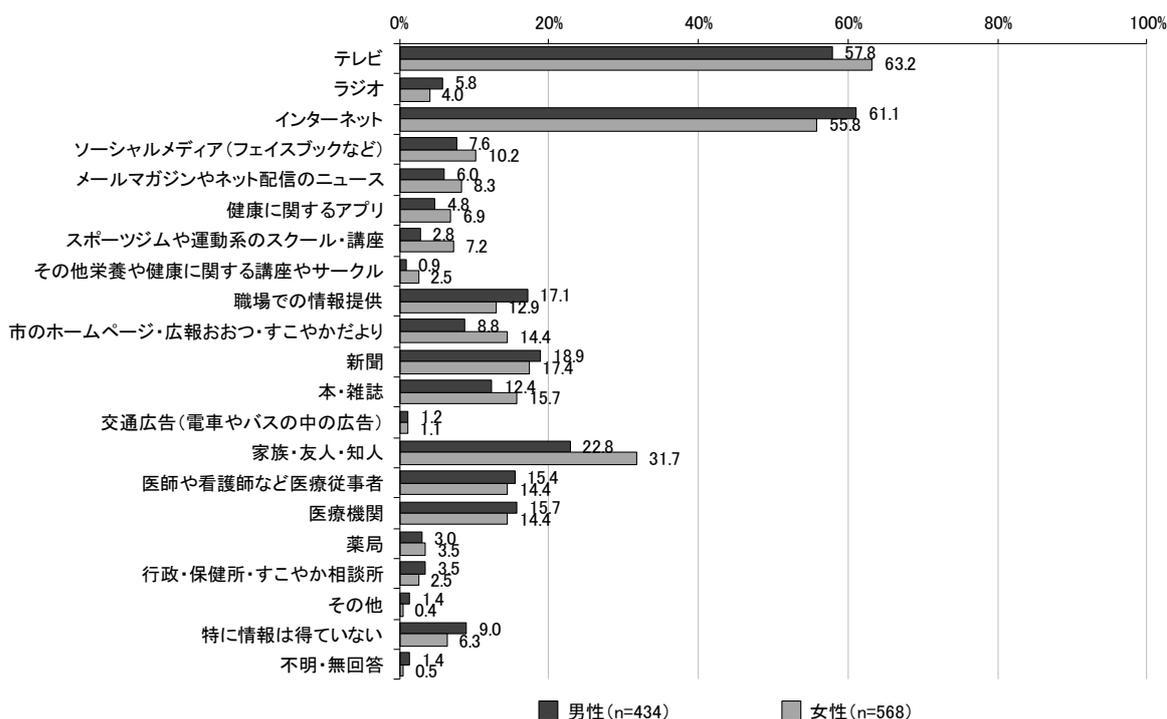
5. 情報の入手方法やニーズについて

問 18 あなたは、健康づくりに役立つ情報をどこから得ていますか。(MA)

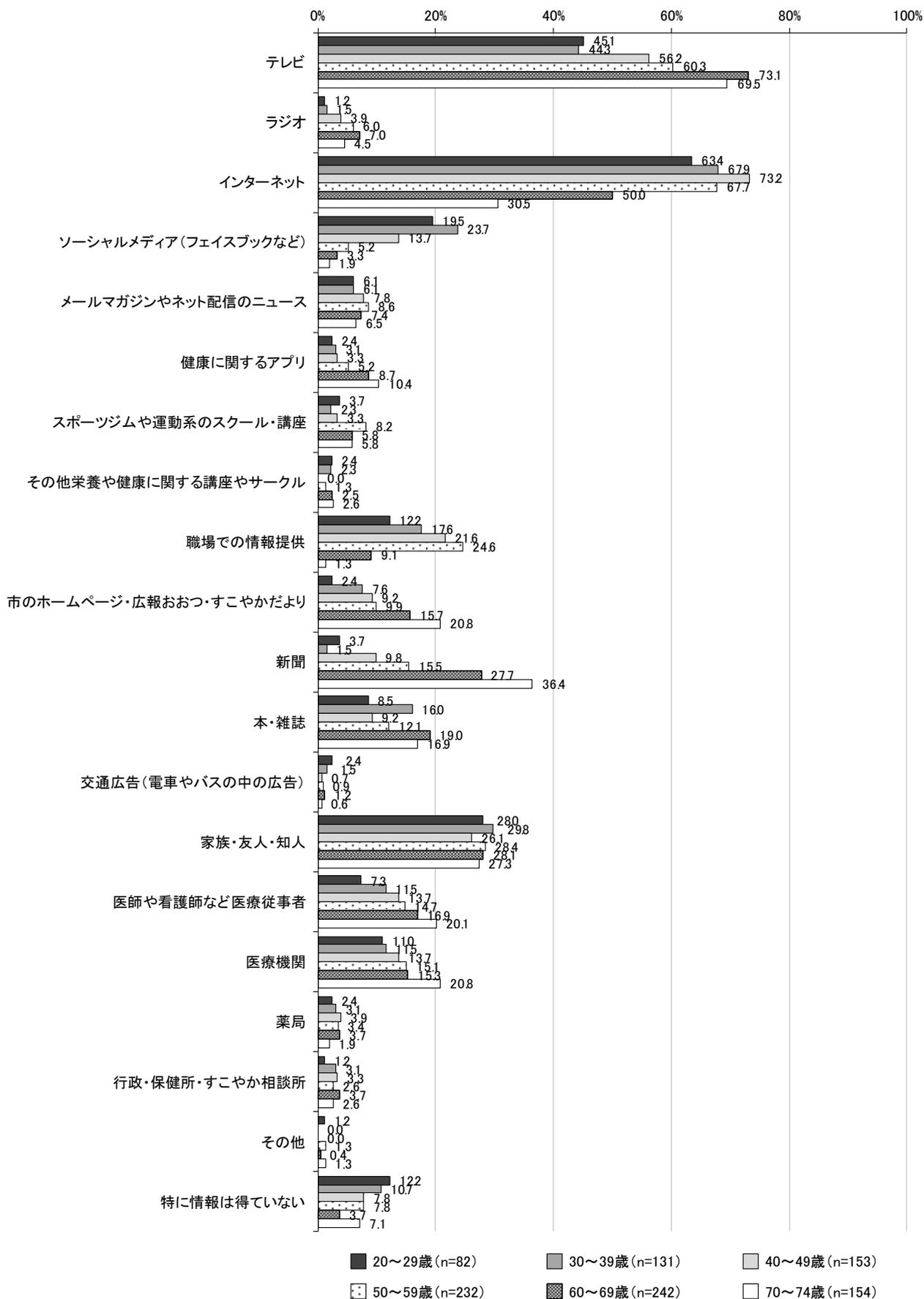
健康づくりに役立つ情報を「テレビ」から得ている割合が60.9%と最も高く、次いで「インターネット」(58.0%)となっています。性別では女性の方が「家族・友人・知人」の割合が高くなっています。年齢別にみると、20歳から50歳代では「インターネット」、60歳から70歳代では「テレビ」「新聞」が高くなっています。年齢を重ねるとともに「市のホームページ・広報おおつ・すこやかだより」で情報を得る割合は高くなっています。



■ 性別

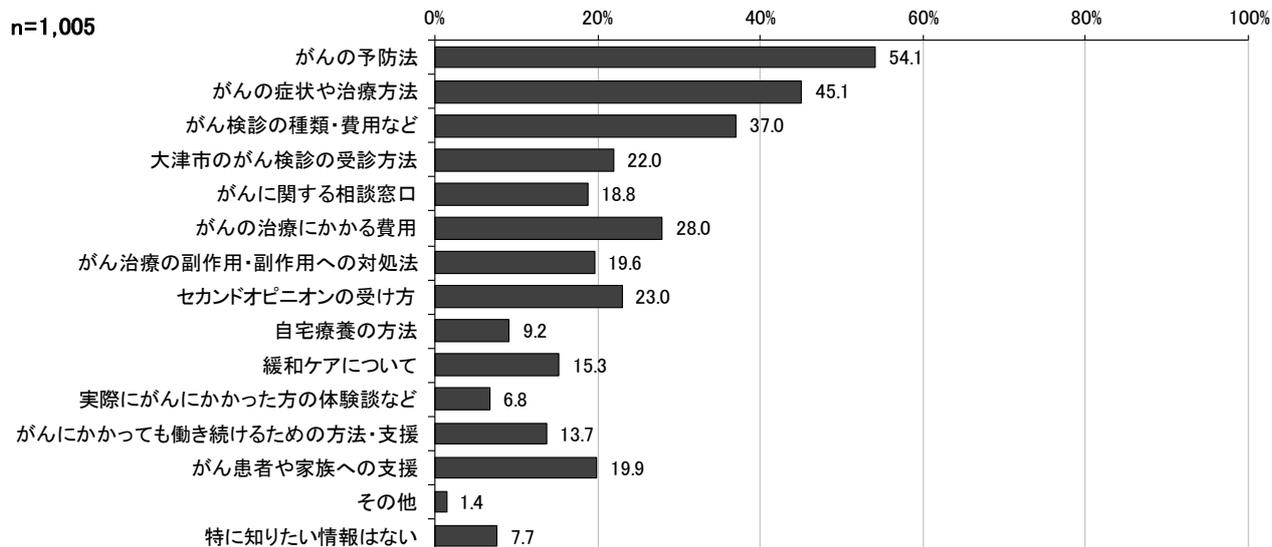


■ 年齢別

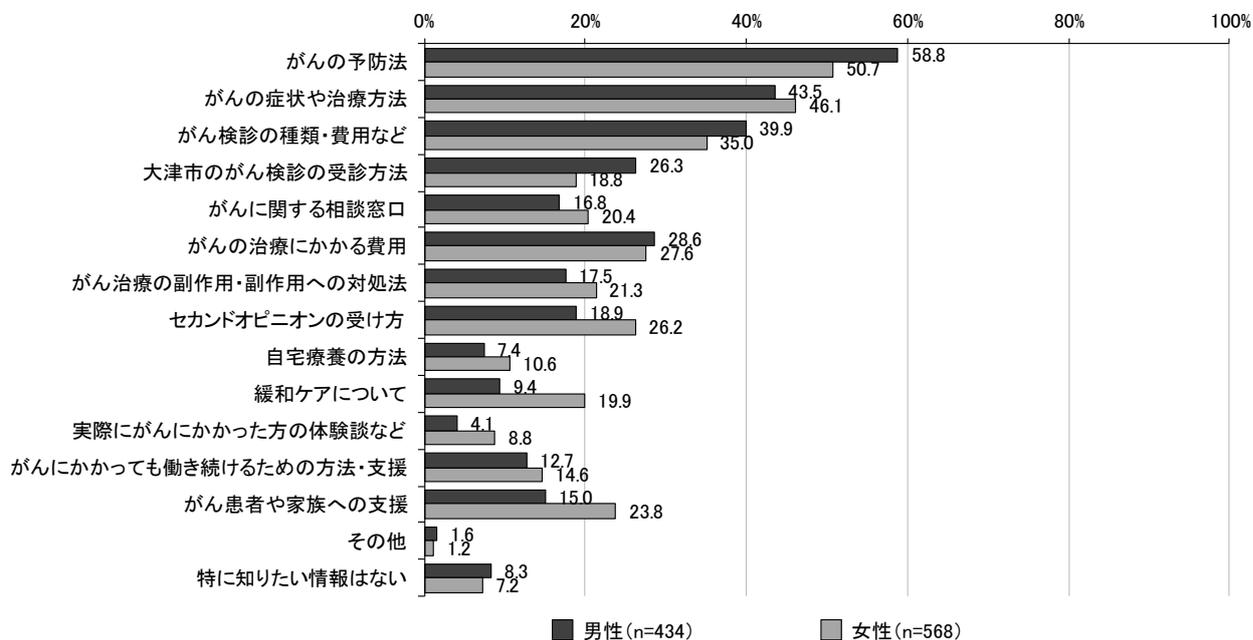


問 19 あなたは、がんに関してどのような情報が知りたいですか。(MA)

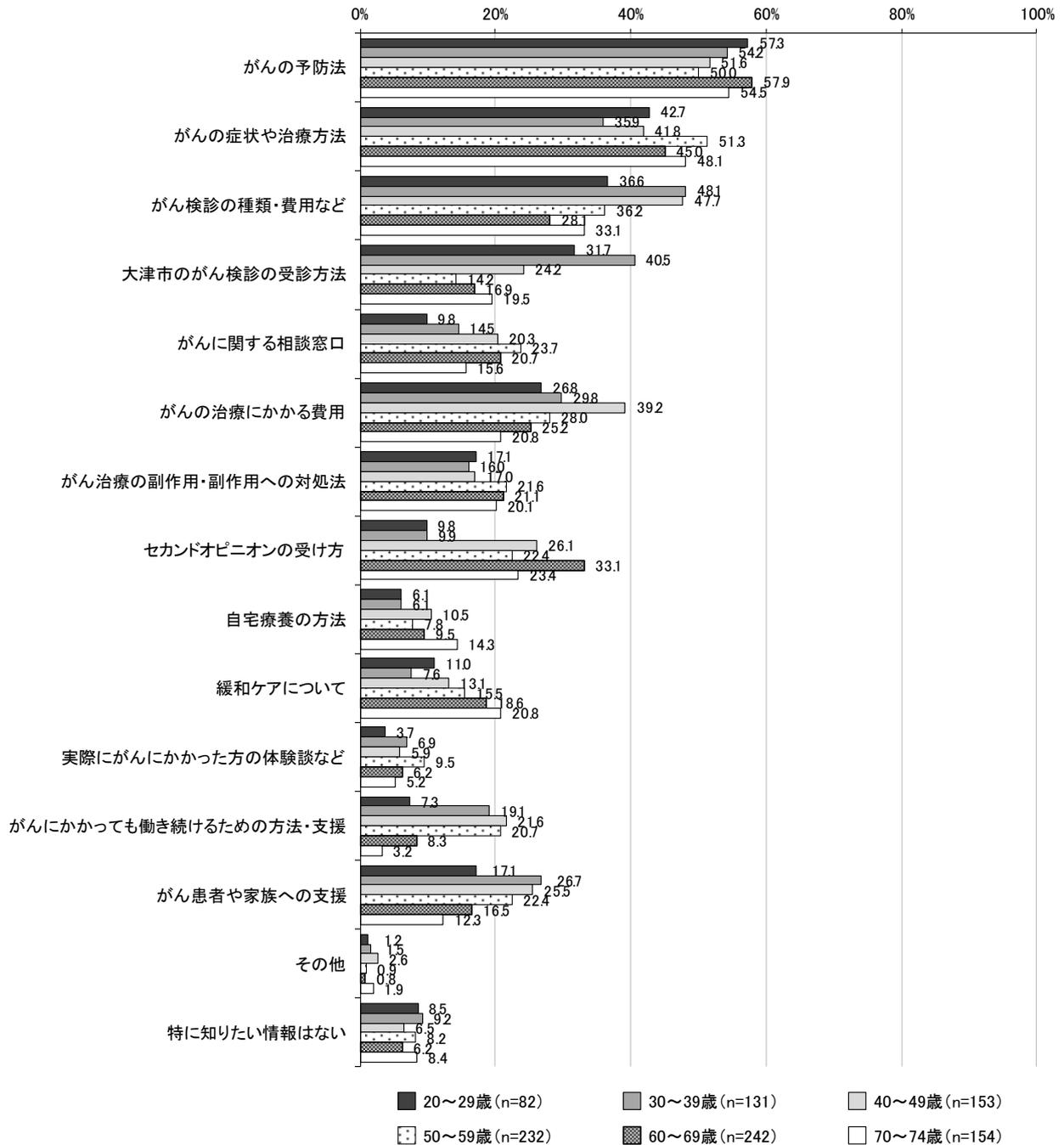
がんに関して知りたい情報としては、「がんの予防法」が最も高く、次いで「がんの症状や治療方法」「がん検診の種類・費用など」となっています。性別にみると、女性では「がん患者や家族への支援」(23.8%)、「緩和ケアについて」(19.9%)が男性に比べ高くなっています。年齢別にみると、20歳から30歳代では「大津市のがん検診の受診方法」の割合が他の年齢に比べ高くなっています。



■ 性別



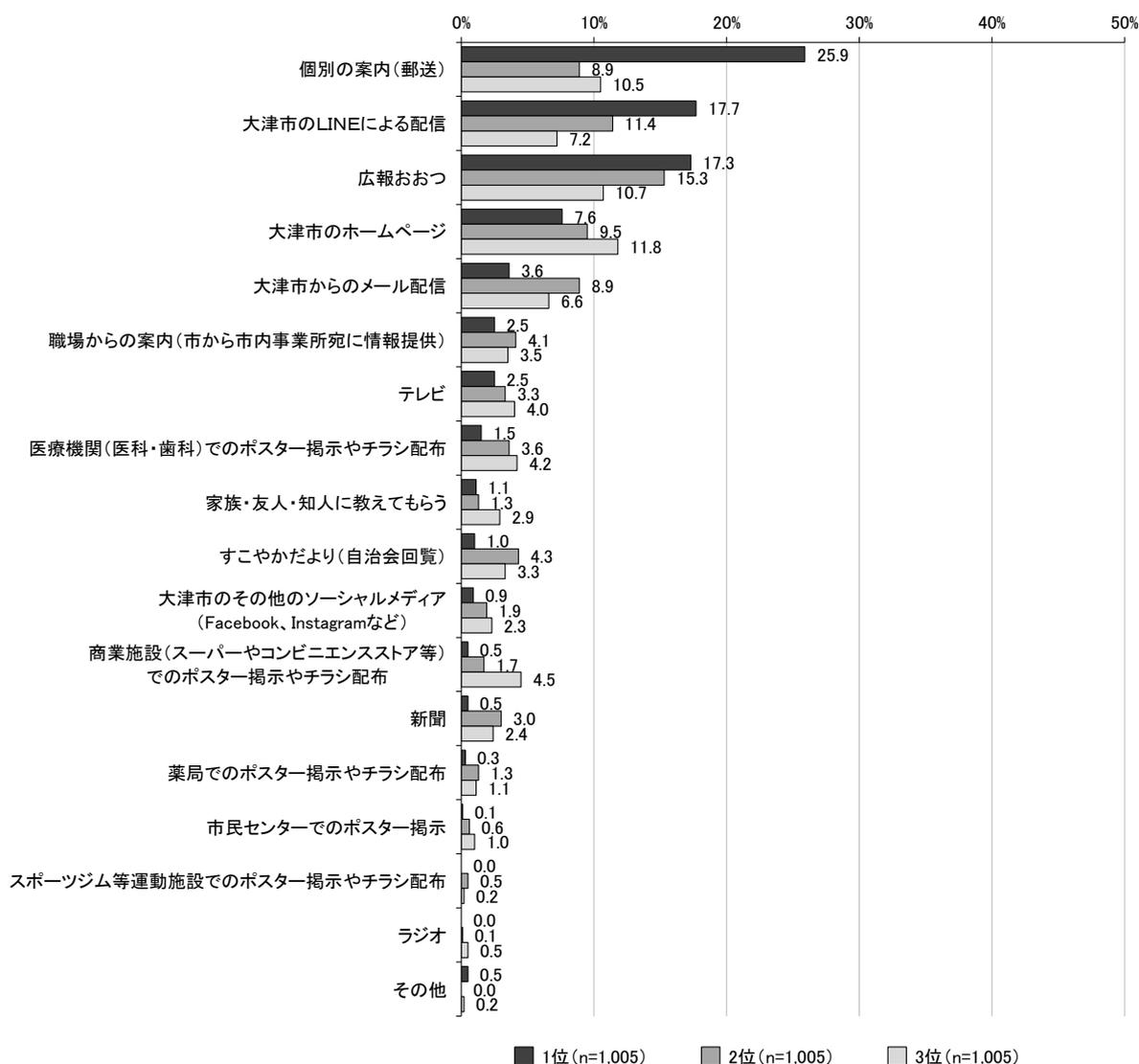
■ 年齢別



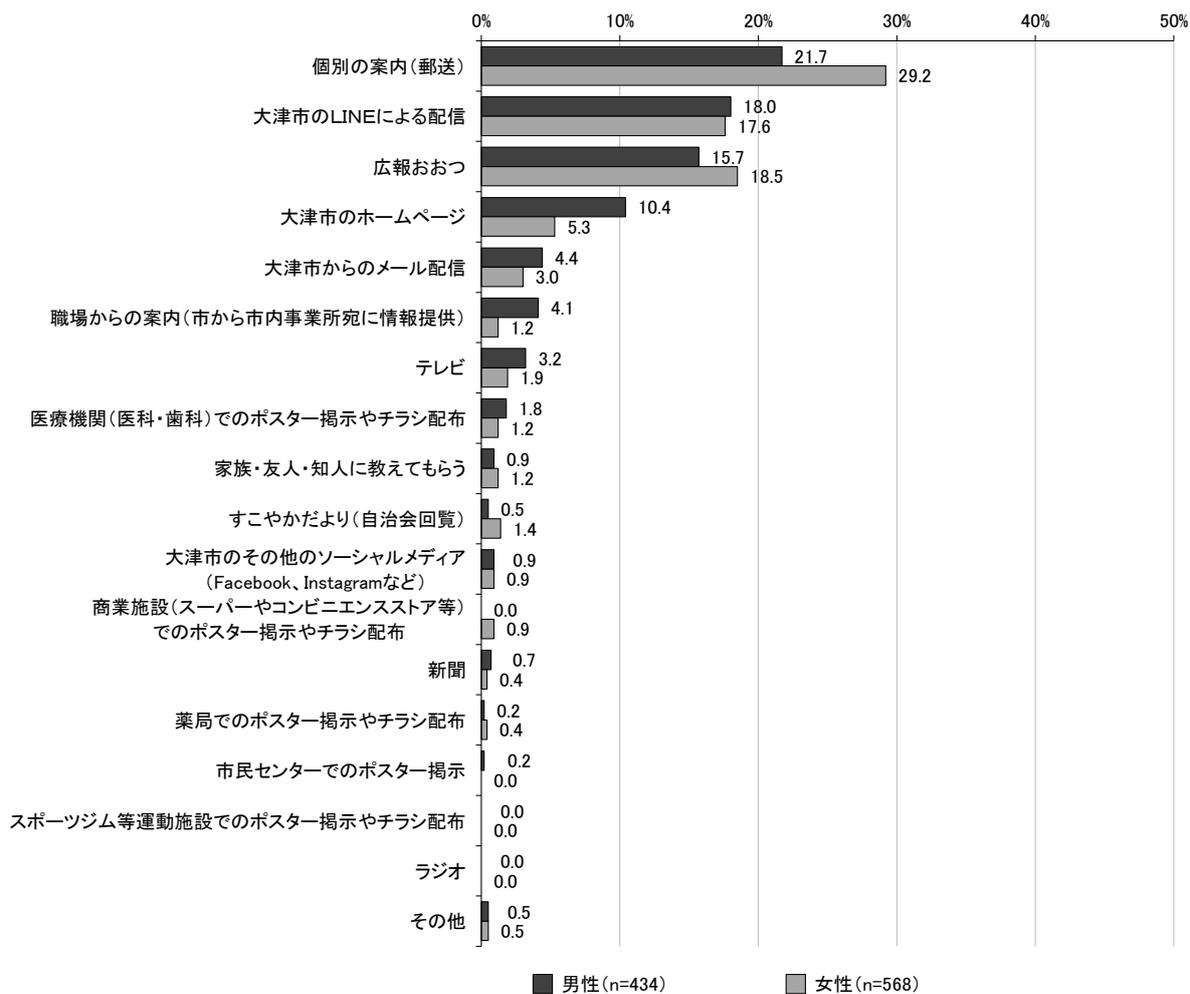
問 20 あなたは、大津市のがん検診に関する情報について、どのような方法で知りたいですか。希望する3つについて順位をつけてください。

(一番希望するもの→1)

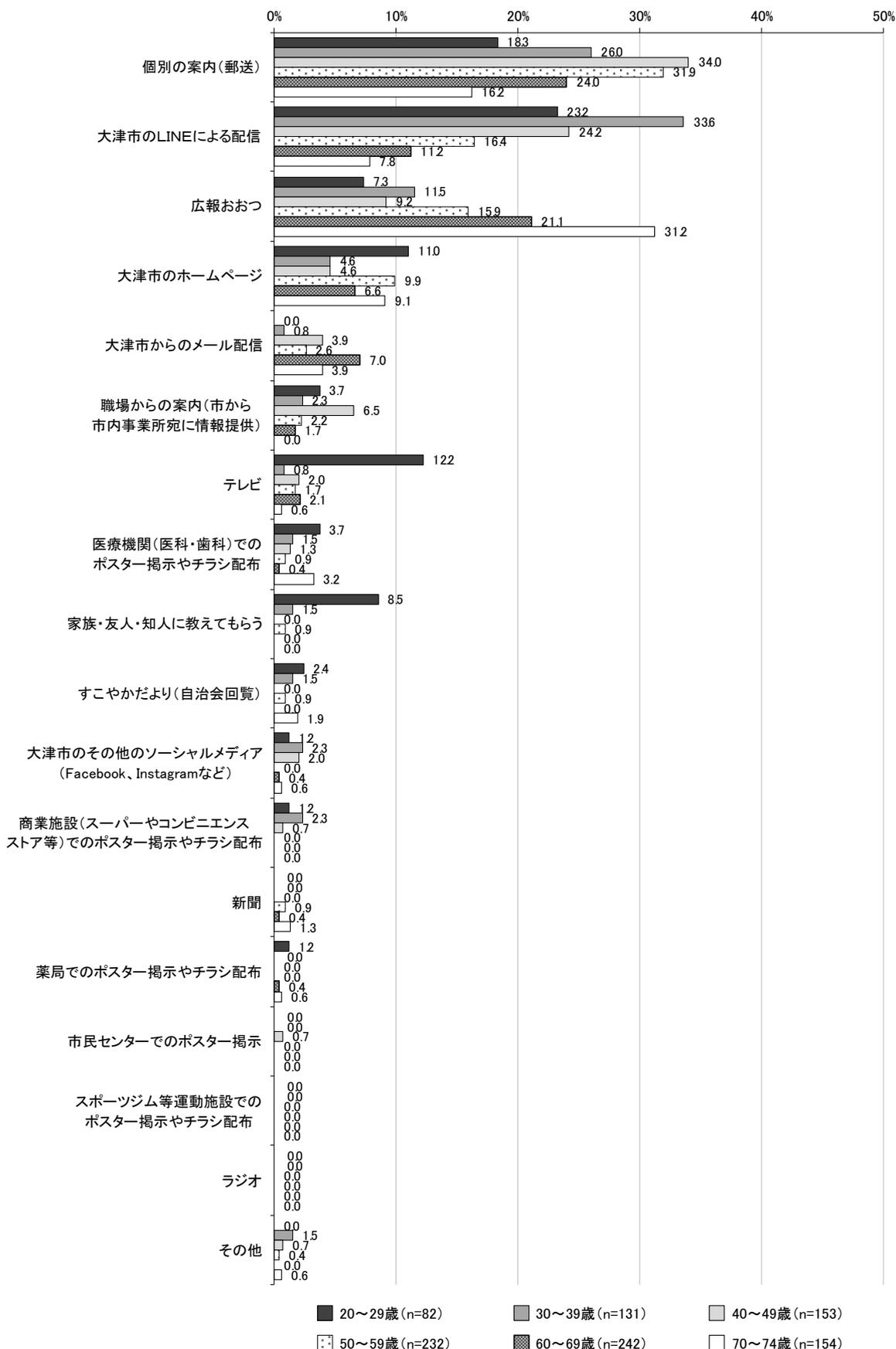
がんに関して知りたい方法として一番希望するものでは、「個別の案内（郵送）」が最も高く、次いで「大津市のLINEによる配信」「広報おおつ」となっています。性別にみると、女性で「個別の案内（郵送）」が男性に比べ高くなっています。年齢別にみると、20歳から30歳代では「大津市のLINEによる配信」が、40歳から60歳代では「個別の案内（郵送）」が、70歳以上では「広報おおつ」の割合が高くなっています。また、20歳代では「テレビ」「家族・友人・知人に教えてもらう」も高くなっています。



■ 性別



■ 年齢別

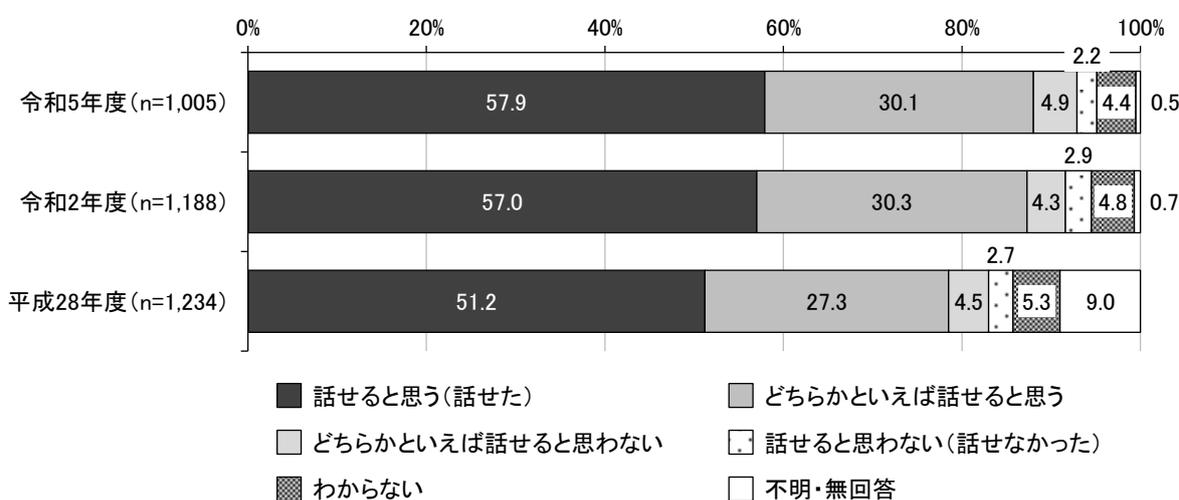


6. がんに関する相談先について

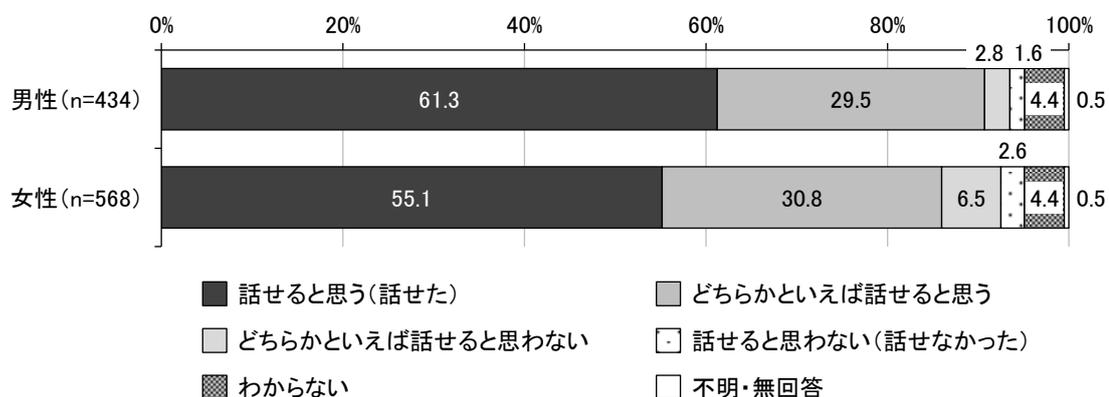
問 21 あなたご自身が、がんと診断されたら、家族や友人など誰か身近な人にがんのことを自由に話せると思いますか。また、話せましたか。(S A)

がんと診断された場合、身近な人にがんのことを自由に「話せると思う(話せた)」と回答した割合は57.9%となっており、「どちらかといえば話せると思う」を合わせると88.0%と高く、過去調査と比べて年々高くなっています。女性より男性の方が「話せると思う(話せた)」と回答した割合が高く、年齢別にみると、30歳から40歳代で「話せると思う(話せた)」割合がやや低くなっています。また、がんと診断された方をみると「話せると思う(話せた)」と回答した割合が84.4%と高くなっています。

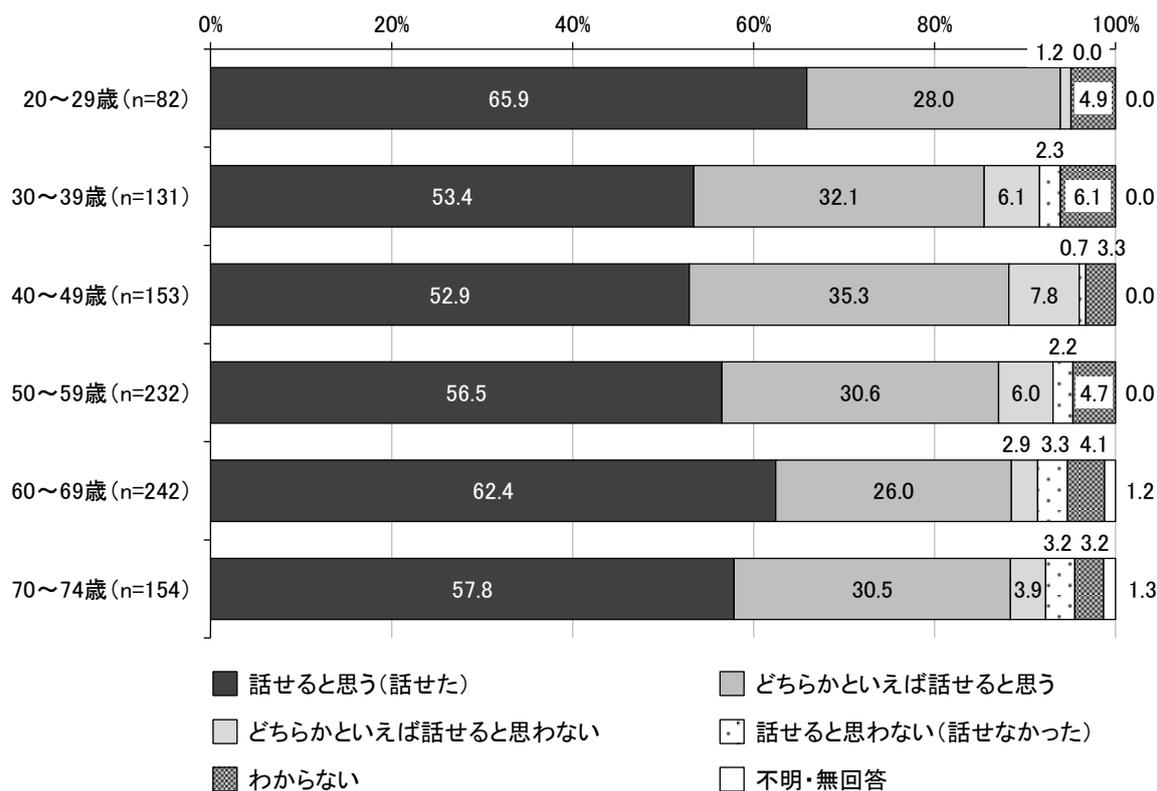
■ 過去調査との比較



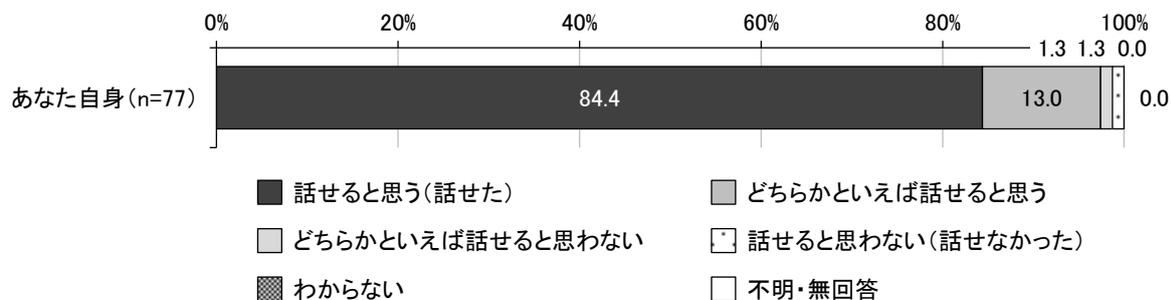
■ 性別



■ 年齢別

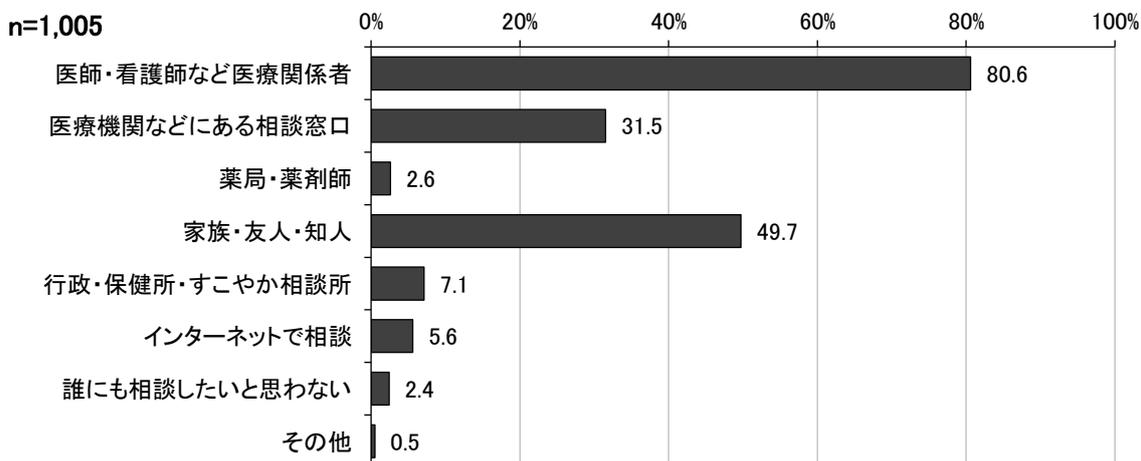


■ 「問 21 あなたご自身ががんと診断されたら、誰か身近な人にがんのことを自由に話せると思えますか。また、話せましたか。」 × 「問 8 身近にがんにかかった人はいますか」で「あなた自身」を選択した人

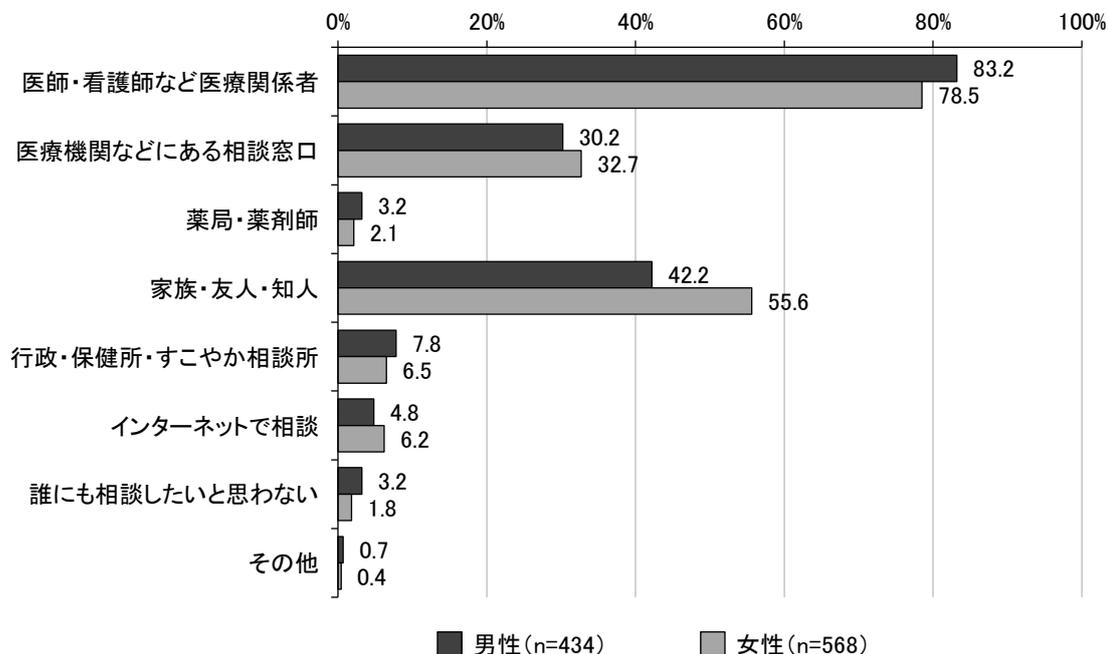


問 22 あなたは、がんやがんの予防・治療方法等について誰に相談したいと思いますか。また、相談したことがあれば誰に相談しましたか。(MA)

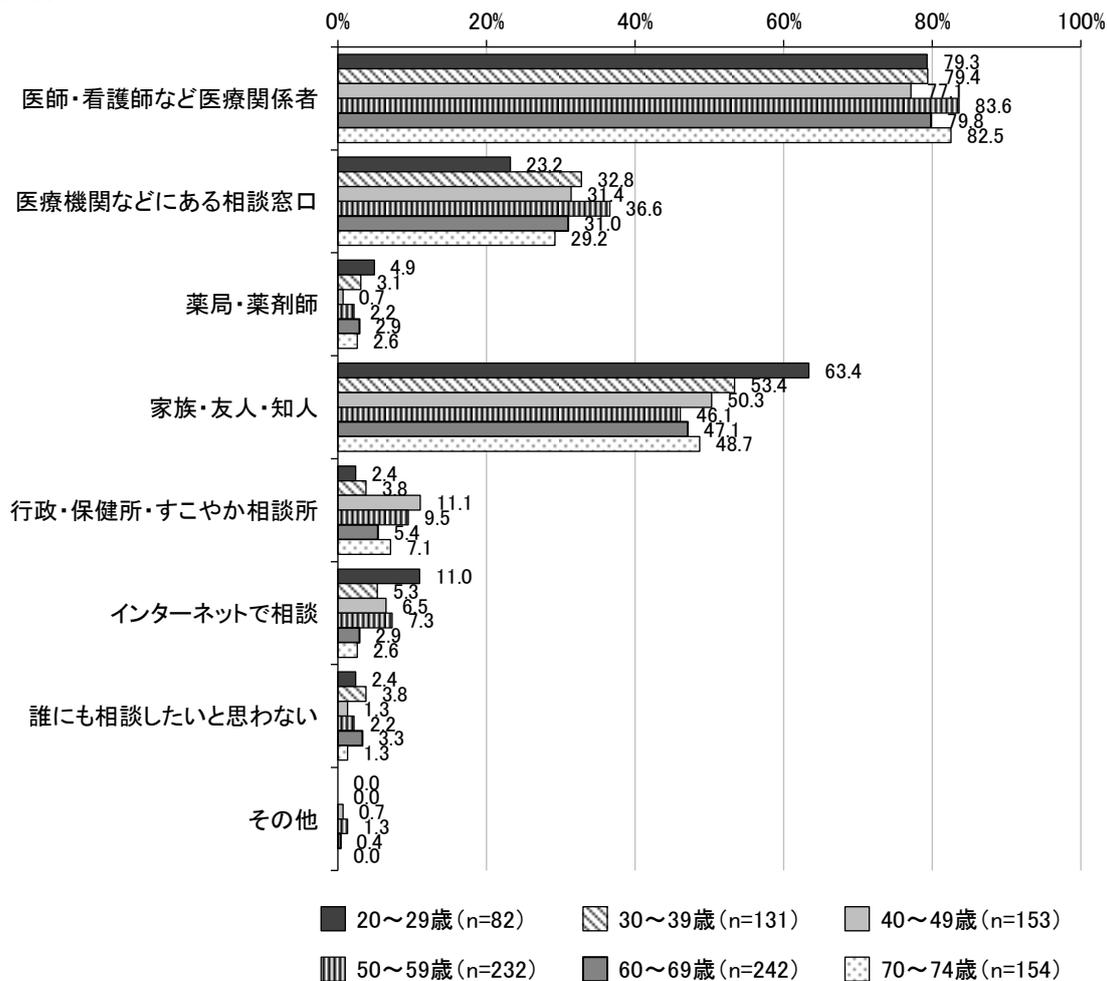
がんやがんの予防・治療法等について相談したい相手としては「医師・看護師など医療関係者」が80.6%と最も高く、次いで「家族・友人・知人」となっています。性別にみると、女性は男性より「家族・友人・知人」の割合が高くなっています。年齢別にみると、20歳代では、他の年代に比べて「家族・友人・知人」の割合が高くなっています。



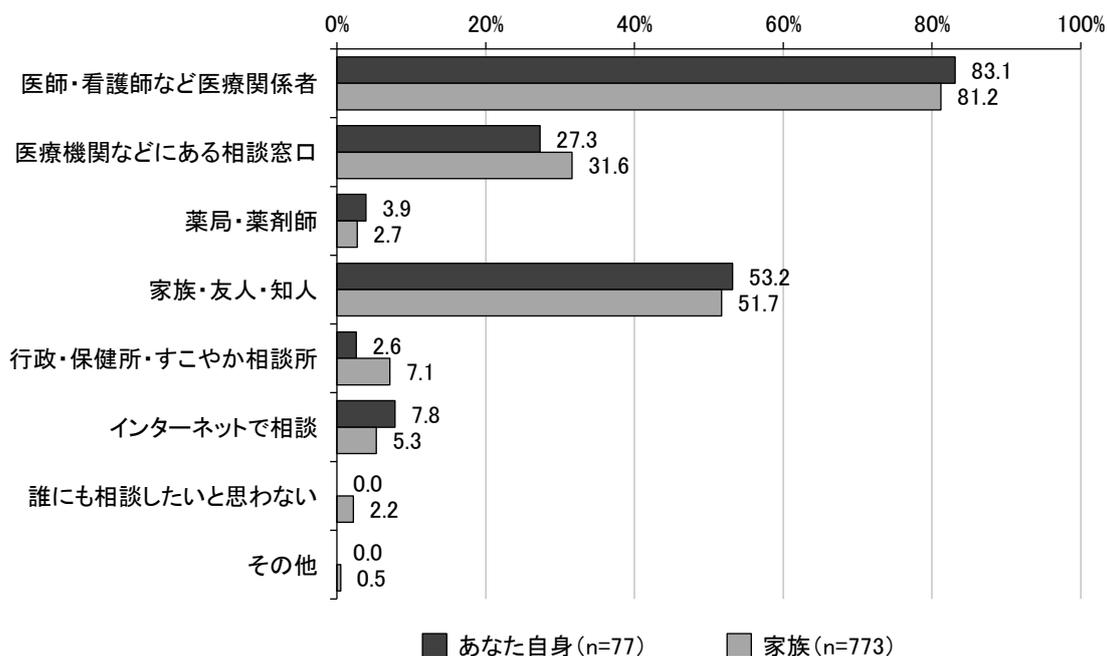
■ 性別



■ 年齢別



■ 「問 22 がんやがんの予防・治療方法等について誰に相談したいと思いますか。また、相談したことがあれば誰に相談しましたか」 × 「問 8 身近にがんにかかった人はいますか」で「あなた自身」及び「家族」を選択



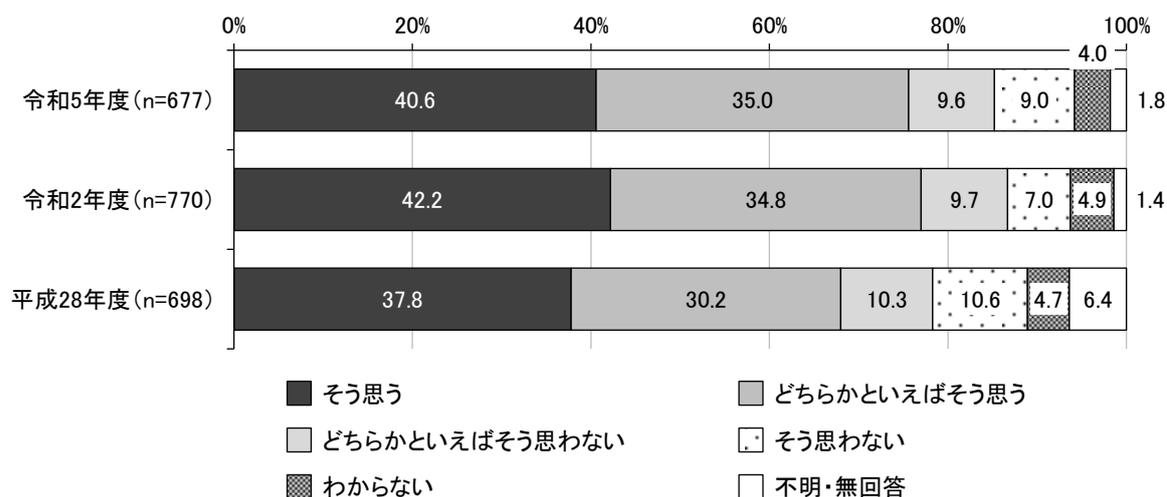
7. がんになった場合の就労継続について

【現在働いている方】

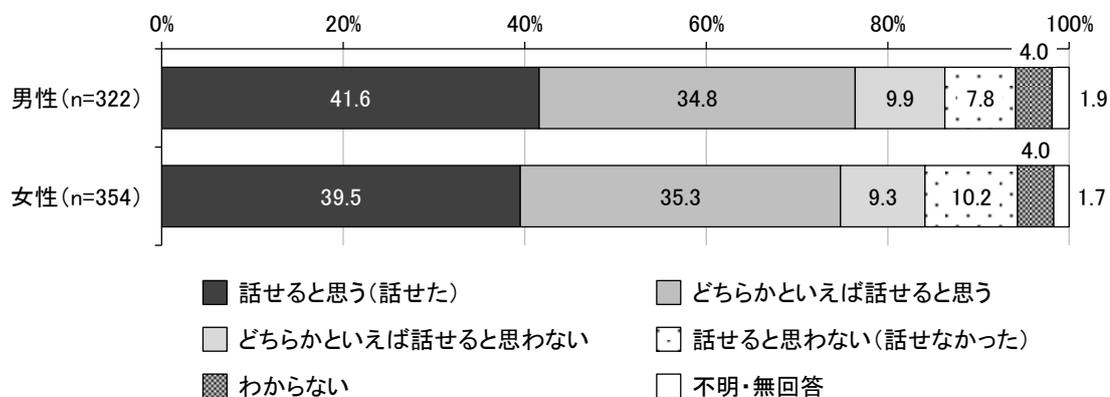
問 23 あなたが、がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。(S A)

がんの治療や検査のために2週間に1度程度通院する必要がある場合においても働き続けられる環境かどうかについて、「そう思う」が40.6%と最も高くなっています。また、「どちらかといえばそう思う」を含めた『そう思う計』は、75.6%となっています。年齢別にみると、20歳代では「そう思う」が25.4%と低く、「どちらかといえばそう思う」を含めた『そう思う計』でも61.0%となっています。がんと診断された方についても「そう思う」が52.3%と高く、「どちらかといえばそう思う」を含めると86.4%となっています。

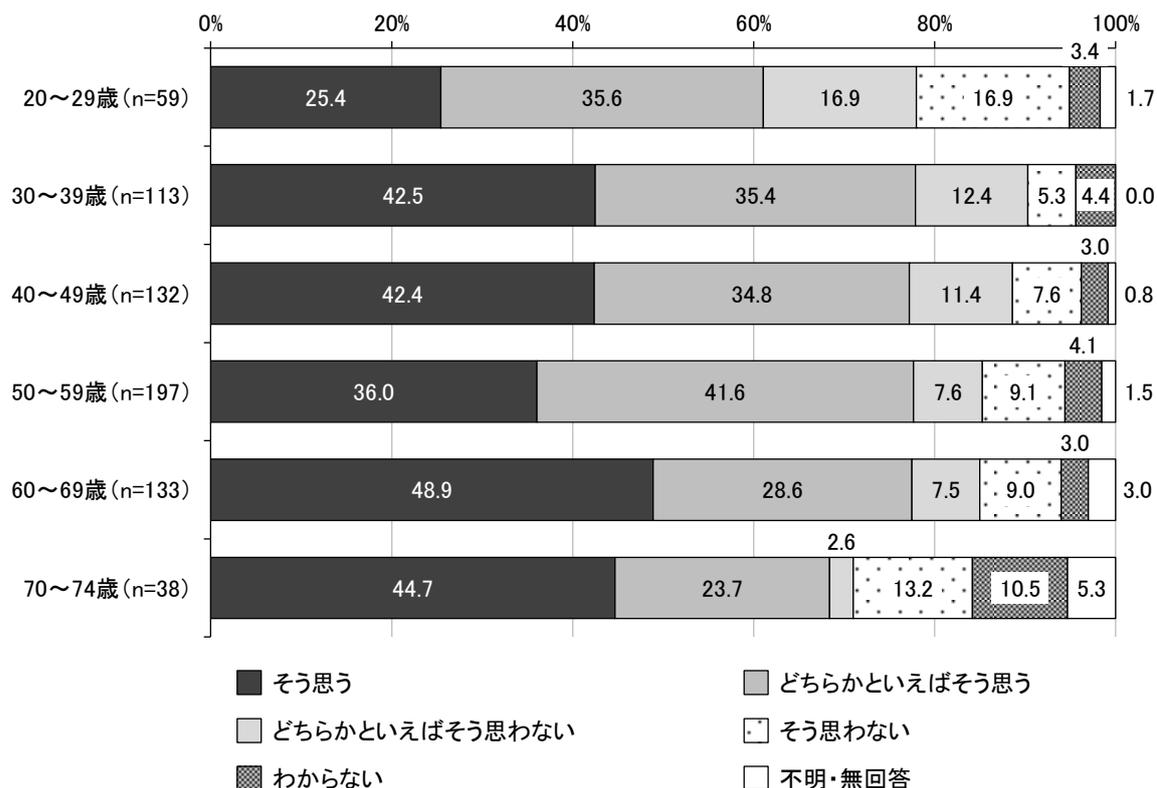
■ 過去調査との比較



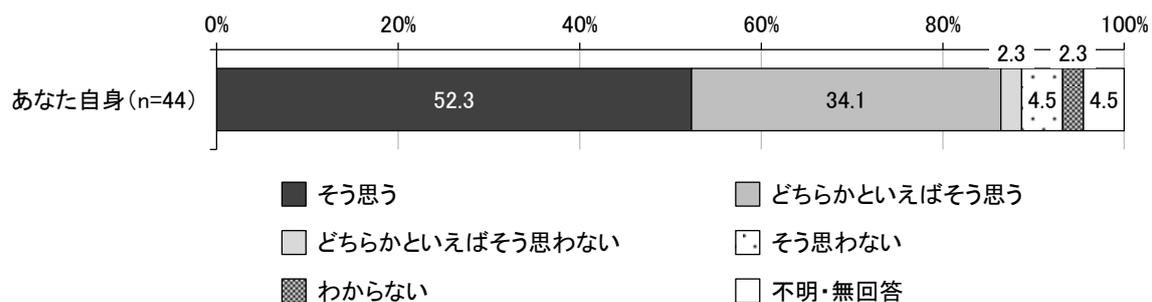
■ 性別



■ 年齢別

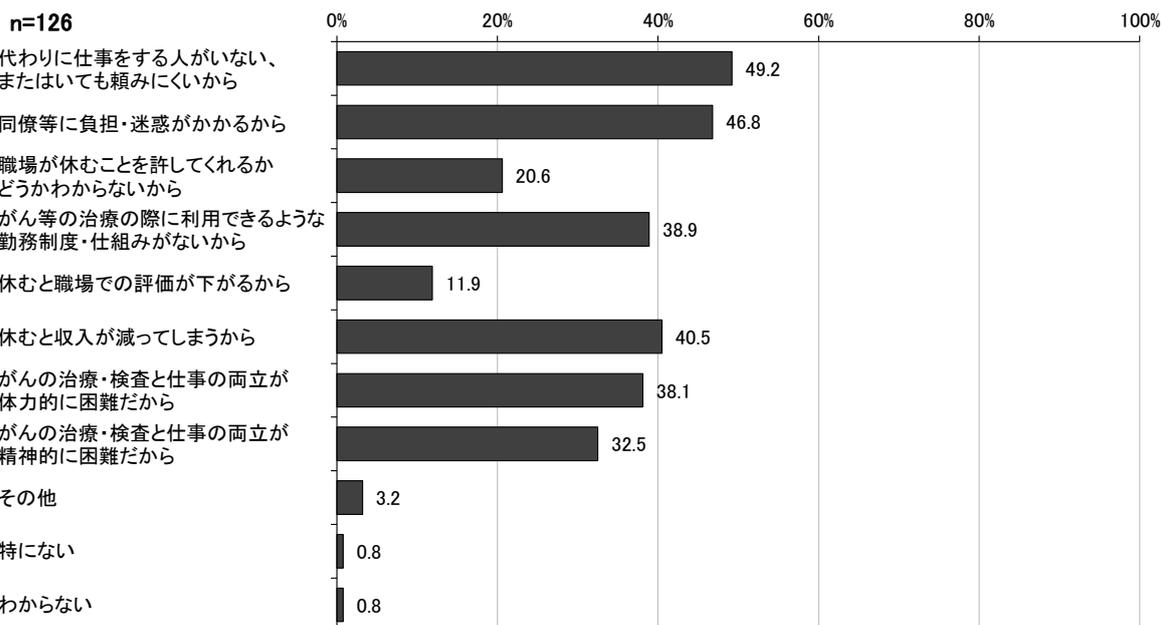


■ 「問 23 あなたが、がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか」 × 「問 8 身近にがんにかかった人はいますか」で「あなた自身」を選択した人

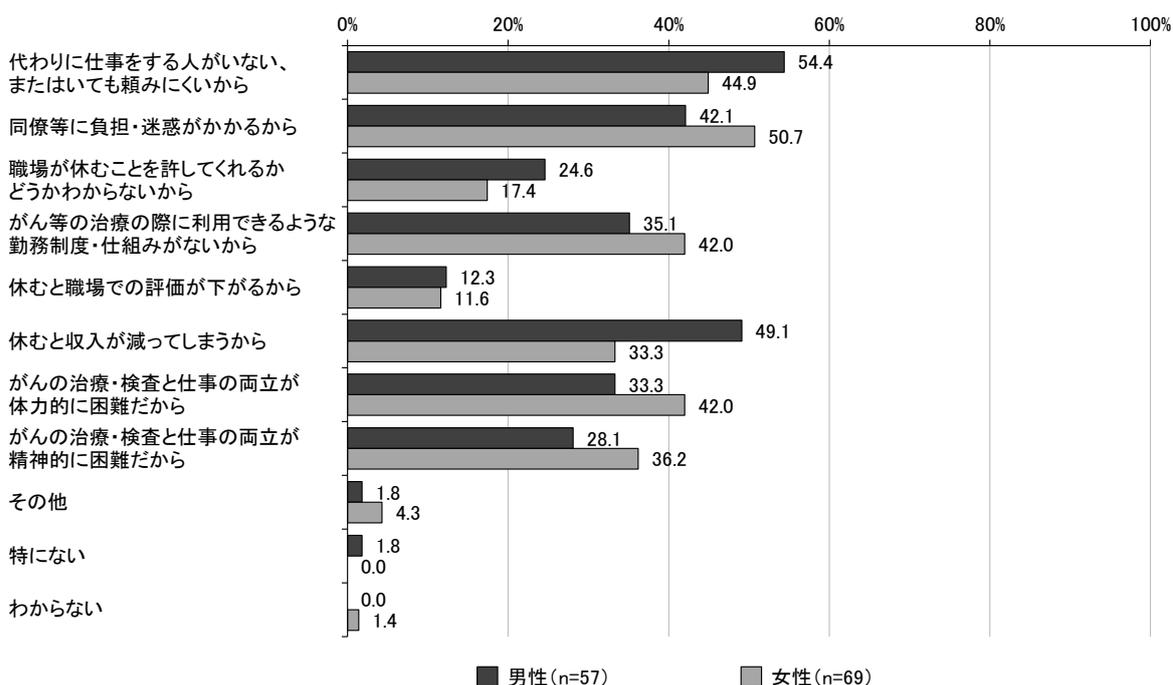


【問 23 で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」と答えた方】
 問 24 がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けることを難しくしている理由は何だと思いますか。(MA)

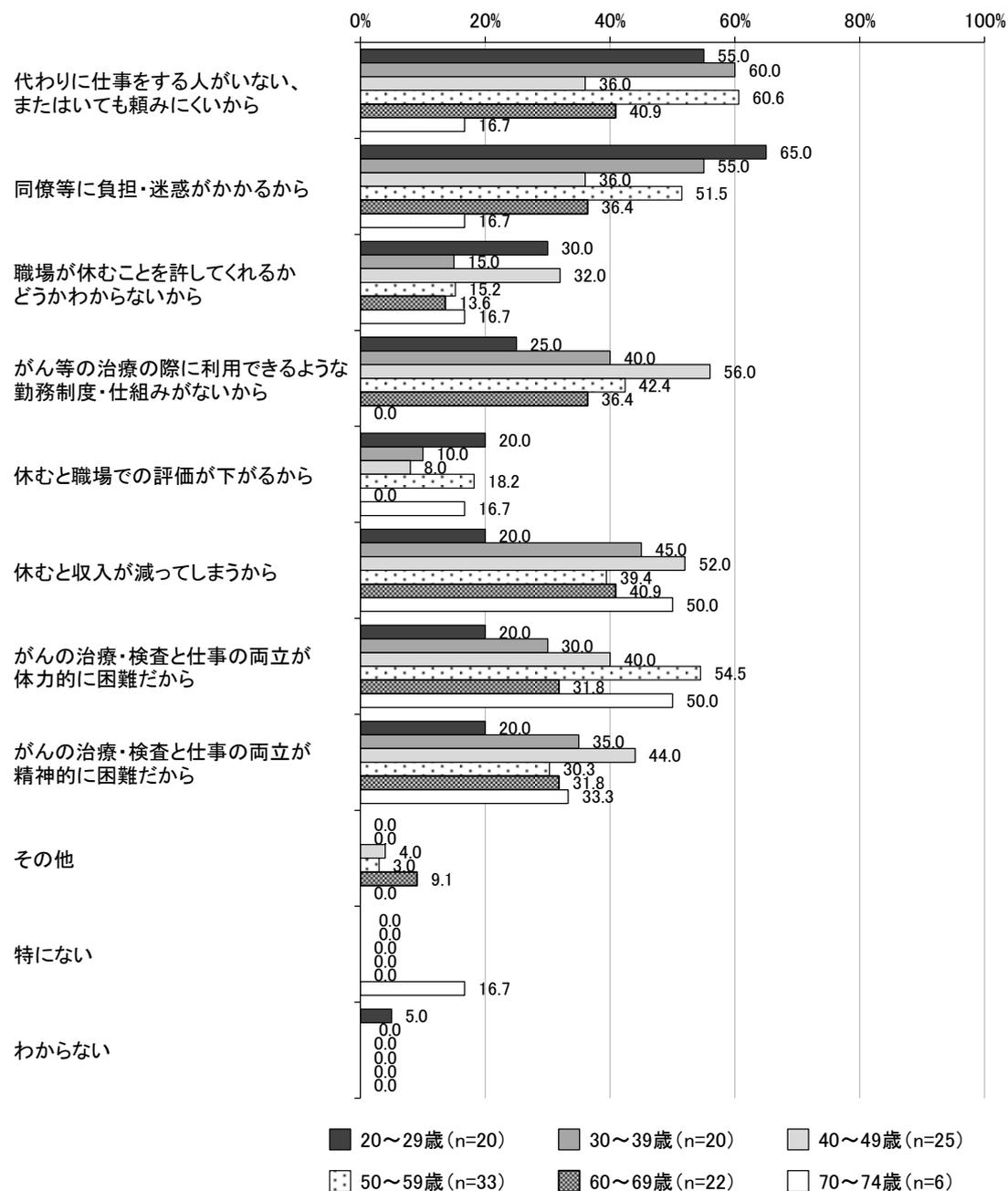
働き続けることを難しくさせている理由としては「代わりに仕事をする人がいない、またはいても頼みにくいから」が最も高く、次いで「同僚等に負担・迷惑がかかるから」「休むと収入が減ってしまうから」となっています。性別にみると、男性では「休むと収入が減ってしまうから」「代わりに仕事をする人がいない、またはいても頼みにくいから」「職場が休むことを許してくれるかどうか分からないから」の割合が女性より高くなっています。



■ 性別



■ 年齢別

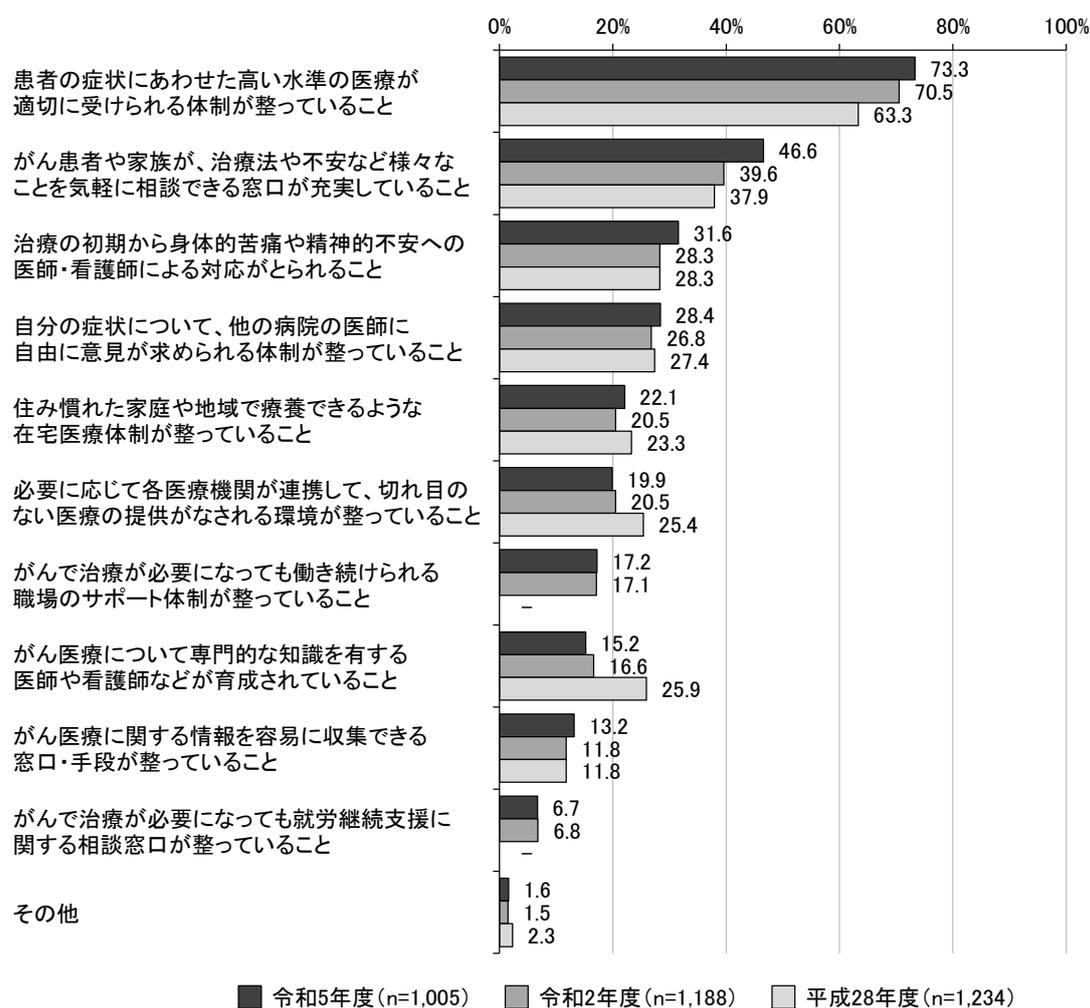


8. がんになった場合の医療体制や療養生活について

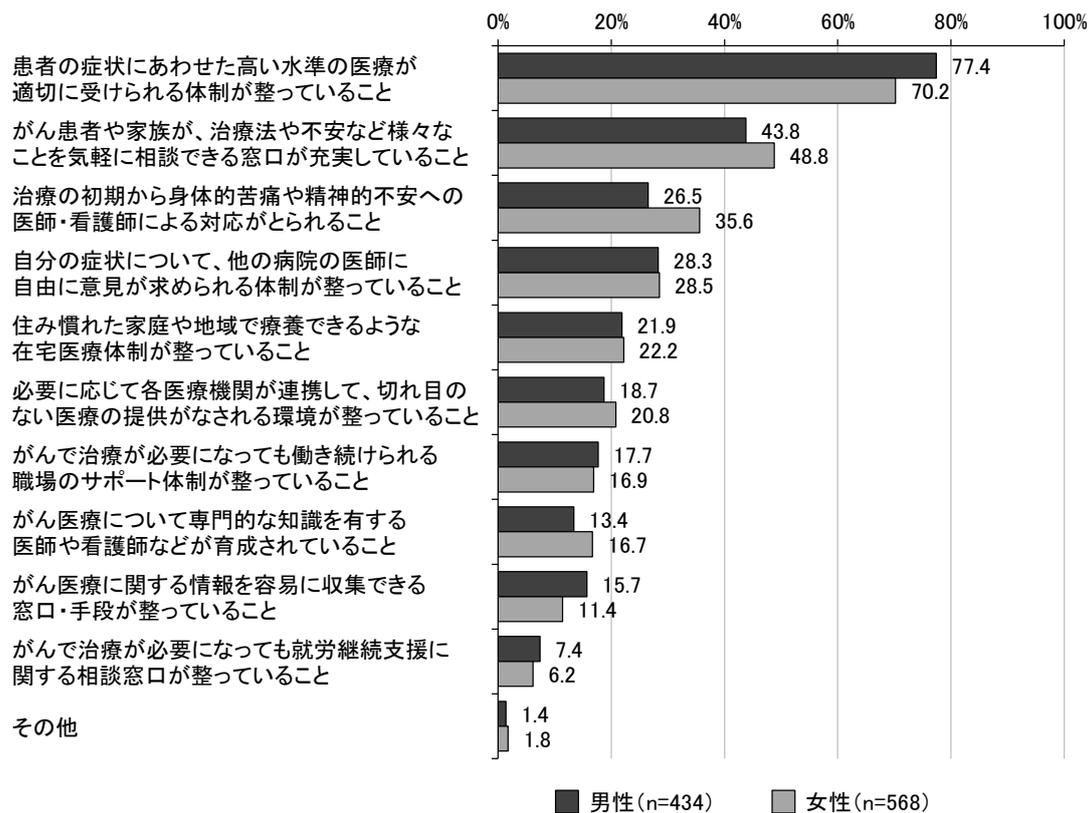
問 25 あなたご自身またはご家族が、がんと診断された場合、どのような環境が整っていることが望ましいと思いますか。(3つまで〇)

がんと診断された場合に望む環境としては「患者の症状にあわせた高い水準の医療が適切に受けられる体制が整っていること」の割合が最も高く、次いで「がん患者や家族が、治療法や不安など様々なことを気軽に相談できる窓口が充実していること」が高くなっており、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。

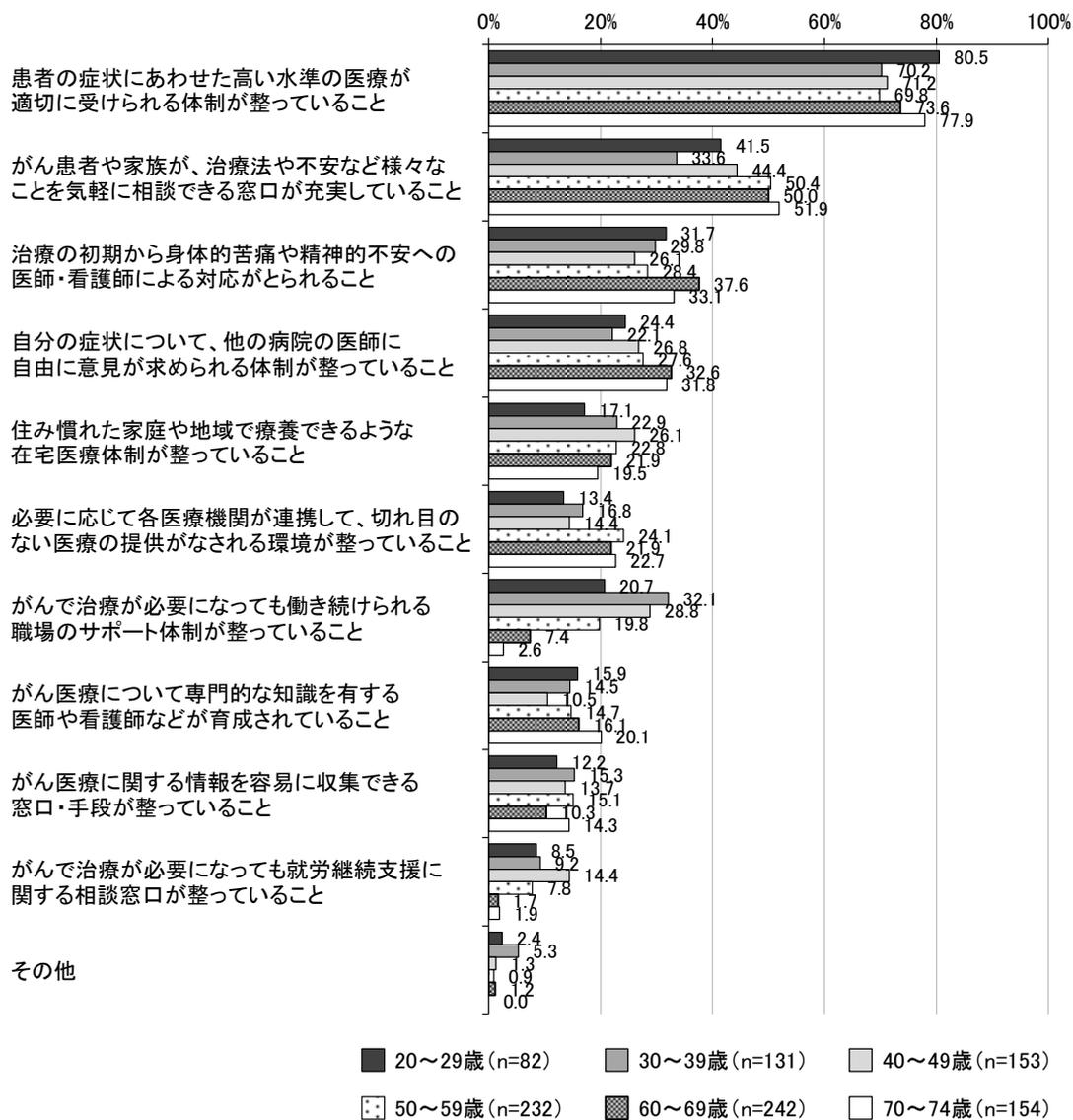
■ 過去調査との比較



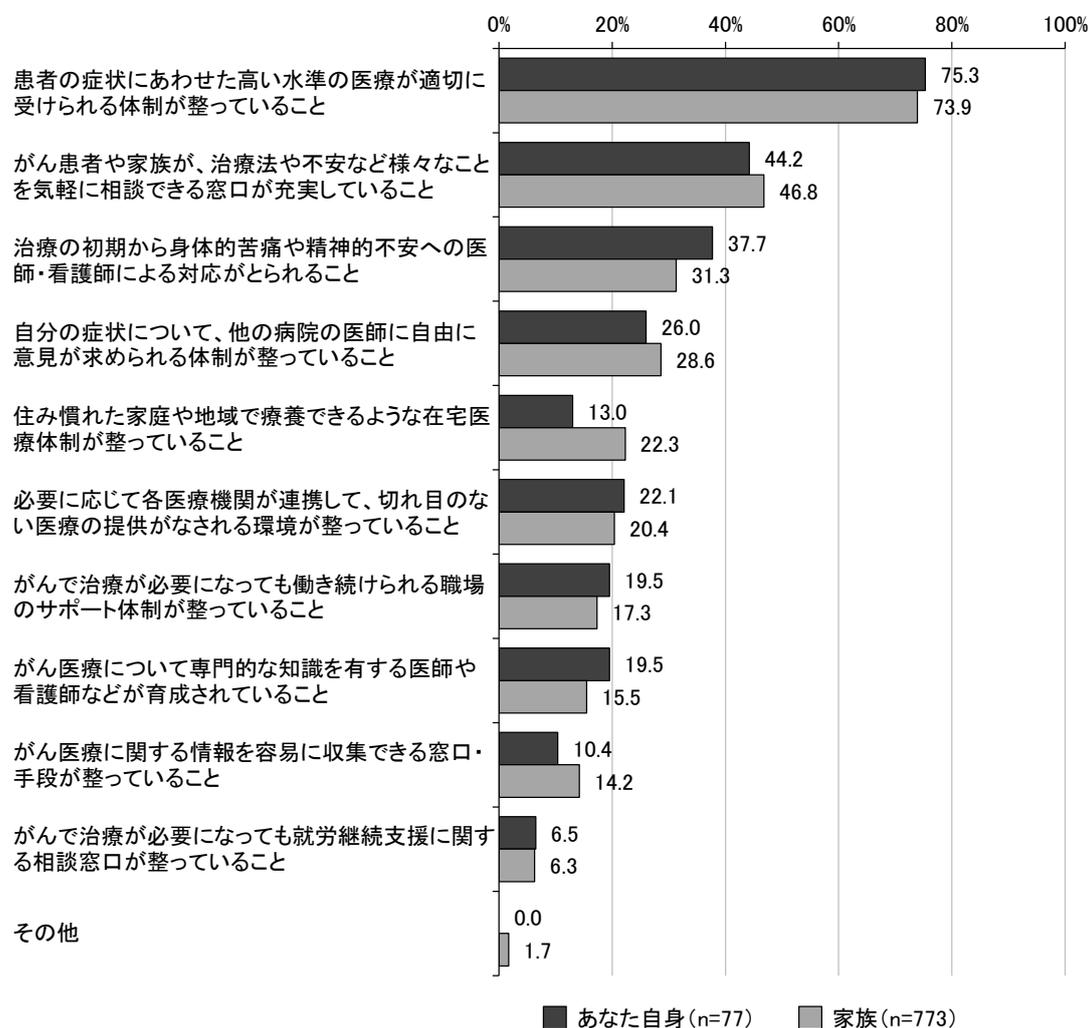
■性別



■ 年齢別



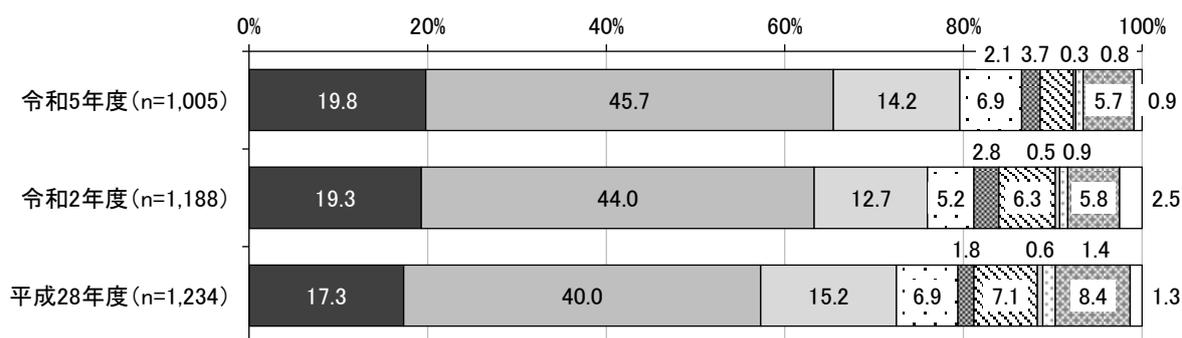
■「問 25 あなたご自身またはご家族ががんと診断された場合、どのような環境が整っていることが望ましいか。」 × 「問 8 身近にがんにかかった人はいますか」で「あなた自身」及び「家族」を選択した人



問 26 あなたご自身が、がんと診断され、治ることが難しいと告げられた場合、退院後の療養生活をどこで送りたいですか。(S A)

がんと診断された場合の退院後の療養生活の場所としては、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」の割合が最も高く、次いで「自宅で最後まで療養したい」が高くなっています。「自宅で最後まで療養したい」の割合は男性で高くなっています。年齢別にみると、50歳代では「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」の割合が51.7%と高く、がんと診断された方については53.2%となっています。

■ 過去調査との比較



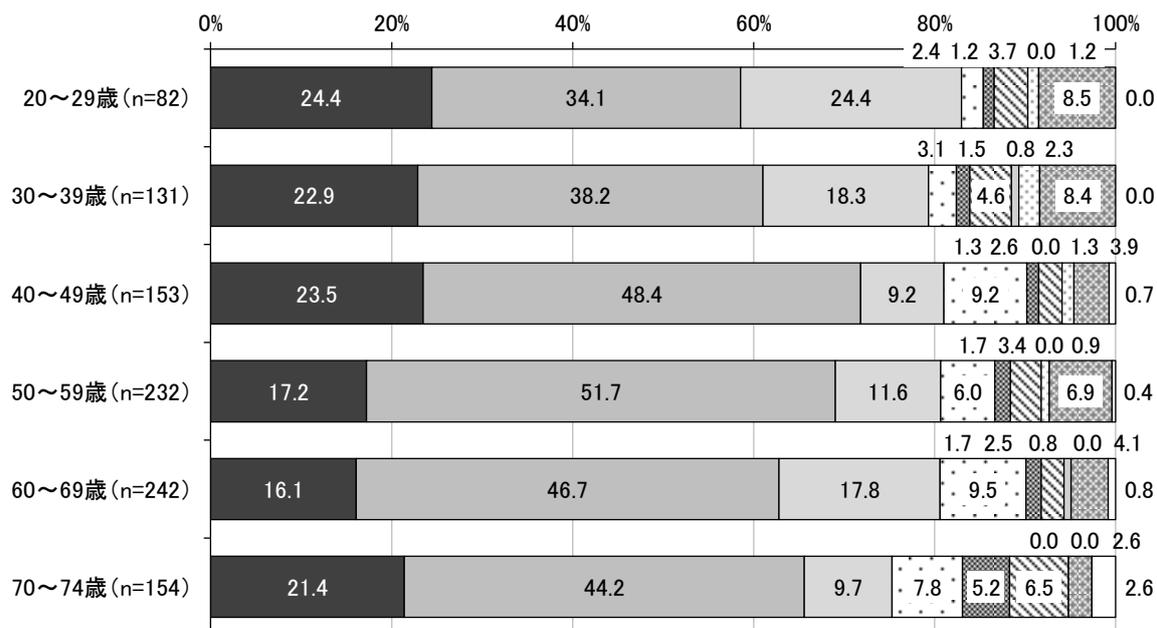
- 自宅で最後まで療養したい
- 自宅療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 自宅療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- なるべく早く、緩和ケア病棟に入院したい
- なるべく早く、今まで通った(または現在入院中の)医療機関に入院したい
- 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい
- 老人ホームなど介護施設に入所したい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

■性別



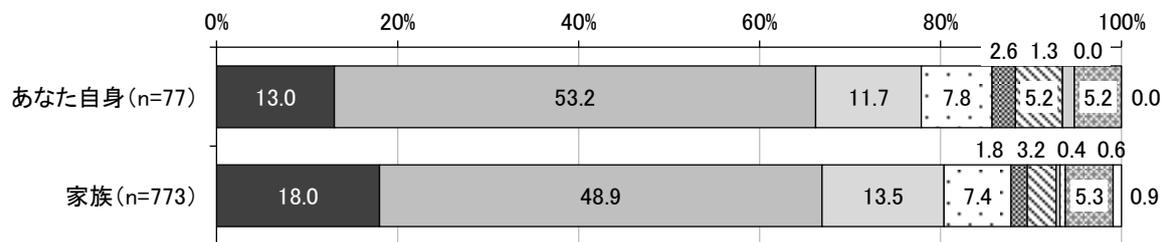
- 自宅で最後まで療養したい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- なるべく早く、緩和ケア病棟に入院したい
- なるべく早く、今まで通った(または現在入院中の)医療機関に入院したい
- 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい
- 老人ホームなど介護施設に入所したい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

■ 年齢別



- 自宅で最後まで療養したい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- なるべく早く、緩和ケア病棟に入院したい
- なるべく早く、今まで通った(または現在入院中の)医療機関に入院したい
- 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい
- 老人ホームなど介護施設に入所したい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

■「問 26 あなたご自身が、がんと診断され、治ることが難しいと告げられた場合、退院後の療養生活をどこで送りたいですか」 × 「問 8 身近にがんにかかった人はいますか」で「あなた自身」及び「家族」を選択した人

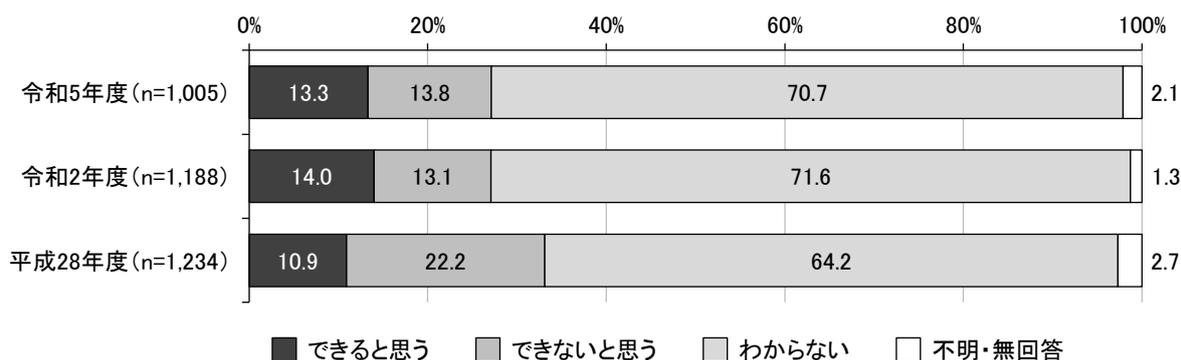


- 自宅で最後まで療養したい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- なるべく早く、緩和ケア病棟に入院したい
- なるべく早く、今まで通った(または現在入院中の)医療機関に入院したい
- 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい
- 老人ホームなど介護施設に入所したい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

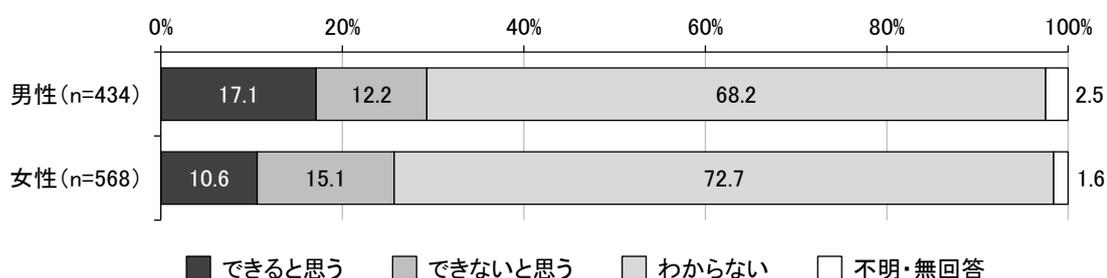
問 27 問 26 の回答のような、ご自身の希望にそった療養生活が、大津市内の施設やサービスを利用して実現できると思いますか。(S A)

希望にそった療養生活の実現については、「できると思う」と「できないと思う」の割合が同程度となっています。また、男性では「できると思う」の割合が高く、がんと診断された方については「あなた自身」で「できないと思う」の割合が高くなっています。がんと診断され、治ることが難しいと告げられた場合に「自宅で最後まで療養したい」については「できると思う」が22.1%と高くなっています。

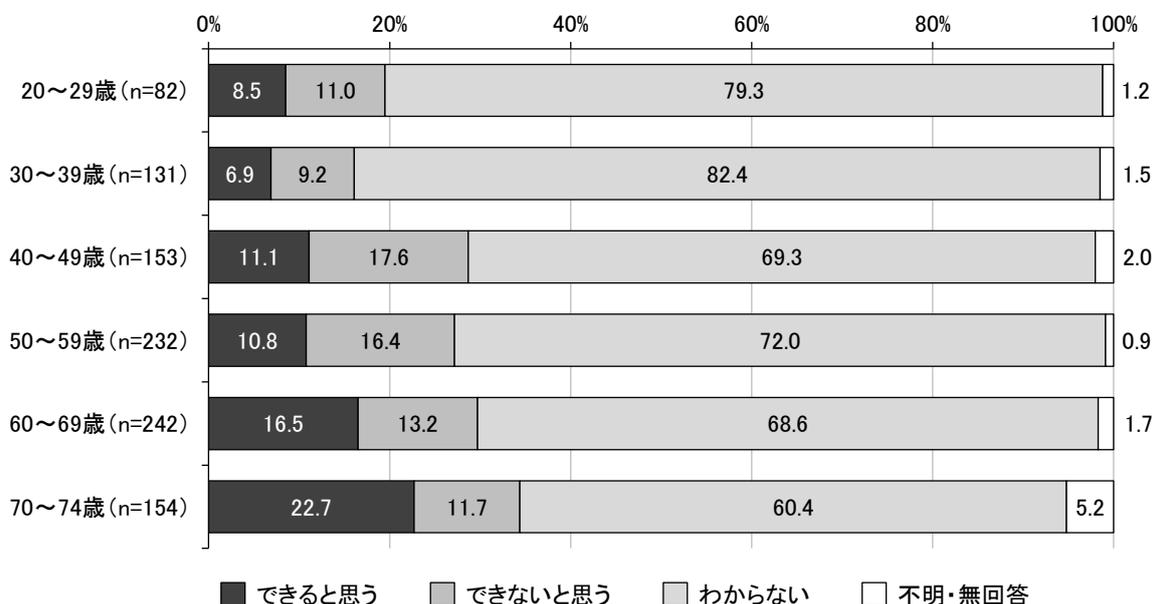
■ 過去調査との比較



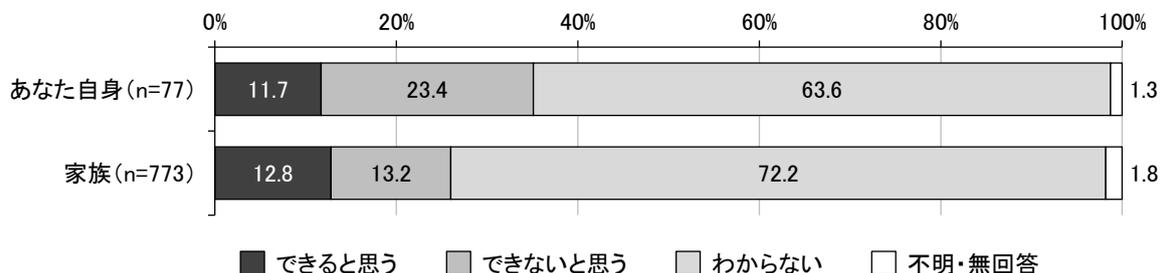
■ 性別



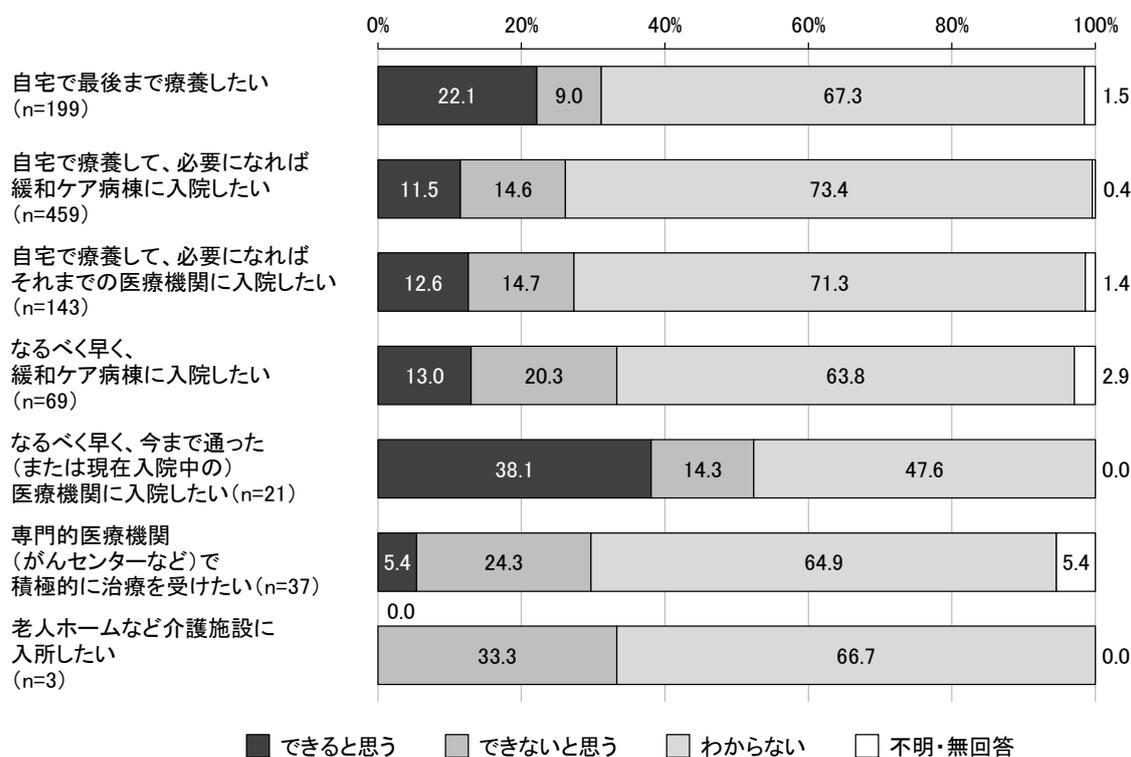
■ 年齢別



- 「問 27 ご自身の希望にそった療養生活が、大津市内の施設やサービスを利用して実現できると思いますか。」 × 「問 8 身近にがんにかかった人はいますか」で「あなた自身」及び「家族」を選択した人



- 「問 27 ご自身の希望にそった療養生活が、大津市内の施設やサービスを利用して実現できると思いますか。」 × 「問 26 がんと診断され、治ることが難しいと告げられた場合の希望する退院後の生活」

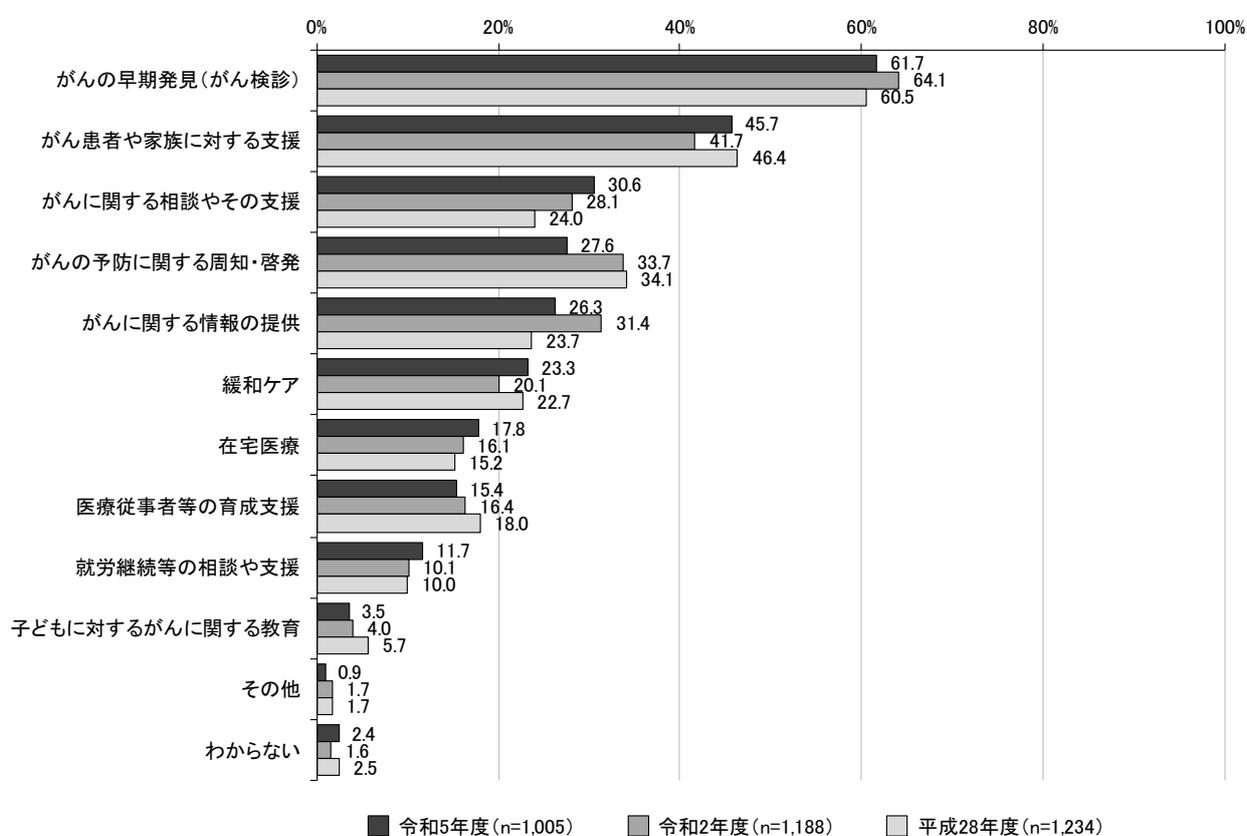


9. 今後のがん対策の推進について

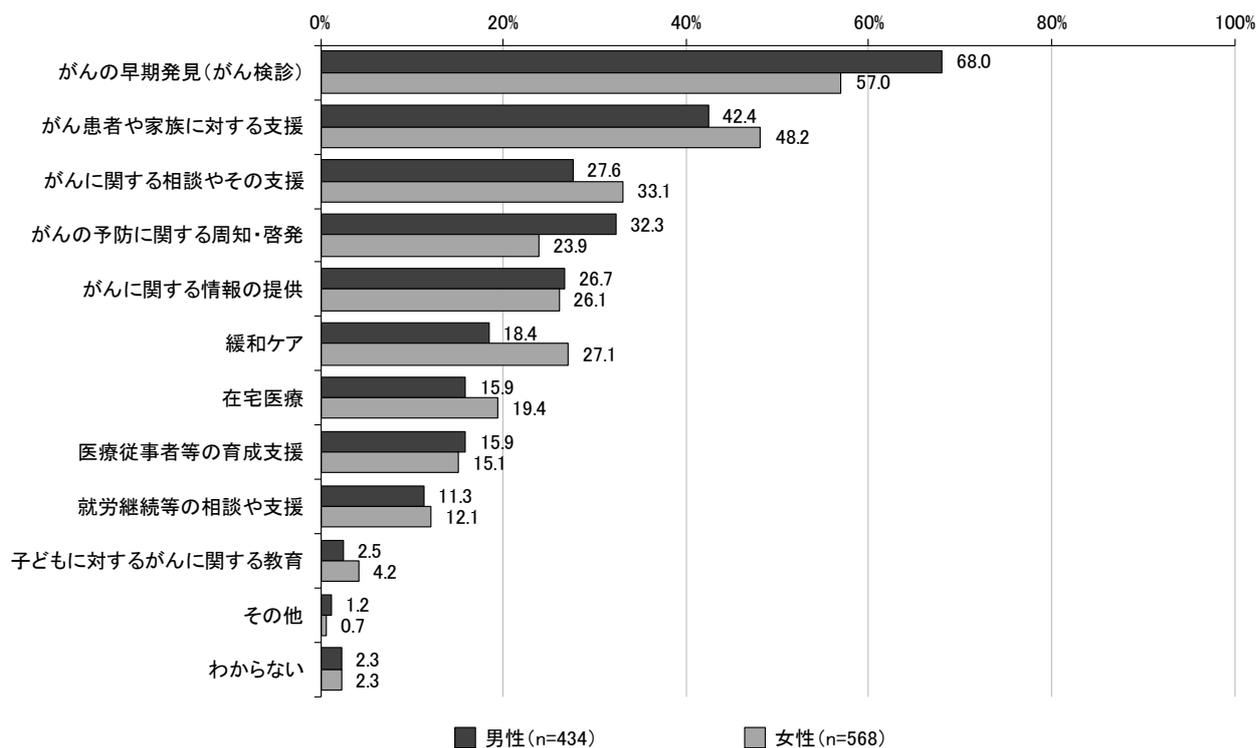
問 28 がん対策を推進していく上で、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。
(上位3つに○)

がん対策を推進していく上で、特に力を入れてほしいと思うことについては、「がんの早期発見(がん検診)」が61.7%と最も高く、次いで「がん患者や家族に対する支援」となっています。女性で「緩和ケア」の割合が男性より高く、20歳代では「医療従事者等の育成支援」が他の年代より高くなっています。ご自身ががんになった方では、「がんに関する相談やその支援」や「就労継続等の相談や支援」が高く、家族ががんになった方では「在宅医療」が高くなっています。

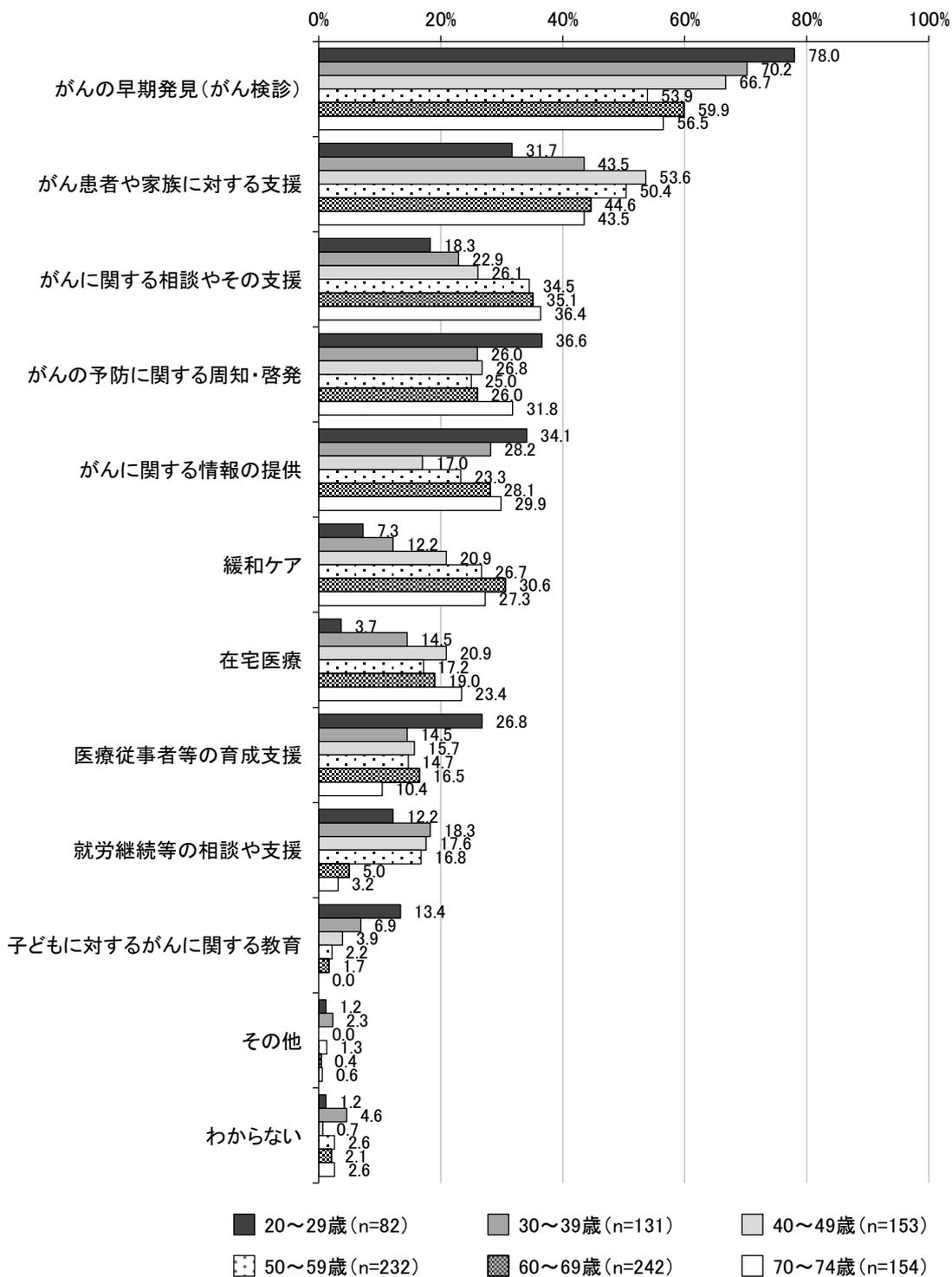
■ 過去調査との比較



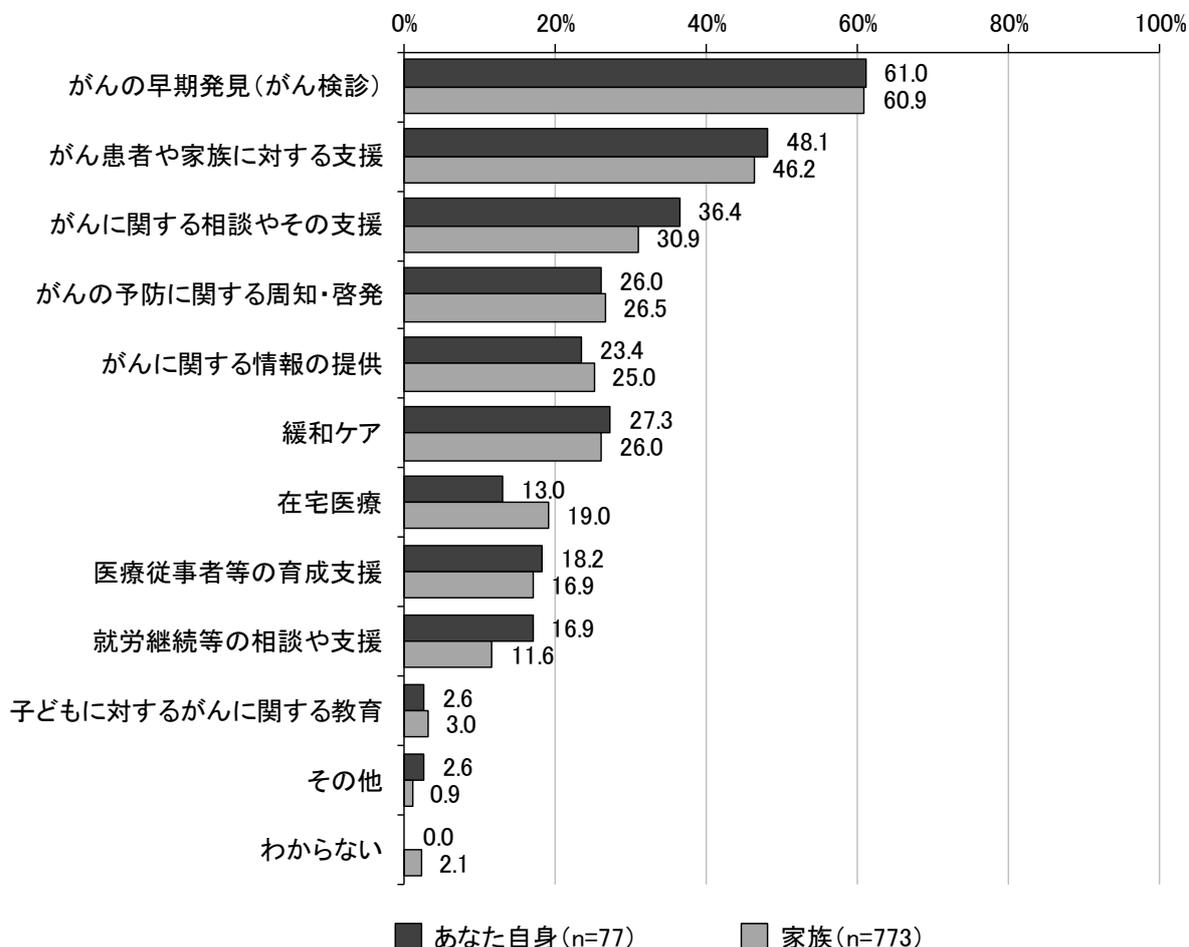
■性別



■ 年齢別



■「問 28 がん対策を推進していく上で、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。」 × 「問 8 身近にがんにかかった人はいますか」で「あなた自身」及び「家族」を選択した人



II 事業所調査

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和7年度からを計画期間とする「第2期大津市がん対策推進基本計画（仮）」の策定に先立ち、現行計画における目標達成度や事業実施の進捗状況、また、最近の社会状況を踏まえた事業所のがんに対する意識等を把握することにより、次期計画の策定骨子、施策展開に反映することを目的として実施するものです。

2. 調査概要

- 調査地域 : 大津市全域
- 調査対象者 : 大津市内に所在する事業所 1,600 件
- 調査期間 : 令和5年 11 月～12 月（郵送配布・回収）

調査対象者数(配布数)	有効回収数	有効回収率
1,600	512	32.0%

3. 報告書の見方

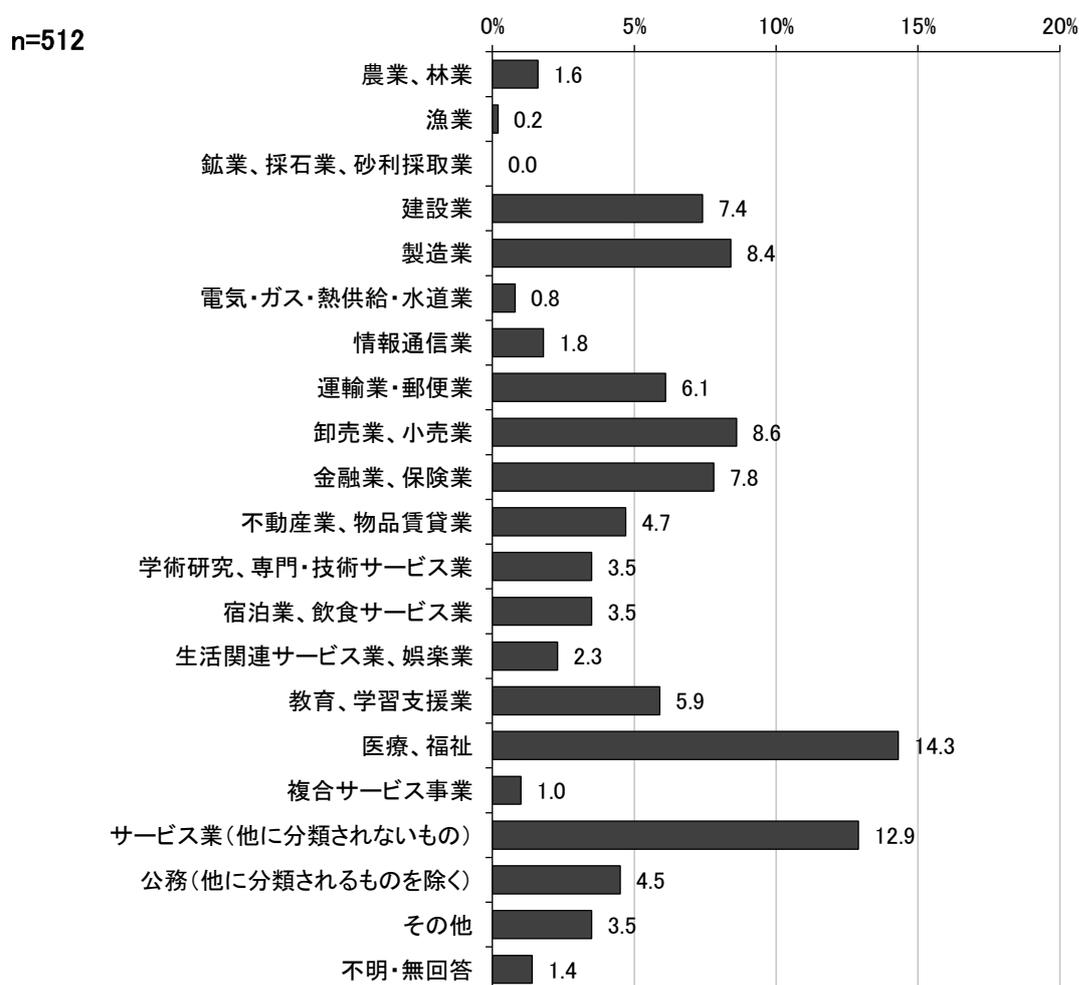
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- アンケート結果の分析上、設問の省略や選択肢の統合等を行っている場合があります。
- 質問文末尾に記されている(SA)は単一回答の設問、(MA)は複数回答の設問を表しています。
- 図表中において、0.0%の場合、省略している場合があります。

II 調査の結果

1. 事業所の概要

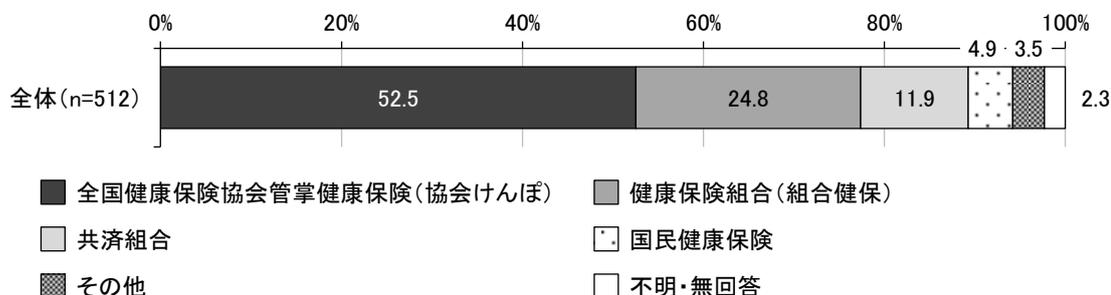
問1 貴事業所の主たる業種を教えてください。(SA)

事業所の主たる業種についてみると、「医療、福祉」が14.3%と最も高く、次いで「サービス業」が12.9%となっています。



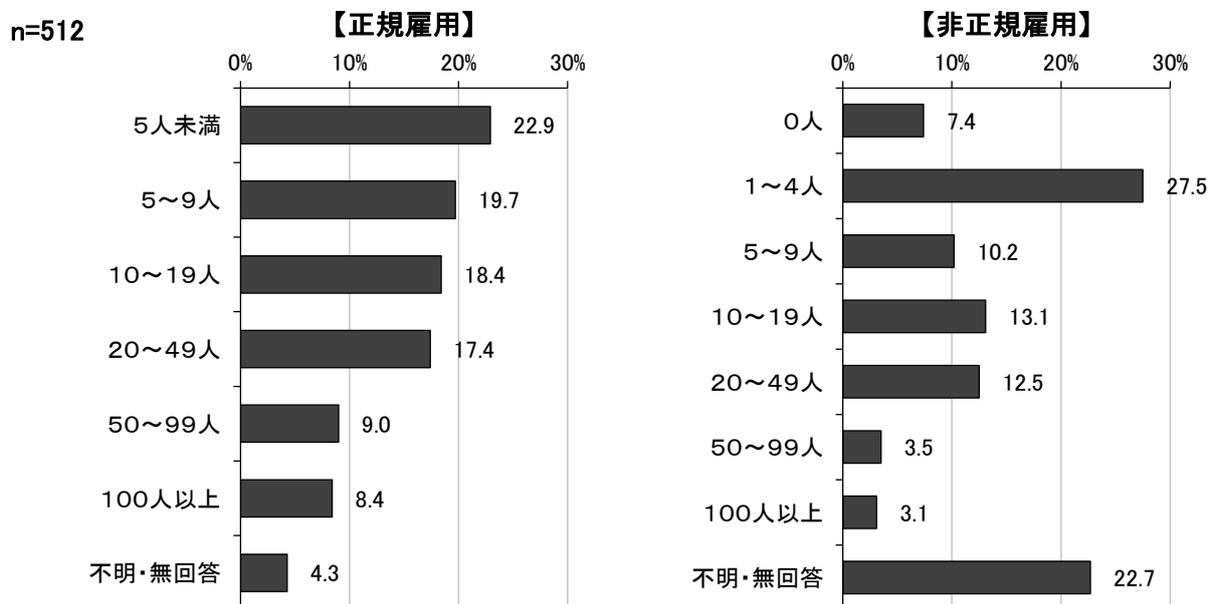
問2 貴事業所が加入する医療保険の種類を教えてください。(SA)

事業所の医療保険の種類についてみると、「全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）」が52.5%と最も高く、次いで「健康保険組合（組合健保）」が24.8%、「共済組合」が11.9%となっています。



問3 貴事業所の従業員数を教えてください。(令和5年10月1日現在) (数量)

事業所の従業員数についてみると、正規雇用では「5人未満」が22.9%と最も高く、次いで「5～9人」が19.7%、「10～19人」が18.4%となっています。非正規雇用では「1～4人」が27.5%と最も高く、次いで「不明・無回答」が22.7%、「10～19人」が13.1%となっています。



■問3(1)正規雇用者数 × 問1 業種

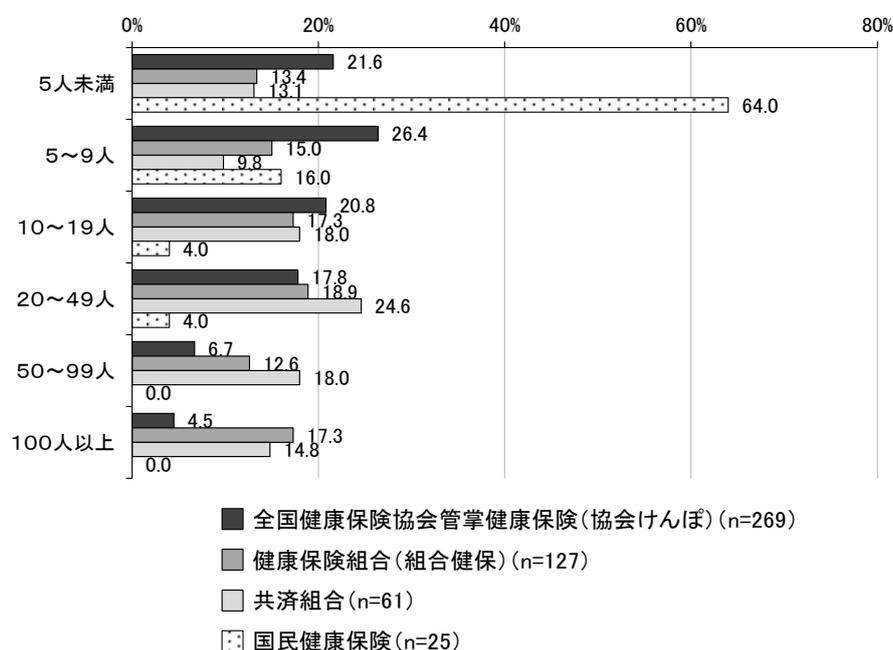
正規雇用者数別の業種についてみると、「農業・林業・漁業」「卸売・小売業」「不動産業、物品賃貸業」「サービス業」「医療、福祉」では『5人未満』が高く、「建設業」では『5～9人』が高くなっています。「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「金融業・保険業」では『10～19人』が、「運輸業・郵便業」「公務」では『20～49人』が高くなっています。「教育・学習支援業」では『50～99人』が高く、「製造業」「公務」では『100人以上』が高くなっています。

【単位：％】

	5人未満	5～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100人以上	不明・無回答
合計(n=512)	22.9%	19.7%	18.4%	17.4%	9.0%	8.4%	4.3%
農業・林業・漁業(n=9)	55.6%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
建設業(n=38)	5.3%	36.8%	18.4%	23.7%	15.8%	0.0%	0.0%
製造業(n=43)	11.6%	11.6%	16.3%	20.9%	14.0%	23.3%	2.3%
電気・ガス・熱供給・水道業(n=4)	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
情報通信業(n=9)	22.2%	11.1%	33.3%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%
運輸業・郵便業(n=31)	9.7%	19.4%	22.6%	25.8%	12.9%	6.5%	3.2%
卸売・小売業(n=44)	22.7%	18.2%	11.4%	9.1%	6.8%	18.2%	13.6%
金融業・保険業(n=40)	15.0%	15.0%	27.5%	20.0%	12.5%	7.5%	2.5%
不動産業・物品賃貸業(n=24)	50.0%	29.2%	12.5%	4.2%	0.0%	0.0%	4.2%
サービス業(n=119)	41.2%	20.2%	20.2%	11.8%	3.4%	0.8%	2.5%
教育・学習支援業(n=30)	6.7%	3.3%	20.0%	26.7%	30.0%	3.3%	10.0%
医療、福祉(n=73)	23.3%	21.9%	13.7%	17.8%	8.2%	11.0%	4.1%
公務(n=23)	0.0%	17.4%	17.4%	30.4%	4.3%	30.4%	0.0%
その他(n=18)	22.2%	22.2%	11.1%	33.3%	5.6%	5.6%	0.0%

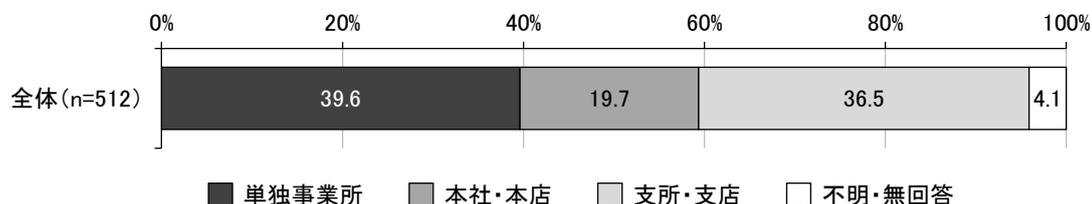
■問3(1)正規雇用者数 × 問2 保険

正規雇用者数別の保険の種類についてみると、「全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）」では『5人未満』から『10～19人』が高くなっています。「共済組合」では『20～49人』から『50～99人』が高く、「健康保健組合（組合健保）」では『100人以上』が高くなっています。



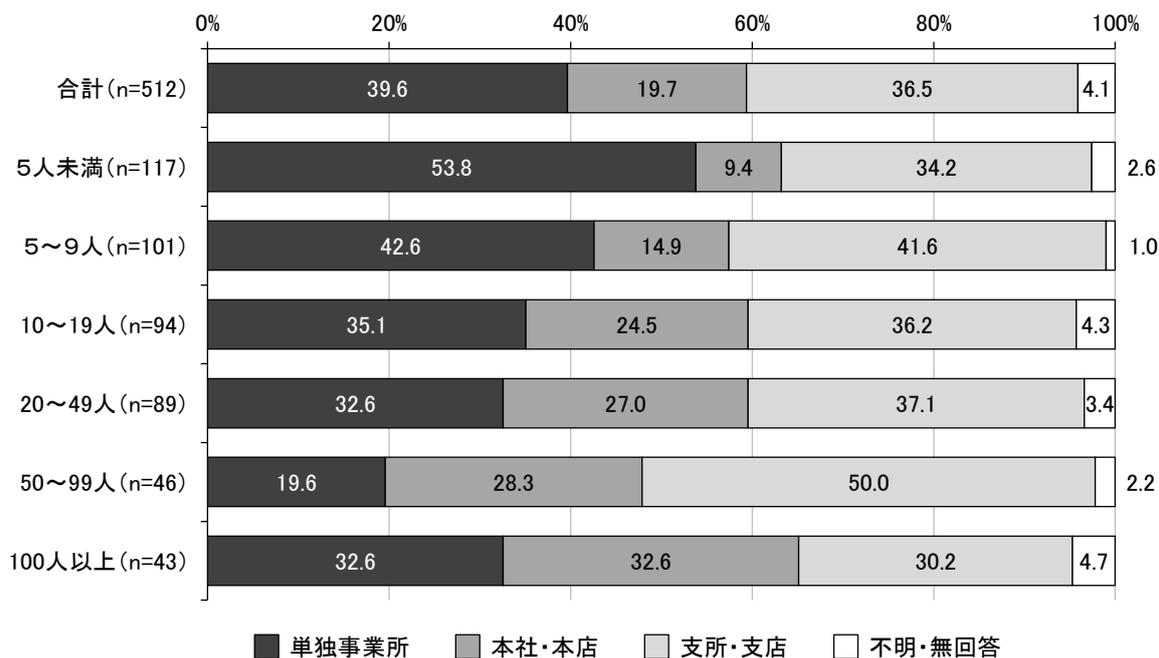
問4 貴事業所の種類を教えてください。(SA)

事業所の種類についてみると、「単独事業所」が39.6%と最も高く、次いで「支所・支店」が36.5%、「本社・本店」が19.7%となっています。



■問4 種類 × 問3(1) 正規雇用者数

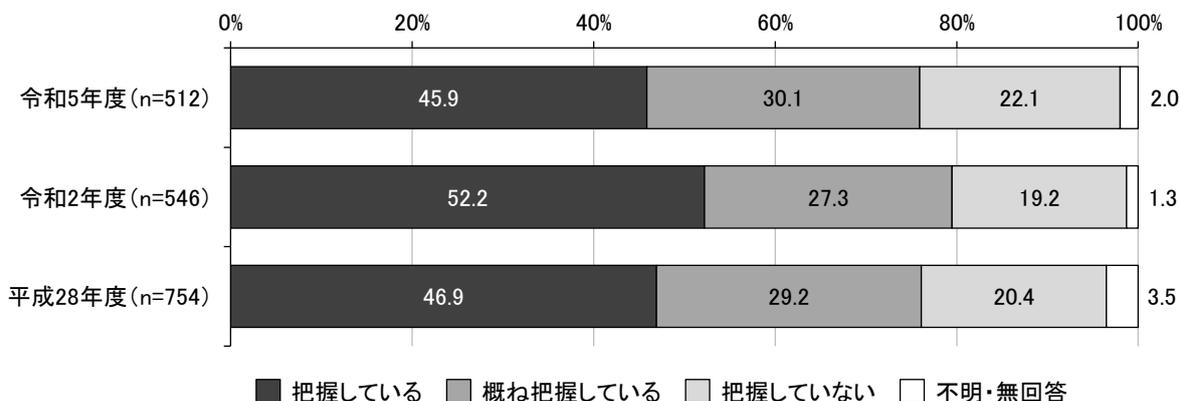
正規雇用者数別の事業所の種類についてみると、『100人以上』においては事業所の種類に関係なく、雇用者数はほぼ同率となっています。「単独事業所」では『5人未満』が53.8%、『50～99人』が19.6%と正規雇用者数が少ないほど高い傾向にあります。「本社・本店」では『100人以上』が32.6%、『5人未満』が9.4%と正規雇用者数が多いほど高い傾向にあります。「支所・支店」では『50～99人』が50.0%と最も高く、次いで『5～9人』が41.6%となっています。



2. がん予防やがん検診受診促進のための取り組みについて

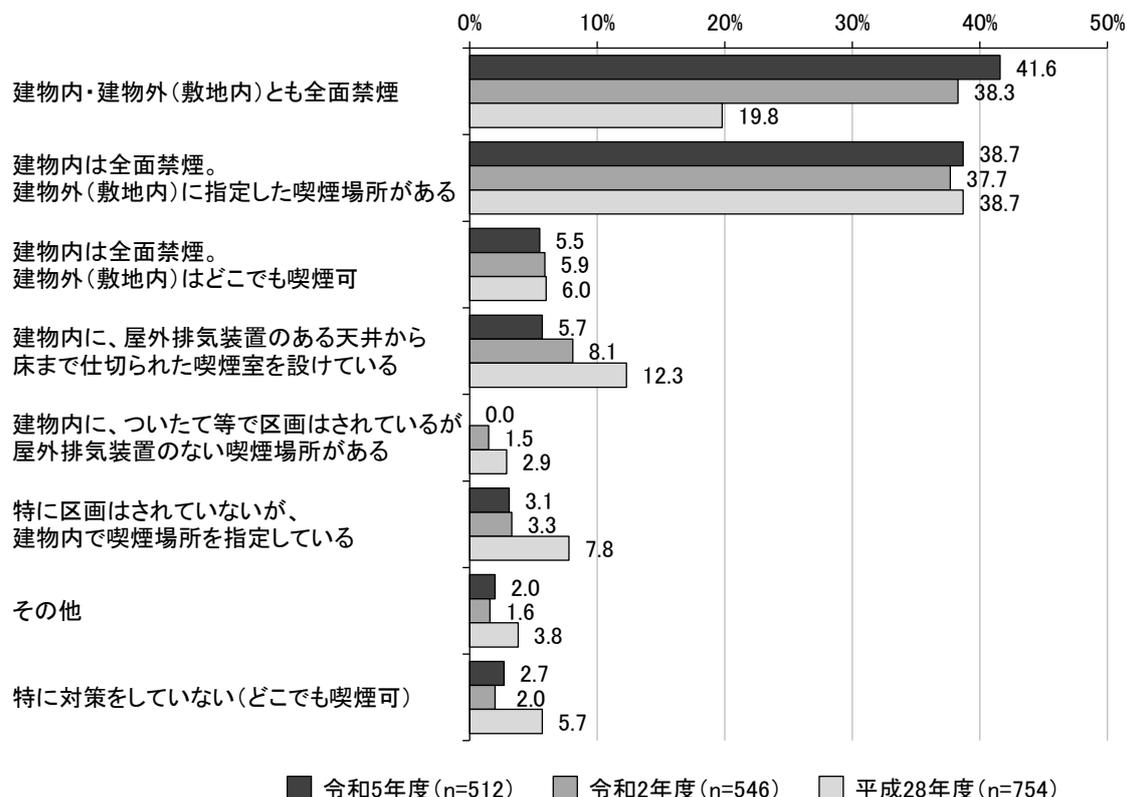
問6 貴事業所の従業員の喫煙状況を把握していますか。(S A)

事業所の従業員の喫煙状況についてみると、「把握している」が45.9%と最も高く、次いで「概ね把握している」が30.1%、「把握していない」が22.1%となっています。



問7 貴事業所の受動喫煙防止対策について教えてください。(S A)

事業所の受動喫煙防止対策についてみると、「建物内・建物外(敷地内)とも全面禁煙」が41.6%と最も高く、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。次いで「建物内は全面禁煙。建物外(敷地内)に指定した喫煙場所がある」が38.7%となっています。

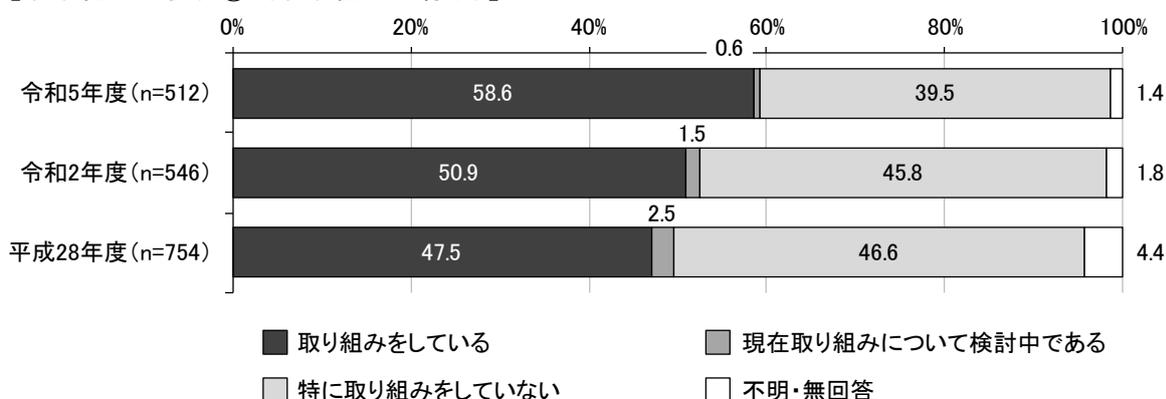


問8 がん予防やがん検診の受診促進のために、貴事業所で取り組んでいることがあれば教えてください。(MA)

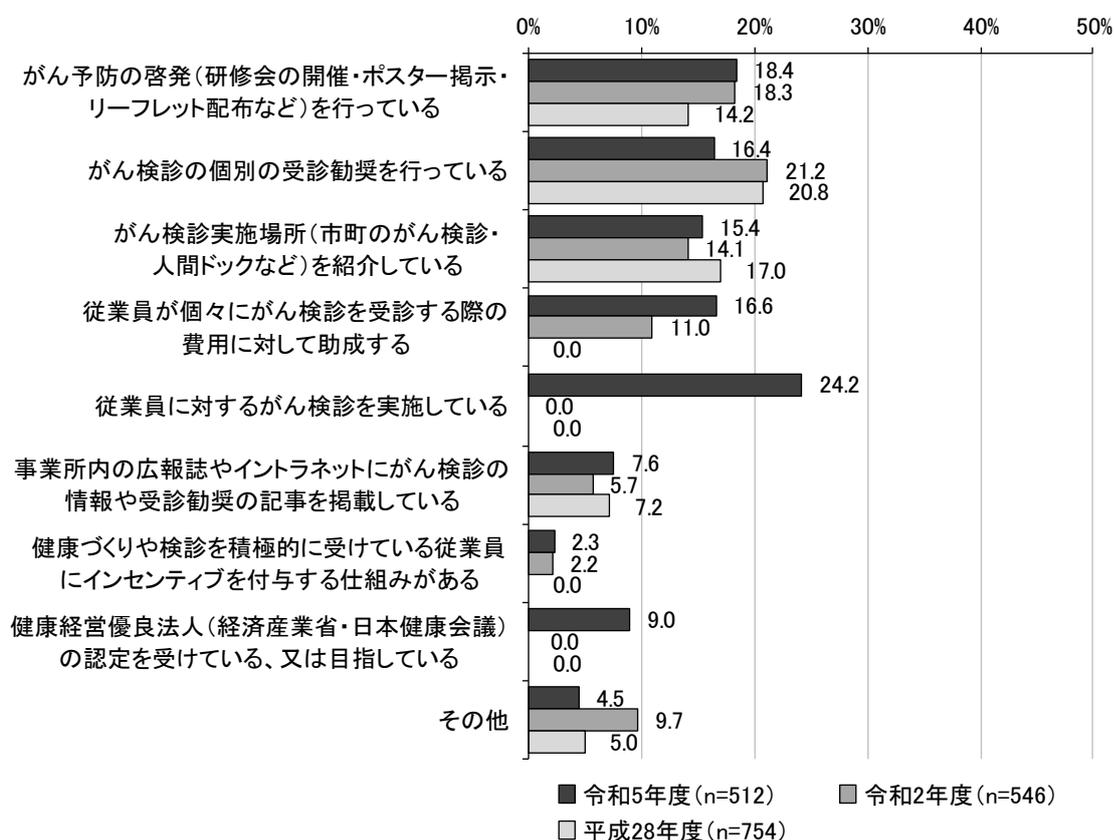
がん予防やがん検診の受診促進に関する取り組み状況についてみると、「取り組みをしている」が58.6%となっており、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。

取り組み内容の内訳では、「従業員に対するがん検診を実施している」が24.2%と最も高く、次いで「がん予防の啓発（研修会の開催・ポスター掲示・リーフレット配布など）を行っている」（18.4%）、「従業員が個々にごがん検診を受診する際の費用に対して助成する」（16.6%）、「がん検診の個別の受診推奨を行っている」（16.4%）となっています。過去調査では、「がん検診の個別の受診推奨を行っている」が令和2年度と平成28年度でそれぞれ21.2%、20.8%と高くなっています。

【取り組みの状況①（取り組みの有無）】



【取り組みの状況②（取り組み内容の内訳）】

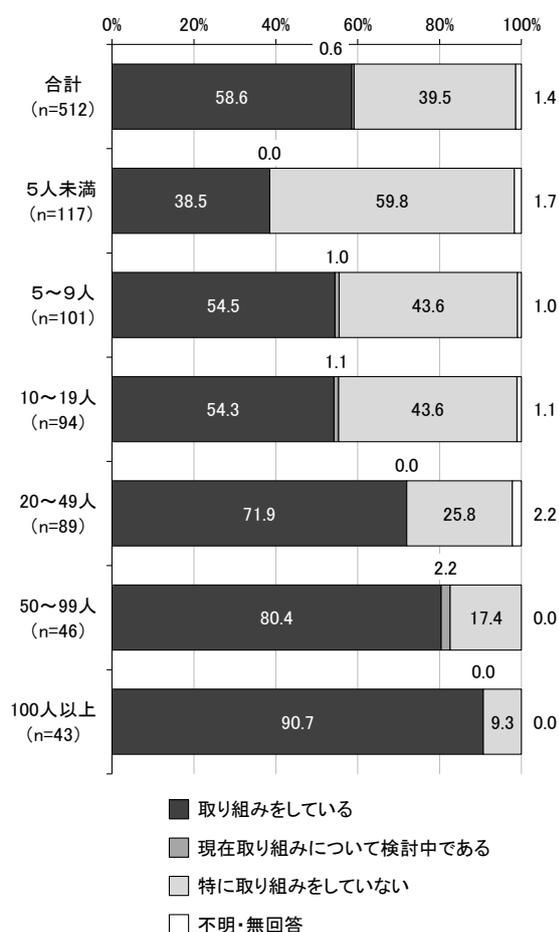


■問8 がん予防やがん検診の受診促進のために、貴事業所で取り組んでいることがあれば教えてください。 × 問3(1)正規雇用者数

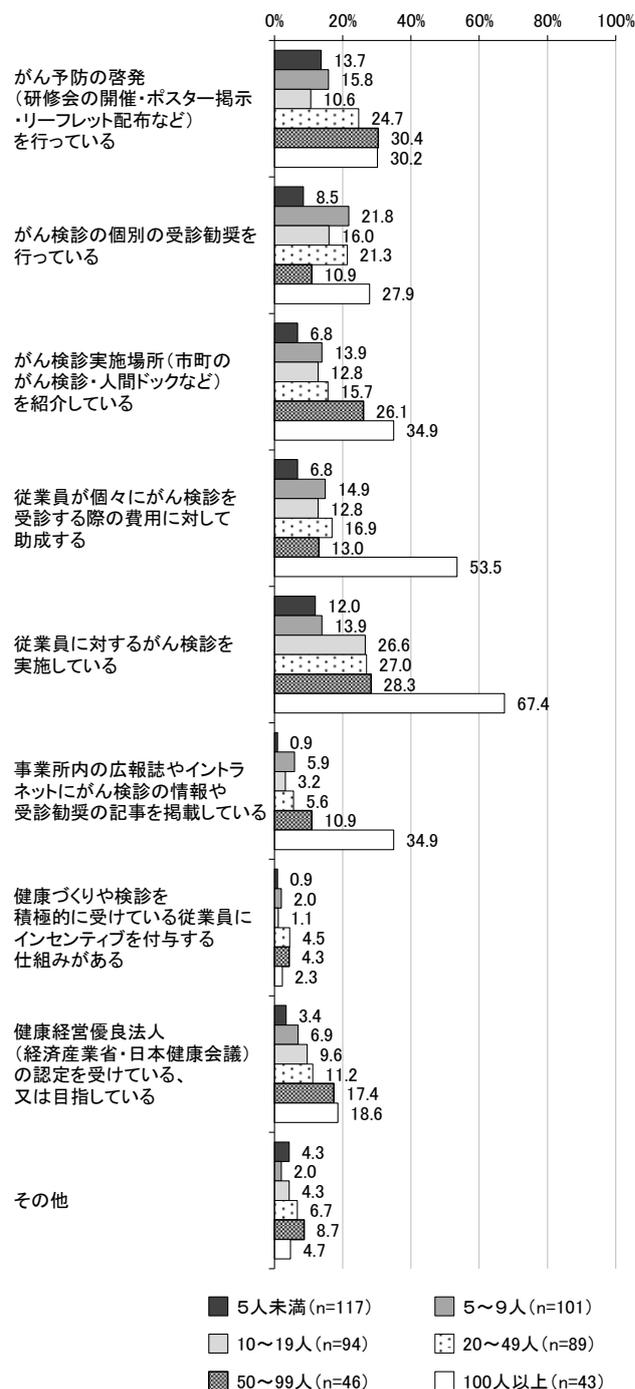
正規雇用者数別のがん予防やがん検診の受診促進に関する取り組み状況についてみると、「取り組みをしている」では『100人以上』が90%を上回り、『5人未満』が38.5%と最も低くなっており、正規雇用者数が多いほど何らかの取り組みをしている傾向がうかがえます。

取り組み内容の内訳では、『10～19人』から『100人以上』までは「従業員に対するがん検診を実施している」が高い傾向にあるのに対し、『5人未満』から『5～9人』までは20%を下回っています。

【取り組みの状況①（取り組みの有無）】



【取り組みの状況②（取り組み内容の内訳）】

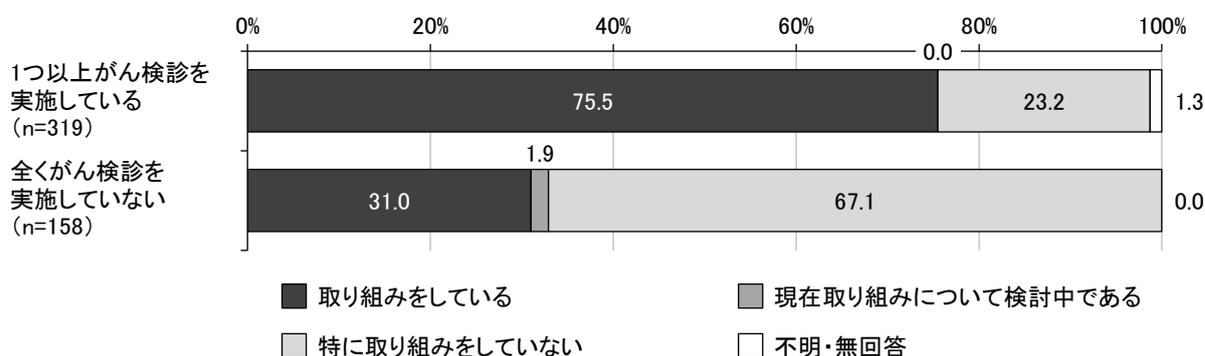


■問8 がん予防やがん検診の受診促進のために、貴事業所で取り組んでいることがあれば教えてください。 × 問10 がん検診実施の有無

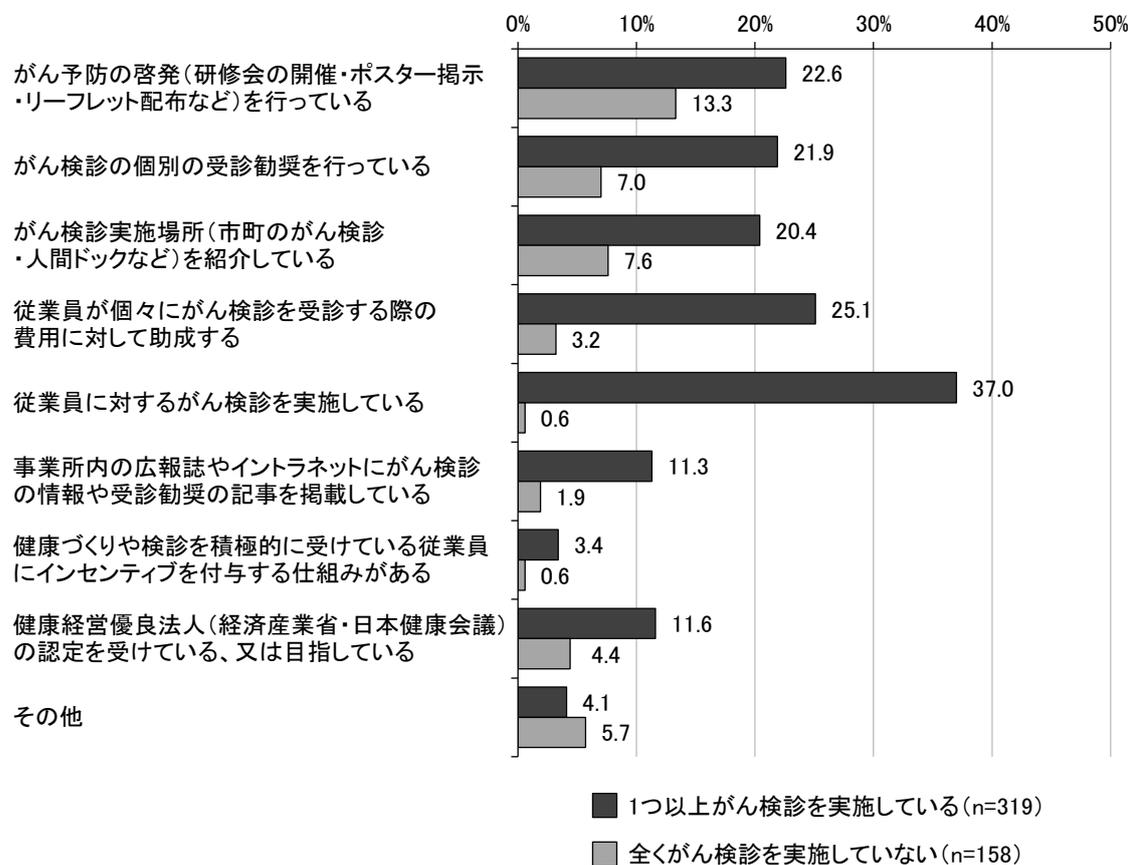
がん予防およびがん検診の受診促進について、『1つ以上がん検診を実施している』の場合、「取り組みをしている」が75.5%、「特に取り組みをしていない」が23.2%となっており、『全くがん検診を実施していない』に比べ、受診促進に向けた取り組みをしている割合が高くなっています。

取り組み内容の内訳では、『1つ以上がん検診を実施している』で「従業員に対するがん検診を実施している」が37.0%と最も高く、次いで「従業員が個々にがん検診を受診する際の費用に対して助成する」が25.1%となっています。

【取り組みの状況①（取り組みの有無）】

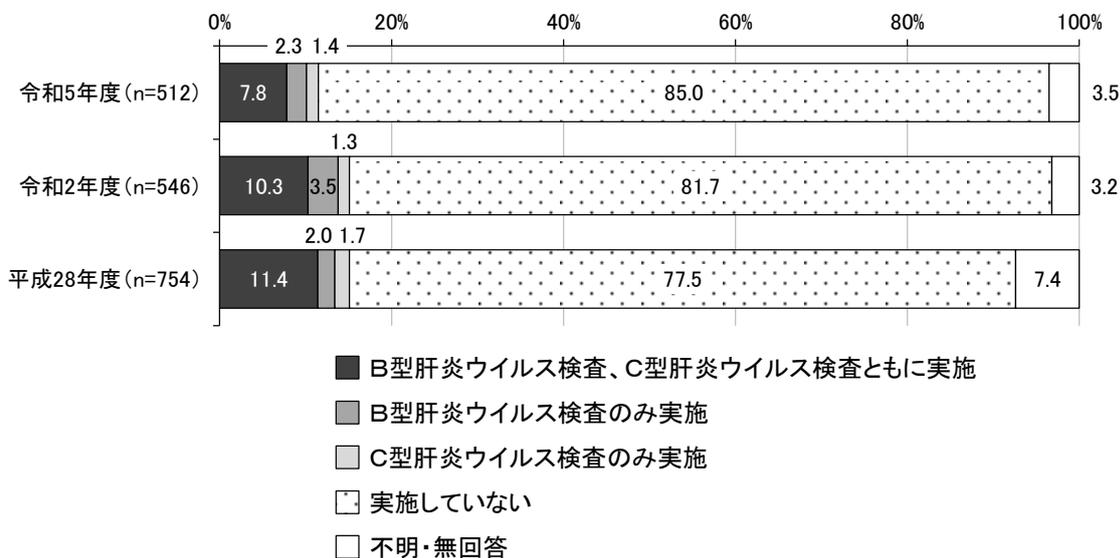


【取り組みの状況②（取り組み内容の内訳）】



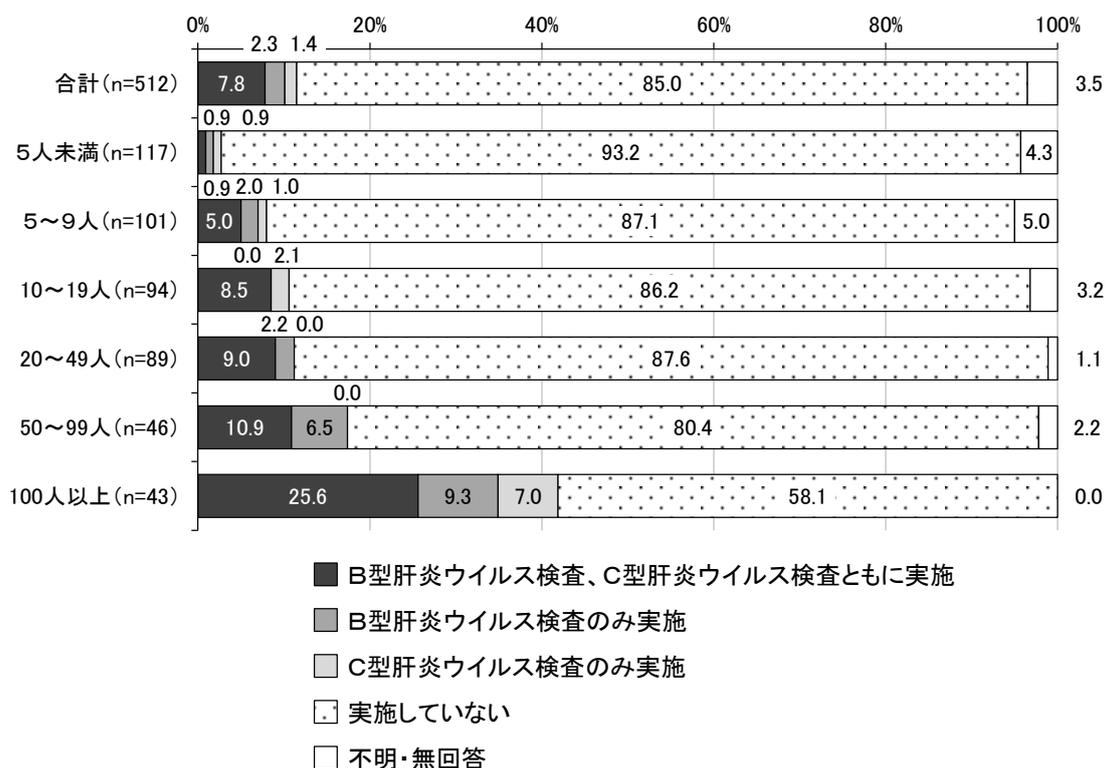
問9 貴事業所の正規雇用従業員に対する「(1) 肝炎ウイルス検査の実施状況」と、実施している場合は「(2) 対象者」を教えてください。

貴事業所の正規雇用従業員に対する『(1) 肝炎ウイルス検査の実施状況』についてみると、「実施していない」が85.0%と最も高く、次いで「B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査ともに実施」が7.8%となっています。過去調査と比べて「実施していない」では増加の傾向がみられます。



■問9 (1) 肝炎ウイルス検査の実施状況 × 問3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の肝炎ウイルス検査の実施状況についてみると、「B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査ともに実施」では『100人以上』が25.6%と他の規模の事業所と比べて2倍以上高くなっています。

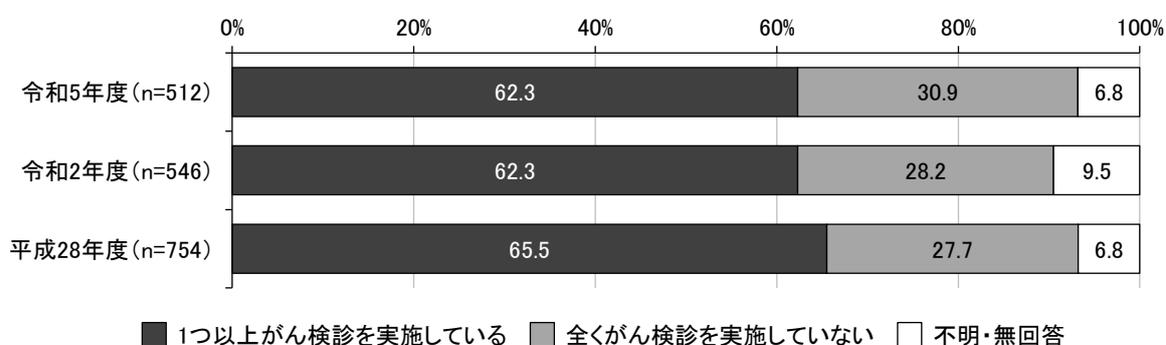


3. がん検診について

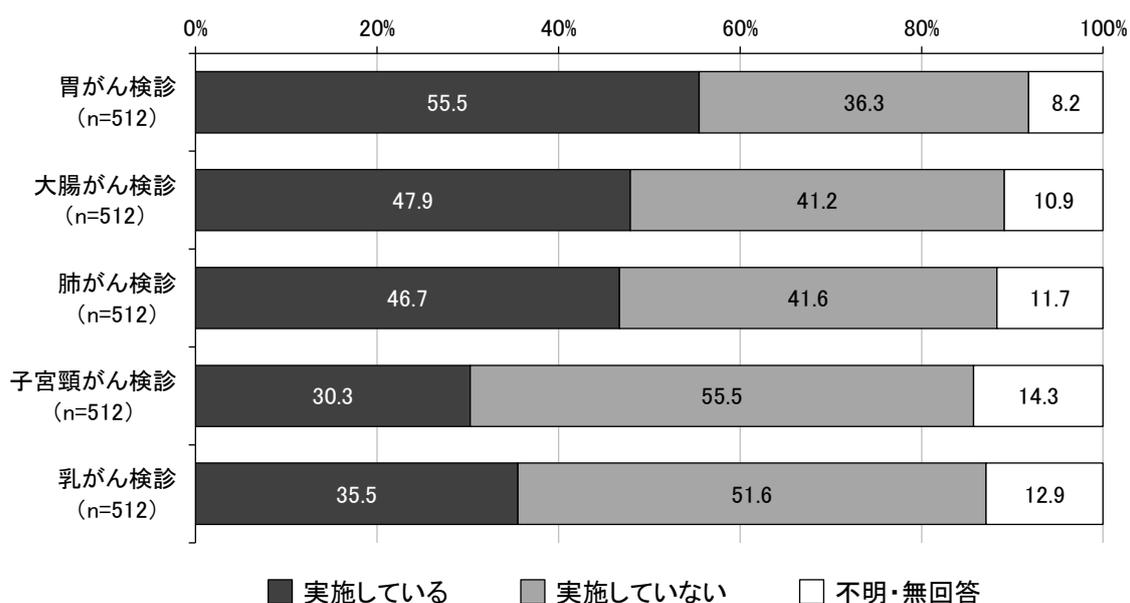
- 問 10 貴事業所の正規雇用従業員に対するがん検診の実施状況を教えてください。
 (1) 令和4年度(令和4年4月1日から令和5年3月31日)の各がん検診の実施状況についてお答えください。実施したがん検診については、(2)～(4)についても教えてください。(SA)

がん検診の実施状況についてみると、「1つ以上がん検診を実施している」が62.3%、「全くがん検診を実施していない」が30.9%となっており、過去調査と同様の傾向がみられます。がん検診の種別の「実施している」では、『胃がん検診』が55.5%と最も高く、『子宮頸がん検診』が30.3%と最も低くなっています。

【がん検診実施の有無①(全種別)】



【がん検診実施の有無②(種別)】



■各種がん検診の受診率

正規雇用の従業員のがん検診受診率では、「肺がん検診」が91.4%と最も高く、次いで「乳がん検診」が73.9%、「胃がん検診」が67.9%、「大腸がん検診」が66.0%となっています。過去調査と比較すると、胃がん、肺がん、乳がんで増加の傾向がみられます。

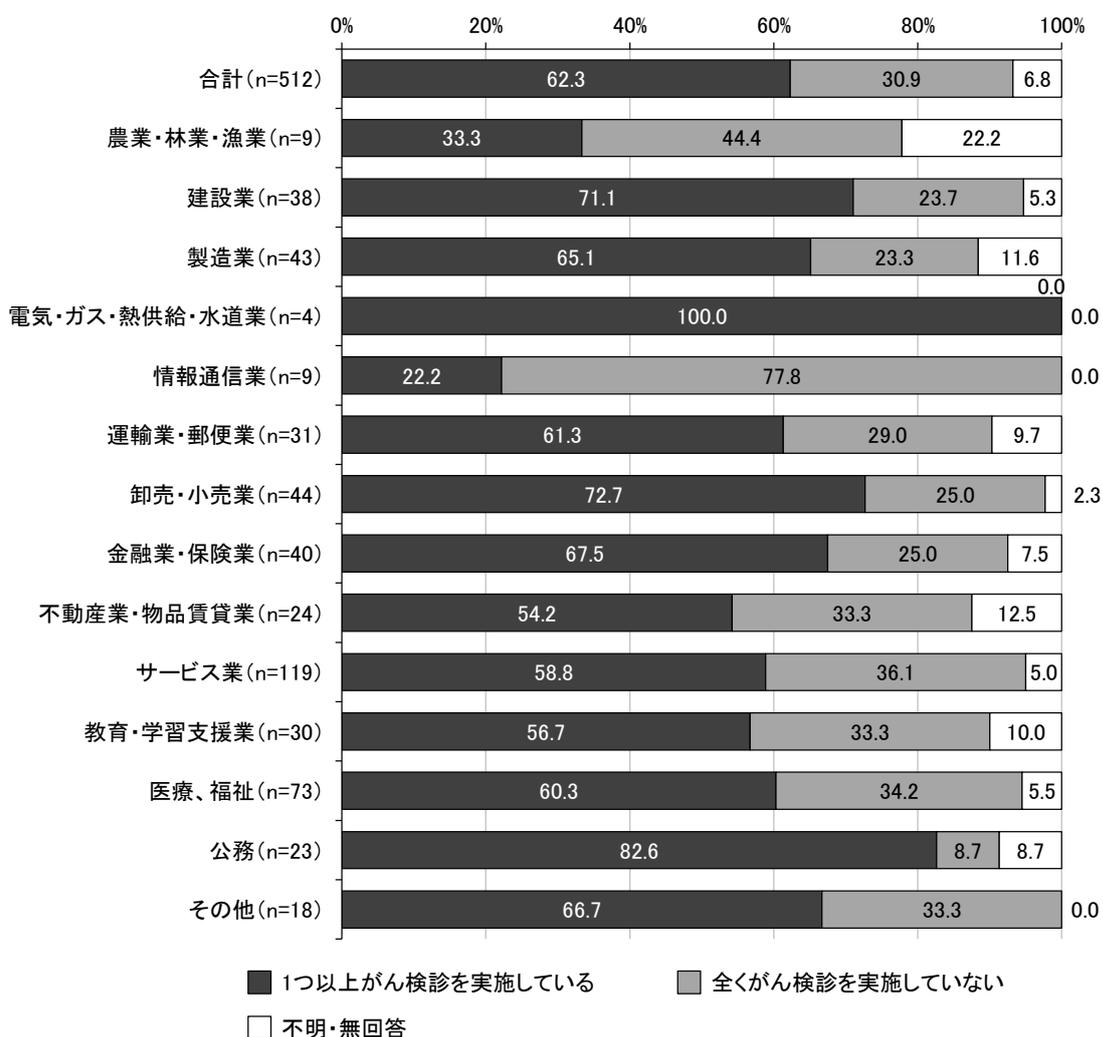
一方、「子宮頸がん検診」が39.9%と、他の検診に比べ受診率が低くなっています。

■各種がん検診の受診率（受診者数÷対象者数）

	胃がん	大腸がん	肺がん	子宮頸がん	乳がん
令和5年度 受診率	67.9%	66.0%	91.4%	39.9%	73.9%
令和2年度 受診率	58.4%	70.9%	85.8%	44.0%	49.5%
平成28年度 受診率	48.8%	52.6%	72.5%	41.2%	39.6%

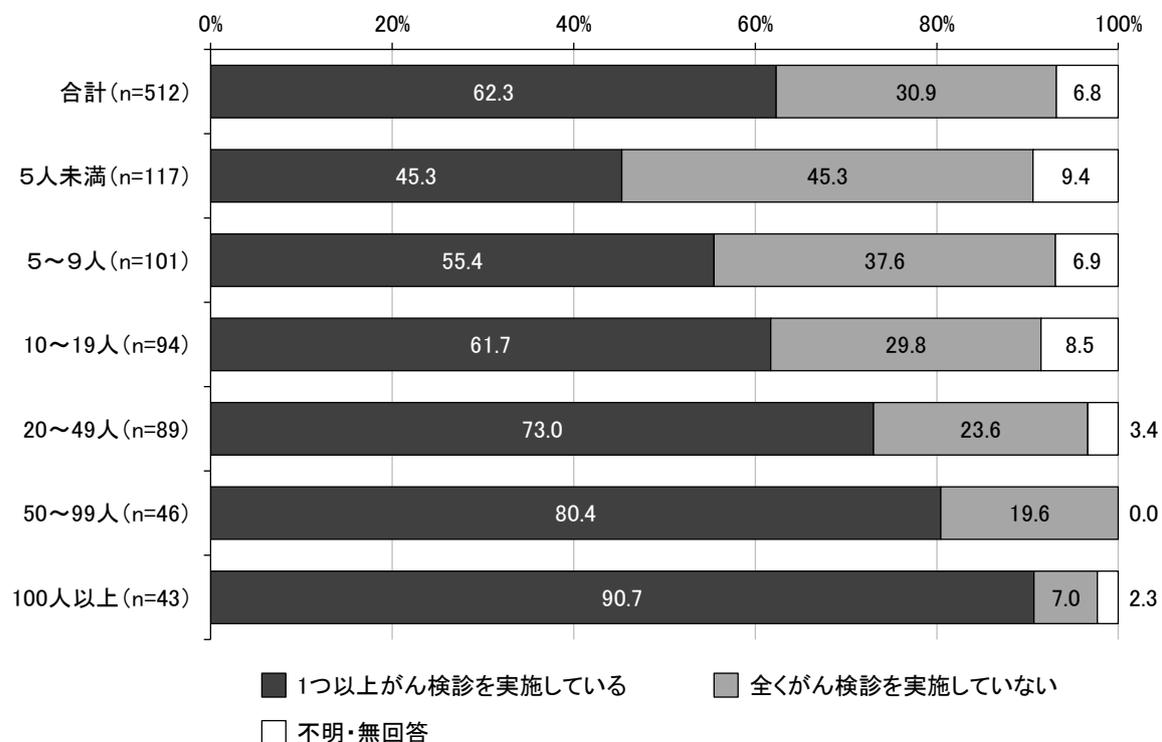
■問10 がん検診実施の有無 × 問1 業種

業種別のがん検診の実施状況についてみると、人数が少ないため参考値ではありますが、「1つ以上がん検診を実施している」では『電気・ガス・熱供給・水道業』が100%と最も高く、次いで『公務』が82.6%となっています。「全くがん検診を実施していない」では『情報通信業』が77.8%と最も高く、次いで『農業・林業・漁業』が44.4%となっています。



■問 10 がん検診実施の有無 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別のがん検診の実施状況についてみると、「1つ以上がん検診を実施している」では『5人未満』が45.3%と最も低く、『100人以上』が90.7%となっており、正規雇用者数が多いほど高くなっています。



胃がん検診

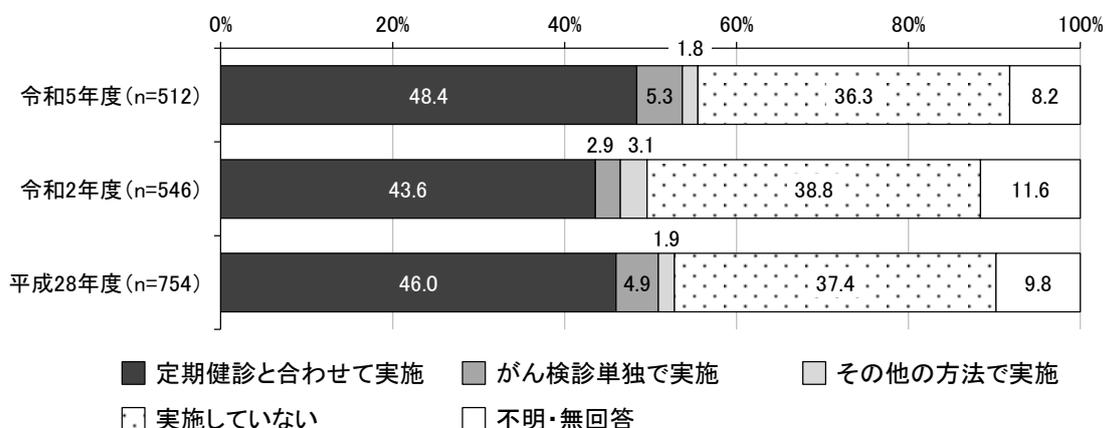
胃がん検診の実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」が48.4%と最も高く、次いで「実施していない」が36.3%となっており、過去調査と同様の傾向がみられます。

対象者についてみると、「ある年齢以上」が59.9%と最も高く、次いで「全従業員」が27.8%となっています。

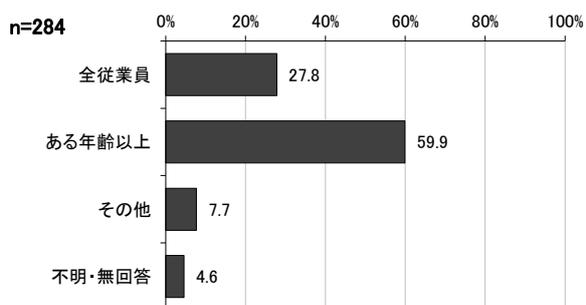
対象者年齢についてみると、「30歳以上」が58.2%と最も高く、次いで「40歳以上」が39.4%となっています。

検査方法についてみると、「胃部エックス線検査」が58.5%と最も高く、次いで「胃内視鏡検査」が22.2%となっています。

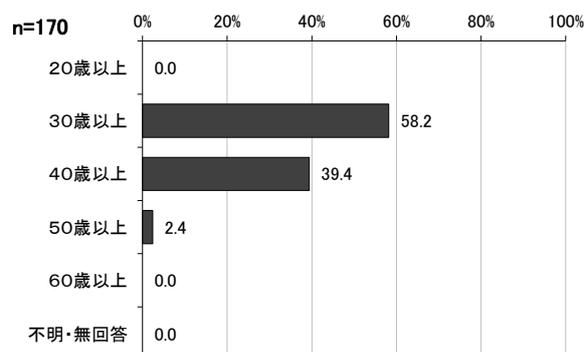
【胃がん検診 実施状況】



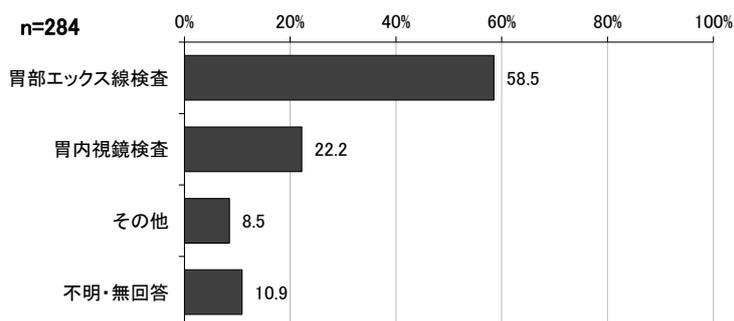
【胃がん検診 対象者】



【胃がん検診 対象者年齢】

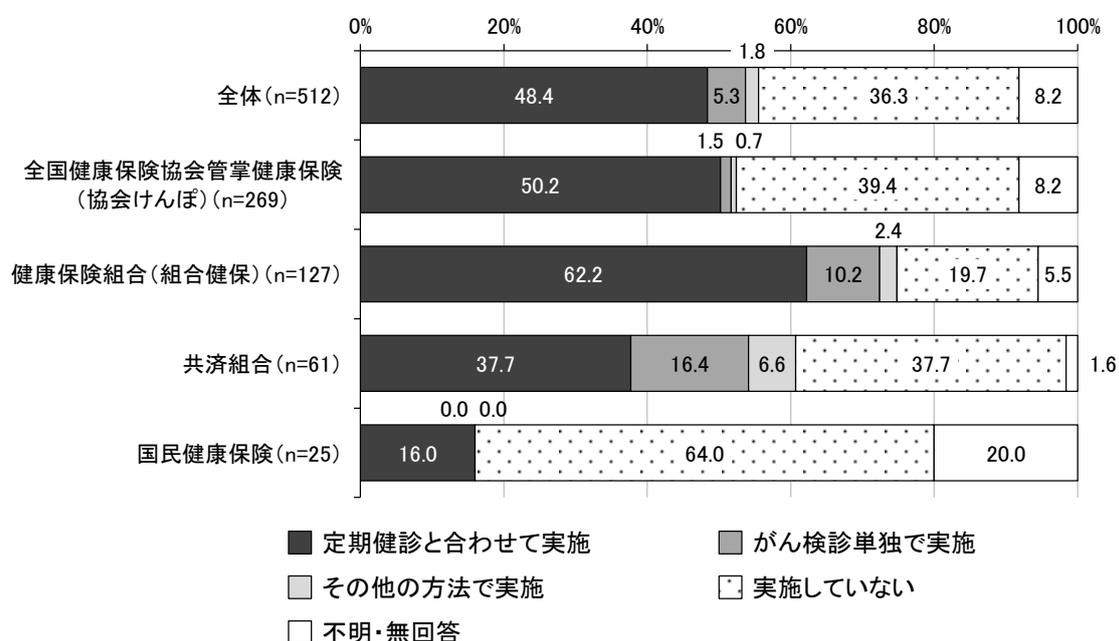


【胃がん検診 検査方法】



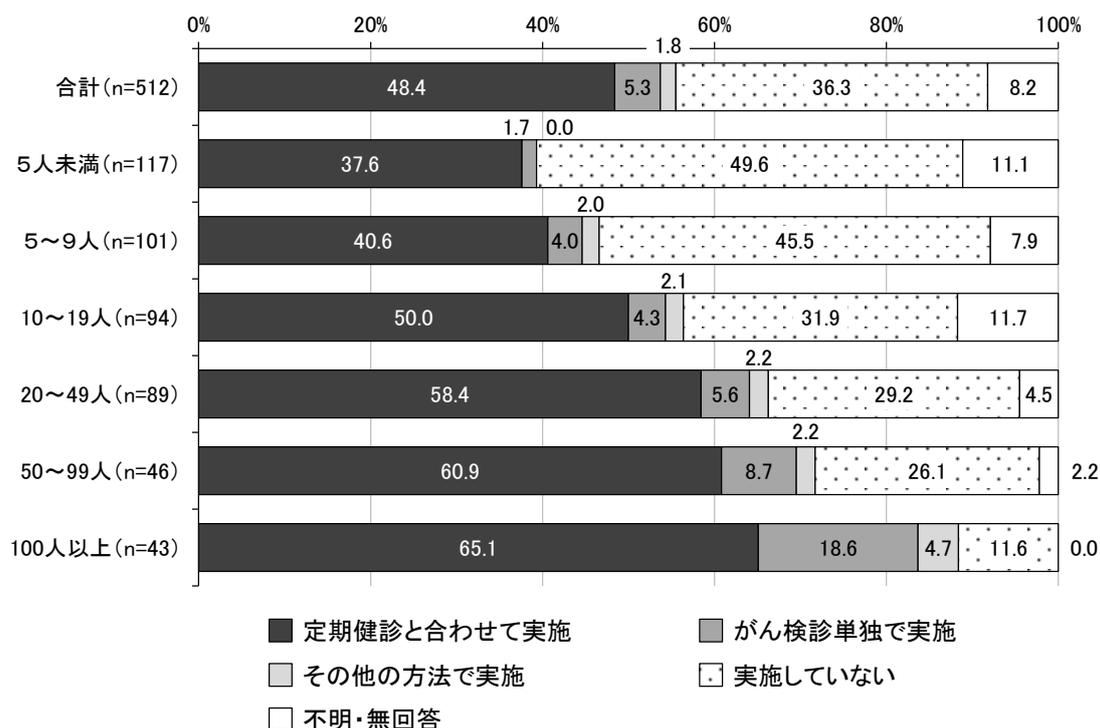
■問 10(1) 胃がん検診の実施状況 × 問 2 保険種別

保険種別の胃がん検診実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」では『健康保険組合（組合健保）』が62.2%と最も高くなっています。「がん検診単独で実施」では『共済組合』が16.4%、「実施していない」では『国民健康保険』が64.0%と最も高くなっています。



■問 10(1) 胃がん検診の実施状況 × 問 3(1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の胃がん検診実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」では『10～19人』から『100人以上』までの事業所で半数以上と高くなっています。一方、『5人未満』では37.6%と低く、正規雇用者数が多いほど高い傾向にあります。また、「がん検診単独で実施」「その他の方法で実施」においても正規雇用者数が多いほど高い傾向がみられます。



大腸がん検診

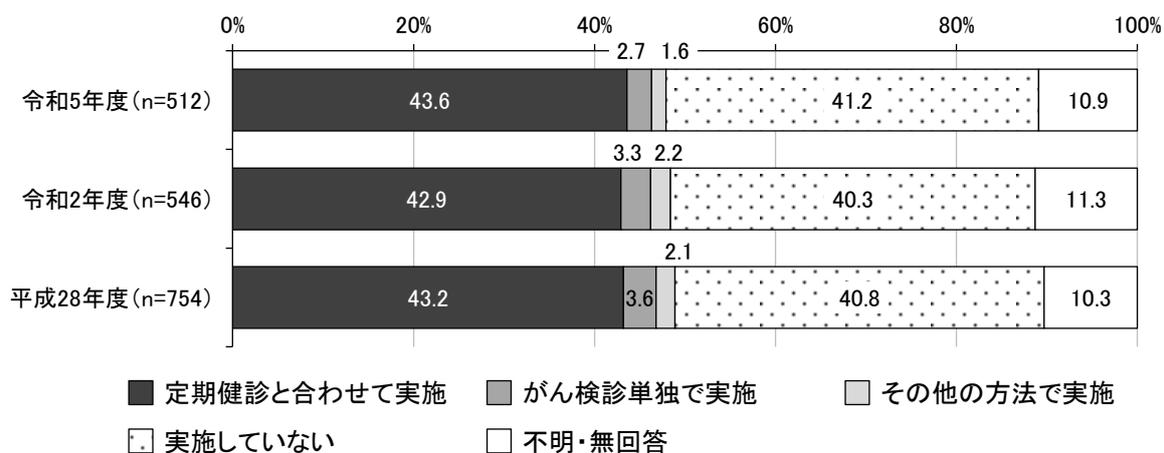
大腸がん検診の実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」が43.6%と最も高く、次いで「実施していない」が41.2%となっており、過去調査と同様の傾向がみられます。

対象者についてみると、「ある年齢以上」が52.2%と最も高く、次いで「全従業員」が34.3%となっています。

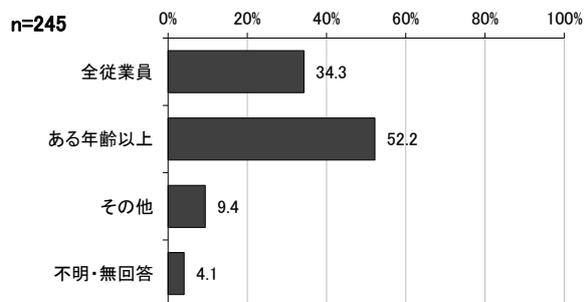
対象者年齢についてみると、「30歳以上」が58.6%と最も高く、次いで「40歳以上」が39.1%となっています。

検査方法についてみると、「便潜血検査」が84.9%と最も高くなっています。

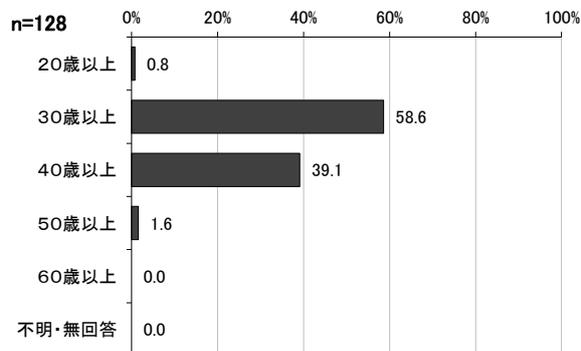
【大腸がん検診 実施状況】



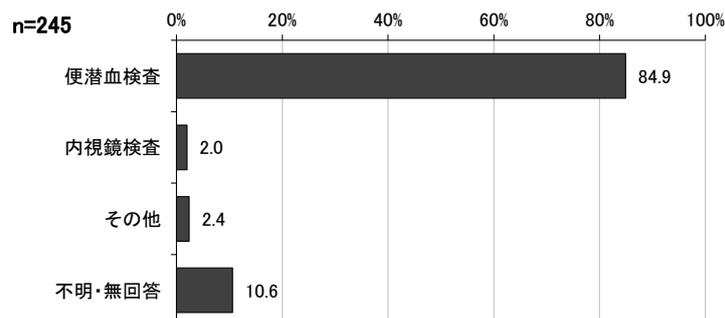
【大腸がん検診 対象者】



【大腸がん検診 対象者年齢】

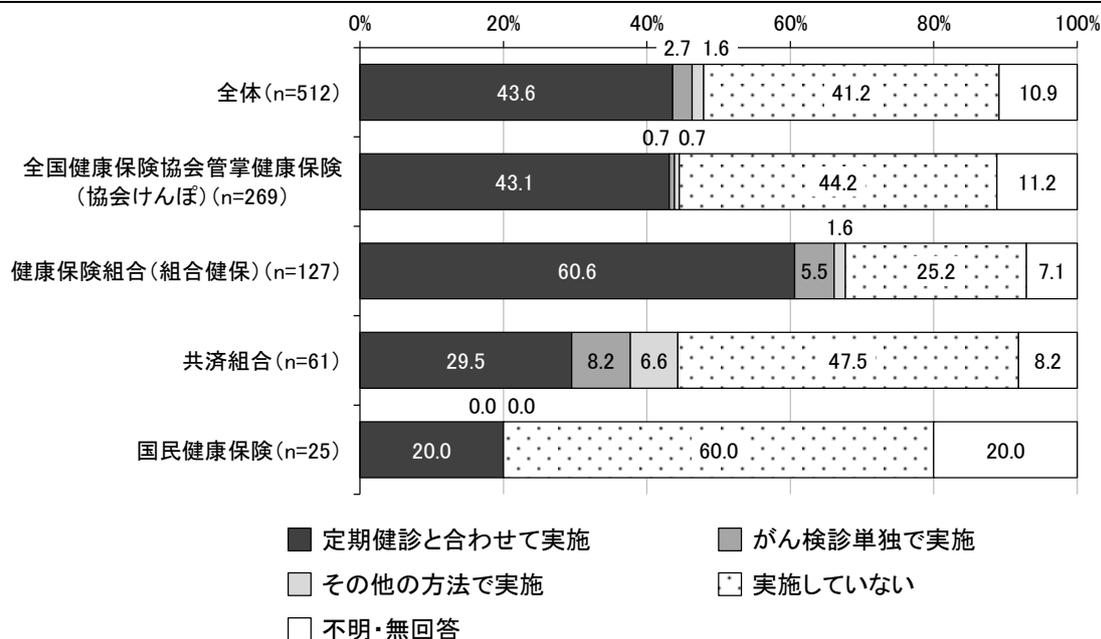


【大腸がん検診 検査方法】



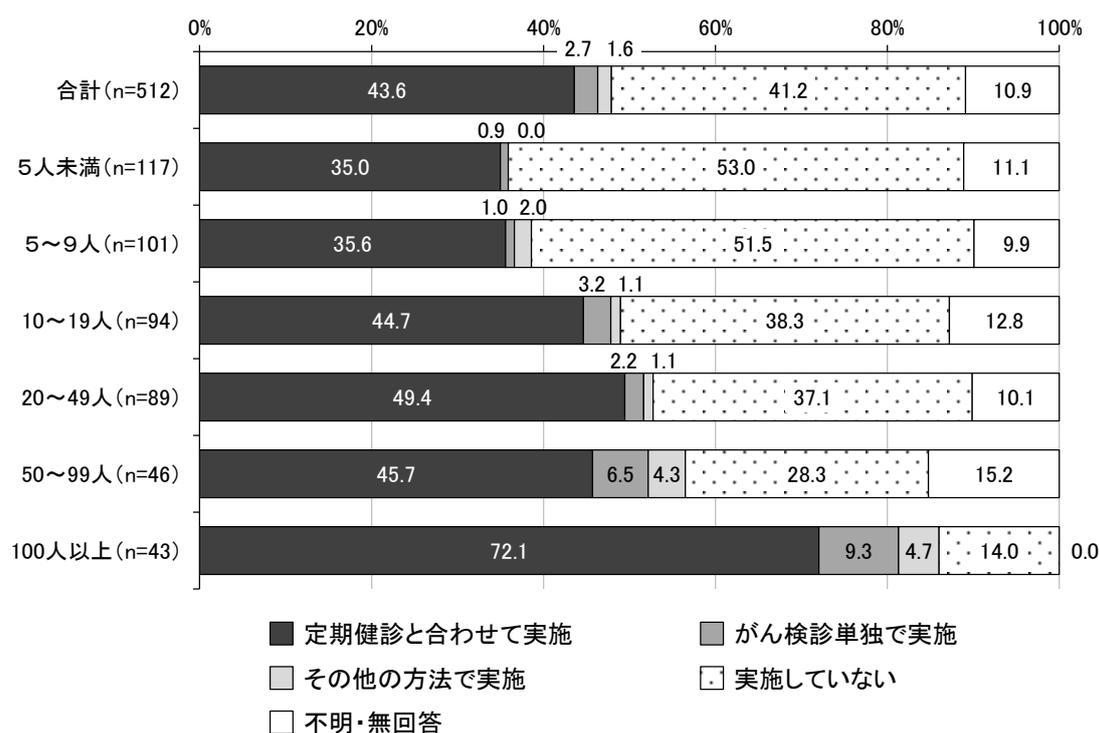
■問 10(1) 大腸がん検診の実施状況 × 問 2 保険種別

保険種別の大腸がん検診実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」は『健康保険組合（組合健保）』が60.6%と最も高くなっています。「がん検診単独で実施」については『共済組合』が8.2%と最も高くなっています。「実施していない」については『国民健康保険』が60.0%と最も高くなっています。



■問 10(1) 大腸がん検診の実施状況 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の大腸がん検診実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」では『100人以上』の事業所で72.1%と最も高くなっています。一方、「実施していない」では『5人未満』から『5～9人』までの事業所で50%以上となっています。



肺がん検診

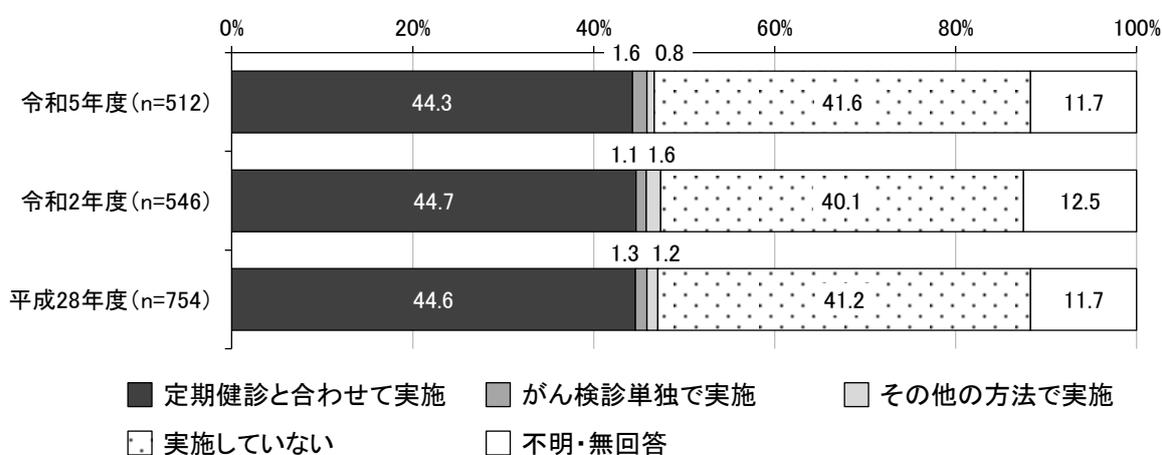
肺がん検診の実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」が44.3%と最も高く、次いで「実施していない」が41.6%となっており、過去調査と同様の傾向がみられます。

対象者についてみると、「全従業員」が71.1%と最も高く、次いで「ある年齢以上」が17.6%となっています。

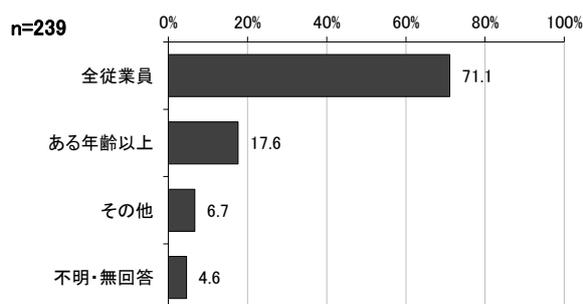
対象者年齢についてみると、「30歳以上」が47.6%と最も高く、次いで「40歳以上」が42.9%となっています。

検査方法についてみると、「胸部エックス線検査」が80.3%と最も高く、次いで「胸部CT検査」が5.0%となっています。

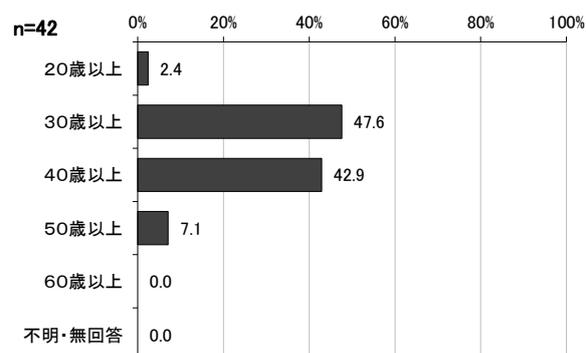
【肺がん検診 実施状況】



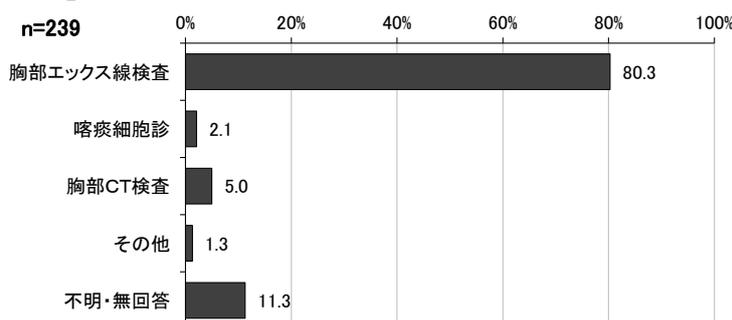
【肺がん検診 対象者】



【肺がん検診 対象者年齢】

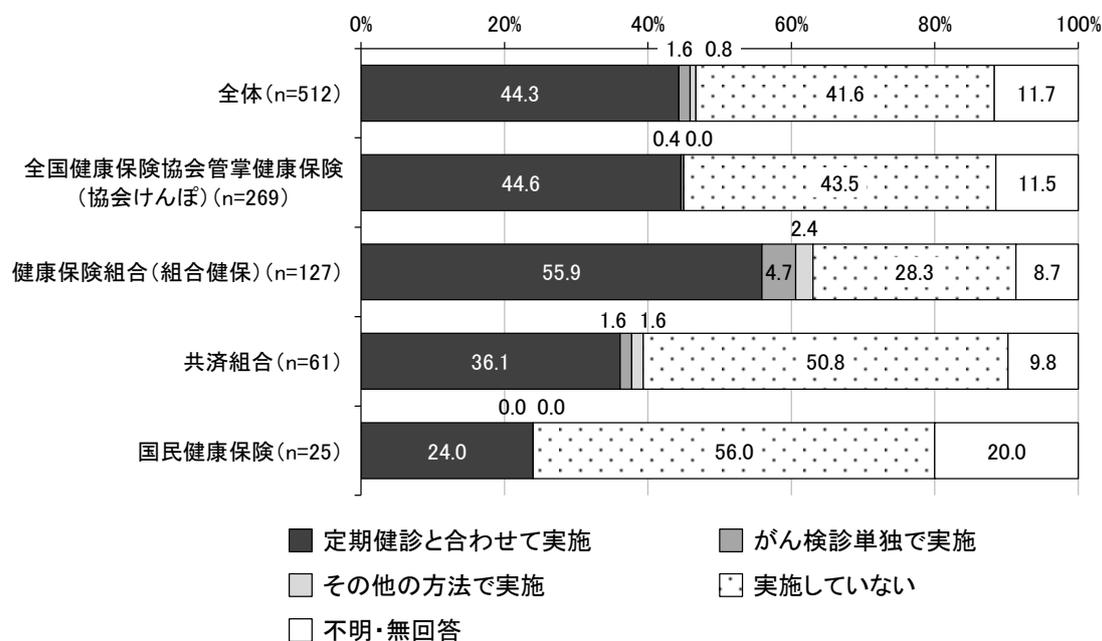


【肺がん検診 検査方法】



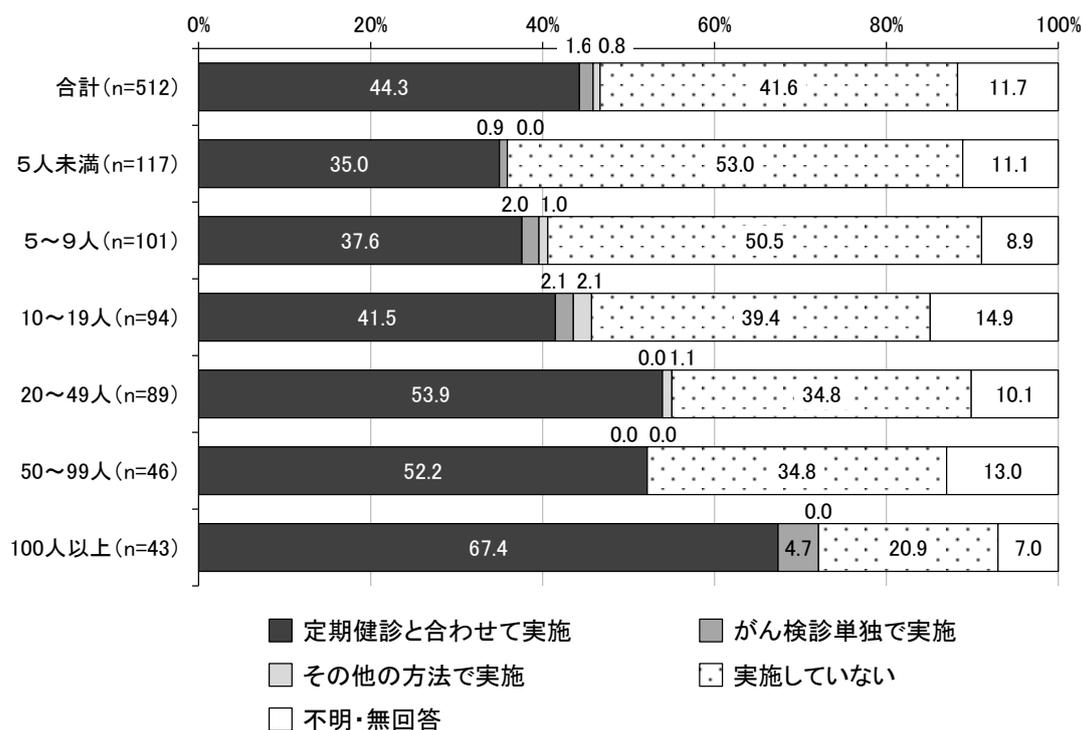
■問 10(1) 肺がん検診の実施状況 × 問 2 保険種別

保険種別の肺がん検診実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」は、『健康保険組合（組合健保）』が55.9%と最も高くなっています。「実施していない」については、『国民健康保険』が56.0%と最も高く、次いで『共済組合』が50.8%となっています。



■問 10(1) 肺がん検診の実施状況 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の肺がん検診実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」は20人以上の事業所で50%以上となっています。一方、「実施していない」では『5人未満』から『5～9人』までの事業所で50%以上となっています。



子宮頸がん検診【女性のみ】

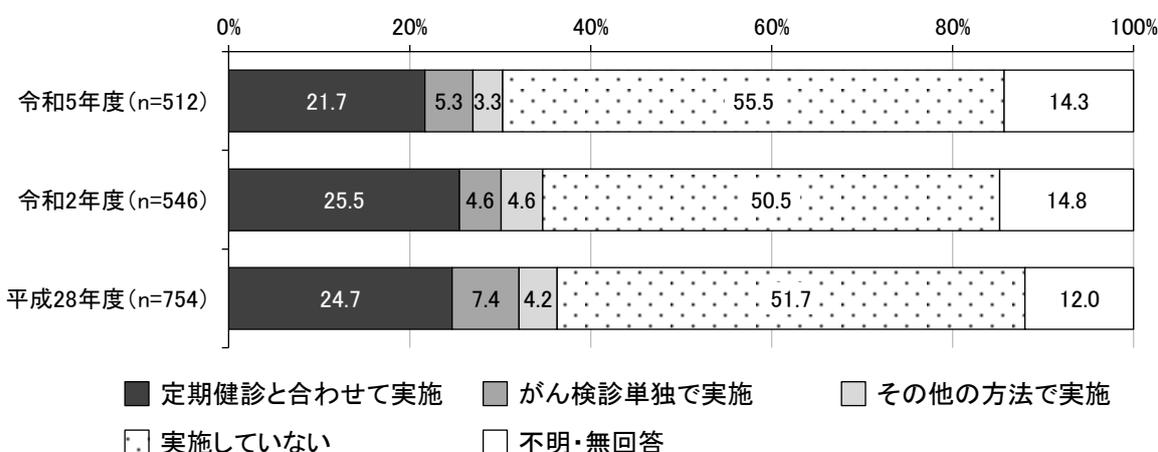
子宮頸がん検診の実施状況についてみると、「実施していない」が55.5%と最も高く、次いで「定期健診と合わせて実施」が21.7%となっており、過去調査と比べ実施率は低くなっています。

対象者についてみると、「全従業員」が39.4%と最も高く、次いで「ある年齢以上」が38.7%となっています。

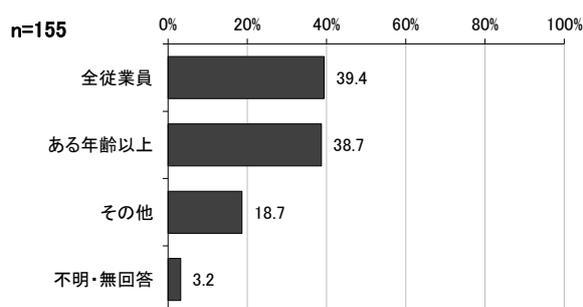
対象者年齢についてみると、「30歳以上」が53.3%と最も高く、次いで「20歳以上」が28.3%となっています。

検査方法についてみると、「細胞診」が61.9%と最も高く、次いで「HPV検査」が7.7%となっています。

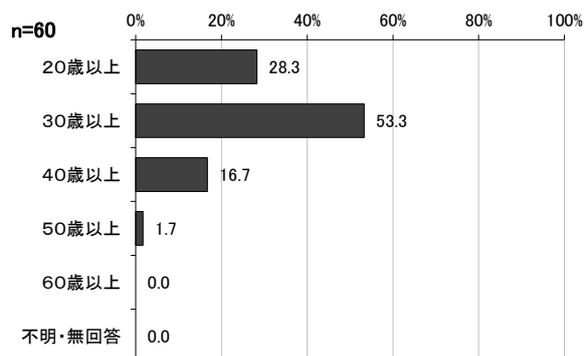
【子宮頸がん検診 実施状況】



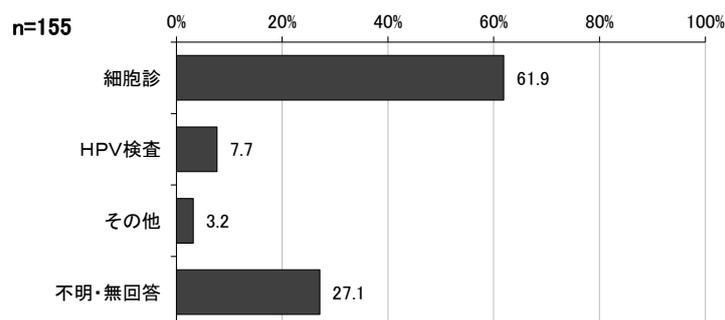
【子宮頸がん検診 対象者】



【子宮頸がん検診 対象者年齢】



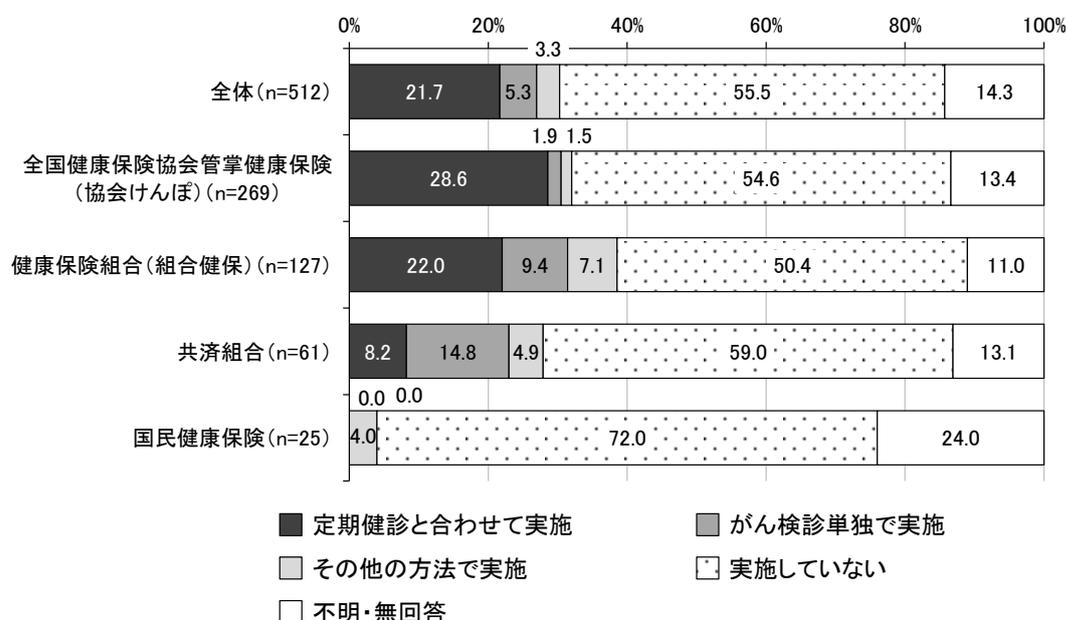
【子宮頸がん検診 検査方法】



■問 10(1) 子宮頸がん検診の実施状況 × 問 2 保険種別

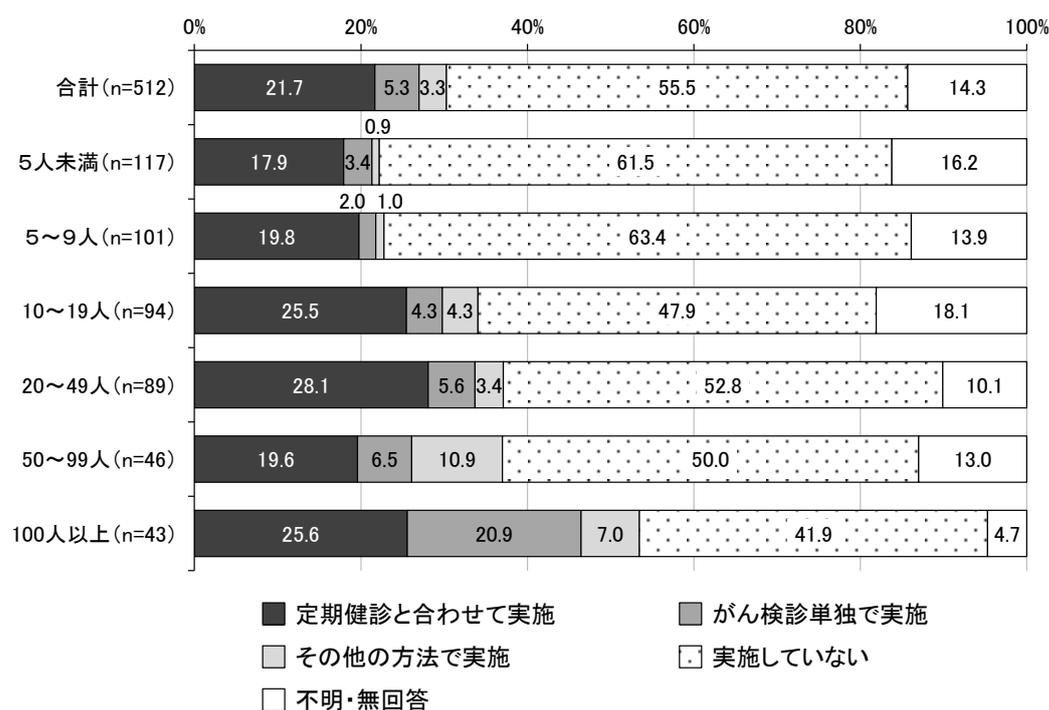
保険種別の子宮頸がん検診実施状況についてみると、いずれの保険種別も 50%以上が「実施していない」と回答しています。特に、『国民健康保険』では 72.0%と最も高くなっています。

「定期健診と合わせて実施」では、『全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）』が 28.6%と最も高く、次いで『健康保険組合（組合健保）』が 22.0%となっています。



■問 10(1) 子宮頸がん検診の実施状況 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の子宮頸がん検診実施状況についてみると、「定期検診とあわせて実施」では『20～49人』が 28.1%と最も高く、次いで『100人以上』が 25.6%、『10～19人』が 25.5%となっています。「がん検診単独で実施」では『100人以上』が 20.9%と最も高くなっています。



乳がん検診【女性のみ】

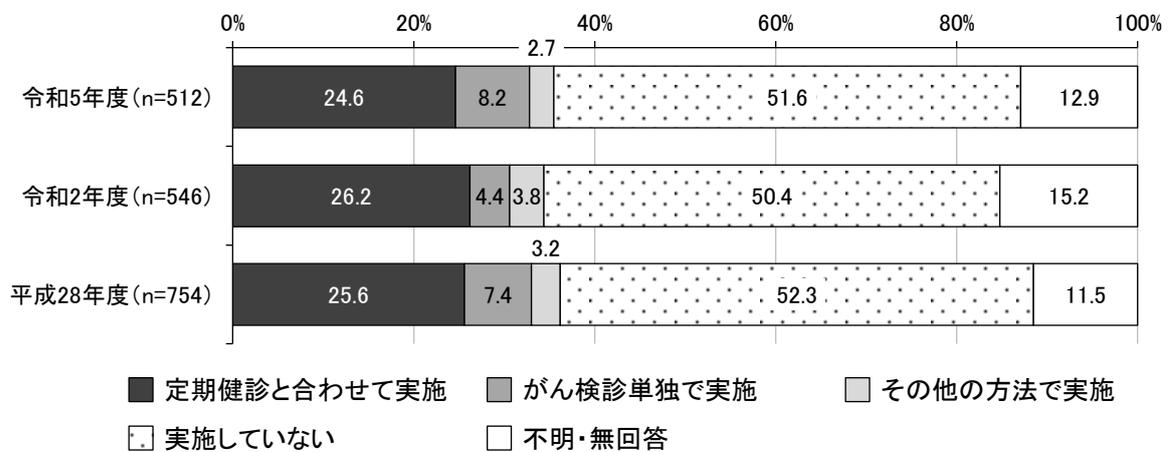
乳がん検診の実施状況についてみると、「実施していない」が51.6%と最も高く、次いで「定期健診と合わせて実施」が24.6%となっており、過去調査と同様の傾向がみられます。

対象者についてみると、「ある年齢以上」が46.2%と最も高く、次いで「全従業員」が33.5%となっています。

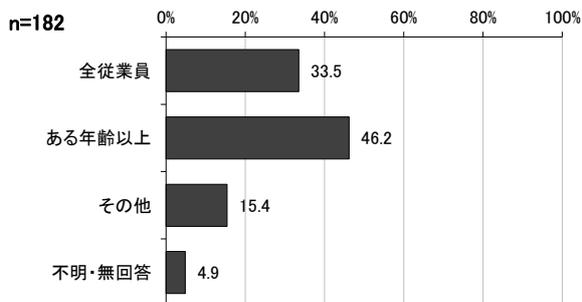
対象者年齢についてみると、「30歳以上」が46.4%と最も高く、次いで「40歳以上」が44.0%となっています。

検査方法についてみると、「マンモグラフィ」が65.9%と最も高く、次いで「超音波検査」が8.8%となっています。

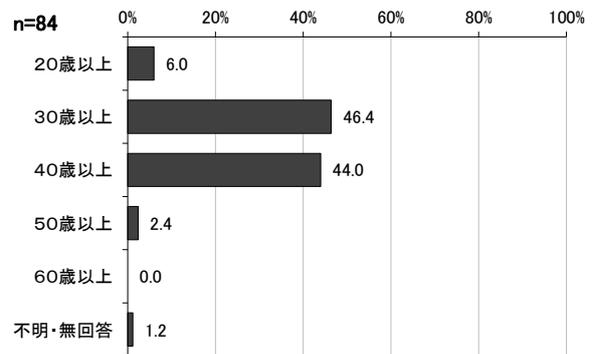
【乳がん検診 実施状況】



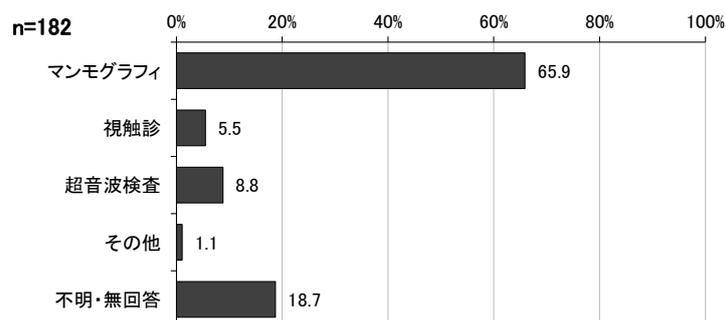
【乳がん検診 対象者】



【乳がん検診 対象者年齢】

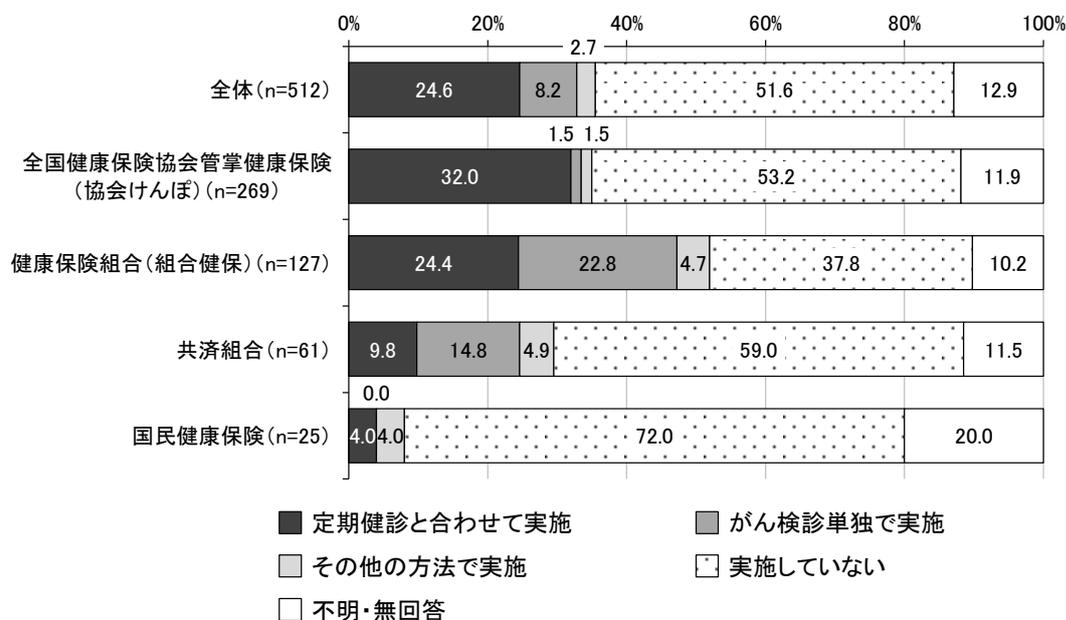


【乳がん検診 検査方法】



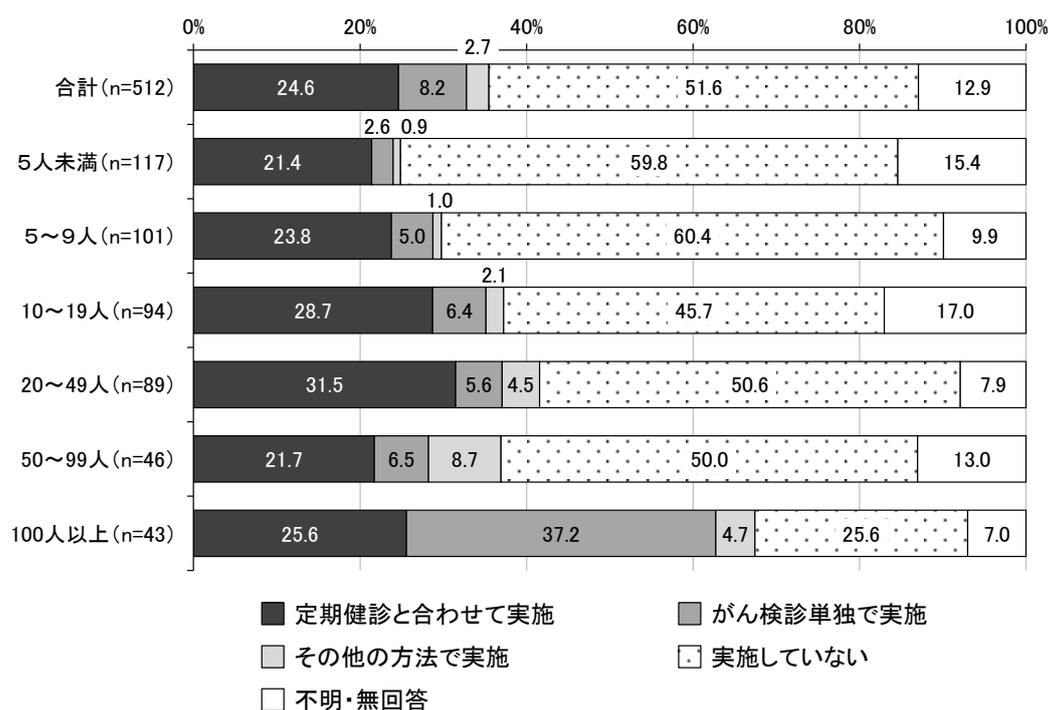
■問 10(1) 乳がん検診の実施状況 × 問 2 保険種別

保険種別の乳がん検診実施状況についてみると、「定期健診と合わせて実施」では『全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）』が 32.0%と最も高く、次いで『健康保険組合（組合健保）』が 24.4%となっています。「がん検診単独で実施」では『健康保険組合（組合健保）』が 22.8%と最も高く、次いで『共済組合』が 14.8%となっています。「実施していない」では『国民健康保険』が 72.0%と最も高くなっています。



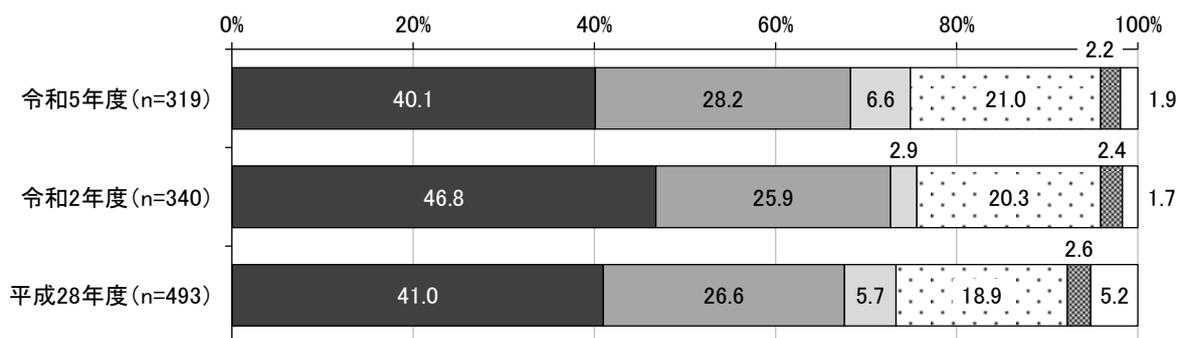
■問 10(1) 乳がん検診の実施状況 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の乳がん検診実施状況についてみると、「定期検診とあわせて実施」では『20～49人』が 31.5%と最も高く、次いで『10～19人』が 28.7%となっています。「がん検診単独で実施」では『100人以上』が 37.2%と特に高くなっています。



問 11 【問 10(1)でいずれかのがん検診を実施していると回答した事業所の方にお聞きします。】
 がん検診の結果の管理方法について教えてください。(S A)

がん検診の結果の管理方法についてみると、「検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨を行い、精密検査の結果も確認している」が40.1%と最も高く、次いで「検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨は行っているが、精密検査の結果は確認していない(できない)」が28.2%、「がん検診の結果は個人情報であり、個人からの申し出がない限り、確認も勧奨もしない(できない)」が21.0%となっています。



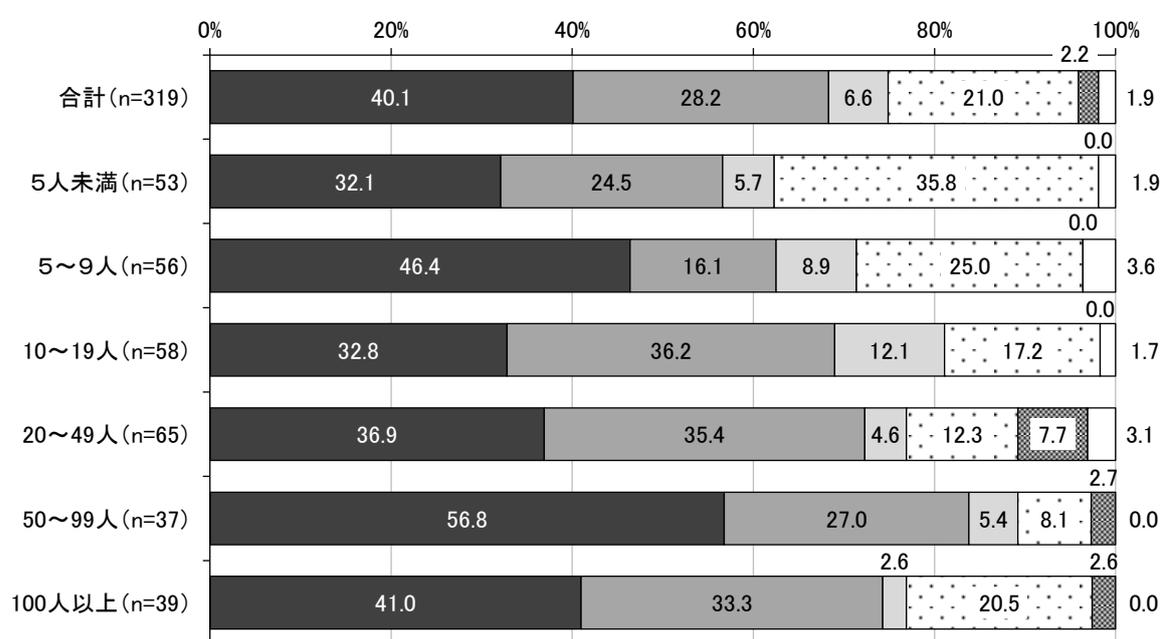
- 検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨を行い、精密検査の結果も確認している
- 検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨は行っているが、精密検査の結果は確認していない(できない)
- 検診結果を確認しているが、精密検査が必要な者に対する受診勧奨は行っていない
- がん検診の結果は個人情報であり、個人からの申し出がない限り、確認も勧奨もしない(できない)
- その他
- 不明・無回答

■問 11 がん検診の結果の管理方法 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別のがん検診の結果の管理方法についてみると、「検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨を行い、精密検査の結果も確認している」では『50～99人』が56.8%と最も高く、次いで『5～9人』が46.4%となっています。

「検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨は行っているが、精密検査の結果は確認していない(できない)」では『10～19人』が36.2%と最も高く、次いで『20～49人』が35.4%、『100人以上』が33.3%となっています。

また、「検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨は行っている」についてみると、『50～99人』では80%以上と高くなっています。一方、「がん検診の結果は個人情報であり、個人からの申し出がない限り、確認も勧奨もしない(できない)」では『5人未満』が35.8%となっています。



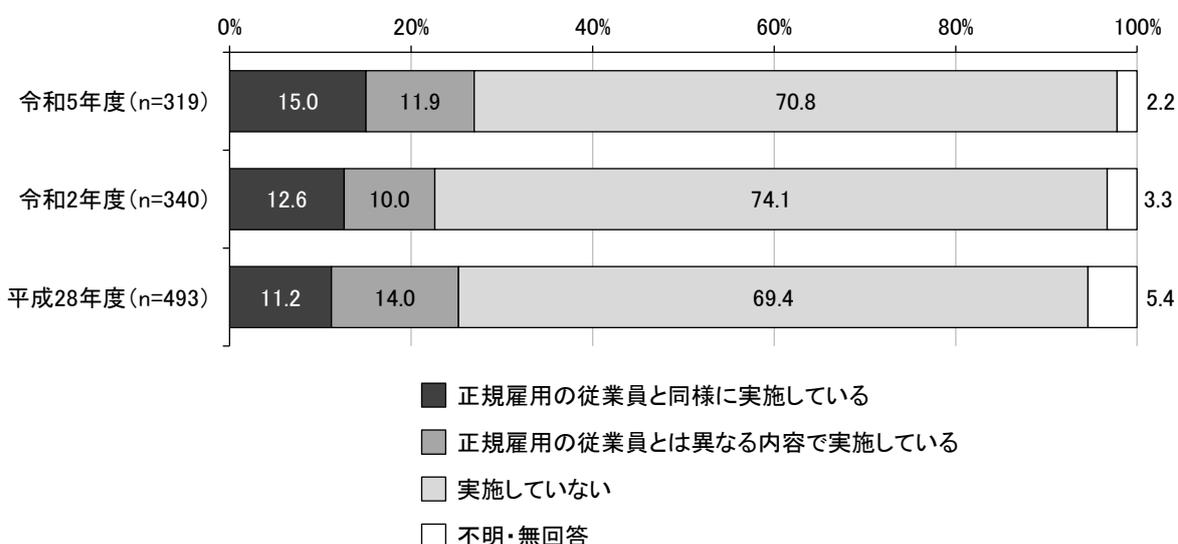
- 検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨を行い、精密検査の結果も確認している
- 検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨は行っているが、精密検査の結果は確認していない(できない)
- 検診結果を確認しているが、精密検査が必要な者に対する受診勧奨は行っていない
- がん検診の結果は個人情報であり、個人からの申し出がない限り、確認も勧奨もしない(できない)
- その他
- 不明・無回答

問 12 【問 10(1)でいずれかのがん検診を実施していると回答した事業所の方にお聞きします。】
 正規雇用従業員の家族、非正規雇用従業員のがん検診をどのように取り組んでいますか。(S A)

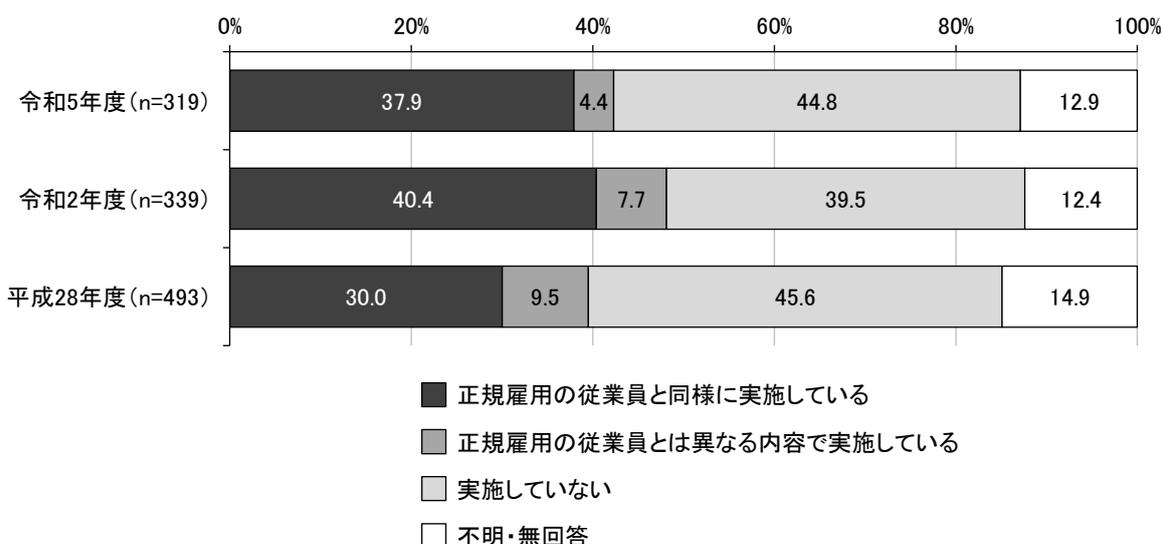
正規雇用従業員の家族のがん検診についてみると、「実施していない」が70.8%と最も高く、次いで「正規雇用の従業員と同様に実施している」が15.0%、「正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している」が11.9%となっており、過去調査と同様の傾向がみられます。

非正規雇用従業員のがん検診についてみると、「実施していない」が44.8%と最も高く、次いで「正規雇用の従業員と同様に実施している」が37.9%、「正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している」が4.4%となっています。

【正規雇用従業員の家族】



【非正規雇用従業員】

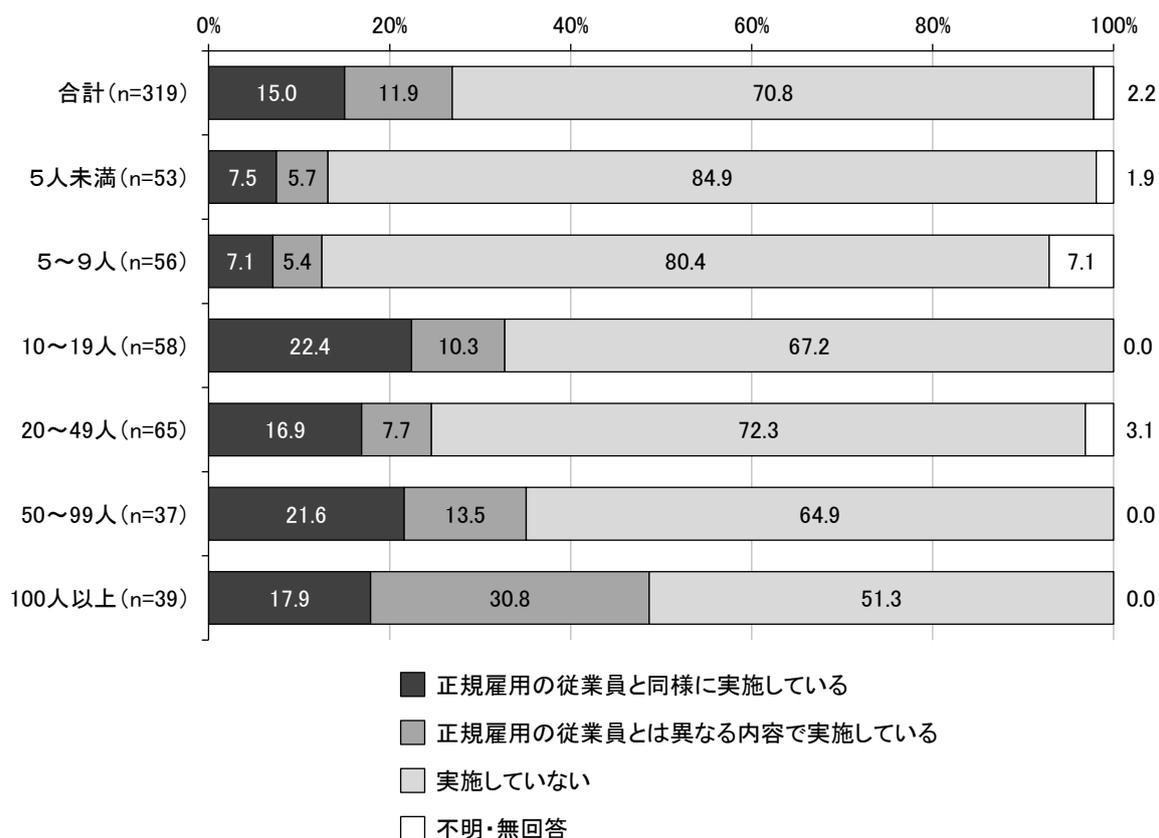


■問 12(1) 正規雇用従業員の家族について × 問 3(1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の正規雇用従業員の家族についてみると、「正規雇用の従業員と同様に実施している」では『10～19人』が22.4%と最も高く、次いで『50～99人』が21.6%、『100人以上』が17.9%となっています。

「正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している」では『100人以上』が30.8%と最も高く、次いで『50～99人』が13.5%となっています。

「実施していない」では『5人未満』が84.9%と最も高く、次いで『5～9人』が80.4%、『20～49人』が72.3%となっています。

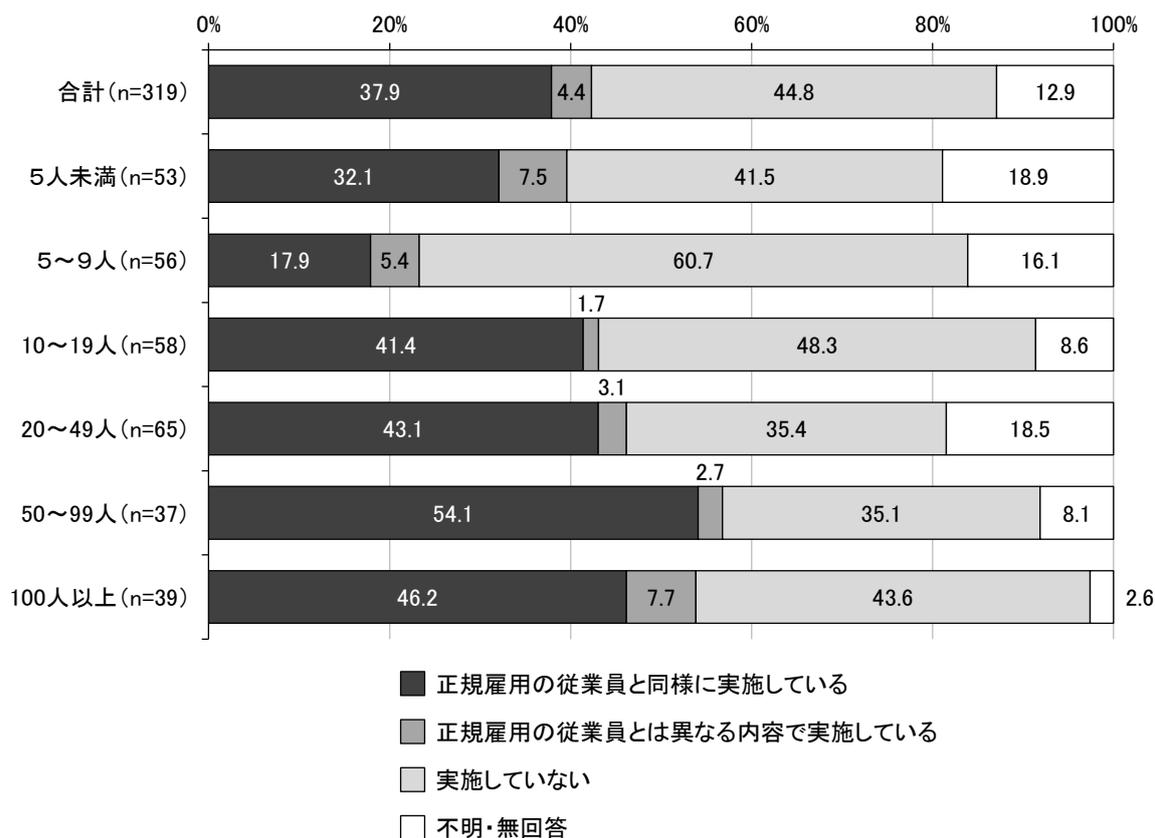


■問 12(2) 非正規雇用の従業員について × 問 3(1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の非正規雇用の従業員についてみると、「正規雇用の従業員と同様に実施している」では『50～99人』が54.1%と最も高く、次いで『100人以上』が46.2%、『20～49人』が43.1%、『10～19人』が41.4%となっています。

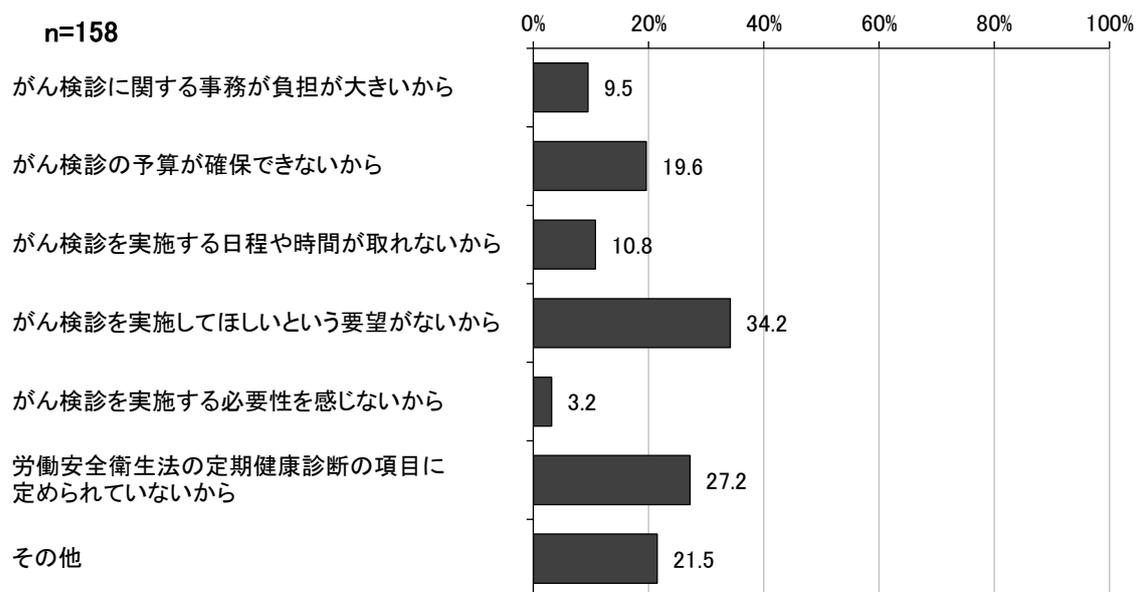
「正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している」では、『100人以上』が7.7%と最も高く、次いで『5人未満』が7.5%となっています。

「実施していない」では『5～9人』が60.7%と最も高く、次いで『10～19人』が48.3%、『100人以上』が43.6%となっています。



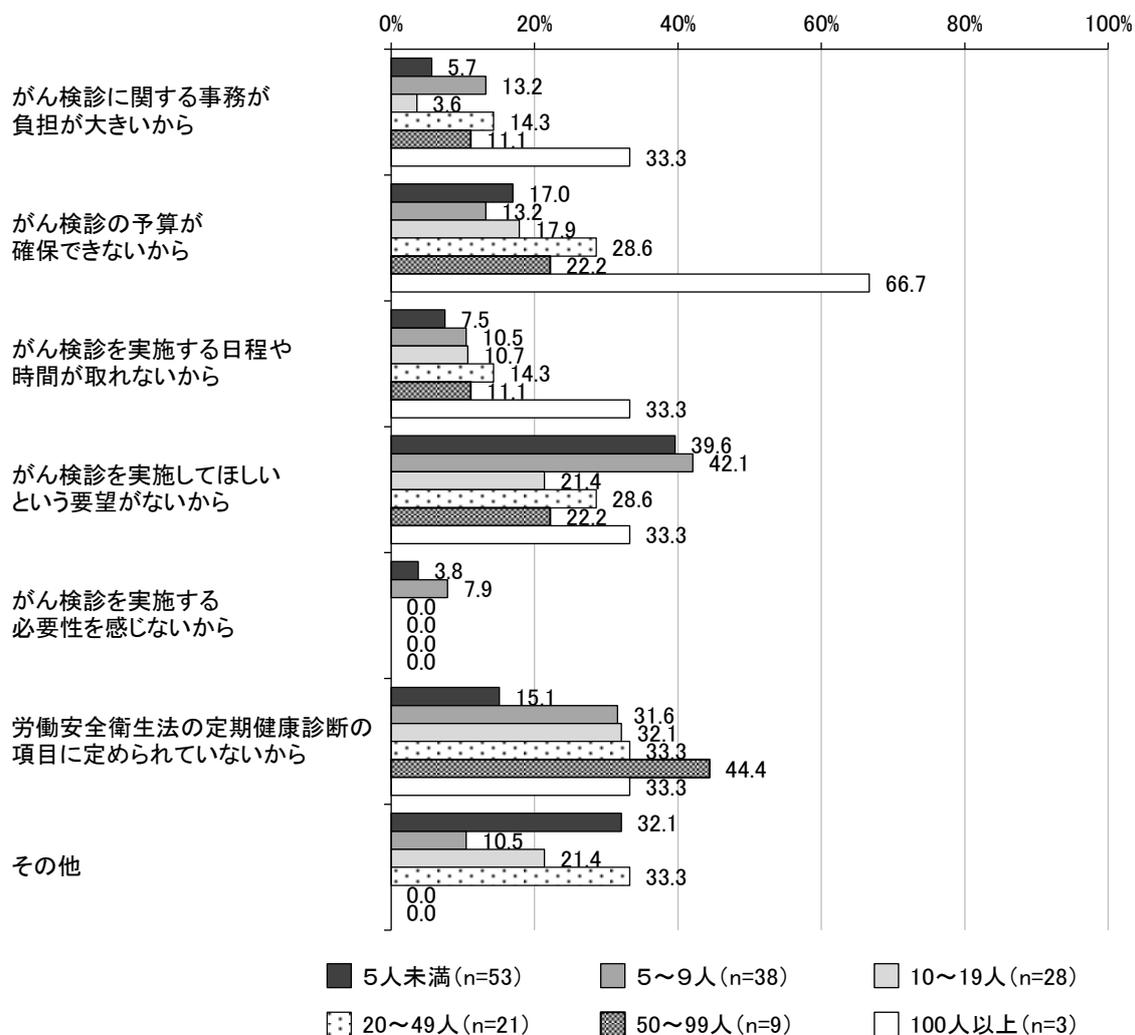
問 13 【問 10(1)ですべてのがん検診を実施していないと回答した事業所の方にお聞きします。】貴事業所で正規雇用従業員のがん検診を実施していない理由を教えてください。(MA)

事業所で正規雇用従業員のがん検診を実施していない理由についてみると、「がん検診を実施してほしいという要望がないから」が 34.2%と最も高く、次いで「労働安全衛生法の定期健康診断の項目に定められていないから」が 27.2%、「がん検診の予算が確保できないから」が 19.6%となっています。



■問 13 未実施の理由 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の未実施の理由についてみると、人数が少ないため参考値ではありますが、『5人未満』から『5～9人』までは「がん検診を実施してほしいという要望がないから」が高くなっています。『10～19人』から『50～99人』までは「労働安全衛生法の定期健康診断の項目に定められていないから」が高くなっています。『100人以上』では「がん検診の予算が確保できないから」が高くなっています。

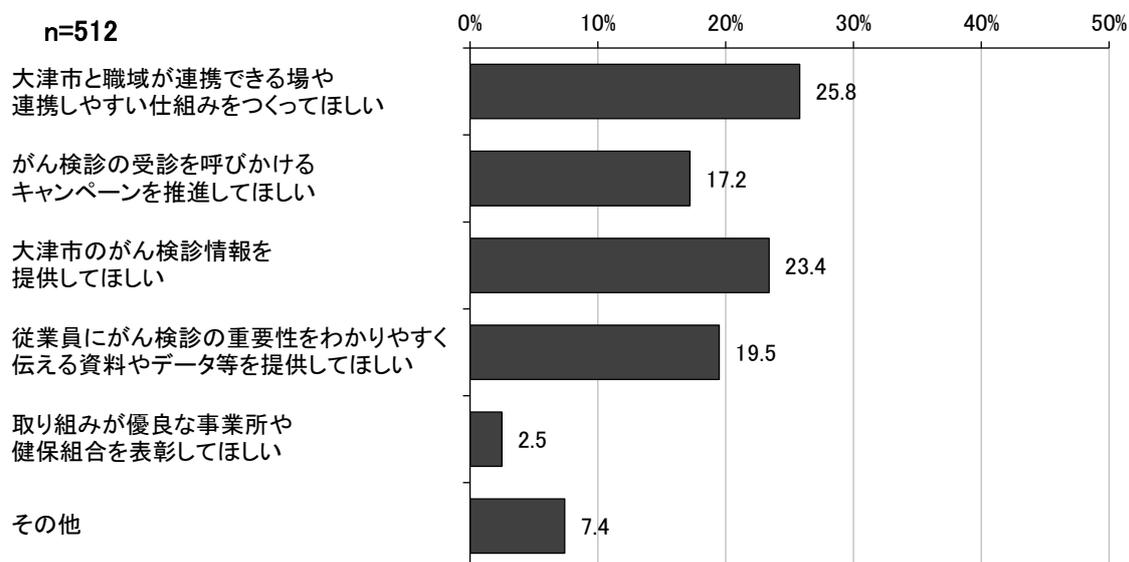


問 14 【問 10(1)ですべてのがん検診を実施していないと回答した事業所の方にお聞きします。】
従業員が貴事業所以外で実施するがん検診を受診するための勧奨の取り組み
があれば教えてください。

自由回答
年1回の健康診断の時に健診資料内にパンフレットが入っている
社会保険事務所から送付される健康についての案内などを見せている
人間ドック受診を勧奨
人間ドックの費用の助成

問 15 がん検診に関する大津市に対する要望があれば教えてください。(MA)

がん検診に関する大津市に対する要望についてみると、「大津市と職域が連携できる場や連携しやすい仕組みをつくってほしい」が 25.8%と最も高く、次いで「大津市のがん検診情報を提供してほしい」が 23.4%、「従業員にがん検診の重要性をわかりやすく伝える資料やデータ等を提供してほしい」が 19.5%、「がん検診の受診を呼びかけるキャンペーンを推進してほしい」が 17.2%となっています。



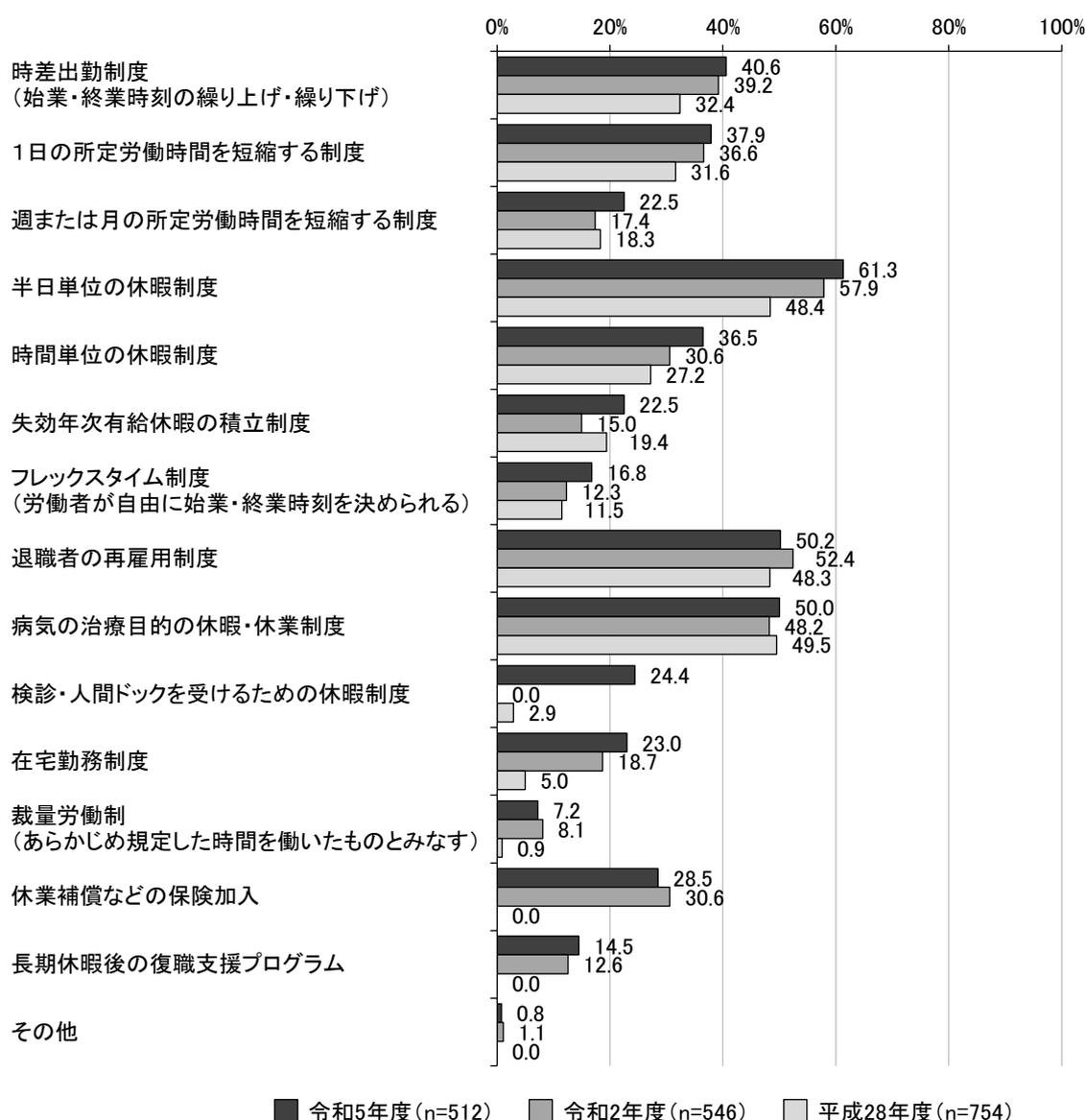
4. 勤務形態や休暇制度について

問 17 貴事業所では、以下のような制度を導入していますか。(MA)

(1) 導入している制度

導入している制度についてみると、「半日単位の休暇制度」が61.3%と最も高く、次いで「退職者の再雇用制度」が50.2%、「病気の治療目的の休暇・休業制度」が50.0%となっています。

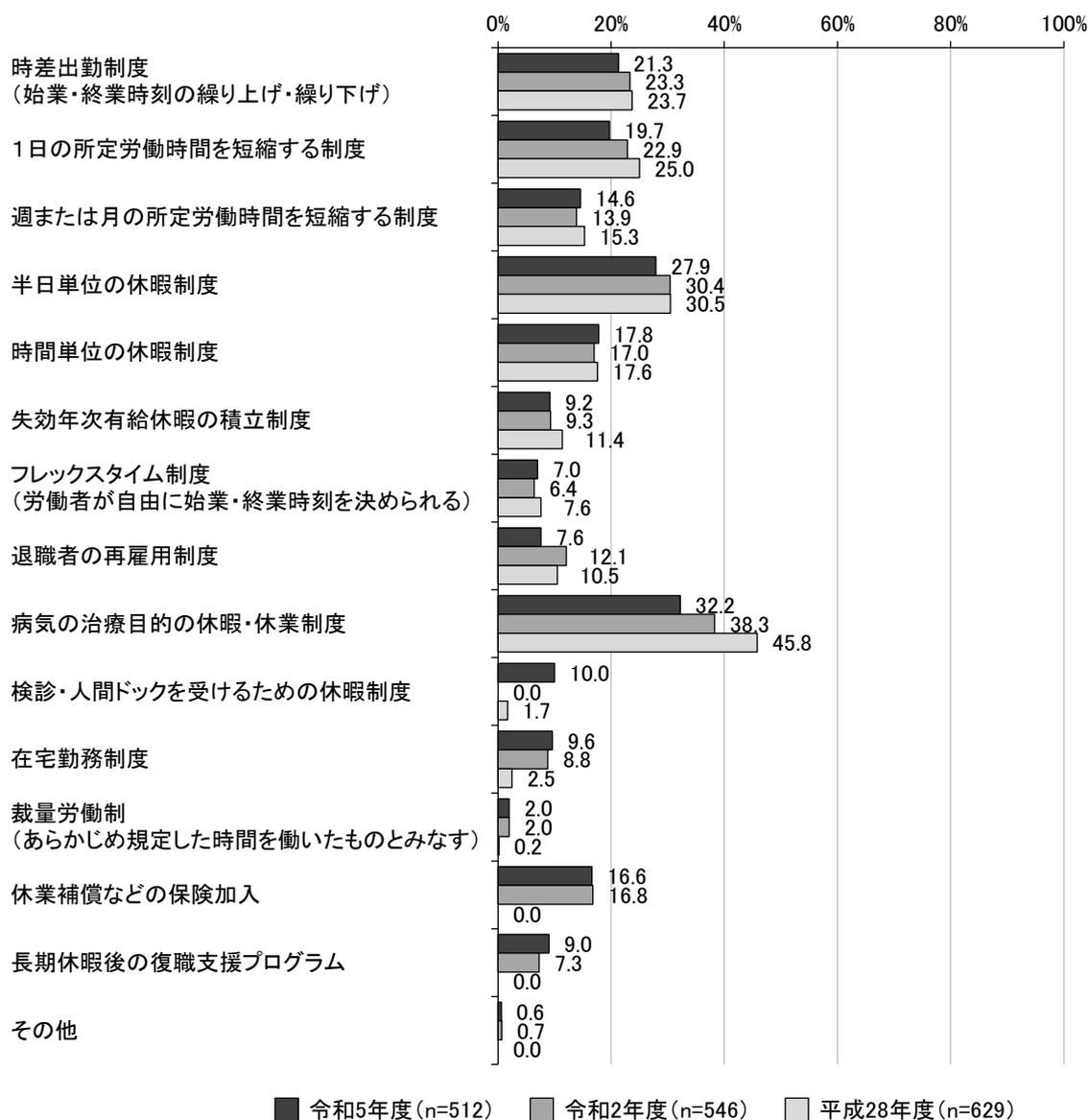
過去調査と比べてみると、「時差出勤制度」「1日の所定労働時間を短縮する制度」「半日単位の休暇制度」「時間単位の休暇制度」「フレックスタイム制度」「在宅勤務制度」といった、勤務体制に関する制度で増加の傾向がみられます。



(2) 病気や怪我の時に利用可能なもの

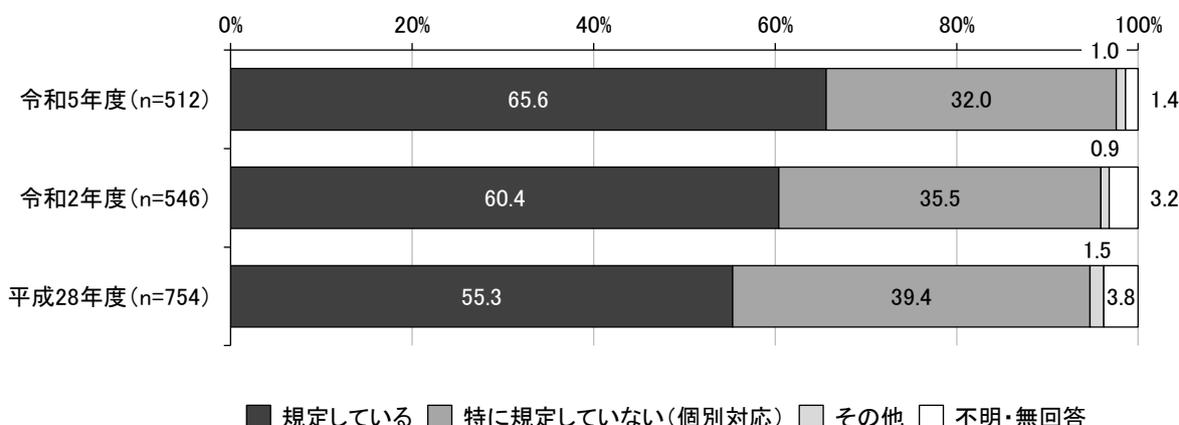
病気や怪我の時に利用可能なものについてみると、「病気の治療目的の休暇・休業制度」が32.2%と最も高くなっています。次いで「半日単位の休暇制度」が27.9%、「時差出勤制度」が21.3%となっています。しかし、過去調査と比べて減少の傾向がみられます。

「検診・人間ドックを受けるための休暇制度」については、過去調査と比べて増加しました。



問 18 貴事業所では、従業員が病気や怪我をした際の休暇・休職・勤務形態などについて就業規則などで規定していますか。(S A)

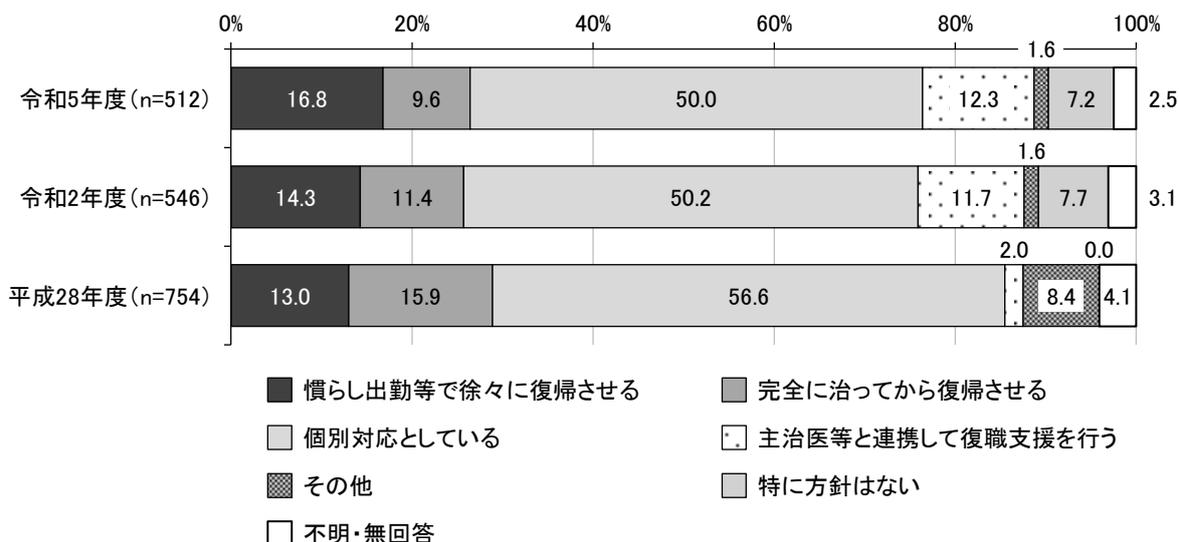
従業員が病気や怪我をした際の休暇・休職・勤務形態などを就業規則などで規定しているかについてみると、「規定している」が65.6%であり、過去調査と比べて増加の傾向がみられます。



問 19 病気や怪我で長期休職した従業員の復職に関する貴事業所の方針は次のどれですか。(S A)

病気や怪我で長期休暇した従業員の復職に関する事業所の方針についてみると、「個別対応としている」が50.0%と最も高く、次いで「慣らし出勤等で徐々に復帰させる」が16.8%、「主治医等と連携して復職支援を行う」が12.3%となっています。

過去調査と比べてみると、「慣らし出勤等で徐々に復帰させる」「主治医等と連携して復職支援を行う」では増加の傾向がみられます。

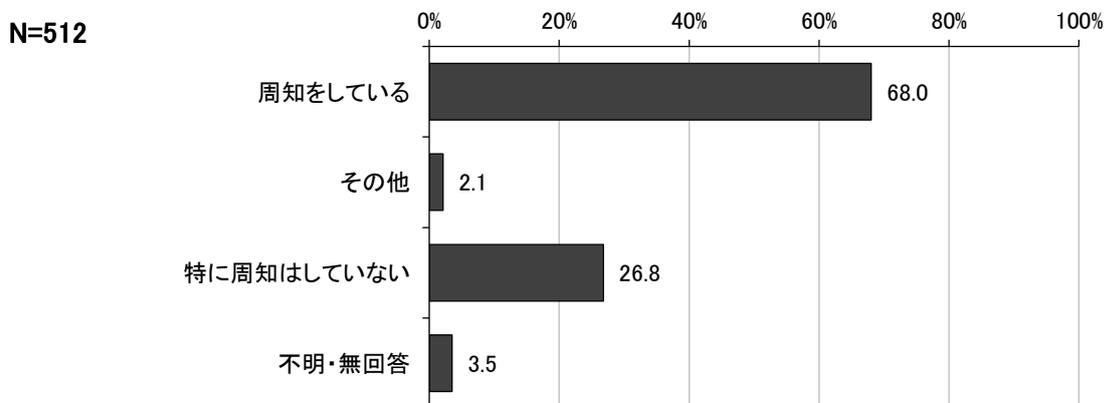


問 20 貴事業所では、がんなど比較的長期の治療・療養を必要とする病気や怪我になった際の規定や制度・方針（問 17、18、19 に示したようなこと）を従業員にどのように周知していますか。（MA）

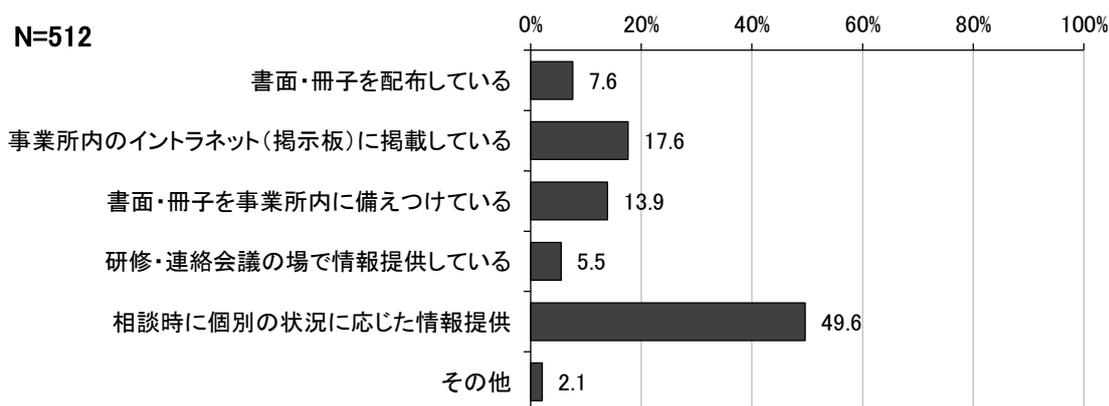
がんなど比較的長期の治療・療養を必要とする病気や怪我になった際の規定や制度・方針（問 17、18、19 に示したようなこと）を従業員にどのように周知しているかについてみると、「周知をしている」が68.0%でした。

周知内容の内訳についてみると、「相談時に個別の状況に応じた情報提供」が49.6%、「事業所内のイントラネット（掲示板）に掲載している」が17.6%、「書面・冊子を事業所内に備えつけている」が13.9%となっています。

【従業員への周知状況①（周知の有無）】



【従業員への周知状況②（周知内容の内訳）】

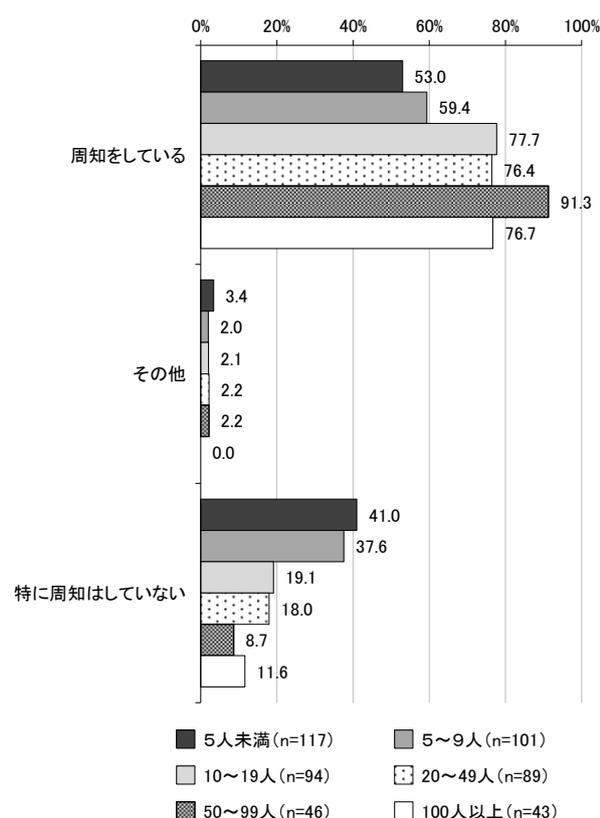


■問 20 がんなど比較的長期の病気や怪我になった際の規定や制度・方針の周知方法 × 問 3 (1) 正規雇用者数

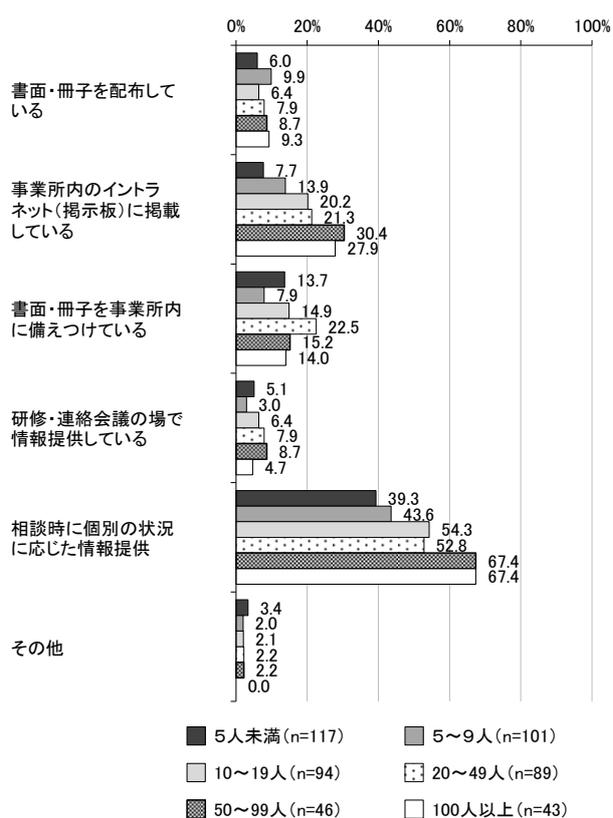
正規雇用者数別の制度・方針の周知方法についてみると、すべての周知方法において、概ね正規雇用者数が多いほど周知している比率も高くなっています。

周知内容の内訳においても、「相談時に個別の状況に応じた情報提供」や「事業所内のイントラネット（掲示板）に掲載している」では、概ね正規雇用者数が多いほど周知している比率も高くなっています。

【従業員への周知状況①（周知の有無）】



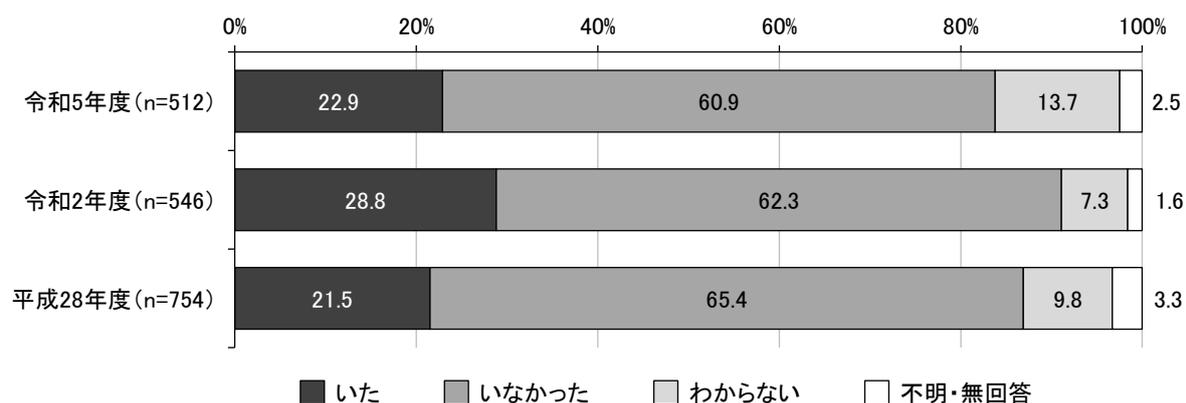
【従業員への周知状況②（周知内容の内訳）】



5. がんの罹患状況について

問 21 貴事業所では、ここ3年間で、がんに罹患した従業員はいましたか。
(SA)

ここ3年間でがんに罹患した従業員についてみると、「いなかった」が60.9%と最も高く、次いで「いた」が22.9%、「わからない」が13.7%となっています。



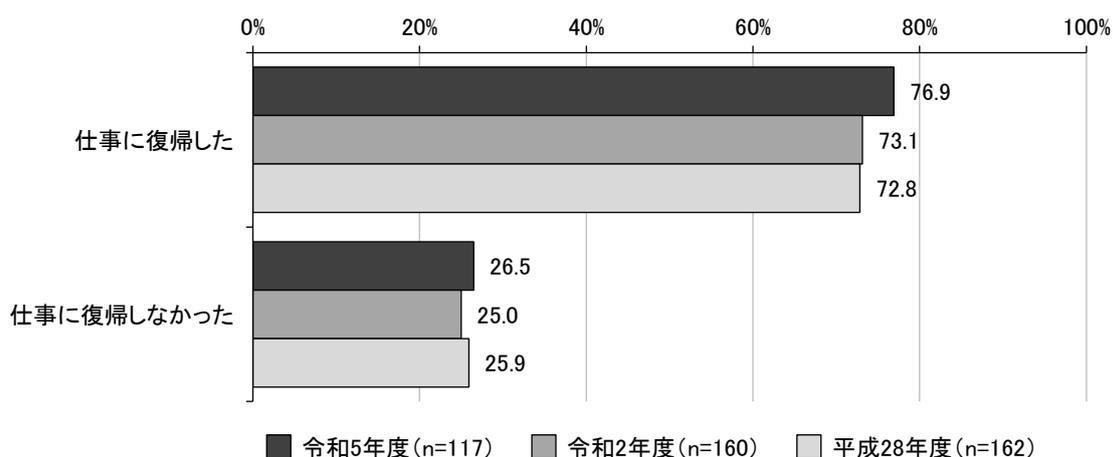
問 22 【問 21 で「1. いた」と回答した事業所にお聞きします。】

がんに関患した従業員の復職状況についてお答えください。(MA)

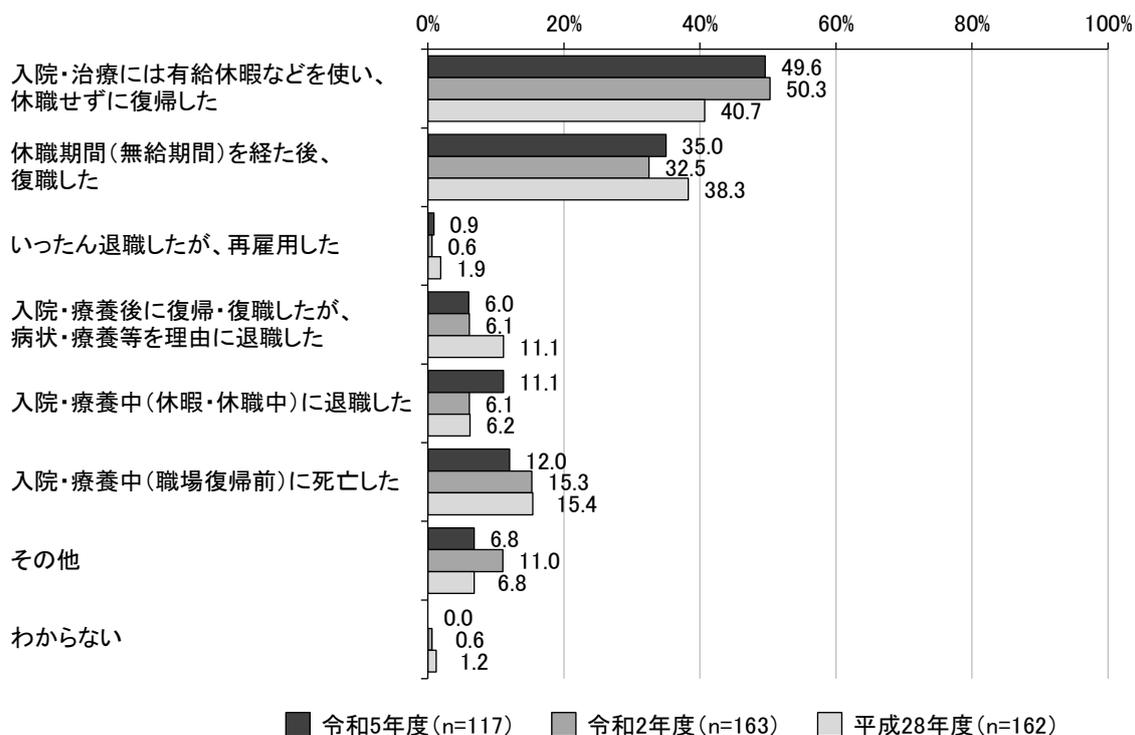
がんに関患した従業員の復職状況についてみると、「仕事に復帰した」が76.9%と最も高くなっています。

復職状況の内容についてみると、「入院・治療には有給休暇などを使い、休職せずに復帰した」が49.6%と最も高く、次いで「休職期間(無給期間)を経た後、復職した」が35.0%、「入院・療養中(職場復帰前)に死亡した」が12.0%となっており、過去調査と同様の傾向がみられます。

【従業員の復職状況①(復職したか否か)】



【従業員の復職状況②(復職状況の内容)】

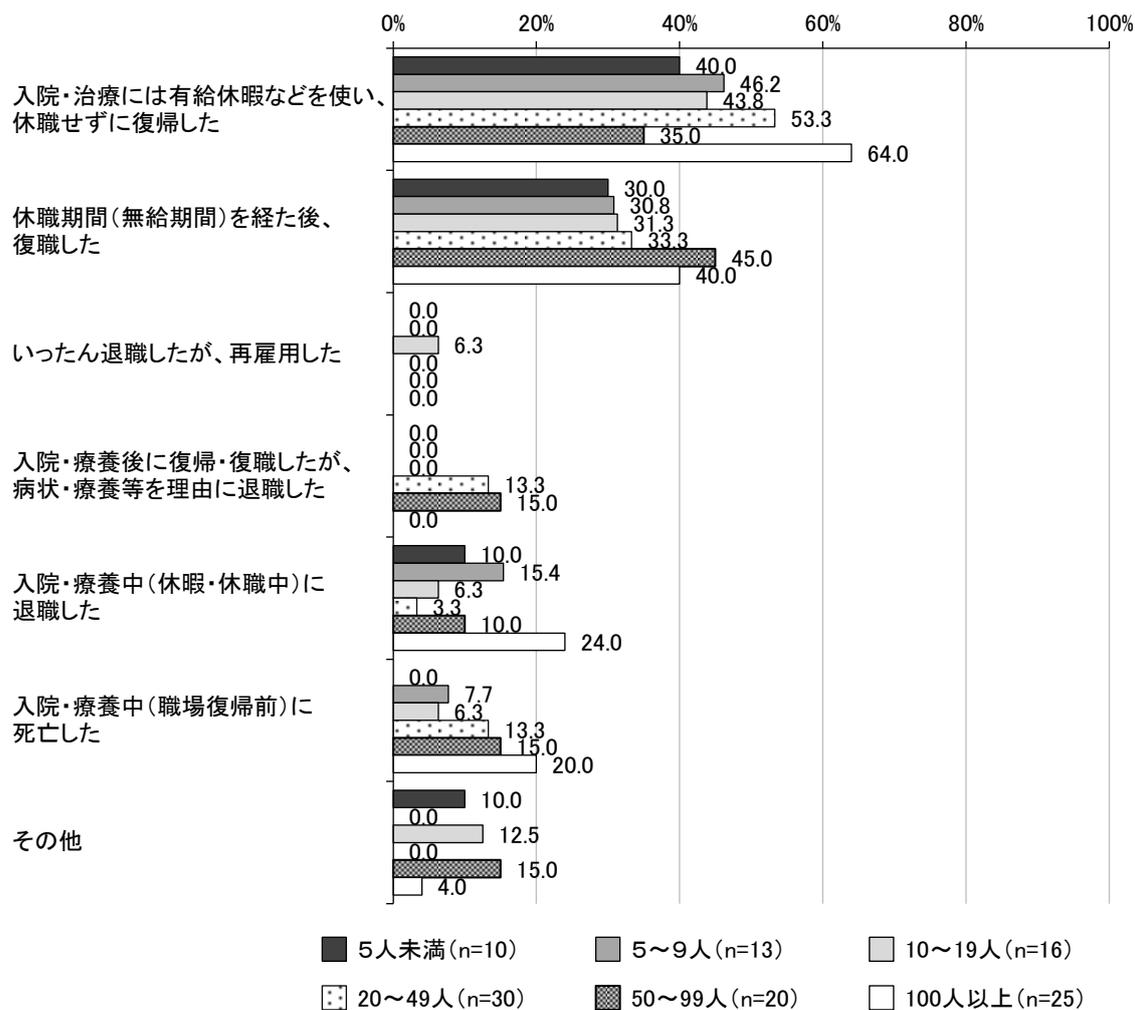


■問 22 がんに罹患した従業員の復職状況 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別のがんに罹患した従業員の復職状況についてみると、『50～99人』を除き、「入院・治療には有給休暇などを使い、休職せずに復帰した」が最も高く、次いで「休職期間（無給期間）を経た後、復職した」が高くなっています。

『50～99人』では、「休職期間（無給期間）を経た後、復職した」が最も高く、次いで「入院・治療には有給休暇などを使い、休職せずに復帰した」が高くなっています。

また、『100人以上』では、「入院・療養中（休暇・休職中）に退職した」「入院・療養中（職場復帰前）に死亡した」が他と比べて高くなっています。



問 23 【問 21 で「1. いた」と回答した事業所にお聞きします。】

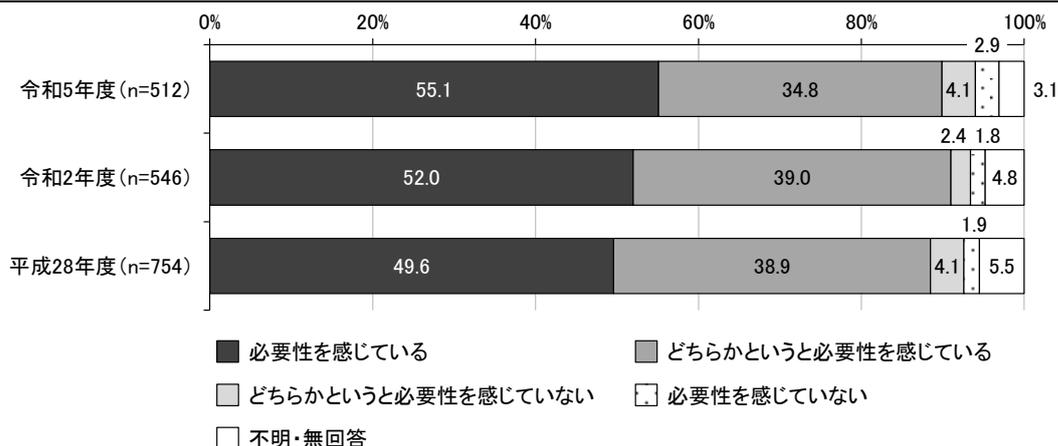
がんに罹患した従業員の適正配置や雇用管理等、対応に苦慮した事例があれば、その内容について差し支えない範囲でご記入ください。特定の事例でなくとも、特に困難であったことや対応に迷ったことがあればご記入ください。

対応に苦慮した事例
代替要員の確保が困難
周囲への情報をどこまで伝え、制限するかが難しく感じた
受け入れ体制が中々整えづらい
入院、手術時の仕事のやりくりに困った
復帰したあとの気配りとか対応が難しい
本人が最初から復職を希望して休職した場合の復職時の判断が、困難だった
就労時間や業務量配分、業務範囲について、調整程度に迷いが生じた
傷病手当金対応をした場合、60%の金額しか支給されないことで収入の減少があり、一部有給休暇を使用していた
その他の回答
軽度(初期)のため、通院のみで特になし
基本同じ職場に復帰してもらう方針。個別に本人とも相談しながら、健康面に留意した働き方を模索

6. 従業員の仕事と治療の両立の実現に向けた課題について

問 24 貴事業所では、今後、病気になった後も安心して働き続けられるよう、仕事と治療の両立が実現できる職場が必要になると感じますか。(S A)

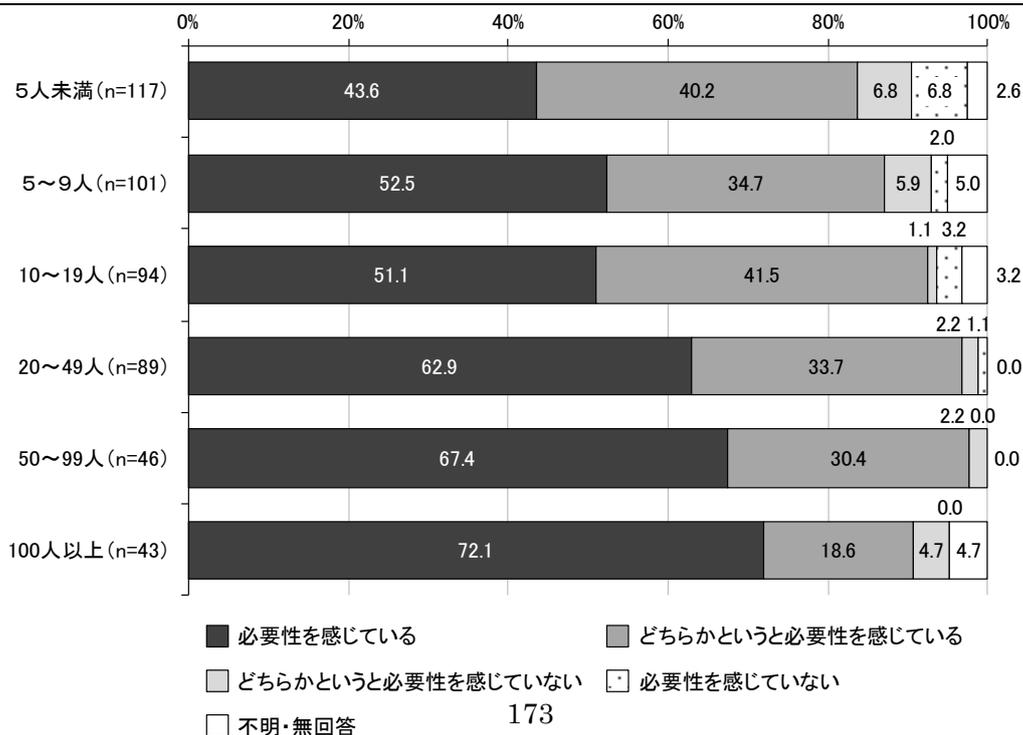
仕事と治療の両立が実現できる職場の必要性についてみると、「必要性を感じている」が55.1%と最も高く、次いで「どちらかという必要性を感じている」が34.8%、「どちらかという必要性を感じていない」が4.1%となっており、「必要性を感じている」と回答した事業所の割合が増加傾向にあります。



■問 24 貴事業所では、今後、病気になった後も安心して働き続けられるよう、仕事と治療の両立が実現できる職場が必要になると感じますか。 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の仕事と治療の両立に対する意識についてみると、『5人未満』では「必要性を感じている」が43.6%と低く、概ね正規雇用者数が多いほど意識も高くなっています。

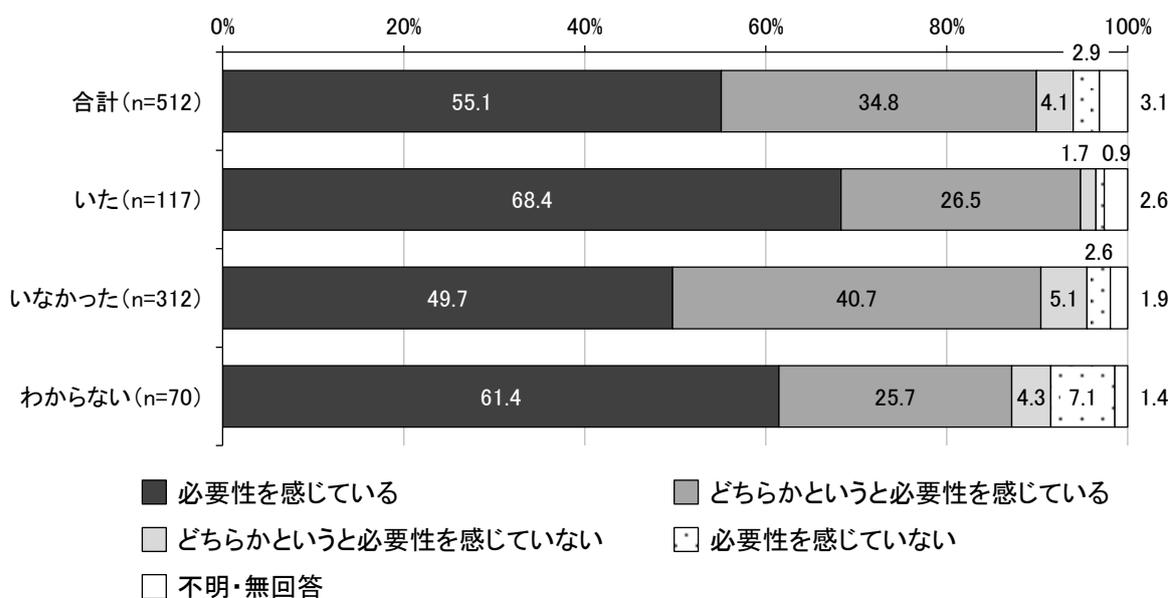
一方、『5人未満』では「どちらかという必要性を感じている」は40.2%と高く、概ね正規雇用者数が少ないほど高くなっています。



■問 24 貴事業所では、今後、病気になった後も安心して働き続けられるよう、仕事と治療の両立が実現できる職場が必要になると感じますか。 × 問 21 貴事業所では、ここ3年間で、がんにかかった従業員はいましたか。

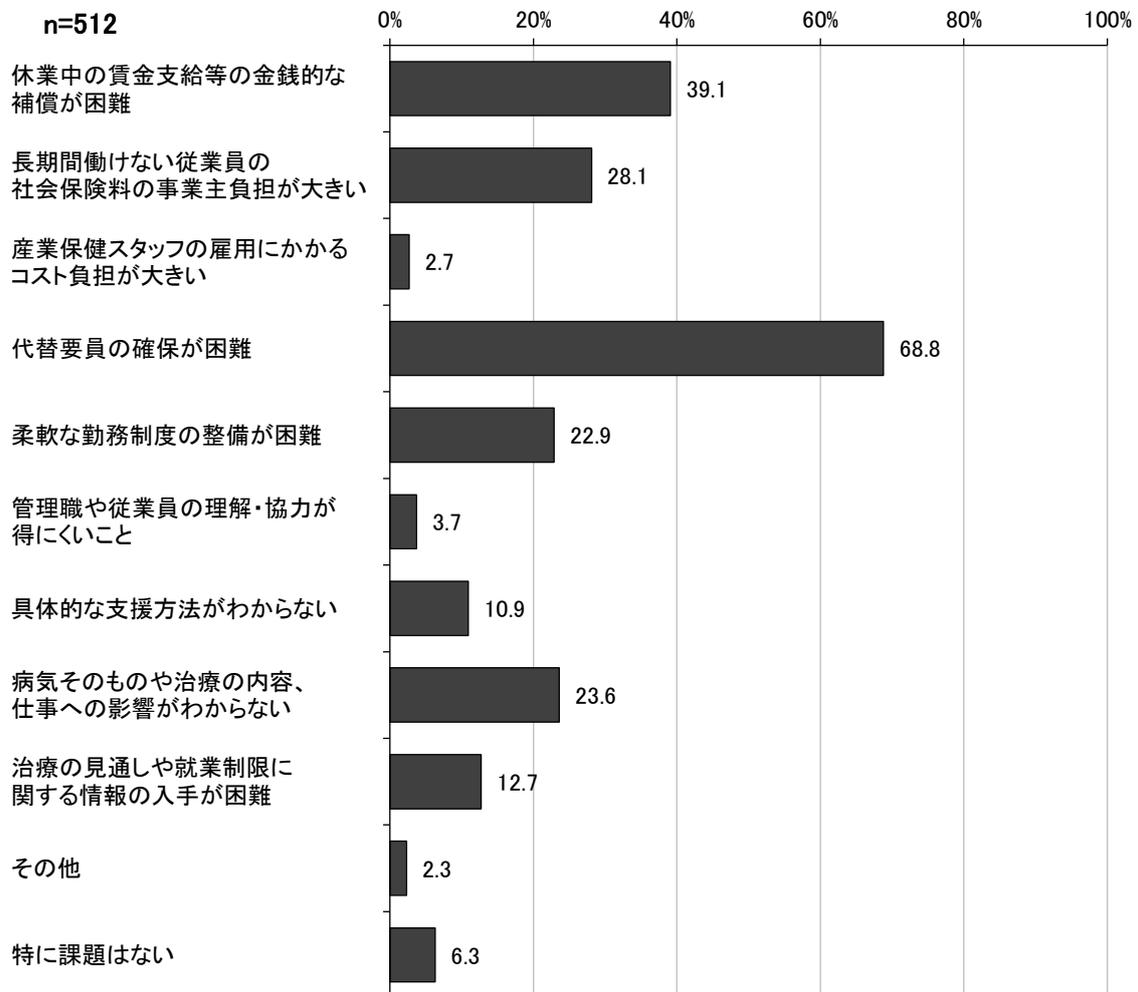
がん罹患従業員の有無（3年間）別の仕事と治療の両立に対する意識についてみると、『必要性を感じている』は、「いた」で68.4%と最も高くなっています。

『どちらかというともっと必要性を感じていない』は「いなかった」で5.1%、『必要性を感じていない』は「わからない」で7.1%と高くなっています。



問 25 貴事業所において、従業員の仕事と治療の両立が実現できる職場づくりを進める上での課題は何ですか。(MA)

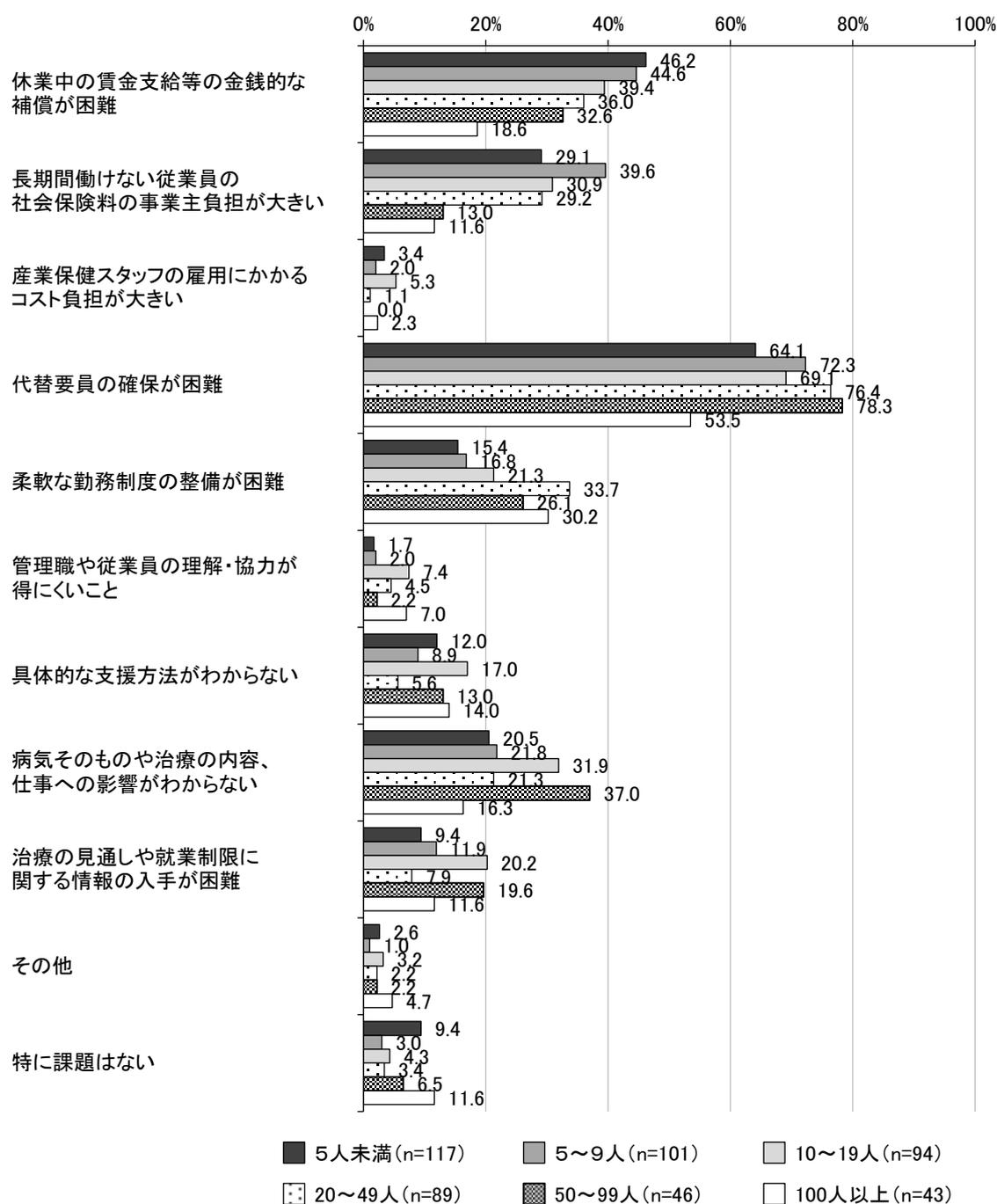
従業員の仕事と治療の両立が実現できる職場づくりを進める上での課題についてみると、「代替要員の確保が困難」が68.8%と最も高く、次いで「休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難」が39.1%、「長期間働けない従業員の社会保険料の事業主負担が大きい」が28.1%となっています。



■問 25 貴事業所において、従業員の仕事と治療の両立が実現できる職場づくりを進める上での課題は何ですか。 × 問 3 (1) 正規雇用者数

正規雇用者数別の仕事と治療の両立が実現できる職場づくりを進める上での課題についてみると、いずれの正規雇用者数においても「代替要員の確保が困難」が高くなっています。また、「休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難」では、正規雇用者数が少なくなるほど高くなる傾向にあります。それ以外では、『5～9人』は「長期間働けない従業員の社会保険料の事業主負担が大きい」が高く、『20～49人』『100人以上』では「柔軟な勤務制度の整備が困難」が高くなっています。

また、『10～19人』『50～99人』では「病気そのものや治療の内容、仕事への影響がわからない」が高くなっています。

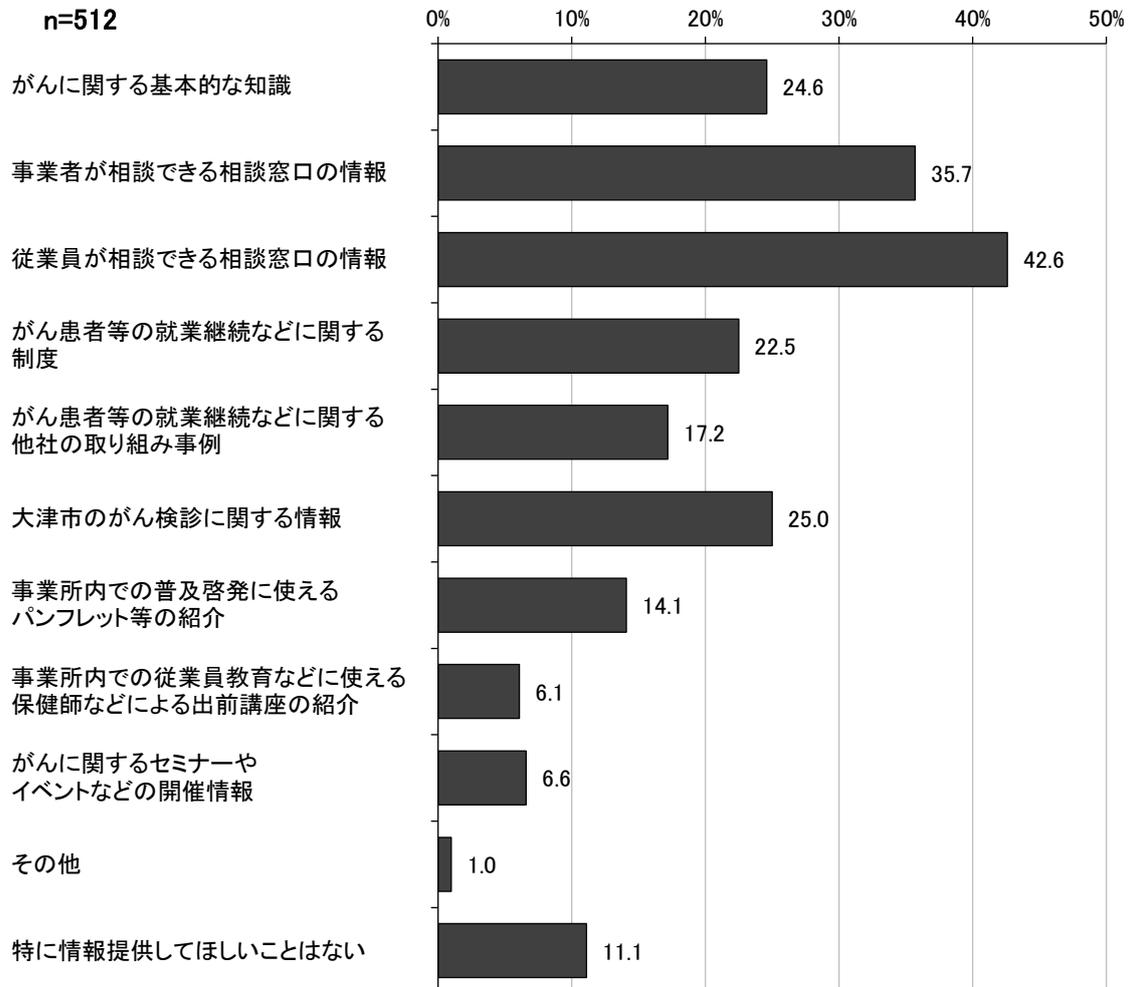


問 26 問 25 でご回答をいただいた課題に対応するため、行政に支援を希望されることがあればご記入ください。

行政に支援を希望すること
両立支援の制度づくりのための情報提供
他企業がどのような取り組みを実施しているかなどの情報提供があれば参考になる
無料労務相談
代替要員を派遣する支援
代替要員の斡旋。従業員の戻ってくる場を確保しつつ、抜けた穴を埋める要員が必要
代替要員の助成
入院、治療機会による人材不足・代替えの補助金
賃金支給のための支援制度
本人が市に申込みの形で支援(金銭)などを受け、時短勤務にするなどすることが出来るとよい

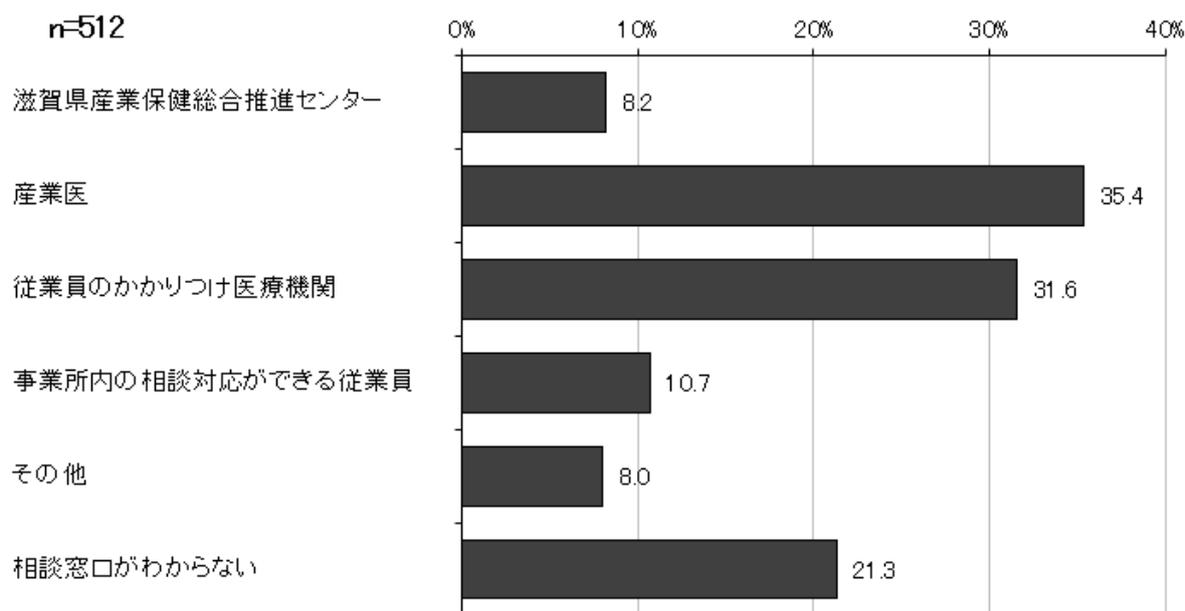
問 27 がんの予防や早期発見、がんに罹患した従業員の仕事と治療の両立を実現するために、大津市から事業所に対して、どのような情報提供があれば良いと思いますか。(MA)

大津市からあれば良いと思う情報提供についてみると、「従業員が相談できる相談窓口の情報」が42.6%と最も高く、次いで「事業者が相談できる相談窓口の情報」が35.7%、「大津市のがん検診に関する情報」が25.0%となっています。



問 28 従業員の仕事と治療の両立支援について相談する場合の窓口はどのようなところですか。(MA)

従業員の仕事と治療の両立支援について相談する場合の窓口についてみると、「産業医」が35.4%と最も高く、次いで「従業員のかかりつけ医療機関」が31.6%となっています。また、21.3%の事業所が「相談窓口がわからない」と回答しています。



問 29 がん対策について、大津市に特に力を入れてほしいこと等をご自由にご記入ください。

周知／情報提供
住民にがん対策の重要性の周知
啓蒙活動及び予防、検診相談窓口等の情報提供
健康に関する講演やセミナーなどを開催できれば受講したい
小学生への出前授業。小さいうちから教育することが大事
乳がんに関して受診出来るところを明示してほしい。どこへ行ったらいいのかわからない
相談出来る場所についてわからないので周知に力を入れてほしい
検診に関して
子宮頸がん・乳がん検診も健康診断項目に入れてほしい
乳がん検診の機会をもっと作ってほしい。乳がんは 20 歳～対象にすると早期発見が可能になるので力を入れてほしい
人間ドックのオプションではなく、一般検診のオプションで受診できる項目を増やしてほしい
受診できる時間(例えば土日や夜間など)を増やしてほしい
事業所で受けている検診のオプションとして大津市のクーポンが使用できると良い
大津市に事業所がある場合、職員の住民票が大津市以外でも検診ができるとありがたい
費用に関して
無料で受けられる検査の実施
検診費用の補助
家族に対する取り組みや補助を拡大してほしい
事業所に関して
大津市と事業者が連携する仕組み
行政が直接個人に対して支援できる体制を築いてほしい。中小、特に小規模事業所では、費用面より手間的な面でカバーしきれない
その他の回答
先進治療ができる「がんセンター」などの施設を建ててほしい
「がんにかからない」ための方策の確立が重要

III 調査票

がん対策に関する市民意識調査 ご協力のお願い

日頃から、大津市の健康づくり行政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
大津市では、市民の健康にとって重大な課題となっているがんに関し、総合的に対策をたてることを目的に「大津市がん対策推進条例」を制定し、その具体的な施策の実現のために「大津市がん対策推進基本計画」（平成 29 年度～令和 6 年度）を策定しています。（詳しくは最終ページをご覧ください。）

このたび、次期計画（令和 7 年度～令和 12 年度）策定に向けたがん対策の現状と課題を把握する基礎資料とするため、意識調査を実施することといたしました。この調査票は、本年 10 月 1 日時点で 20 歳以上 75 歳未満の方々から、無作為に選ばせていただいた 3,000 名にお送りしています。この調査の結果は、市のがん対策の基礎資料としてのみ使用し、個人を特定して公表するようなことは一切ございません。

何らかのがんにかかられている方に調査票が届きました場合にも、お答えいただける範囲でご協力いただけますと幸いです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、ぜひ調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和 5 年 1 1 月 大津市長 佐藤 健司

記入にあたってのお願い

- 封筒に記載しているあて名のご本人が調査票にご回答ください。
(お名前をご記入していただく必要はありません。)
- ご回答は直接、この調査票にご記入ください。
- ご回答は、選択肢の場合はあてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
なお、一部回答欄にあてはまる番号をご記入いただく設問もございます。
- 本調査はがん対策に関する意識についてお伺いする内容となっております。そうした内容に対してご不快に感じる方は調査票を破棄していただくようお願いいたします。
- 本調査の回答に要する時間は 10～15 分程度です。
- ご記入が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

1 2 月 8 日 (金) までにポストに投函してください。

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

株式会社エム・アールビジネス 意識調査事務局

電話 06-6231-9541（平日午前 10 時から午後 5 時まで）

※大津市から、上記事業者に調査業務を委託しています

1. あなたご自身についてお聞きします <全8問>

問1 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢を教えてください。※令和5年10月1日現在

_____ 歳

問3 あなたのお住まいの学区を教えてください。(ひとつに○)

- | | | | |
|---------|-----------------------|-----------|-----------|
| 1. 小松 | 2. 木戸 | 3. 和邇 | 4. 小野 |
| 5. 葛川 | 6. 伊香立 | 7. 真野 | 8. 真野北 |
| 9. 堅田 | 10. 仰木 | 11. 仰木の里 | 12. 仰木の里東 |
| 13. 雄琴 | 14. 日吉台 | 15. 坂本 | 16. 下阪本 |
| 17. 唐崎 | 18. 滋賀 | 19. 山中比叡平 | 20. 藤尾 |
| 21. 長等 | 22. 逢坂 | 23. 中央 | 24. 平野 |
| 25. 膳所 | 26. 富士見 | 27. 晴嵐 | 28. 石山 |
| 29. 南郷 | 30. 大石 | 31. 田上 | 32. 上田上 |
| 33. 青山 | 34. 瀬田 | 35. 瀬田南 | 36. 瀬田東 |
| 37. 瀬田北 | 38. わからない ⇒住所を記入 (大津市 | |) |

問4 あなたの職業を教えてください。(ひとつに○)

- | | | | |
|-----------|--------------|------------|----------|
| 1. 経営者・役員 | 2. 会社員 | 3. 公務員 | 4. 医療従事者 |
| 5. 自営業 | 6. パート・アルバイト | 7. 専業主婦(夫) | 8. 学生 |
| 9. 無職 | 10. その他 (| |) |

問5 あなたが現在加入している医療保険(保険証)の種類を教えてください。(ひとつに○)

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------------|
| 1. 大津市国民健康保険 | 2. 協会けんぽ(本人) | 3. 協会けんぽ(家族) |
| 4. その他の医療保険(本人) | 5. その他の医療保険(家族) | 6. 後期高齢者医療保険 |
| 7. 医療保険に加入していない | 8. わからない | |

問6 同居の家族構成を教えてください。(ひとつに○)

- | | | | |
|-------------------|-----------------|--|---|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦 | | |
| 3. 二世帯同居(あなたと子ども) | 4. 二世帯同居(あなたと親) | | |
| 5. 三世帯同居 | 6. その他 (| |) |

問7 あなたの世帯全員の年間収入の合計を教えてください。(ひとつに○)

※下宿などで家計の支持者と別居している方は、家計を支持する世帯の年間収入についてお答えください。

- | | | |
|------------------|------------------|--------------|
| 1. 300万円未満 | 2. 300~1,000万円未満 | 3. 1,000万円以上 |
| 4. わからない(答えたくない) | | |

問8 あなた自身を含め、家族や親せき、親しい同僚など身近な人で、がんにかかった人はいますか。(いくつでも○)

- | | | |
|------------|-------------|----------------|
| 1. あなた自身 | 2. 配偶者 | 3. 親、きょうだい、子ども |
| 4. その他の親せき | 5. 親しい友人・同僚 | 6. その他() |
| 7. いない | 8. わからない | |

2. がんに関する印象・認識についてお聞きします <全4問>

問9 あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか。(ひとつに○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. こわいと思わない | 2. どちらかといえばこわいと思わない |
| 3. どちらかといえばこわいと思う | 4. こわいと思う |
| 5. わからない | |

問10 【問9で「3. どちらかといえばこわいと思う」「4. こわいと思う」と答えた方にお聞きします。】

あなたが、がんをこわいと思う理由は何ですか。(いくつでも○)

- | |
|---|
| 1. がんで死に至る場合があるから |
| 2. がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出る場合があるから |
| 3. がんが治っても、後遺症が残る場合があるから |
| 4. がんの治療費が高額になる場合があるから |
| 5. がんによって仕事を長期間休むか、辞めざるをえない場合があるから |
| 6. 治療を受けるのに適切な医療機関を見つけるのが大変な場合があるから |
| 7. がんに対する治療や療養には、家族や親しい友人などの協力が必要な場合があるから |
| 8. その他() |
| 9. わからない |

問 11 がんについてあなたが知っていることは何ですか。(いくつでも○)

1. 日本では、2人に1人が、将来、がんにかかるかと推測されている
2. 日本では、男性の4人に1人、女性の6人に1人が、がんで死亡している
3. 乳がんや子宮頸がんのように若い世代で増えているがんもある
4. 日本人のがんの原因の約20%は、ウイルスや細菌の感染によるものと推測されている
5. 初期のがんは自覚症状が現れないことが多い
6. がんは検診などにより早期に発見することが可能である
7. がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある
8. 多くのがんは早期発見により治癒が可能である
9. がん全体の5年生存率は60%を超えている
10. がんは、入院治療後は定期的に通院しながら治療・療養する場合がほとんどである
11. 特にない

問 12 がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる重要な検査だと思いますか。(ひとつに○)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

3. がんの予防についてお聞きします <全2問>

問 13 あなたが、がんになる危険性を高めると思うことは何ですか。(いくつでも○)

1. 喫煙習慣
2. 他人のたばこの煙を吸う
3. お酒の飲み過ぎ
4. 偏った食生活
5. 塩分のとり過ぎ
6. 野菜・果物不足
7. 運動不足
8. 太り過ぎ・やせ過ぎ
9. ウイルスや細菌の感染
10. その他 ()

問 14 あなたが、がんの予防や早期発見のために現在取り組んでいることは何ですか。(いくつでも○)

1. たばこを吸わない(禁煙)
2. 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
3. お酒を飲み過ぎない
4. バランスのとれた食生活
5. 塩辛い食品をなるべく控える
6. 野菜や果物を多めにとる
7. 適度な運動を心がける
8. 適切な体重を維持する
9. ウイルスや細菌の感染予防(ワクチン接種)・早期治療
10. 定期的ながん検診を受ける
11. 身体の異常に気が付いたら、早めにかかりつけ医を受診している
12. その他 ()
13. 特に取り組んでいない

4. がん検診の受診の有無についてお聞きします <全3問>

問 15 あなたは、がん検診を受けましたか。

①・②については「過去1年間」、③～⑤については「過去2年間」でお答えください。
ただし、再検査や精密検査、症状があり受診した場合は除きます。(それぞれのがん検診について、ひとつに○)

がん検診の種類	大津市の 検診を 受けた	職場の 検診を 受けた	個人的に 受けた (人間ドック等)	受けなかった
①大腸がん検診 (便検査等)	1	2	3	4
②肺がん検診 (胸部エックス線検査、喀痰検査等)	1	2	3	4
③胃がん検診 (バリウム検査、内視鏡検査等)	1	2	3	4
④子宮頸がん検診 (細胞診等) 【女性のみお答えください】	1	2	3	4
⑤乳がん検診 (マンモグラフィ等) 【女性のみお答えください】	1	2	3	4

○をつけた検診について
問 16 で「受けた」理由・きっ
かけを教えてください

○をつけた検診について
問 16 で「受けなかった」
理由を教えてください

問 16 がん検診を「受けた」理由・きっかけ、または「受けなかった」理由を教えてください。それぞれ下記の選択肢より選んでいただき、数字でご記入ください。
(それぞれのがん検診について、いくつでも可)

	「受けた」理由・きっかけ [選択肢 1]から選択して数字を記入	「受けなかった」理由 [選択肢 2]から選択して数字を記入
①大腸がん検診		
②肺がん検診		
③胃がん検診 (バリウム・内視鏡)		
④子宮頸がん検診		
⑤乳がん検診		



選択肢 1	選択肢 2
<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの早期発見のため 2. 自身の健康管理のため 3. 検診の対象年齢だったから 4. 職場健（検）診の内容にあったから 5. 家族や友人・知人に勧められたから 6. 医師に勧められたから 7. 職場で勧められたから 8. 市から無料クーポン券、受診券が届いたから 9. 気になる症状があったから 10. 周囲にがんになった人がいたから 11. がんに関するマスコミ報道・記事を見て 12. 「広報おおつ」や「すこやかだより」を見たから 13. 市のホームページの案内を見たから 14. LINE・メール配信の案内を見たから 15. 以前の職場で検診を受けていたため 16. 市の補助が受けられるから 17. その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検診の対象年齢ではないから 2. 職場健（検）診の内容にないから 3. がん検診の個別の案内がないから 4. 症状がなく、必要性を感じないから 5. 心配な時にはいつでも医療機関を受診できるから 6. すでに治療を受けているから 7. 忙しくて時間がとれない（仕事のため） 8. 忙しくて時間がとれない（仕事以外で） 9. 退職して検診の機会が無くなったから 10. 検診に費用がかかるから 11. 検査内容が苦痛だから 12. がんが見つかるのがこわいから 13. がん検診の受け方がわからないから 14. 医療機関に行くことに抵抗感があるから 15. ウイルス・細菌に感染しないか心配だから 16. その他

問 17 あなたは、がん検診を定期的に受けていますか。(それぞれについてひとつに○)

	定期的に受けている	定期的ではないが、数年に1回受けている	5年以上受けていない	今まで1度も受けたことがない
①大腸がん検診	1 (毎年)	2	3	4
②肺がん検診	1 (毎年)	2	3	4
③胃がん検診 (バリウム・内視鏡)	1 (2年に1回)	2	3	4
④子宮頸がん検診	1 (2年に1回)	2	3	4
⑤乳がん検診	1 (2年に1回)	2	3	4

5. 情報の入手方法やニーズについてお聞きします <全3問>

問 18 あなたは、健康づくりに役立つ情報をどこから得ていますか。(いくつでも○)

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. テレビ | 2. ラジオ |
| 3. インターネット | 4. ソーシャルメディア (フェイスブックなど) |
| 5. メールマガジンやネット配信のニュース | 6. 健康に関するアプリ |
| 7. スポーツジムや運動系のスクール・講座 | 8. その他栄養や健康に関する講座やサークル |
| 9. 職場での情報提供 | 10. 市のホームページ・広報おおつ・すこやかだより |
| 11. 新聞 | 12. 本・雑誌 |
| 13. 交通広告 (電車やバスの中の広告) | 14. 家族・友人・知人 |
| 15. 医師や看護師など医療従事者 | 16. 医療機関 |
| 17. 薬局 | 18. 行政・保健所・すこやか相談所 |
| 19. その他 () | 20. 特に情報は得ていない |

問 19 あなたは、がんに関してどのような情報が知りたいですか。(いくつでも○)

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. がんの予防法 | 2. がんの症状や治療方法 |
| 3. がん検診の種類・費用など | 4. 大津市のがん検診の受診方法 |
| 5. がんに関する相談窓口 | 6. がんの治療にかかる費用 |
| 7. がん治療の副作用・副作用への対処法 | 8. セカンドオピニオン※の受け方 |
| 9. 自宅療養の方法 | 10. 緩和ケア※について |
| 11. 実際にかんにかかった方の体験談など | 12. がんにかかっても働き続けるための方法・支援 |
| 13. がん患者や家族への支援 | 14. その他 () |
| 15. 特に知りたい情報はない | |

※セカンドオピニオン…治療法の決定をする際などに、主治医以外の医師の意見を聞く方法

※緩和ケア…がんに伴う体と心の痛みを和らげること

問 20 あなたは、大津市のがん検診に関する情報について、どのような方法で知りたいですか。（希望する3つについて順位をつけてください。（一番希望するもの→1））

	順位 1～3
1. 大津市のホームページ	
2. 大津市からのメール配信	
3. 大津市のLINEによる配信	
4. 大津市のその他のソーシャルメディア（Facebook、Instagram など）	
5. すこやかだより（自治会回覧）	
6. 広報おおつ	
7. 市民センターでのポスター掲示	
8. 職場からの案内（市から市内事業所宛に情報提供）	
9. 個別の案内（郵送）	
10. 医療機関（医科・歯科）でのポスター掲示やチラシ配布	
11. 薬局でのポスター掲示やチラシ配布	
12. 商業施設（スーパーやコンビニエンスストア等）でのポスター掲示やチラシ配布	
13. スポーツジム等運動施設でのポスター掲示やチラシ配布	
14. 新聞	
15. テレビ	
16. ラジオ	
17. 家族・友人・知人に教えてもらう	
18. その他 ()	

大津市 HP
がん情報



大津市
メール配信



大津市
LINE



6. がんに関する相談先についてお聞きします <全2問>

問 21 あなたご自身が、がんと診断されたら、家族や友人など誰か身近な人のがんのことを自由に話せると思いますか。また、話せましたか。（ひとつに○）

1. 話せると思う（話せた）	2. どちらかといえば話せると思う
3. どちらかといえば話せると思わない	4. 話せると思わない（話せなかった）
5. わからない	

問 22 あなたは、がんやがんの予防・治療方法等について誰に相談したいと思いますか。また、相談したことがあれば誰に相談しましたか。（いくつでも○）

1. 医師・看護師など医療関係者	2. 医療機関などにある相談窓口
3. 薬局・薬剤師	4. 家族・友人・知人
5. 行政・保健所・すこやか相談所	6. インターネットで相談
7. 誰にも相談したいと思わない	8. その他 ()

事業所におけるがん対策に関する調査 ご協力をお願い

日頃から、大津市の健康づくり行政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

大津市では、市民の健康にとって重大な課題となっているがんに関して、総合的に対策をたてることを目的に「大津市がん対策推進条例」を制定し、その具体的な施策の実現のために「大津市がん対策推進基本計画」（平成 29 年度～令和 6 年度）を策定しています。（詳しくは最終ページをご覧ください。）

このたび、次期計画（令和 7 年度～令和 12 年度）策定に向けたがん対策の現状と課題を把握する基礎資料とするため、意識調査を実施することといたしました。この調査票は、無作為に選ばせていただいた 1,600 の市内事業所にお送りしています。

何かとご多忙のこととは存じますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は、取り扱いに十分注意しながら統計処理するとともに、調査の目的以外での利用はいたしません。また、事業所名が特定される形で公表されることはございません。

令和 5 年 1 1 月 大津市長 佐藤 健司

記入にあたってのお願い

- 貴事業所を代表して、従業員の健康管理ご担当者様や総務の方、経営者の方にご回答をお願いいたします。
- ご回答は直接、この調査票にご記入ください。
- ご回答は、選択肢の場合はあてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
また、記述式の設問については所定の欄に記入してください。
- 本調査の回答に要する時間は 15～20 分程度です。
- 付属資料として既存の資料がある場合は、添付していただけますと幸いです。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

12月15日（金）までにポストに投函してください。

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

株式会社エム・アールビジネス 意識調査事務局

電話 06-6231-9541（平日午前 10 時から午後 5 時まで）

※大津市から、上記事業者に調査業務を委託しています

1. 事業所の概要について <全5問>

問1 貴事業所の主たる業種を教えてください。(ひとつに○)

1. 農業、林業	2. 漁業
3. 鉱業、採石業、砂利採取業	4. 建設業
5. 製造業	6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業	8. 運輸業・郵便業
9. 卸売業、小売業	10. 金融業、保険業
11. 不動産業、物品賃貸業	12. 学術研究、専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業	14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学習支援業	16. 医療、福祉
17. 複合サービス事業	18. サービス業（他に分類されないもの）
19. 公務（他に分類されるものを除く）	20. その他 ()

問2 貴事業所が加入する医療保険の種類を教えてください。(ひとつに○)

1. 全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）	2. 健康保険組合（組合健保）
3. 共済組合	4. 国民健康保険
5. その他（ ）	

問3 貴事業所の従業員数を教えてください。(令和5年10月1日現在)

(1) 正規雇用	人	(2) 非正規雇用	人
----------	---	-----------	---

問4 貴事業所の種類を教えてください。(ひとつに○)

1. 単独事業所	2. 本社・本店	3. 支所・支店
----------	----------	----------

問5 貴事業所の産業保健スタッフについて教えてください。(非常勤含む)

医師	人	管理栄養士	人
看護師	人	その他（ ）	人
保健師	人	その他（ ）	人

3. がん検診について <全7問>

問10 貴事業所の正規雇用従業員に対するがん検診の実施状況を教えてください。

(1) 令和4年度(令和4年4月1日から令和5年3月31日)の各がん検診の実施状況についてお答えください。(ひとつに○)

★実施したがん検診については、(2)～(4)についても教えてください。

種類	(1) 検診の実施状況	(2) 検診対象者	(3) 受診状況	(4) 検査方法 【わかる範囲で結構です】
胃がん検診	1. 定期健診と合わせて実施 2. がん検診単独で実施 3. その他の方法で実施 4. 実施していない	1. 全従業員 2. () 歳以上 3. その他 ()	■対象者数 () 人 ■受診者数 () 人	1. 胃部エックス線検査 2. 胃内視鏡検査 3. その他 ()
大腸がん検診	1. 定期健診と合わせて実施 2. がん検診単独で実施 3. その他の方法で実施 4. 実施していない	1. 全従業員 2. () 歳以上 3. その他 ()	■対象者数 () 人 ■受診者数 () 人	1. 便潜血検査 2. 内視鏡検査 3. その他 ()
肺がん検診	1. 定期健診と合わせて実施 2. がん検診単独で実施 3. その他の方法で実施 4. 実施していない	1. 全従業員 2. () 歳以上 3. その他 ()	■対象者数 () 人 ■受診者数 () 人	1. 胸部エックス線検査 2. 喀痰細胞診 3. 胸部CT検査 4. その他 ()
子宮頸がん検診	1. 定期健診と合わせて実施 2. がん検診単独で実施 3. その他の方法で実施 4. 実施していない	1. 全女性従業員 2. () 歳以上 3. その他 ()	■対象者数 () 人 ■受診者数 () 人	1. 細胞診 2. HPV検査 3. その他 ()
乳がん検診	1. 定期健診と合わせて実施 2. がん検診単独で実施 3. その他の方法で実施 4. 実施していない	1. 全女性従業員 2. () 歳以上 3. その他 ()	■対象者数 () 人 ■受診者数 () 人	1. マンモグラフィ 2. 視触診 3. 超音波検査 4. その他 ()

★上記以外に実施したがん検診があれば記入してください。

() 検診	1. 定期健診と合わせて実施 2. がん検診単独で実施 3. その他の方法で実施 4. 実施していない	1. 全従業員 2. () 歳以上 3. その他 ()	■対象者数 () 人 ■受診者数 () 人	※検査方法をご記入ください
() 検診	1. 定期健診と合わせて実施 2. がん検診単独で実施 3. その他の方法で実施 4. 実施していない	1. 全従業員 2. () 歳以上 3. その他 ()	■対象者数 () 人 ■受診者数 () 人	※検査方法をご記入ください

問 11 【問 10(1) でいずれかのがん検診を実施していると回答した事業所の方にお聞きします。】
 がん検診の結果の管理方法について教えてください。(ひとつに○)

1. 検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨を行い、精密検査の結果も確認している 2. 検診結果を確認し、精密検査が必要な者に対し受診勧奨は行っているが、精密検査の結果は確認していない(できない) 3. 検診結果を確認しているが、精密検査が必要な者に対する受診勧奨は行っていない 4. がん検診の結果は個人情報であり、個人からの申し出がない限り、確認も勧奨もしない(できない) 5. その他 ()
--

問 12 【問 10(1) でいずれかのがん検診を実施していると回答した事業所の方にお聞きします。】
 正規雇用従業員の家族、非正規雇用従業員のがん検診をどのように取り組んでいますか。
 (それぞれひとつに○)

(1) 正規雇用の従業員の家族について	1. 正規雇用の従業員と同様に実施している 2. 正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している (具体的に:) 3. 実施していない
(2) 非正規雇用の従業員について	1. 正規雇用の従業員と同様に実施している 2. 正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している (具体的に:) 3. 実施していない

問 13 【問 10(1) ですべてのがん検診を実施していないと回答した事業所の方にお聞きします。】
 貴事業所で正規雇用従業員のがん検診を実施していない理由を教えてください。
 (いくつでも○)

1. がん検診に関する事務が負担が大きいから 2. がん検診の予算が確保できないから 3. がん検診を実施する日程や時間が取れないから 4. がん検診を実施してほしいという要望がないから 5. がん検診を実施する必要性を感じないから 6. 労働安全衛生法の定期健康診断の項目に定められていないから 7. その他 ()
--

問 14 【問 10(1) ですべてのがん検診を実施していないと回答した事業所の方にお聞きします。】
 従業員が貴事業所以外で実施するがん検診を受診するための勧奨の取り組みがあれば教えてください。

--

問 15 がん検診に関する大津市に対する要望があれば教えてください。(いくつでも○)

1. 大津市と職域が連携できる場や連携しやすい仕組みをつくってほしい 2. がん検診の受診を呼びかけるキャンペーンを推進してほしい 3. 大津市のがん検診情報を提供してほしい 4. 従業員にがん検診の重要性をわかりやすく伝える資料やデータ等を提供してほしい 5. 取り組みが優良な事業所や健保組合を表彰してほしい 6. その他 ()

問 16 貴事業所では、大津市のがん検診に関する情報について、どのような方法で知りたいですか。(希望する3つについて順位をつけてください。(一番希望するもの→1))

	順位 1～3
1. 大津市のホームページ	
2. 大津市からのメール配信	
3. 大津市のLINEによる配信	
4. 大津市のその他のソーシャルメディア (Facebook、Instagram など)	
5. 広報おおつ	
6. 市民センターでのポスター掲示	
7. 個別の案内 (郵送)	
8. 医療機関 (医科・歯科) でのポスター掲示やチラシ配布	
9. 薬局でのポスター掲示やチラシ配布	
10. 新聞	
11. テレビ	
12. ラジオ	
13. その他 ()	

大津市 HP
がん情報



大津市
メール配信



大津市
LINE



4. 勤務形態や休暇制度について <全4問>

問 17 貴事業所では、以下のような制度を導入していますか。(いくつでも○)

(1) 導入している制度に○をつけてください。

(2) 導入している制度のうち、病気や怪我の時に利用可能なものに○をつけてください。

勤務形態・休暇制度等	(1) 制度がある ものに ○	(2) 従業員が病気に なった時に 利用可能なものに ○
1. 時差出勤制度 (始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ)		
2. 1日の所定労働時間を短縮する制度		
3. 週または月の所定労働時間を短縮する制度		
4. 半日単位の休暇制度		
5. 時間単位の休暇制度		
6. 失効年次有給休暇の積立制度		
7. フレックスタイム制度 (労働者が自由に始業・終業時刻を決められる)		
8. 退職者の再雇用制度		
9. 病気の治療目的の休暇・休業制度		
10. 検診・人間ドッグを受けるための休暇制度		
11. 在宅勤務制度		
12. 裁量労働制 (あらかじめ規定した時間を働いたものとみなす)		
13. 休業補償などの保険加入		
14. 長期休暇後の復職支援プログラム		
15. その他 ()		

問 18 貴事業所では、従業員が病気や怪我をした際の休暇・休職・勤務形態などについて就業規則などで規定していますか。(ひとつに○)

1. 規定している	2. 特に規定していない (個別対応)
3. その他 ()	

問 19 病気や怪我で長期休職した従業員の復職に関する貴事業所の方針は次のどれですか。(ひとつに○)

1. 慣らし出勤等で徐々に復帰させる	2. 完全に治ってから復帰させる
3. 個別対応としている	4. 主治医等と連携して復職支援を行う
5. その他 ()	
6. 特に方針はない	

問 20 貴事業所では、がんなど比較的長期の治療・療養を必要とする病気や怪我になった際の規定や制度・方針 (問 17、18、19 に示したようなこと) を従業員にどのように周知していますか。(いくつでも○)

1. 書面・冊子を配布している	2. 事業所内のイントラネット (掲示板) に掲載している
3. 書面・冊子を事業所内に備えつけている	4. 研修・連絡会議の場で情報提供している
5. 相談時に個別の状況に応じた情報提供	6. その他 ()
7. 特に周知はしていない	

問 26 問 25 でご回答をいただいた課題に対応するため、行政に支援を希望されることがあればご記入ください。

--

問 27 がんの予防や早期発見、がん罹患した従業員の仕事と治療の両立を実現するために、大津市から事業所に対して、どのような情報提供があれば良いと思いますか。(いくつでも○)

<ol style="list-style-type: none">1. がんに関する基本的な知識2. 事業者が相談できる相談窓口の情報3. 従業員が相談できる相談窓口の情報4. がん患者等の就業継続などに関する制度5. がん患者等の就業継続などに関する他社の取り組み事例6. 大津市のがん検診に関する情報7. 事業所内での普及啓発に使えるパンフレット等の紹介8. 事業所内での従業員教育などに使える保健師などによる出前講座の紹介9. がんに関するセミナーやイベントなどの開催情報10. その他 ()11. 特に情報提供してほしいことはない

問 28 貴事業所が、従業員の仕事と治療の両立支援について相談する場合の窓口はどのようなところですか。(いくつでも○)

<ol style="list-style-type: none">1. 滋賀県産業保健総合推進センター2. 産業医3. 従業員のかかりつけ医療機関4. 事業所内の相談対応ができる従業員5. その他 ()6. 相談窓口がわからない

問 29 がん対策について、大津市に特に力を入れてほしいこと等をご自由にご記入ください。

--

事業所名	
電話番号 ※	() —
記入担当者 ※	【部署・課名】 【氏名】

※不明箇所について問合せさせていただく場合があります。差し支えなければ、お答えいただける担当者様の氏名・連絡先をご記入ください。

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
皆さまのご意見を参考に大津市のがん対策を推進してまいります。

大津市がん対策に関する調査結果報告書

令和6年3月 発行

編集 大津市健康保険部保健所健康推進課

〒520-0047 大津市浜大津四丁目 1-1 明日都浜大津 2 階

電話 077-528-2748 FAX 077-523-1110